

平成 24 年度

小規模開発関連発掘調査報告書

平成
24
年度小規模開発
関連発掘調査報告書

滋賀県長浜市教育委員会
2013・12

2013・12

滋賀県長浜市教育委員会

平成 24 年度

小規模開発関連発掘調査報告書

2013・12

滋賀県長浜市教育委員会

序 文

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、近畿・北陸・東海の交通の要衝にあたり、古くよりこの3地域を中心に様々な文化に接し、戦国時代には、豊臣秀吉をはじめ数多くの武将が長浜を舞台に、数多くの歴史を繰り広げました。こういった歴史の中で多くの文化財が残されています。これらの先人たちが残した文化財は、市民だけではなく、広く多くの人びとに開かれた共有の財産であります。

現代は、物や情報があふれ、大変豊かで便利な時代である反面、自然や物の大切さ、伝統や歴史を受け継ぐ心が薄れているといえます。

このような時代に生きる私たちであるからこそ、先人たちの築いてきた歴史や文化を見つめなおし、温故知新のもと、現代に生かしていく必要があるのではないのでしょうか。

長浜市教育委員会では、貴重な文化財を現代に生かし、未来に向けて末永く伝え残していくため、文化財の保護・活用・啓発などに日々努めております。

本報告書は、平成24年度に長浜市において実施された発掘調査の報告書です。対象となる事業は、個人住宅に伴う本発掘調査、試掘調査など、小規模な開発に伴うものです。

発掘調査は、ときには新聞紙上を賑わすような華やかな成果を得られるときもありますが、地味で小さな成果しか得ることができない調査がほとんどです。しかし、これらの小さな成果の積み重ねこそが、郷土の歴史を明らかにする重要な作業であり、そこから得られるものは大変貴重な資料であると言えます。

今回刊行したこの報告書が、長浜市の歴史を学ぶ資料になるとともに地域の文化財をより深く理解していただくうえで、ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にご理解とご協力をいただきました地元の方々、ならびに関係機関に対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成25年12月

長浜市教育委員会

教育長 北川 貢造

例 言

1. 本書は、滋賀県長浜市において、平成 24 年度に、国庫・県費補助によって行われた発掘調査報告書である。

対象となる調査事業は、個人住宅建築に伴う本発掘調査、および開発事業に伴う試掘調査である。

2. 本事業の調査主体は長浜市教育委員会である。調査体制は以下のとおりである。

平成 24 年度

長浜市教育委員会	教 育 長	北川 貢造
	教育部長	
教 育 総 務 課	課 長	中井 正彦
文化財保護センター	所 長	森口 訓男
	副 参 事	黒坂 秀樹
	主 幹	尾崎 好則
	主 幹	池寄 陽一
	主 査	沢村 治郎
	主 査	牛谷 好伸

平成 25 年度

長浜市教育委員会	教 育 長	北川 貢造
	教育部長	中井 正彦
教 育 総 務 課	理 事	福井 清和
文化財保護センター	所 長	森口 訓男
	参 事	黒坂 秀樹
	主 幹	尾崎 好則
	主 幹	池寄 陽一
	主 査	沢村 治郎
	主 査	牛谷 好伸

3. 本書で使用した方位は磁北、高さは東京湾平均海面高度である。

4. 遺物や写真、図面等については、長浜市教育委員会が保管している。

5. 本書は調査の担当者である尾崎好則、池寄陽一、沢村治郎、牛谷好伸が執筆し編集したもので、文末に執筆者名を記している。全体の編集は池寄・牛谷が行った。

目次

序文・例言・目次	
第1章 本発掘調査	1
第1節 長浜市の位置と環境	1
第2節 宇根遺跡第4次発掘調査（N2012012）	3
1. 調査の経過	3
(1) 調査にいたる経緯	3
(2) 発掘作業の経過	3
(3) 整理等作業の経過	3
2. 遺跡の位置と環境	4
(1) 地理的環境	4
(2) 歴史的環境	4
3. 調査の方法と成果	4
(1) 調査の方法	4
(2) 層序	5
(3) 発掘調査	6
遺構	6
遺物	11
4. 総括	13
第3節 大辰巳遺跡第40次発掘調査（N2012188）	14
1. 調査の経過	14
(1) 調査にいたる経緯	14
(2) 発掘作業の経過	14
(3) 整理等作業の経過	14
2. 遺跡の位置と環境	15
(1) 地理的環境	15
(2) 歴史的環境	15
3. 調査の方法と成果	15
(1) 調査の方法	15
(2) 層序	16
(3) 調査の成果	16
遺構・遺物	16
4. 総括	16
第4節 神照寺坊遺跡第68次発掘調査（N2012120）	17
1. 調査の経過	17
(1) 調査にいたる経緯	17
(2) 発掘作業の経過	17
(3) 整理等作業の経過	18
2. 遺跡の位置と環境	18
(1) 地理的環境	18
(2) 歴史的環境	18
3. 調査の方法と成果	19
(1) 調査の方法	19
(2) 層序	19
(3) 発掘調査	20
遺構	20
遺物	22
4. 総括	22
第5節 高月南遺跡第40次発掘調査（N2012046）	23
1. 調査の経過	23

(1) 調査にいたる経緯	23
(2) 発掘作業の経過	23
(3) 整理等作業の経過	23
2. 遺跡の位置と環境	24
(1) 地理的環境	24
(2) 歴史的環境	24
3. 調査の方法と成果	25
(1) 調査の方法	25
(2) 層序	25
(3) 発掘調査	26
遺構	26
遺物	29
4. 総括	29
第6節 高月南遺跡第41次発掘調査 (N2012047)	30
1. 調査の経過	30
(1) 調査にいたる経緯	30
(2) 発掘作業の経過	30
(3) 整理等作業の経過	30
2. 遺跡の位置と環境	31
3. 調査の方法と成果	31
(1) 調査の方法	31
(2) 層序	33
(3) 発掘調査	33
遺構	33
遺物	39
4. 総括	40
第2章 試掘調査	41
雨森遺跡第9次調査 (N2012106)	41
宇根遺跡第4次調査 (N2012012)	41
円明寺遺跡第21次調査 (N2012195)	42
大辰巳遺跡第33次調査 (N2012035)	42
大辰巳遺跡第40次調査 (N2012188)	43
大音遺跡第3次調査 (N2012005)	43
加納遺跡第30次調査 (N2012060)	44
加納遺跡第31次調査 (N2012202)	44
川崎遺跡第90次調査 (N2012014)	45
川崎遺跡第91次調査 (N2012027)	45
川崎遺跡第96次調査 (N2012062)	46
口分田遺跡第11次調査 (N2012024)	46
口分田遺跡第12次調査 (N2012024)	47
地福寺遺跡第52次調査 (N2012078)	47
下坂中町遺跡第10次調査 (N2012177)	48
常住庵遺跡第7次調査 (N2012016)	48
神照寺坊遺跡第66次調査 (N2012003)	49
神照寺坊遺跡第69次調査 (N2012123)	49
神照寺坊遺跡第70次調査 (N2012149)	50
須賀谷館遺跡第2次調査 (N2012157)	50
相撲宗玄城遺跡第2次調査 (N2012049)	51
大円寺遺跡第8次調査 (N2012002)	51
大円寺遺跡第9次調査 (N2012121)	52
高田氏館遺跡第7次調査 (N2012181)	52

高畑遺跡第 11 次調査 (N2012143)	53
徳蔵坊遺跡第 6 次調査 (N2012189)	53
長浜城遺跡第 239 次調査 (N2012059)	54
長浜城遺跡第 242 次調査 (N2012166)	54
長浜町遺跡第 132 次調査 (N2012011)	55
長浜町遺跡第 133 次調査 (N2012020)	55
長浜町遺跡第 136 次調査 (N2012056)	56
長浜町遺跡第 137 次調査 (N2012066)	56
長浜町遺跡第 142 次調査 (N2012175)	57
野瀬遺跡第 44 次調査 (N2012127)	57
室遺跡第 72 次調査 (N2012102)	58
室町城居立城遺跡第 2 次調査 (N2012004)	58
物部遺跡第 22 次調査 (N2012180)	59
柳野遺跡第 8 次調査 (N2012147)	59
山本氏館遺跡第 1 次調査 (N201229)	60
横山遺跡第 9 次調査 (N2012176)	60
横山城遺跡第 8 次調査 (N2012160)	61
第 3 章 大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査	62
1. 調査の経過	62
(1) 調査にいたる経緯	62
(2) 発掘作業の経過	62
(3) 整理等作業の経過	62
2. 遺跡の位置と環境	63
(1) 地理的環境	63
(2) 歴史的環境	63
3. 調査の方法と成果	64
(1) 調査の方法	64
(2) 層序	64
(3) 発掘調査	66
遺構	66
遺物	85
4. 総括	105

表目次

第 1 表 宇根遺跡第 4 次発掘調査 土色・土質一覧	5
第 2 表 宇根遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物観察表	12
第 3 表 大辰巳遺跡第 40 次発掘調査 土色・土質一覧	15
第 4 表 神照寺坊遺跡第 68 次発掘調査 土色・土質一覧	19
第 5 表 神照寺坊遺跡第 68 次発掘調査 遺構規模一覧表	21
第 6 表 神照寺坊遺跡第 68 次発掘調査 出土遺物観察表	22
第 7 表 高月南遺跡第 40 次発掘調査 土色・土質一覧	25
第 8 表 高月南遺跡第 40 次発掘調査 出土遺物観察表	29
第 9 表 高月南遺跡第 41 次発掘調査 土色・土質一覧 (1)	31
第 10 表 高月南遺跡第 41 次発掘調査 土色・土質一覧 (2)	32
第 11 表 高月南遺跡第 41 次発掘調査 出土遺物観察表	39
第 12 表 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 土色・土質一覧	64
第 13 表 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 S K 規模一覧表	83
第 14 表 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 S P 規模一覧表	84
第 15 表 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 出土遺物観察表 (土器 1)	101
第 16 表 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 出土遺物観察表 (土器 2)	102

第 17 表	大海道・華寺遺跡第 4 次調査	出土遺物観察表（瓦 1）	102
第 18 表	大海道・華寺遺跡第 4 次調査	出土遺物観察表（瓦 2）	103
第 19 表	大海道・華寺遺跡第 4 次調査	出土遺物観察表（瓦 3・磚）	104
第 20 表	大海道・華寺遺跡第 4 次調査	出土遺物観察表（古銭・その他）	104
第 21 表	大海道・華寺遺跡第 4 次調査	出土遺物観察表（石）	104

挿図目次

第 1 図	長浜市の位置	1
第 2 図	長浜市周辺の地形	1
第 3 図	宇根遺跡第 4 次調査位置図	3
第 4 図	宇根遺跡第 4 次調査トレンチ配置図	3
第 5 図	宇根遺跡と周辺の遺跡	4
第 6 図	宇根遺跡第 4 次調査北壁断面図	5
第 7 図	宇根遺跡第 4 次調査調査区平面図	6
第 8 図	S K 1 平面・断面図	7
第 9 図	S K 2 平面・断面図	7
第 10 図	S K 3 平面・断面図	7
第 11 図	S K 4 平面・断面図	7
第 12 図	S K 5 平面・断面図	8
第 13 図	S D 1 平面・断面図	8
第 14 図	S B 1 平面・断面図	8
第 15 図	S P 断面図（1）	9
第 16 図	S P 断面図（2）	10
第 17 図	遺物実測図（1）	11
第 18 図	遺物実測図（2）	12
第 19 図	大辰巳遺跡第 40 次調査位置図	14
第 20 図	大辰巳遺跡第 40 次調査トレンチ配置図	14
第 21 図	大辰巳遺跡第 40 次調査区壁面柱状図	14
第 22 図	大辰巳遺跡と周辺の遺跡	15
第 23 図	大辰巳遺跡第 40 次調査北壁断面図	16
第 24 図	大辰巳遺跡第 40 次調査平面図	16
第 25 図	神照寺坊遺跡第 68 次調査位置図	17
第 26 図	神照寺坊遺跡第 66 次試掘調査トレンチ配置図	17
第 27 図	神照寺坊遺跡と周辺の遺跡	18
第 28 図	神照寺坊遺跡第 68 次トレンチ配置図	19
第 29 図	神照寺坊遺跡第 68 次発掘調査 調査区平面・断面図	20
第 30 図	遺構断面図	21
第 31 図	出土遺物実測図	22
第 32 図	高月南遺跡第 40 次調査位置図	23
第 33 図	高月南遺跡第 40 次発掘調査トレンチ配置図	23
第 34 図	高月南遺跡と周辺の遺跡	24
第 35 図	高月南遺跡第 40 次調査西壁断面図	25
第 36 図	高月南遺跡第 40 次調査平面図	26
第 37 図	S K 1 平面・断面図	27
第 38 図	S K 2 平面・断面図	27
第 39 図	S Z 1 平面・断面図	27
第 40 図	S Z 2 平面・断面図	28
第 41 図	S P 断面図	28
第 42 図	遺物実測図	29
第 43 図	高月南遺跡第 41 次調査位置図	30
第 44 図	高月南遺跡第 41 次調査トレンチ配置図	30
第 45 図	高月南遺跡第 41 次調査区北壁断面図	33
第 46 図	高月南遺跡第 41 次調査区平面図	34
第 47 図	S Z 1 平面・断面図	35

第 48 図	S K平面・断面図 (1)	35
第 49 図	S K平面・断面図 (2)	36
第 50 図	S D断面図	36
第 51 図	S P断面図 (1)	37
第 52 図	S P断面図 (2)	38
第 53 図	高月南遺跡第 41 次発掘調査出土遺物	40
第 54 図	調査区壁面柱状図	41
第 55 図	雨森遺跡第 9 次調査位置図	41
第 56 図	調査区壁面柱状図	41
第 57 図	宇根遺跡第 4 次調査位置図	41
第 58 図	調査区壁面柱状図	42
第 59 図	円明寺遺跡第 21 次調査位置図	42
第 60 図	調査区壁面柱状図	42
第 61 図	大辰巳遺跡第 33 次調査位置図	42
第 62 図	調査区壁面柱状図	43
第 63 図	大辰巳遺跡第 40 次調査位置図	43
第 64 図	調査区壁面柱状図	43
第 65 図	大音遺跡第 3 次調査位置図	43
第 66 図	壁面柱状図 (T1)	44
第 67 図	壁面柱状図 (T2)	44
第 68 図	加納遺跡第 30 次調査位置図	44
第 69 図	調査区壁面柱状図	44
第 70 図	加納遺跡第 31 次調査位置図	44
第 71 図	調査区壁面柱状図	45
第 72 図	川崎遺跡第 90 次調査位置図	45
第 73 図	調査区壁面柱状図	45
第 74 図	川崎遺跡第 91 次調査位置図	45
第 75 図	調査区壁面柱状図	46
第 76 図	川崎遺跡第 96 次調査位置図	46
第 77 図	調査区壁面柱状図	46
第 78 図	口分田遺跡第 11 次調査位置図	46
第 79 図	調査区壁面柱状図	47
第 80 図	口分田遺跡第 12 次調査位置図	47
第 81 図	調査区壁面柱状図	47
第 82 図	地福寺遺跡第 52 次調査位置図	47
第 83 図	調査区壁面柱状図	48
第 84 図	下坂中町遺跡第 10 次調査位置図	48
第 85 図	調査区壁面柱状図	48
第 86 図	常住庵遺跡第 7 次調査位置図	48
第 87 図	調査区壁面柱状図	49
第 88 図	調査区壁面柱状図	49
第 89 図	神照寺坊遺跡第 66 次調査位置図	49
第 90 図	調査区壁面柱状図	49
第 91 図	神照寺坊遺跡第 69 次調査位置図	49
第 92 図	調査区壁面柱状図	50
第 93 図	神照寺坊遺跡第 70 次調査位置図	50
第 94 図	調査区壁面柱状図	50
第 95 図	須賀谷遺跡第 2 次調査位置図	50
第 96 図	調査区壁面柱状図	51
第 97 図	相撲宗玄城遺跡第 2 次調査位置図	51
第 98 図	調査区壁面柱状図	51
第 99 図	大円寺遺跡第 8 次調査位置図	51
第 100 図	調査区壁面柱状図	52
第 101 図	大円寺遺跡第 9 次調査位置	52
第 102 図	調査区壁面柱状図	52
第 103 図	高田氏館遺跡第 7 次調査位置図	52

第104 図	調査区壁面柱状図	53
第105 図	高畑遺跡第11次調査位置図	53
第106 図	調査区壁面柱状図	53
第107 図	徳蔵坊遺跡第6次調査位置図	53
第108 図	調査区壁面柱状図	54
第109 図	長浜城遺跡第239次調査位置図	54
第110 図	調査区壁面柱状図	54
第111 図	長浜城遺跡第242次調査位置図	54
第112 図	調査区壁面柱状図	55
第113 図	長浜町遺跡第132次調査位置図	55
第114 図	調査区壁面柱状図	55
第115 図	長浜町遺跡第133次調査位置図	55
第116 図	調査区壁面柱状図	56
第117 図	長浜町遺跡第136次調査位置図	56
第118 図	調査区壁面柱状図	56
第119 図	長浜町遺跡第137次調査位置図	56
第120 図	調査区壁面柱状図	57
第121 図	長浜町遺跡第142次調査位置図	57
第122 図	調査区壁面柱状図	57
第123 図	野瀬遺跡第44次調査壁面柱状図	57
第124 図	調査区壁面柱状図	58
第125 図	室遺跡第72次調査壁面柱状図	58
第126 図	調査区壁面柱状図	58
第127 図	室町城居立城遺跡第2次調査位置図	58
第128 図	調査区壁面柱状図	59
第129 図	物部遺跡第22次調査壁面柱状図	59
第130 図	調査区壁面柱状図	59
第131 図	柳野遺跡第8次調査調査位置図	59
第132 図	調査区壁面柱状図	60
第133 図	山本氏館遺跡第1次調査位置図	60
第134 図	調査区壁面柱状図	60
第135 図	横山遺跡第9次調査位置図	60
第136 図	調査区壁面柱状図	61
第137 図	横山城遺跡第8次調査位置図	61
第138 図	大海道・華寺遺跡第4次調査位置図	62
第139 図	大海道・華寺遺跡第4次調査調査トレンチ配置図	62
第140 図	大海道・華寺遺跡と周辺遺跡	63
第141 図	大海道・華寺遺跡第4次調査西壁断面図	64
第142 図	大海道・華寺遺跡第4次調査平面図	65
第143 図	S K 1 平面・断面図	66
第144 図	S K 2 平面・エレベーション図	66
第145 図	S K 3 平面・エレベーション図	66
第146 図	S K 4 平面・エレベーション図	66
第147 図	S K 5 平面・断面図	67
第148 図	S K 6 平面・断面図	67
第149 図	S K 7 平面・エレベーション図	68
第150 図	S K 8 平面・エレベーション図	68
第151 図	S K 9 平面・エレベーション図	68
第152 図	S K 10 平面・エレベーション図	68
第153 図	S K 11 平面・エレベーション図	68
第154 図	S K 12 平面・エレベーション図	69
第155 図	S K 13 平面・エレベーション図	69
第156 図	S K 14 平面・エレベーション図	70
第157 図	S K 15 平面・エレベーション図	70
第158 図	S K 16 平面・エレベーション図	70
第159 図	S K 17 平面・エレベーション図	70

第 160 図	S K18 平面・エレベーション図	71
第 161 図	S K19 平面・エレベーション図	71
第 162 図	S K20 平面・エレベーション図	71
第 163 図	S K21 平面・エレベーション図	71
第 164 図	S K22 平面・エレベーション図	71
第 165 図	S K23 平面・エレベーション図	71
第 166 図	S K24 平面・エレベーション図	71
第 167 図	S K25 平面・エレベーション図	72
第 168 図	S K26 平面・エレベーション図	72
第 169 図	S K27 平面・エレベーション図	72
第 170 図	S K28 平面・エレベーション図	72
第 171 図	S K29 平面・エレベーション図	73
第 172 図	S K30 平面・エレベーション図	73
第 173 図	S K31 平面・エレベーション図	73
第 174 図	S K32 平面・エレベーション図	73
第 175 図	S K33 平面・エレベーション図	73
第 176 図	S K34 平面・エレベーション図	73
第 177 図	S K35 平面・エレベーション図	74
第 178 図	S K36 平面・エレベーション図	74
第 179 図	S K37 平面・エレベーション図	74
第 180 図	S K38 平面・エレベーション図	74
第 181 図	S K39 平面・エレベーション図	74
第 182 図	S K40 平面・エレベーション図	75
第 183 図	S K41 平面・エレベーション図	75
第 184 図	S K42 平面・エレベーション図	75
第 185 図	S K43 平面・エレベーション図	75
第 186 図	S K44 平面・エレベーション図	75
第 187 図	S K45 平面・エレベーション図	75
第 188 図	S K46 平面・エレベーション図	75
第 189 図	S K47 平面・エレベーション図	76
第 190 図	S K48 平面・断面図	76
第 191 図	S K49 平面・エレベーション図	76
第 192 図	S K50 平面・エレベーション図	76
第 193 図	S K51 平面・断面図	77
第 194 図	S K52 平面・エレベーション図	77
第 195 図	S K53 平面・エレベーション図	77
第 196 図	S K54 平面・エレベーション図	77
第 197 図	S K55 平面・エレベーション図	78
第 198 図	S K56 平面・エレベーション図	78
第 199 図	S K57 平面・エレベーション図	78
第 200 図	S K58 平面・エレベーション図	78
第 201 図	S K59 平面・エレベーション図	78
第 202 図	S K60 平面・エレベーション図	78
第 203 図	S K61 平面・エレベーション図	79
第 204 図	S K62 平面・エレベーション図	79
第 205 図	S K63 平面・エレベーション図	79
第 206 図	S K64 平面・エレベーション図	79
第 207 図	S K65 平面・エレベーション図	79
第 208 図	S K66 平面・エレベーション図	80
第 209 図	S K67 平面・エレベーション図	80
第 210 図	S K68 平面・エレベーション図	80
第 211 図	S K69 平面・エレベーション図	80
第 212 図	S K70 平面・エレベーション図	81
第 213 図	S K71 平面・エレベーション図	81
第 214 図	S K72 平面・エレベーション図	81
第 215 図	S D 1 平面・断面図	82

第216 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(1)	85
第217 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(2)	86
第218 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(3)	87
第219 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(4)	87
第220 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(5)	88
第221 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(6)	89
第222 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(7)	90
第223 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(8)	91
第224 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(9)	91
第225 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(10)	92
第226 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(11)	92
第227 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(12)	93
第228 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(13)	94
第229 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(14)	95
第230 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(15)	96
第231 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(16)	97
第232 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(17)	98
第233 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(18)	98
第234 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(19)	99
第235 図	大海道・華寺遺跡第4次調査出土遺物(20)	100

写真目次

写真1	雨森遺跡第9次調査壁面	41
写真2	宇根遺跡第4次調査壁面	41
写真3	円明寺遺跡第21次調査壁面	42
写真4	大辰巳遺跡第33次調査壁面	42
写真5	大辰巳遺跡第40次調査壁面	43
写真6	大音遺跡第3次調査壁面	43
写真7	加納遺跡第30次調査壁面	44
写真8	加納遺跡第31次調査壁面	44
写真9	川崎遺跡第90次調査壁面	45
写真10	川崎遺跡91次調査壁面	45
写真11	川崎遺跡96次調査壁面	46
写真12	口分田遺跡第11次調査壁面	46
写真13	口分田遺跡第12次調査壁面	47
写真14	地福寺遺跡第52次調査壁面	47
写真15	下坂中町遺跡第10次調査壁面	48
写真16	常住庵遺跡第7次調査壁面	48
写真17	神照寺坊遺跡第66次調査壁面	49
写真18	神照寺坊遺跡第69次調査壁面	49
写真19	神照寺坊遺跡第70次調査壁面	50
写真20	須賀谷館遺跡第2次調査壁面	50
写真21	相撲宗玄城遺跡第2次調査壁面	51
写真22	大円寺遺跡第8次調査壁面	51
写真23	大円寺遺跡第9次調査壁面	52
写真24	高田氏館遺跡第7次調査壁面	52
写真25	高畑遺跡第11次調査壁面	53
写真26	徳蔵坊遺跡第6次調査壁面	53
写真27	長浜城遺跡第239次調査壁面	54
写真28	長浜城遺跡第242次調査壁面	54
写真29	長浜町遺跡第132次調査壁面	55
写真30	長浜町遺跡第133次調査壁面	55
写真31	長浜町遺跡第136次調査壁面	56
写真32	長浜町遺跡第137次調査壁面	56
写真33	長浜町遺跡第142次調査壁面	57

写真 34	野瀬遺跡第 44 次調査壁面	57
写真 35	室町遺跡第 72 次調査壁面	58
写真 36	室町城居立城遺跡第 2 次調査壁面	58
写真 37	物部遺跡第 22 次調査壁面	59
写真 38	柳野遺跡第 8 次調査壁面	59
写真 39	山本氏館遺跡第 1 次調査壁面	60
写真 40	横山遺跡第 9 次調査壁面	60
写真 41	横山城遺跡第 8 次調査壁面	61

図版目次

図版一	宇根遺跡第 4 次調査 遺構検出状況 北から 宇根遺跡第 4 次調査 遺構完掘状況 北から 大辰巳遺跡第 40 次調査 北壁断面 南から
図版二	大辰巳遺跡第 40 次調査 全景・完掘状況 南から 神照寺坊遺跡第 69 次調査 柱穴 SP6-SP9 検出状況 北西から 神照寺坊遺跡第 69 次調査 全景・完掘状況 東から
図版三	高月南遺跡第 40 次調査 T-1 遺構検出状況 東から 高月南遺跡第 40 次調査 T-1 遺構完掘状況 東から 高月南遺跡第 40 次調査 T-2 遺構検出状況 北から
図版四	高月南遺跡第 40 次調査 T-2 遺構完掘状況 北から 高月南遺跡第 41 次調査 T-1 遺構検出状況 北から 高月南遺跡第 41 次調査 T-1 遺構完掘状況 北から
図版五	高月南遺跡第 41 次調査 T-1 遺物出土状況 西から 高月南遺跡第 41 次調査 T-2 遺構検出状況 北から 高月南遺跡第 41 次調査 T-2 遺構完掘状況 北から
図版六	高月南遺跡第 41 次調査 T-3 遺構検出状況 西から 高月南遺跡第 41 次調査 T-3 遺構完掘状況 西から 高月南遺跡第 41 次調査 T-3 遺物出土状況 東から
図版七	大海道・華寺遺跡第 4 次調査 全景・完掘状況 北から 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 SK13 瓦出土状況 東から 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 SK13 土層断面 東から
図版八	宇根遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (1)
図版九	宇根遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (2)
図版十	宇根遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (3) 高月南遺跡第 40 次発掘調査 出土遺物
図版十一	高月南遺跡第 41 次発掘調査 出土遺物 (1)
図版十二	高月南遺跡第 41 次発掘調査 出土遺物 (2)
図版十三	神照寺坊遺跡第 69 次発掘調査 出土遺物 大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (1)
図版十四	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (2)
図版十五	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (3)
図版十六	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (4)
図版十七	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (5)
図版十八	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (6)
図版十九	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (7)
図版二〇	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (8)
図版二一	大海道・華寺遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物 (9)

第1章 本発掘調査

第1節 長浜市の位置と環境

今回報告する発掘調査報告書は、平成24年度に長浜市内で補助事業として実施されたすべての調査を対象としている。そのため、地理的環境については長浜市全体の概要として一括してここに記述し、遺跡ごとの歴史的環境、及び地理的環境の補足などについては、各々の調査の項目で述べることとする。

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、市域の北東部に急峻な伊吹山地が広がり、滋賀県と岐阜県との県境をなす脊稜部が金糞岳（標高1317m）から伊吹山頂上（標高1377m）に続く。

この山地を源流とする姉川、草野川、高時川、余呉川などが南北の谷を発達させながら南流し、琵琶湖との間に各河川の平野部が連合して幅5～7km程度の湖北平野を形成している。

低地と山地との境界は、断層運動が繰り返されて形成された断層崖となっている。

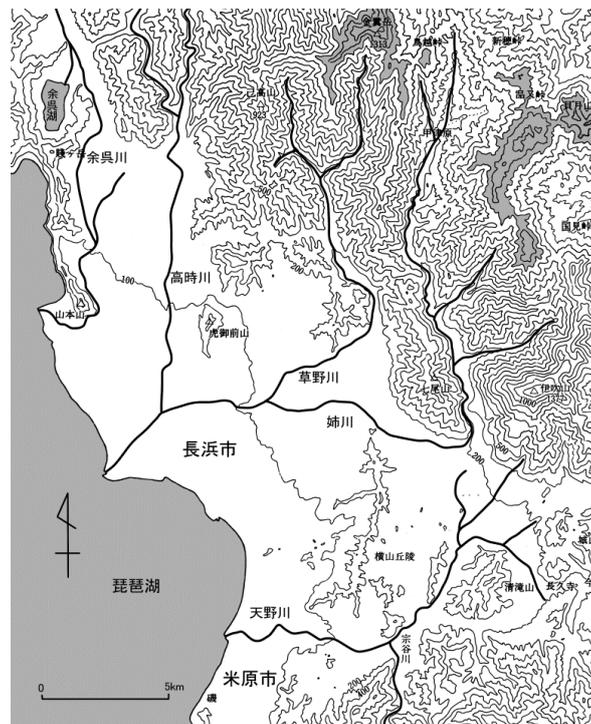
巨視的にみると北西から南東方向の直線状をなし、敦賀湾伊勢湾線の一部を構成する柳ヶ瀬断層や関ヶ原断層などの大規模な活断層に一致する。

河川はこの断層崖を浸食し、その前面に山地から運搬してきた土砂を谷口から放射状に堆積して扇状地性の平野を形成している。すなわち、北から余呉川、高時川、東から姉川と草野川、南端に天野川が流れ、これらの堆積作用によって平野が形成されている。

また、南東部には平野の中央に多数の孤立山塊が分布する複雑な地形が見られる。これらは山東低地と呼ばれ、関ヶ原低地帯の西部にあたっている。



第1図 長浜市の位置



第2図 長浜市周辺の地形

気候は、主に瀬戸内海式気候に属しており、最高気温は滋賀県南部の大津と比べて大差ないが、最低気温は日本海の湿り気を含んだ冬の季節風が琵琶湖を通り、直接伊吹山に突き当たるのでかなり低くなるといった、日本海側の気候と同じ特色を持っている。

地質は古生層で、約2～3億年前の海底に堆積した固い地層からできており、特に平野部では砂岩系や粘板岩が分布している。

市域は東西約25km、南北約40km、琵琶湖を含めた総面積680.79k m²で、人口は平成25年10月1日現在で44,407世帯、123,071人である。

また、市内にはJR北陸本線や、北陸自動車道、国道8号線、国道365号線が走り、近畿、東海、北陸圏域の交通の結節点として重要な位置にあたる。

歴史的に見ても、北国街道、北国脇往還、塩津街道等の古代からの幹線道路が走り、古くより交通の要衝として栄え、文化の融合する地域として知られている。

第2節 宇根遺跡第4次発掘調査 (N2012012)

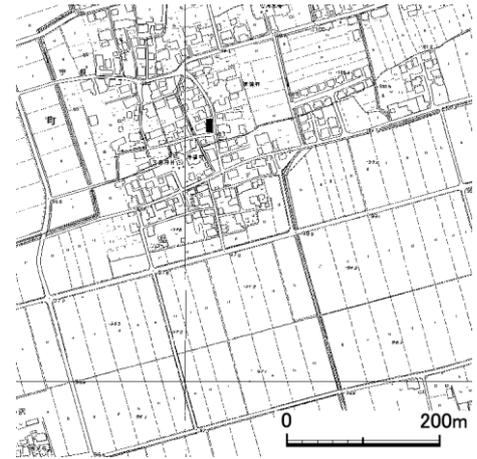
1. 調査の経過

(1) 調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅新築に伴う発掘調査で、平成24年4月10日に原因者から届け出が有り、協議の結果当該地において遺構の有無を確認する試掘調査を実施することになった。

試掘調査は、平成24年4月19日に実施し、調査地から柱穴と土坑を検出した。

試掘調査の結果を基に調査について協議した結果、対象面積447.22㎡の内、破壊を免れないと判断した33.9㎡について本発掘調査を実施することとなった。



第3図 宇根遺跡第4次調査位置図

(2) 発掘作業の経過

本発掘調査は、平成24年4月20日から5月17日までの期間で実施した。

調査は、調査対象区全体を重機によって遺構面直上まで掘削を行った後、人力による遺構検出作業、遺構の半截・遺構完掘・全景写真・遺構断ち割りの順で行い、平面および断面実測、遺構写真等のデータ収集作業、出土遺物の取り上げは工程ごとに行った。出土遺物の洗浄も現場作業の工程名中で、できるものから順次行った。調査終了後は埋め戻しを行い、原因者に引き渡した。



第4図 宇根遺跡第4次調査トレンチ配置図

(3) 整理等作業の経過

整理作業は、現地調査終了後から平成25年3月までの期間で実施した。

出土した遺物にはマーキングを施し、出土地点、出土点数等を遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

報告書掲載遺物の選別は、残存状態のよい遺物を中心に行い、選別後、実測図の作成、遺物観察表の作成を行った。

出土遺物の中に、木製品があったため、木製品の遺物実測と写真撮影を先行して実施し、保存処理を公益財団法人滋賀県文化財保護協会に依頼し実施した。

上記作業終了後、報告書に掲載する遺物の最終選別を行い、掲載遺物についてはデジタルトレース作業並びに写真撮影を行った。

土層堆積状況の注記については本文中で統一した番号として使用できるように整理を行い、土色・土質一覧表としてまとめた。

現地で実測した図面は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて図面の合成や編集作業を行い、写真に関しては、調査内容が分かるように選別し、写真の内容・撮影方向が分かるように写真図版としてまとめた。

2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

宇根遺跡の位置する滋賀県長浜市高月町は、市域のほぼ中央に位置し、平成 22 年 1 月に旧西浅井町、旧木之本町、旧虎姫町、旧湖北町とともに長浜市に合併された。

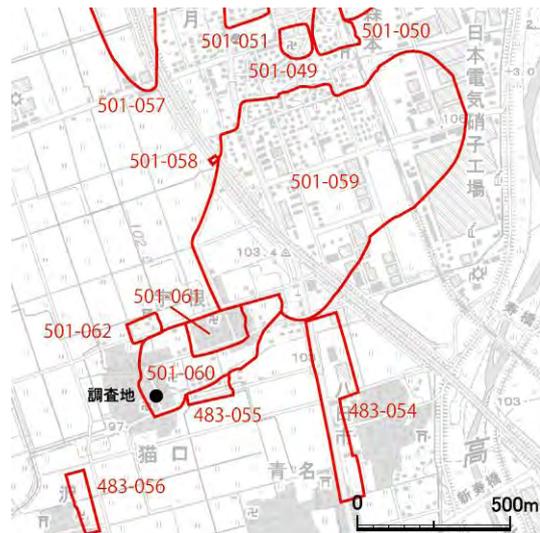
今回発掘調査を行った宇根遺跡は、高月町宇根に位置し、高月町の中で南端に位置し、すぐ南は湖北町猫口に接する。

(2) 歴史的環境

宇根遺跡は高時川右岸に立地しており、弥生時代から中世にかけて存在したと考えられている。

過去の調査では、当該地の東に位置する宅地造成地で平成 3 年に 2,000 m²を対象として発掘調査が実施された。

調査の結果、古墳時代前期と平安時代末期～室町時代の集落を検出している。古墳時代の遺構は、自然流路、土坑、ピットを検出し、平安時代末期以降の遺構は、掘立柱建物、溝、土坑、竪穴状遺構等を検出している。



遺跡番号	遺跡名
483 054	八日市遺跡
483 055	曼陀羅堂遺跡
483 056	六坊遺跡
501 049	森本観音堂遺跡
501 050	森本館遺跡
501 051	高月城遺跡
501 057	狐塚大塚古墳群
501 058	栗原遺跡
501 059	高月南遺跡
501 060	宇根遺跡
501 061	宇根館遺跡
501 062	宇根春日遺跡

第5図 宇根遺跡と周辺の遺跡

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

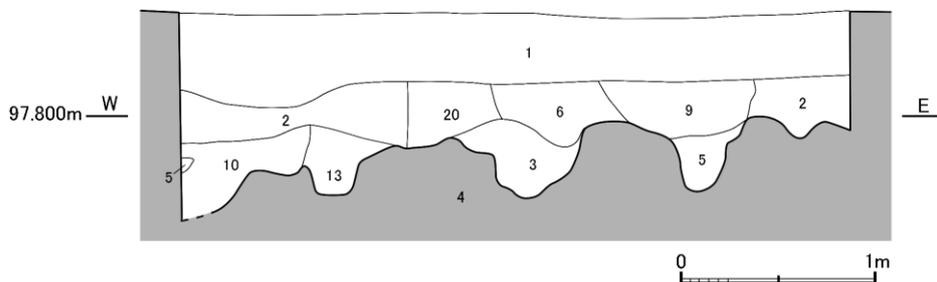
重機を使用し、遺構面直上まで掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。トレンチ内には排水の溝を南側から設置したが、北側は壁際に多くの遺構が存在したため、排水の溝は設けず、南側のみとした。

基本的な遺構の掘削については、柱穴は半截、掘立柱建物のコーナー部分、土坑については四分法を用い、柱の基底部が残存している遺構については断ち割りを行った。

写真撮影については、発掘調査前後の状況写真、遺構検出状況、遺構完掘状況の撮影を白黒フィルム、リバーサルフィルムを用い撮影した。

(2) 層序

調査区の土層は第1層目が 10YR6/6 明黄褐色中礫（造成土）で現況地面から 0.35m、第2層目が 10YR3/2 黒褐色細礫混極細粒砂で 0.35m～0.75m、第3層目が 10YR4/6 褐色中粒砂混極細粒砂である。第3層目が地山である。



第6図 宇根遺跡第4次調査北壁断面図

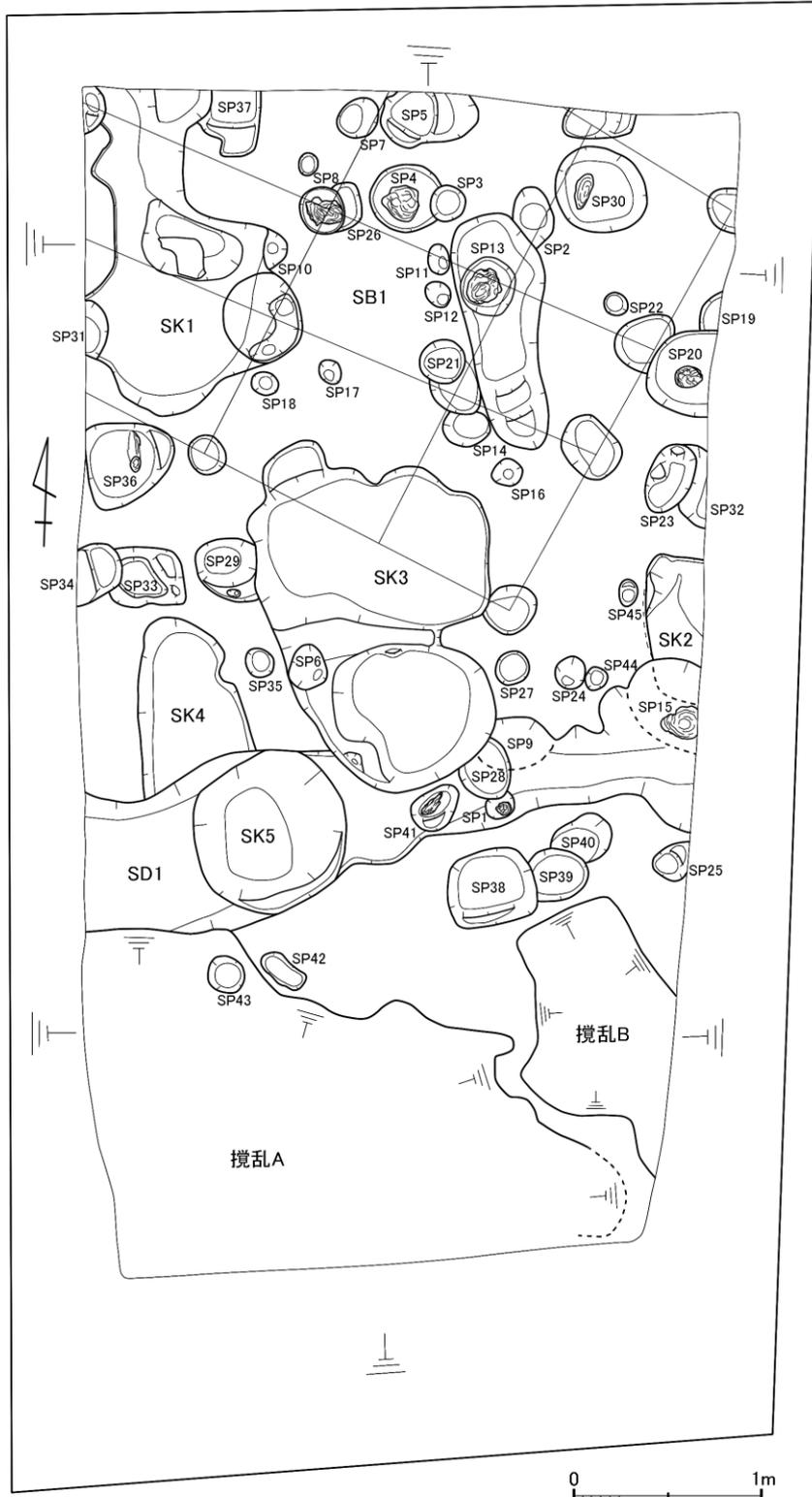
第1表 宇根遺跡第4次発掘調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR6/6	明黄褐色	中礫	造成土
2	10YR3/2	黒褐色	細礫混極細粒砂	
3	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂混極細粒砂	
4	10YR4/6	褐色	中粒砂混極細粒砂	地山
5	10YR4/1	褐灰色	シルト混極細粒砂	
6	10YR3/2	黒褐色	礫混極細粒砂	
7	7.5YR4/4	褐色	極細粒砂	
8	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	
9	7.5YR3/2	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	
10	10YR3/3	暗褐色	シルト混極細粒砂	
11	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	
12	7.5YR3/2	黒褐色	極細粒砂	
13	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂	
14	10YR2/3	黒褐色	極細粒砂	
15	10YR3/1	黒褐色	極細粒砂	
16	10YR3/1	黒褐色	粗粒シルト	
17	10YR3/4	暗褐色	極細粒砂	
18	10YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
19	5Y4/1	灰色	粗粒シルト	
20	10YR4/3	にぶい黄橙色	極細粒砂	
21	10YR3/1	黒褐色	極細粒砂混シルト	
22	5Y3/2	オリーブ黒色	粗粒シルト	
23	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	
24	5Y4/1	灰色	中礫少量混極細粒砂	
25	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
26	2.5Y3/1	黒褐色	極細粒砂	

(3) 発掘調査

遺構

調査地全体に土坑、溝、柱穴を検出しているが、調査地南側は、近世の攪乱を検出した。以下に内容を記す。



第7図 宇根遺跡第4次調査 調査区平面図

SK 1

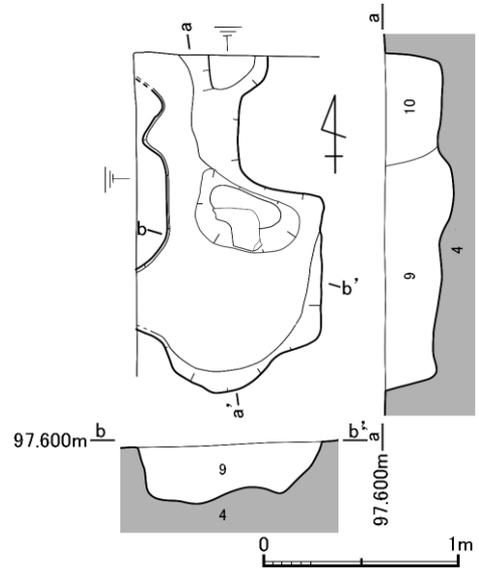
調査地の北西端に位置し、長辺 1.78m以上×短辺 1.15m×深さ 0.34mの不定形の土坑である。埋土は、7.5YR3/2 黒褐色細粒砂混極細粒砂である。底部中央から砥石が出土している。周辺の柱穴を切る形で立地する。

SK 2

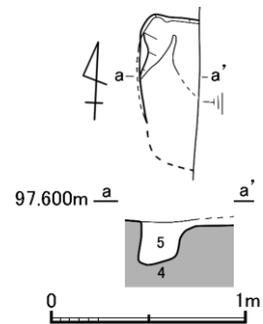
調査区東端に位置し、長辺 0.63m以上×短辺 0.47m以上×深さ 0.23mの方角を呈した土坑である。埋土は、10YR4/1 褐灰色シルト混極細粒砂である。南側はS P 15 に切られている。

SK 3

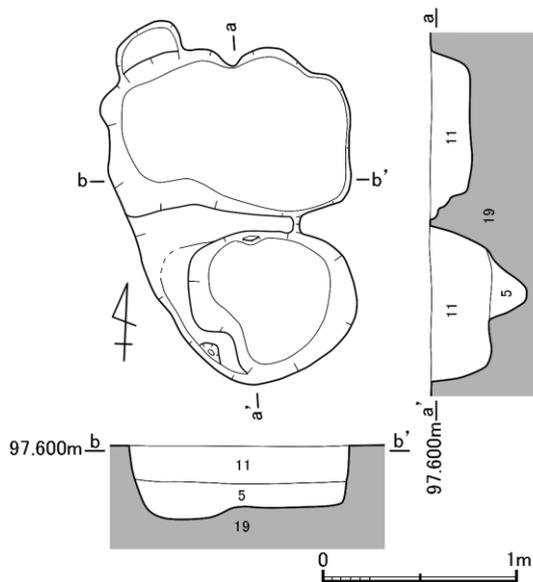
調査地中央に位置する円形の土坑である。2つの円形土坑が切り合いながら立地している。北側は長辺 1.00m×短辺 0.76m×深さ 0.38mで、南側は長辺 1.05m×短辺 0.80m×深さ 0.50mである。埋土は、2層からなり、第1層 7.5YR3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、第2層 10YR4/1 褐灰色シルト混極細粒砂である。切り合いは南側のほうが北側の土坑に比べて新しい。周囲の遺構を切る形で立地しており、土坑の中にS P 6の基底部が残存していた。



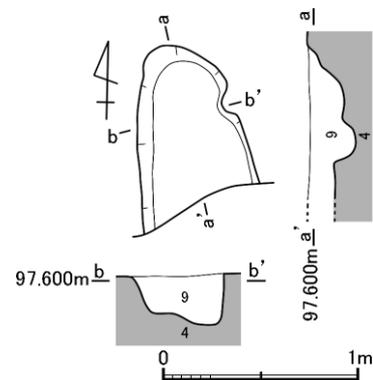
第8図 SK1平面・断面図



第9図 SK2平面・断面図



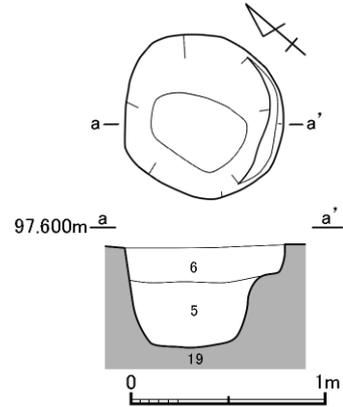
第10図 SK3平面・断面図



第11図 SK4平面・断面図

SK 4

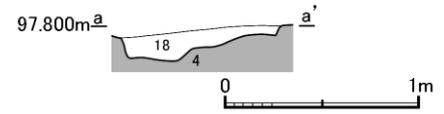
調査地西側に位置し、長辺 0.74m以上×短辺 0.48m×深さ 0.16mの楕円形を呈する土坑である。埋土は、7.5YR3/2 黒褐色細粒砂混極細粒砂である。南側はSD 1に切られている。



第 12 図 SK5平面・断面図

SK 5

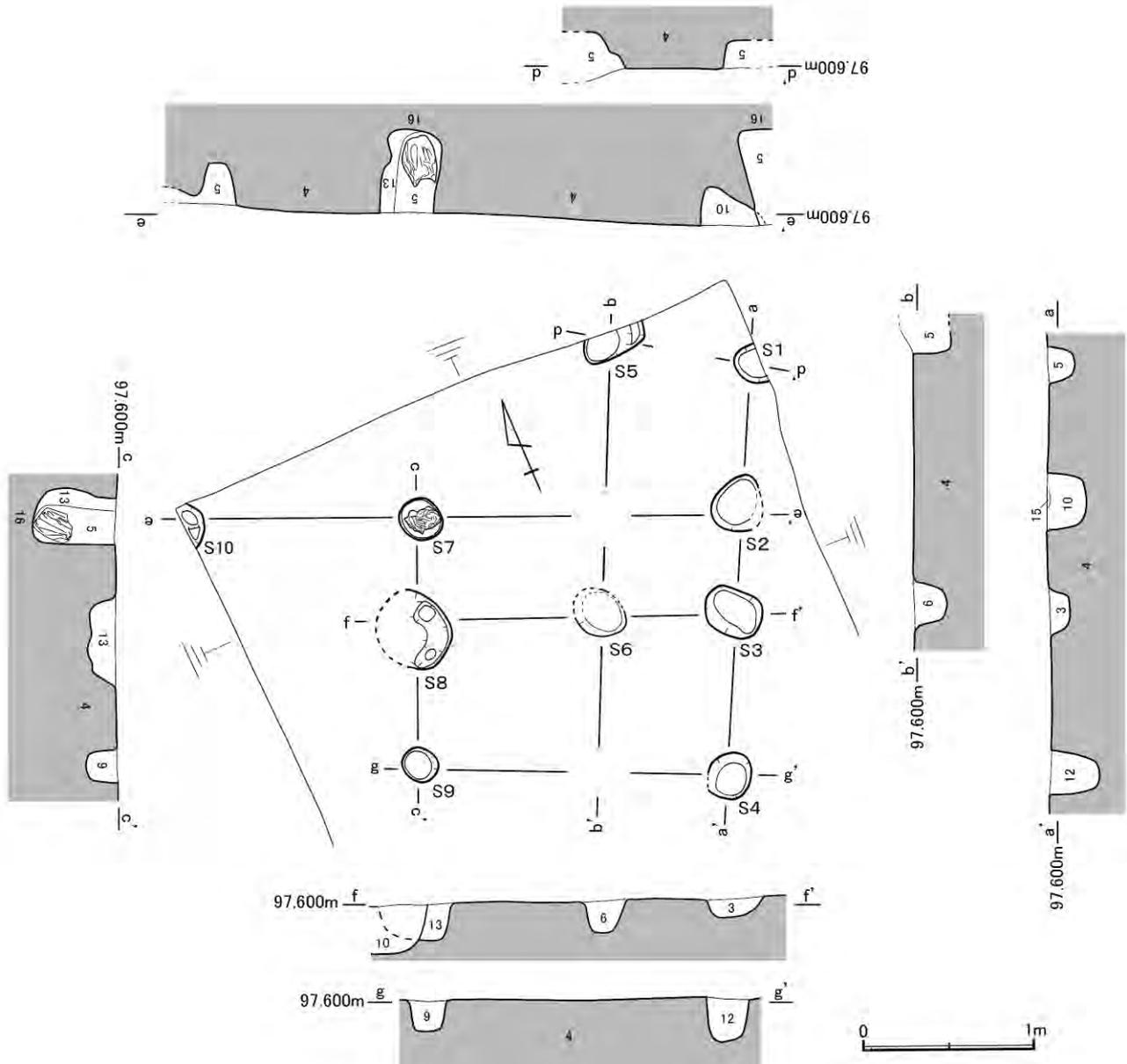
調査地西側に位置し、長辺 0.94m×短辺 0.90m×深さ 0.50 mの円形を呈する土坑である。埋土は、2層からなり、第1層 10YR3/2 黒褐色礫混極細粒砂、第2層 10YR4/1 褐灰色シルト混極細粒砂である。全体をSD 1に切られている。



第 13 図 SD1平面・断面図

SD 1

調査地南側に東西方向に走る溝状の遺構である。長 8.25m以上×幅 0.90m×深さ 0.20mで、埋土は、10YR3/3 暗褐色極細粒砂である。SK 5を切り、SK 3に切られている。



第 14 図 SB1平面・断面図

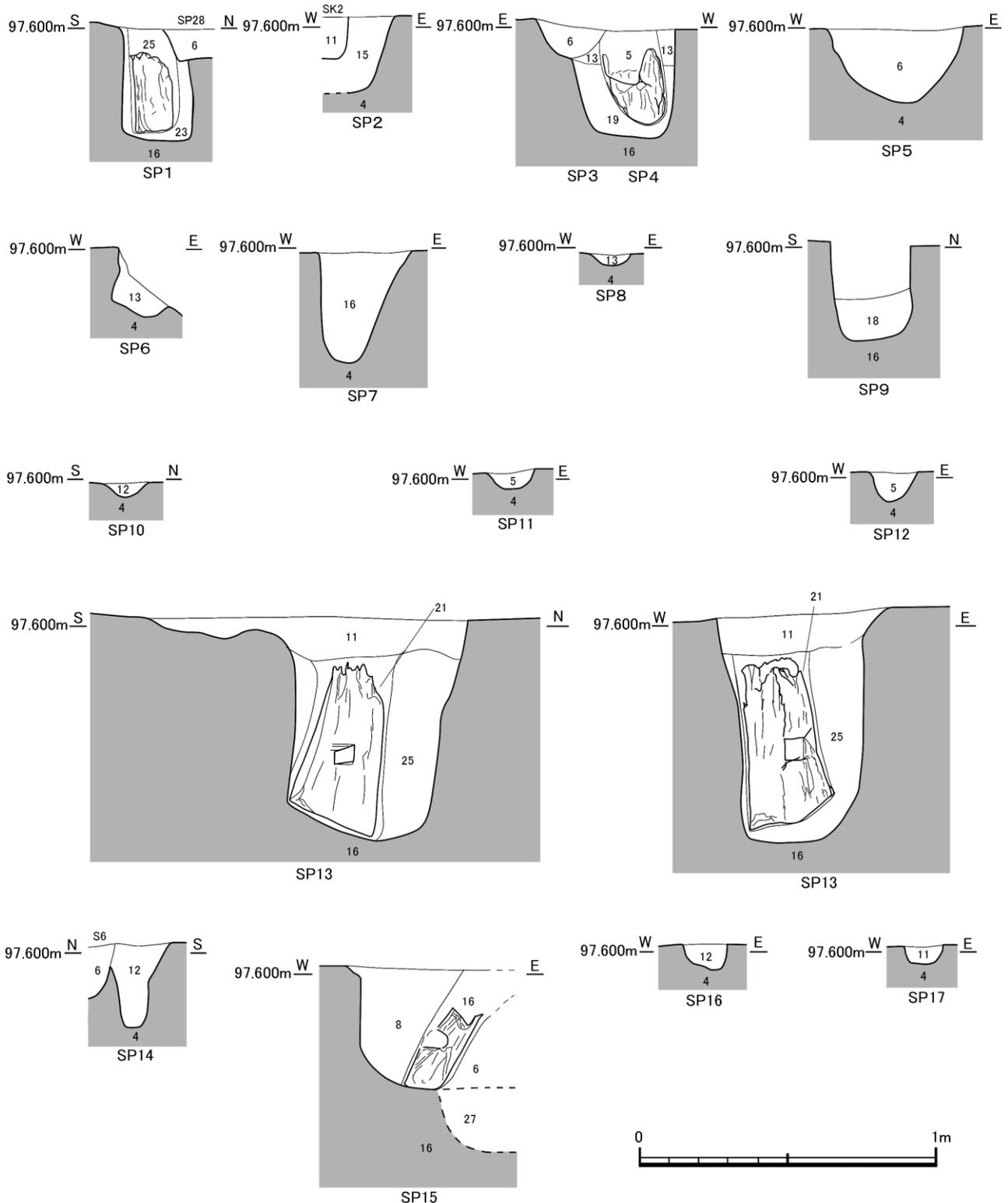
S B 1

多数の柱穴が存在する中で、S 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10により掘立柱建物跡が形成されていると考えられ、柱穴の無い場所はSK 3やSP 13に切られていると考えている。

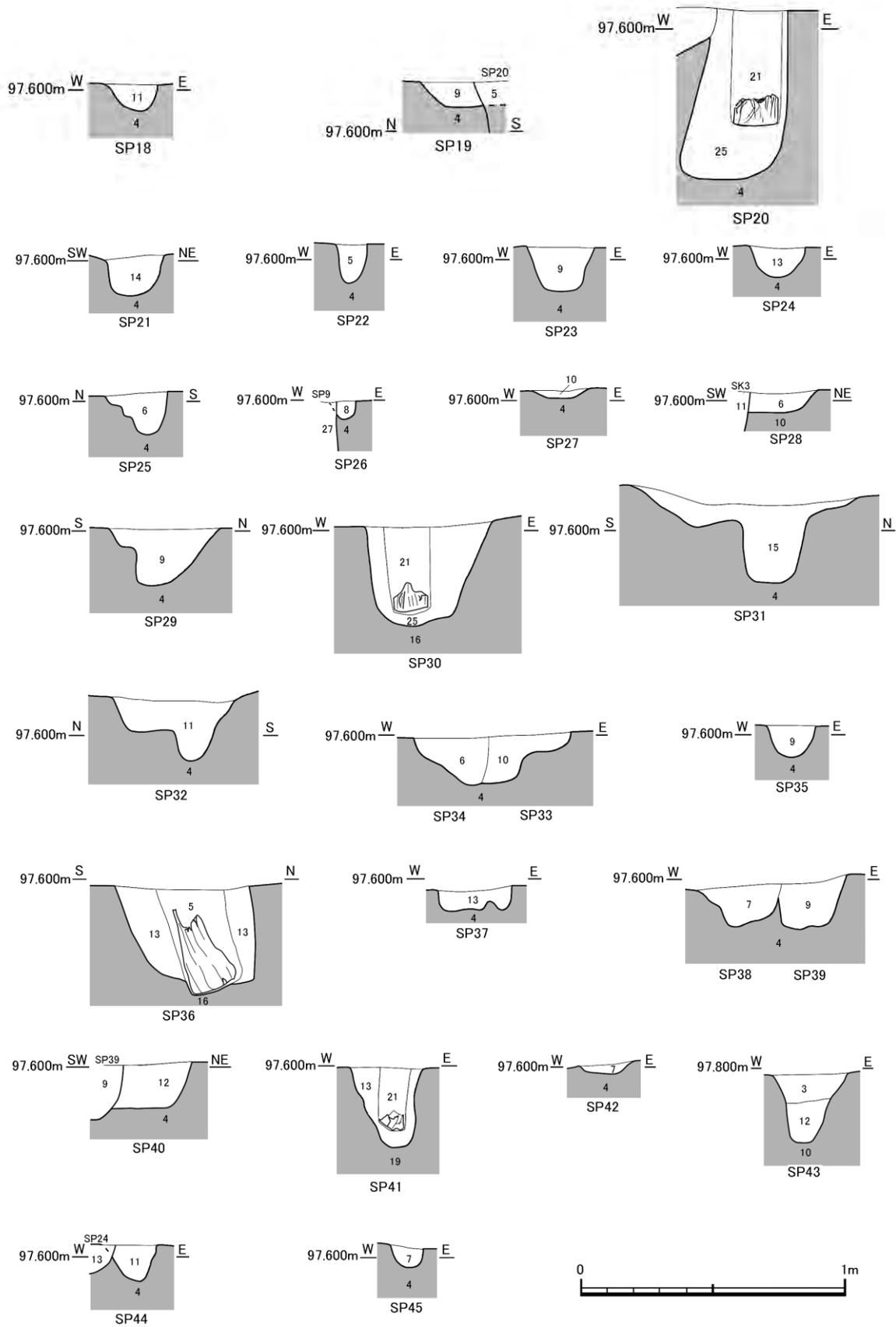
その他にも多数の柱穴が有るため、複数の建物が建っていたと考えられる。また、遺構に切り合いが存在するため、少なくとも2回は建て直しが有ったと考えられる。

・柱穴 (SP 1 から SP45)

柱の基底部分が残存していたのはSP 1・4・13・15・20・30・36・41・S B 1 (S 7) である。



第 15 図 SP 断面図(1)



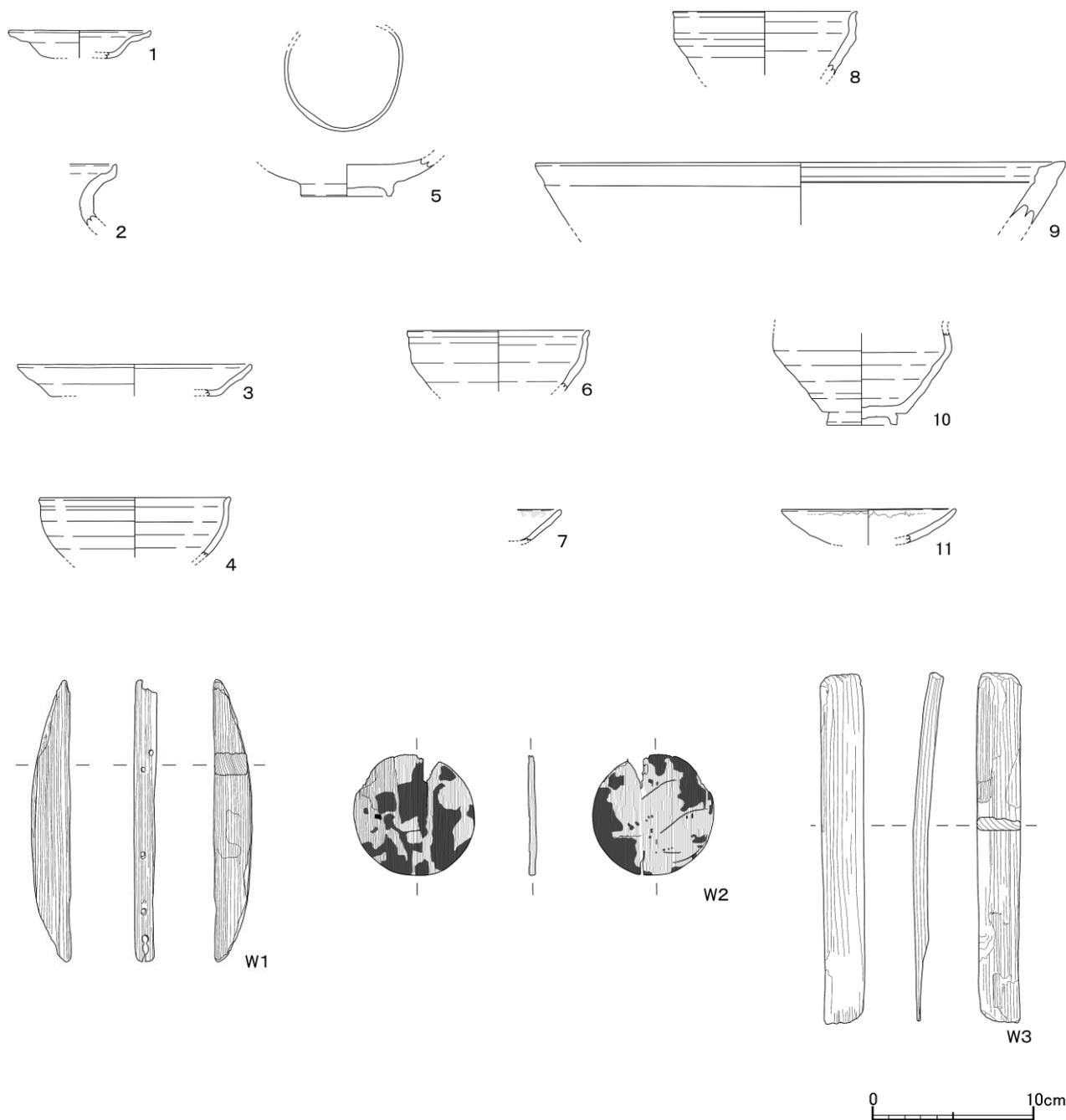
第 16 图 SP 断面图(2)

見つかった柱根の中には、長さの長いもの（60cm 程度）や、短いもの（10cm 程度）など様々で、太さは 30cm 程度の柱もある。

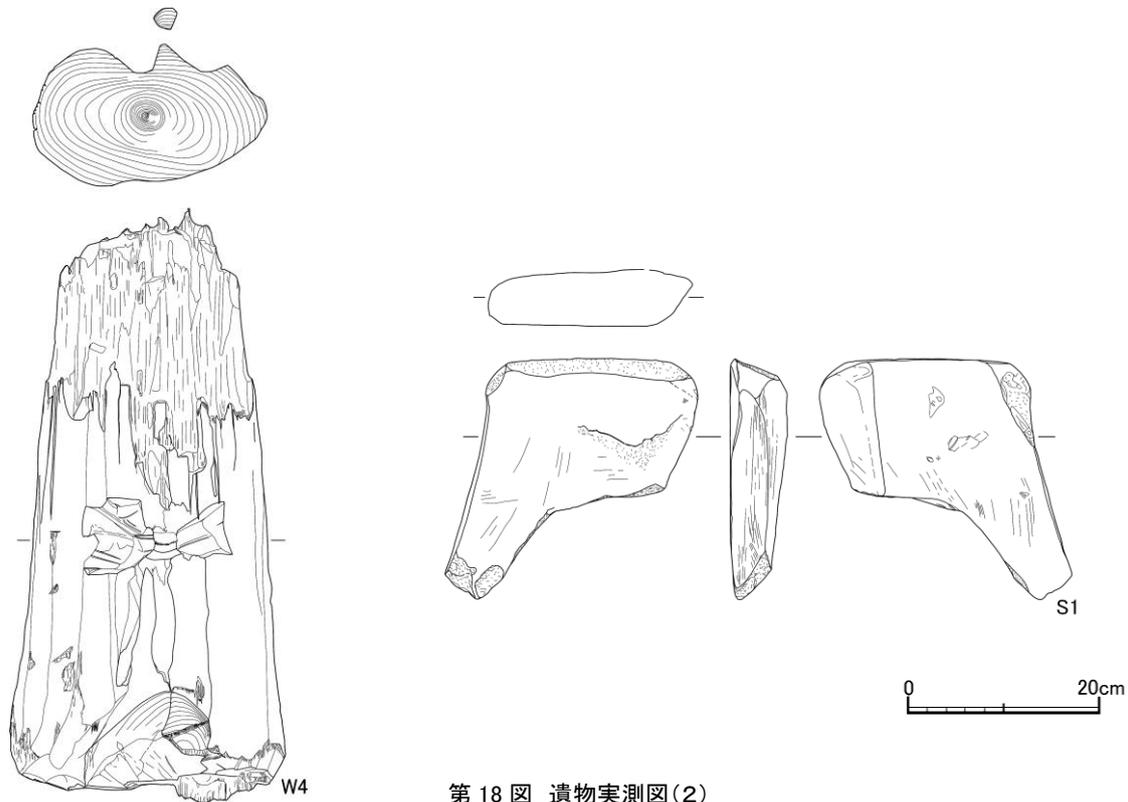
S P13に残存していた柱根は、土に埋まった部分に穴があいている。柱を切り出し移動させる時に引っ掛ける用途で加工した穴の可能性はある。

遺物

出土した遺物の種類は、土師器を中心に陶器と磁器である。詳細は観察表を参照されたい。



第 17 図 遺物実測図(1)



第 18 図 遺物実測図(2)

第 2 表 宇根遺跡第 4 次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SB1 S6	土師器	皿	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	密 粗粒砂含む	良	ナデ	ナデ	復元口径 8.8cm 残存高 1.75cm	1/7	反転復元
2	SB1 S2	陶器	甕	5Y6/2 灰オリーブ色	5Y6/2 灰オリーブ色	2.5Y6/1 黄灰色	密 極粗粒砂含む	良	回転ナデ	釉 回転ナデ 釉	残存高 3.1cm	1/10 以下	断面実測
3	SB1 S8	土師器	皿	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	密 粗粒砂含む	良	ナデ	ナデ	復元口径 14.6cm 残存高 7.0cm	1/7	反転復元
4	SK1	天目茶碗	碗	5YR2/2 黒褐色	5YR2/2 黒褐色	2.5Y8/2 灰白色	密	良	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ヘラケズリ	復元口径 11.8cm 残存高 3.8cm	1/10 以下	反転復元
5	SK3	青磁器	碗	7.5Y5/2 灰オリーブ色	7.5Y5/2 灰オリーブ色	7.5Y6/1 灰色	密	良	回転ナデ	釉 回転ナデ 釉	底部径 5.7cm 残存高 2.35cm	4/5	底部高台のみ 完品で残る
6	SK3	天目茶碗	碗	5YR2/2 黒褐色	5YR2/2 黒褐色	2.5Y8/3 淡黄色	密	良	回転ナデ	釉 回転ナデ 釉 ヘラケズリ	復元口径 11.4cm 残存高 3.7cm	1/10 以下	反転復元
7	SK3	土師器	灯明皿	7.5Y7/4 にぶい橙色	7.5Y7/4 にぶい橙色	7.5Y7/4 にぶい橙色	中密 中粒砂含む	良	ナデ	ナデ	残存高 1.9 cm	1/10 以下	口縁内面煤(油) 付着
8	SD1	天目茶碗	碗	5YR2/2 黒褐色	5YR2/2 黒褐色	2.5Y8/3 淡黄色	密	良	回転ナデ	釉 回転ナデ 釉 ヘラケズリ	復元口径 11.6cm 残存高 4.0cm	1/10 以下	17 世紀 反転復元
9	SK3	陶器	すり鉢	5YR7/6 橙色	5YR6/4 にぶい橙色	5YR7/6 橙色	密 粗粒砂含む	良	回転ナデ	回転ナデ	復元口径 33.2cm 残存高 3.9cm	1/10 以下	16 世紀 反転復元
10	南部	土師器	灯明皿	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	密 粗粒砂含む	良	ナデ	ナデ	復元口径 10.9cm 残存高 2.1cm	1/7	口縁部内外面 に煤(油)付着
11	攪乱 B	天目茶碗	碗	5YR2/1 黒褐色	5YR2/1 黒褐色	2.5Y8/3 淡黄色	密	良	回転ナデ	釉 回転ナデ 釉 ヘラケズリ	復元最大口径 11.2cm 底径 4.4cm 残存高 5.7cm	1/6	17 世紀 反転復元

木製品

No.	遺構	器形	法量	残存率	備考
W1	SK3	曲物	全長 17.7cm 最大幅 2.4cm 最大厚 1.4cm	不明	
W2	SK3	曲物	最大幅 7.6cm 最大厚 0.5cm	1/1	(桜の皮)の留め具が残る
W3	SP20	板	全長 20.0cm 最大幅 2.8cm 最大厚 0.9cm	不明	
W4	SP52	柱	残存最大長 61cm 残存最大幅 28.5cm 残存最大厚 14.5cm	不明	底部面に手斧刃痕が残る

石製品

No.	遺構	器形	法量	備考
S1	SK1	砥石	残存長 22.6cm 最大幅 22.1cm 最大厚 5.9cm 重さ 4.32 kg	ほぼ全面使用痕跡残る

(4) 総括

遺構の切り合いは、SK3は、掘立柱建物跡であるSB1、その他の柱穴やSD1を切っており、SD1は南側の攪乱に切られており、SK4・5を切っている。この状況から、他の遺構に切られていないのは、攪乱以外にはSK3ということになる。

遺物の出土量は少なく、土師器皿の破片が出土遺物の大半である。その他には、陶器、磁器の破片なども出土している。土師器皿の中には、縁の部分が焼け焦げており、燈明皿として使用した痕跡を持つ遺物も有った。

SK1・SK3・SD1・攪乱からは天目茶碗の破片が出土しているが、いずれも近世と見られる。SK3からは、青磁の底部や口縁部に煤が付着した土師器皿の破片、16世紀後半と考えられる播鉢の破片が出土している。SB1S6から出土した土師器皿は口径が8.8cmで、体部をおさえ口縁部が外反し、15世紀後半以降と考えられる。

検出した柱穴が同じ時代に存在したのではなく、切り合いのある柱穴もあることから、様々な時期に掘立柱建物の建て替えを行っていたと見られる。

掘立柱建物跡は、出土した土師器皿より年代は15世紀後半以降の建物と考えられる。掘立柱建物が廃絶した後、土坑が築かれたと考えられる。(牛谷)

第3節 大辰巳遺跡第40次発掘調査 (N2012188)

1. 調査の経過

(1) 調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅建築に伴う本発掘調査である。

平成25年2月5日に原因者より発掘届の提出があり、平成25年3月6日に宅地造成工事に伴う大辰巳遺跡第40次調査として、調査対象区域 351.22 m²に対して2箇所を試掘トレンチを設定し試掘調査を実施した。調査の結果、トレンチから遺構や遺物を確認した。

試掘調査結果をもとに、現状保存が困難な範囲約 46 m²について、本発掘調査を実施することとなった。

本事業の調査主体は長浜市教育委員会である。

(2) 発掘作業の経過

試掘調査は、平成25年3月6日に個人住宅新築工事に伴う大辰巳遺跡第40次調査として、調査対象区域 351.22 m²に対して2箇所を試掘トレンチを設定し調査を実施した。調査の結果、トレンチから遺構・遺物を確認した。

調査の結果、①現況面以下 0.40mまでが 10YR4/2 灰黄褐色細礫少量混極細粒砂、②0.40m～0.50mが 2.5Y4/2 暗灰黄色細礫混極細粒砂、③現況面下 0.50mで検出された 2.5Y4/3 オリーブ褐色細礫～中礫混粗粒砂が地山と考えられたが、遺物の検出状況から考察の結果、第2層が地山の可能性があるかと再考される。

本発掘調査は、平成25年3月14日に実施した。

作業工程は、重機による遺構面直上までの掘削、人力による遺構検出作業、完掘の順で行い、図面作成などのデータ収集、および記録写真撮影は工程ごとに行った。

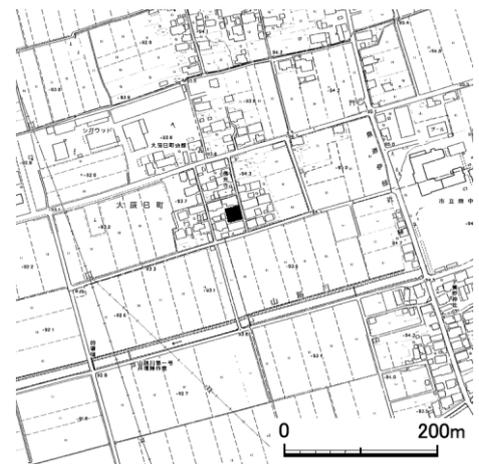
発掘作業は、あらかじめ造成土を重機によって除去し、遺構面直上までの掘削を行った。

個々の作業の詳細については、3. 調査の方法と成果で述べることとする。

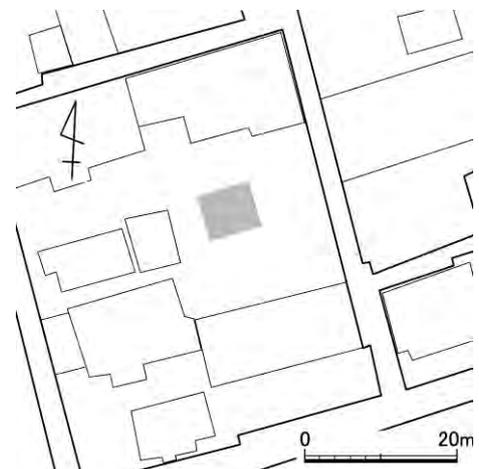
(3) 整理作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後、引き続き実施した。

現地で実測した図面等は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて編集を行った。



第19図 大辰巳遺跡第40次調査位置図



第20図 大辰巳遺跡第40次トレンチ配置図

0m～0.40m	①
0.40～0.50m	②
0.50m～	③

第21図 調査区壁面柱状図

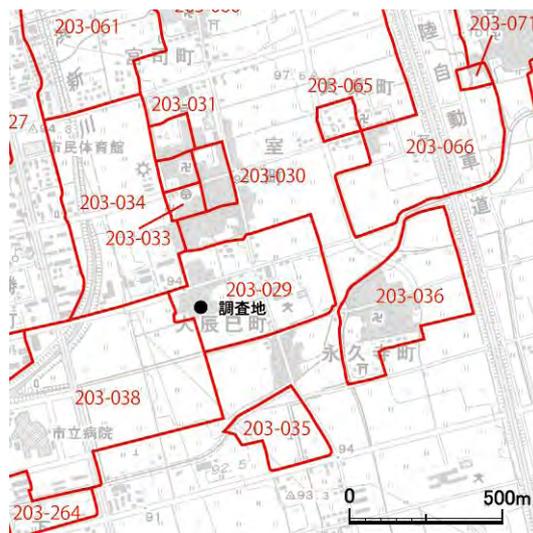
2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

大辰巳遺跡の所在する滋賀県長浜市大辰巳町、永久寺町は、市域の南部に位置しており、現在、北部を流れる姉川の変動により形成した多くの支流が平野部に見られる。今回発掘調査を行った大辰巳遺跡は、弥生時代中期から後期に栄えた遺跡として知られている。

(2) 歴史的環境

大辰巳遺跡の周辺には、円明寺遺跡・大東北遺跡・大東遺跡・永久寺遺跡・永久寺南遺跡や室遺跡・鴨田遺跡などが分布する。これらの遺跡の多くは、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。さらに最近の調査結果から大東遺跡では、奈良時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物跡、土坑や溝が検出され、大量の遺物が出土している。また、大東町春日神社を中心とする付近の下層部からは、弥生時代後期の方形周溝墓、溝や土坑などの遺構や大量の遺物が出土している。調査地区の東に位置する永久寺遺跡では、弥生時代後期の方形周溝墓や平安時代の掘立柱建物跡などが検出されている。調査地区の南西に位置する鴨田遺跡では、弥生時代中期から古墳時代前期の方形周溝墓・溝や掘立柱建物跡などが検出されており、土器のほかに石斧・石剣・石鏃や木製石包丁などが出土している。



遺跡番号	遺跡名
203 029	大辰巳遺跡
203 030	円明寺遺跡
203 031	広瀬氏館遺跡
203 033	室町城居立城遺跡
203 034	室遺跡
203 035	永久寺南遺跡
203 036	永久寺遺跡
203 038	鴨田遺跡
203 061	宮司遺跡
203 065	大東北遺跡
203 066	大東遺跡
203 071	極楽寺遺跡
203 264	下坂中町遺跡

第 22 図 大辰巳遺跡と周辺の遺跡

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

調査は平成 25 年 3 月 14 日に実施した。

東西約 6.81m×南北約 6.76m、面積 46 m²の調査区である。

調査は、先の試掘調査で確認された遺構面直上まで重機を使用しての掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。

全景写真については、遺構検出状況、遺構完掘状況の段階、部分写真については、検出、断面、完掘の時点で、白黒フィルムとリバーサルフィルムを用いて撮影した。

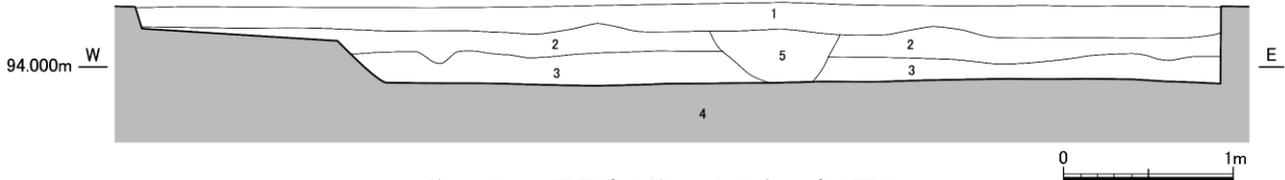
なお、遺構埋土等の土色、土質については、第 3 表土色・土質一覧表を参照されたい。

第3表 大辰巳遺跡第 40 次発掘調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色	細礫大礫混極細粒砂	造成土
2	2.5Y3/2	黒褐色	礫塵埃含極細粒砂	旧表土
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	細礫中礫混極細粒砂	
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細礫中礫混極細粒砂	地山

(2) 層序

調査区の土層は基本的に4層からなる。第1層は10YR4/2 灰黄褐色細礫大礫混極細粒砂（造成土）で現況地面から0.15m、第2層は2.5Y3/2 黒褐色礫塵埃含極細粒砂（旧表土）で0.15m～0.20m、第3層は2.5Y4/2 暗灰黄色細礫中礫混極細粒砂で0.20m～0.48m、第4層は2.5Y4/3 オリーブ褐色細礫中礫混極細粒砂。第4層以下が地山面となる。



第 23 図 大辰巳遺跡第 40 次調査北壁断面図

(3) 調査の成果

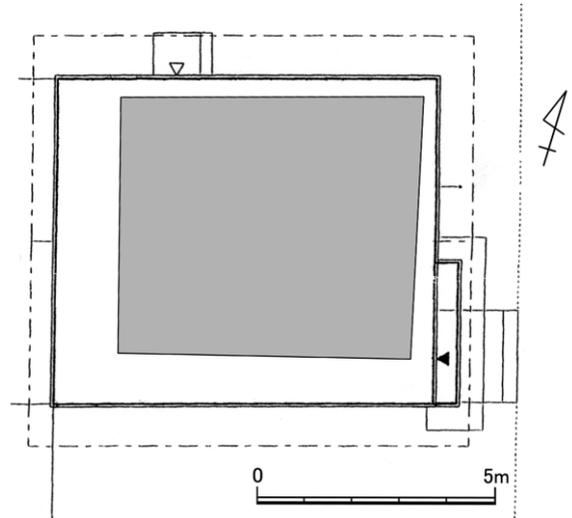
遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

4. 総括

今回の調査区が所在する大辰巳町は、近年ほ場整備事業や急速な宅地化が進み、多くの発掘調査が実施された。

調査を実施した地点から約 300m 東に位置する市立南中学校における第 5 次調査（1995）、第 6 次調査（1998）において、弥生時代中期から後期にかけての数棟の掘立柱建物跡や溝などが検出されている。さらに石包丁・磨製石斧や管玉などが多く出土しており、その後、この地域での調査で弥生時代後期を中心とした遺物が多く出土している。今回、実施した調査区では近世陶磁器片が数点表採されたが、遺構・遺物は確認されなかった。調査区の位置する大辰巳町の集落は鴨田遺跡・室遺跡・永久寺遺跡など多くの遺跡が点在することから、今後周辺の調査が進めば、大辰巳遺跡の中心的な遺構の検出が将来予測される。（尾崎）



第 24 図 大辰巳遺跡第 40 次調査区平面図

参考文献

滋賀県長浜市教育委員会『大辰巳遺跡発掘調査報告書 第 7 次調査』長浜市埋蔵文化財調査資料第 31 集 1999 年

第4節 神照寺坊遺跡第68次発掘調査 (N2012120)

1. 調査の経過

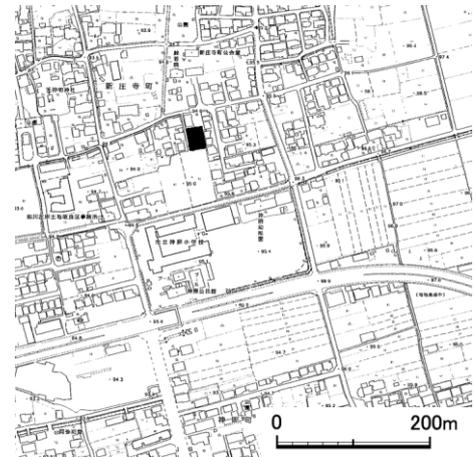
(1) 調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅建築に伴う本発掘調査である。

平成24年8月3日に原因者より発掘届の提出があった。当該地は平成24年4月24・25日に宅地造成工事に伴う神照寺坊遺跡第66次調査として、調査対象区域 615.23 m²に対して13箇所の試掘トレンチを設定し試掘調査を実施した。調査の結果、トレンチから遺構や遺物を確認した。

試掘調査結果をもとに、原因者とその保存について協議を行った結果、現状保存が困難な範囲約 44 m²について、本発掘調査を実施することとなった。

本事業の調査主体は長浜市教育委員会である。



第25図 神照寺坊遺跡第68次調査位置図

(2) 発掘作業の経過

試掘調査は、平成24年4月24・25日に宅地造成工事に伴う神照寺坊遺跡第66次調査として、調査対象区域 615.23 m²に対して13箇所の試掘トレンチを設定し調査を実施した。

調査の結果、T1～T5①現況面以下 0.57mまでが 2.5Y3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、②0.57m～0.72mが N3/1 暗灰色粗粒砂混極細粒砂、③0.72m～0.94mが 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂混シルト質極細粒砂、④現況面以下 0.94mで検出された 5GY4/1 暗オリーブ灰色粗粒シルトが地山と考えられる。

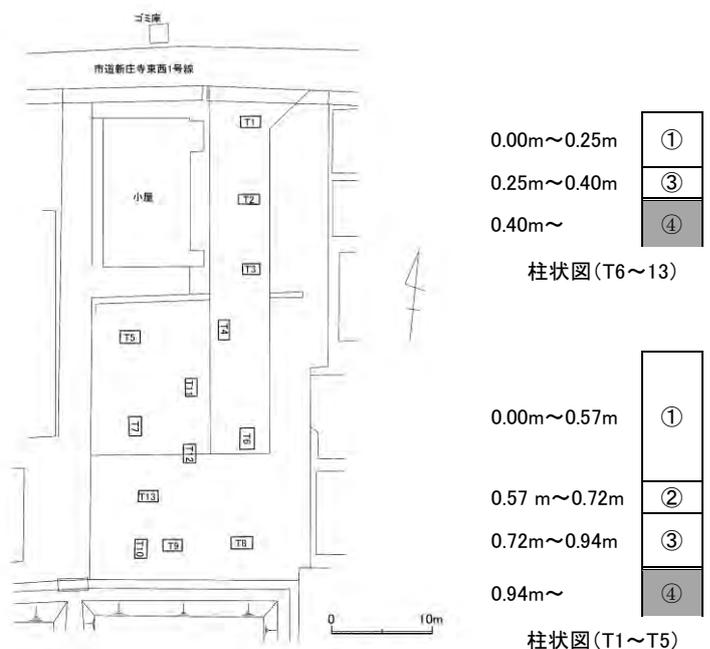
T6～T13①現況面以下 0.25mまでが 2.5Y3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、②0.25m～0.40mが N3/1 暗灰色粗粒砂混極細粒砂、④現況面以下 0.40mで検出された 5GY4/1 暗オリーブ灰色粗粒シルトが地山と考えられ、遺構・遺物が確認された。

本発掘調査は、平成24年10月23日から10月31日にかけて実施した。

作業工程は、重機による遺構面直上までの掘削、人力による遺構検出作業、遺構の半裁、遺構完掘の順で行い、図面作成などのデータ収集、および記録写真撮影は工程ごとに行った。

発掘作業は、あらかじめ造成土を重機によって除去し、遺構面直上までの掘削を行った。

個々の作業の詳細については、3. 調査の方法と成果で述べることとする。



第26図 神照寺坊遺跡第66次試掘調査トレンチ配置図

(3) 整理等作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後から、平成 25 年 1 月までの期間内で実施した。

出土した遺物は、全て遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡の性格や時期等を示し得るもので、実測可能なものについてピックアップした。

ピックアップした遺物については、実測図および遺物観察表の作成を行った後、デジタルトレース作業、並びに写真撮影を行った。

現地で実測した図面等は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて編集を行った。

2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

神照寺坊遺跡の所在する滋賀県長浜市新庄寺町は、市域の南部に位置しており、今回発掘調査を行った神照寺坊遺跡は、古代から中世にかけて存在した遺跡として知られている。

遺跡の北西に神照寺が大きく位置し、周辺は住宅建設などで市街地化が進んでいる。過去、大小の開発行為に伴う発掘調査が実施されている。

今回実施した発掘調査は、神照寺坊遺跡の範囲全体からみると南西部に位置している。

(2) 歴史的環境

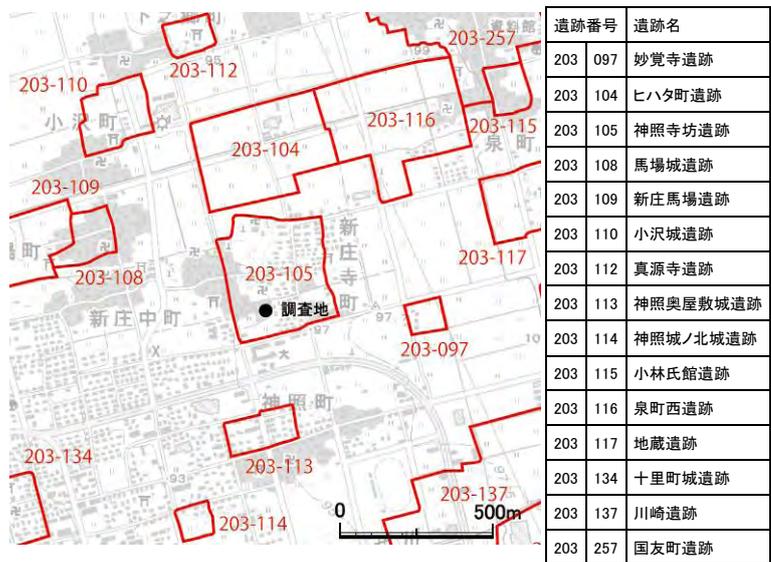
神照寺坊遺跡は、長浜市新庄寺町に位置し、真言宗智山派の古刹神照寺を中心に周囲約 250m の範囲に立地している。

神照寺は、縁起などによれば創建は宇多天皇治世の頃に遡り、中世には数百の坊舎を有したという。

周辺遺跡では、北出川沿いにヒハタ町遺跡、泉町西遺跡、国友町遺跡と小林氏館遺跡が分布し、さらに小沢城遺跡、馬場城遺跡と新庄馬場遺跡などが途切れることなく密集して分布することが現在までの調査で確認されている。

これらは、弥生時代から平安時代にかけての集落跡と中世の寺院跡・城館跡と

大分される。神照寺遺跡も遺跡群の一面を占めているとみられる。過去に数次の調査が行われており、掘立柱建物・堀跡や土坑などの遺構、土師器、須恵器、灰釉陶器や青磁といった土器類のほか北宋銭などが出土している。



第 27 図 神照寺坊遺跡と周辺の遺跡

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

調査は平成 24 年 10 月 23 日から開始し、10 月 31 日まで実施した。東西約 7.6m×南北約 5.8m、面積 44 m²の調査区である。

調査は、先の試掘調査で確認された遺構面直上まで重機を使用し、その後人力により遺構検出作業を行った。

基本的な遺構の掘り下げ方法については、検出されたピットを半截で掘削を行い、断面実測および写真撮影を行った後に完掘した。

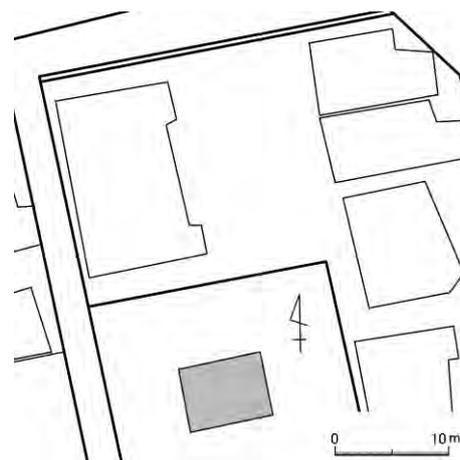
遺物の取り上げ方法については、遺構および層位ごとに取り上げを行った。遺物の状況に応じて事前に平面実測、レベル測定、出土状況写真撮影等を実施した。

全景写真については、遺構検出状況、遺構完掘状況の段階、部分写真については、検出、断面、完掘の時点で、白黒フィルムとリバーサルフィルムを用いて撮影した。

なお、遺構埋土等の土色、土質については、第 4 表土色・土質一覧表を、一部遺構については第 5 表遺構一覧表を、また、出土した遺物のうち、図示し得たものについての詳細は、第 6 表遺物観察表を参照されたい。

(2) 層序

調査区の土層は基本的に 4 層からなる。第 1 層は 10YR5/4 にぶい黄褐色礫混極粗粒砂（造成土）で現況地面から 0.44m、第 2 層は 2.5Y3/1 黒褐色極細粒砂（耕土）で 0.44m～0.68m、第 3 層は 5Y3/1 オリーブ黒色粗粒砂混極細粒砂で 0.68m～0.80m、第 4 層は 10Y4/1 灰色粗粒シルト。第 4 層以下が地山面となる。



第 28 図 神照寺坊遺跡第 68 次トレンチ配置図

第 4 表 神照寺坊遺跡第 68 次発掘調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR5/4	にぶい黄褐色	礫混極粗粒砂	造成土
2	2.5Y3/1	黒褐色	極細粒砂	耕土
3	5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒砂混極細粒砂	
4	7.5Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
5	10Y4/1	灰色	粗粒シルト	地山
6	7.5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒砂混極細粒砂 10Y4/1 灰色極細粒砂混粗粒シルト	

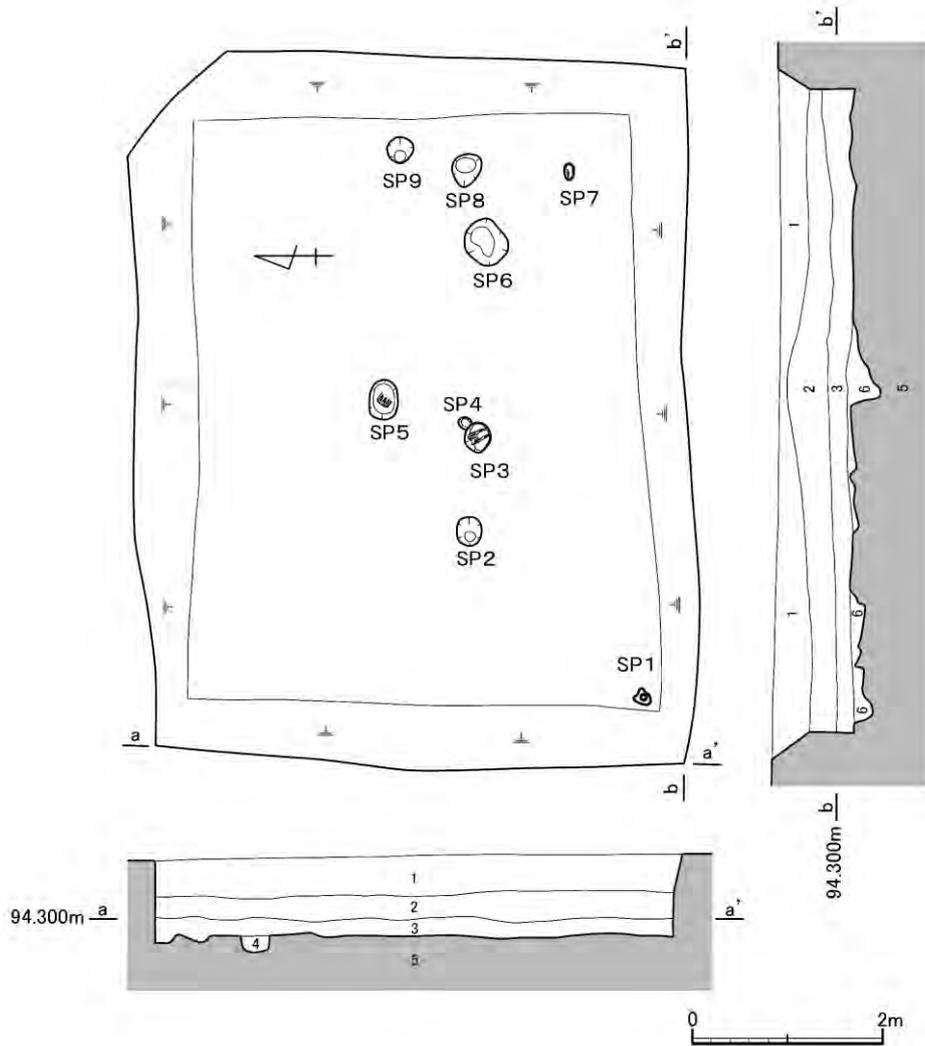
(3) 発掘調査

遺構

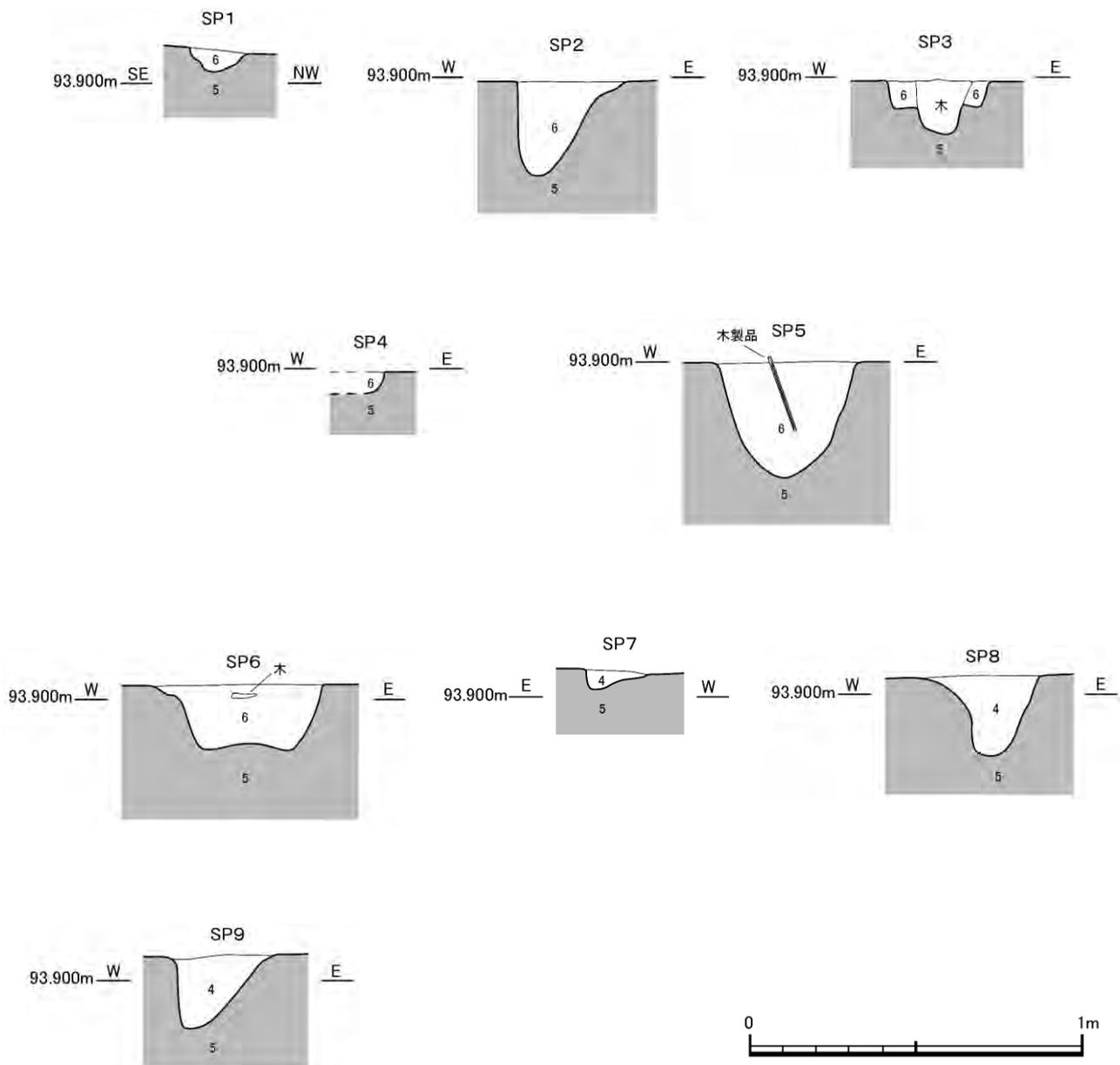
柱穴9基を検出した

1. 柱穴SP1-SP9

検出された柱穴は掘立柱建物跡や杭列を構成せず、群として確認された。また、SP5の柱穴内で確認された曲物の一部については後述する。詳細は遺構平面・断面図、および遺構規模一覧表を参照していただきたい。



第29図 神照寺坊遺跡第68次発掘調査 調査区平面・断面図



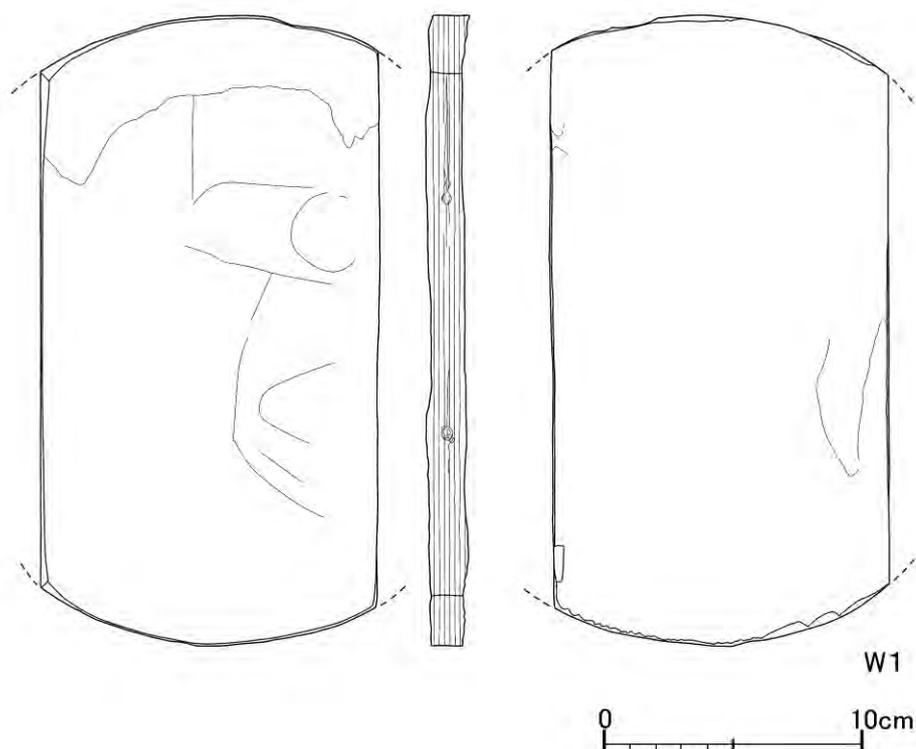
第 30 図 遺構断面図

第5表 神照寺坊遺跡第 68 次発掘調査遺構規模一覧表

遺構	長径	深さ	出土遺物
SP1	0.18m	0.08m	無し
SP2	0.32m	0.30m	無し
SP3	0.31m	0.18m	無し
SP4	0.15m	0.07m	無し
SP5	0.44m	0.36m	W1(木製品)
SP6	0.50m	0.21m	無し
SP7	0.19m	0.06m	無し
SP8	0.34m	0.26m	無し
SP9	0.31m	0.22m	無し

遺物

調査区全域からの出土は、SP5の柱穴内で確認された木製品のみである。詳細は遺物観察表を参照していただきたい。



第31図 出土遺物実測図 (S=1/3)

第6表 神照寺坊遺跡第68次発掘調査 出土遺物観察表

No.	遺構	器形	法量	残存率	備考
W1	SP5	曲物	全長 24.5 cm 残存幅 13.2 cm 最大厚 1.6 cm	3/4(円板底周)	曲物の底板 両側面に釘を刺したとみられる穴が2ヶ所ずつあいている ケズリのような痕が残る。

4. 総括

今回の調査区が所在する新庄寺町は、近年急速に宅地化が進んで来ているが、条里地割は比較的良好な形で見られる。

調査を実施した地点は神照寺境内の南東に位置し、小字名に阿難坊の地名が残る。今回の調査では、9基の柱穴を確認したのもで建物や柵列などを構成するような遺構は確認されなかったが、以前、神照寺南側に位置する蓮乗坊の地名が残る地区で実施した神照寺坊第4・5次調査において池状遺構・掘立柱建物跡や井戸などが検出されており、今後周辺の調査が進めば、阿難坊の地名が残る地区周辺においても同様な遺構の検出が予測される。(尾崎)

参考文献

滋賀県長浜市教育委員会『神照寺坊遺跡』長浜市埋蔵文化財調査資料第63集 2005年

滋賀県長浜市教育委員会『宮司遺跡・長浜城遺跡・神照寺坊遺跡』長浜市埋蔵文化財調査資料第41集 2002年

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIV-1』 1987年

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課『平成22年度 滋賀県遺跡地図』 2012年

第5節 高月南遺跡第40次発掘調査 (N2012046)

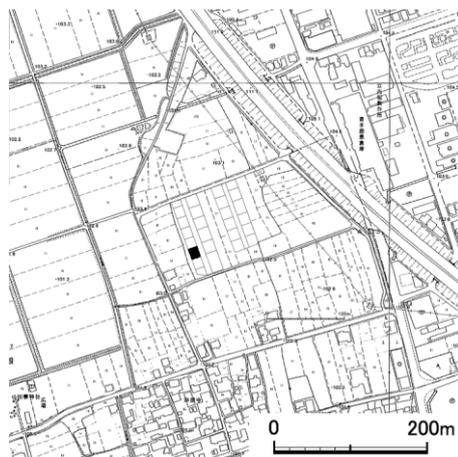
1. 調査の経過

(1) 調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅新築に伴う発掘調査で、平成24年6月19日に原因者から届け出があり、協議の結果当該地において遺構を調査する本発掘調査を実施することになった。

調査は、平成24年6月29日から実施し、調査地から土坑・溝を検出した。

対象面積205.81㎡の内、破壊を免れないと判断した60㎡について本発掘調査を実施することとなった。



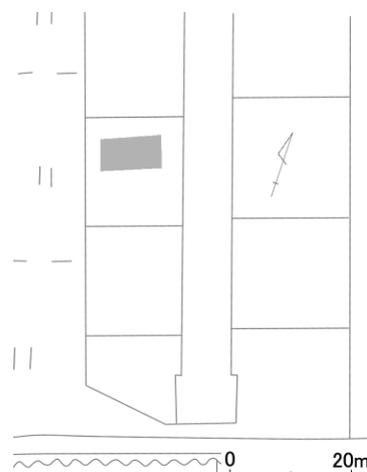
第32図 高月南遺跡第40次調査位置図

(2) 発掘作業の経過

本発掘調査は、平成24年6月29日から8月1日までの期間で実施した。

調査は、調査対象区全体を重機によって遺構面直上まで掘削を行った後、人力による遺構検出作業、遺構の半截・遺構完掘・全景写真・遺構断ち割りの順で行い、平面および断面実測、遺構写真等のデータ収集作業、出土遺物の取り上げは工程ごとに行った。また、残土置き場の都合から当初西側半分を調査し、その後に反転掘削を行い、東側半分を調査した。

調査終了後は埋め戻しを行い、原因者に引き渡した。



第33図 高月南遺跡第40次
トレンチ配置図

(3) 整理等作業の経過

整理作業は、現地調査終了後から平成25年3月までの期間で実施した。

出土した遺物には土器洗浄、マーキングを施し、出土地点、出土点数等を遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

報告書掲載遺物の選別は、残存状態のよい遺物を中心に行い、選別後、実測図の作成、遺物観察表の作成を行った。

上記作業終了後、報告書に掲載する遺物の最終選別を行い、掲載遺物についてはデジタルトレース作業並びに写真撮影を行った。

土層堆積状況の注記については本文中で統一した番号として使用できるように整理を行い、土色・土質一覧表としてまとめた。

現地で実測した図面は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて図面の合成や編集作業を行い、写真に関しては、調査内容が分かるように選別し、写真の内容・撮影方向が分かるように写真図版としてまとめた。

2. 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

高月南遺跡の所在する滋賀県長浜市高月町は、市域のほぼ中央部に位置しており、平成22年1月に旧西浅井町、旧木之本町、旧虎姫町、旧湖北町とともに長浜市に吸収合併された。

今回発掘調査を行った高月南遺跡は、長浜市高月町高月、高月町宇根、高月町森本の3自治区にまたがり所在する、縄文時代後期から平安時代にかけて存在した複合遺跡として知られている。

遺跡のほぼ中央を北西から南東方向に北陸自動車道が縦断し、それに沿うように国道8号線がはしっている。

遺跡の北部は住宅地となっているが、東部から南東部にかけては工場などが立ち並び、それら大小の民間開発に伴う発掘調査が、昭和59年以降旧高月町教育委員会により実施されている。

今回実施した発掘調査は、高月南遺跡の範囲全体からみると南西部に位置している。

周辺は、もともと水田地帯であったが、国道8号線に近接し利便性も高いことなどから、平成13年度に行われた町道建設工事で以降、周辺での宅地造成工事や住宅建築が盛んに行われ、現在は市街化が進んできている。

(2) 歴史的環境

高月南遺跡は、高時川右岸の微高地とそれによって形成された扇状地の南端付近に立地しており、縄文時代から平安時代にかけて存在したと考えられている。

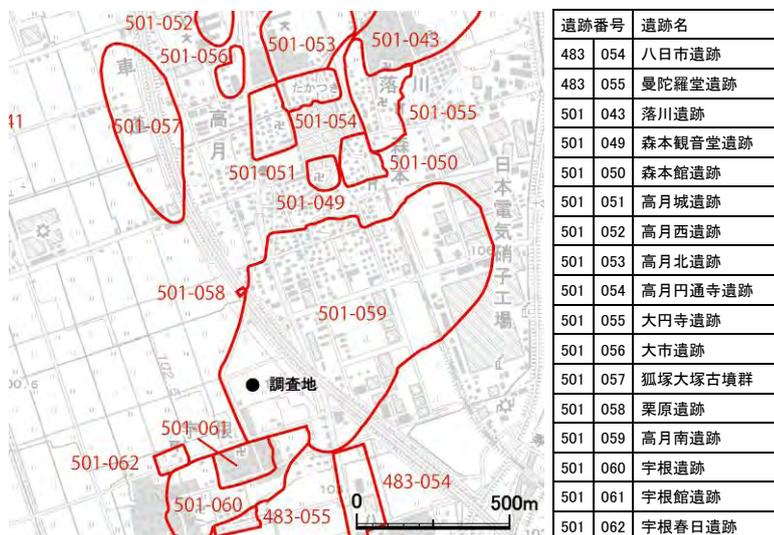
遺跡の中心部では、弥生時代以降、各時期の遺構がかなり重複してみられ、過去の調査からは、竪穴建物450棟以上、掘立柱建物200棟以上の建物群や、方形周溝墓、古墳、土坑墓、壺棺、甕棺70基以上の他、井戸、土坑、区画溝、溝、自然流路等が検出されている。

建物の中には、大壁造り建物や、玉作りに関係すると考えられるものや、五角形や円形を呈する竪穴建物も量的には少ないが検出されている。

注目すべき遺物としては、18次調査等において出土した、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての玉作りに関わる遺物があり、少量ではあるが、碧玉製管玉の完形品および未製品、穿孔失敗品、剥片、砥石、玉砥石等が出土し、工房跡と見られる竪穴建物も検出している。その他にも、紡錘車形石製品や、祭祀関連と推定される、出土例の少ない古墳時代早期の鶏形土製品も出土している。

古墳時代中期から後期には、集落あるいは住居内祭祀に関わる滑石製管玉、勾玉、白玉、有孔円板、紡錘車、ガラス玉、土製模造品（鏡・手づくね土器等）、製塩土器、子持勾玉、小鍛冶に関わる炉や鉄滓等も出土している。

また、条里型地割に先行する可能性がある溝や、竪穴建物内に石敷施設を持ち、周囲に小溝を廻らし、玉類などの祭祀遺物が多数出土した大型建物、朝鮮半島系の大壁造建物など特徴的な遺構も多数検出されている。その他、古墳から奈良時代の大型掘立柱建物も検出されており、豪族の居館が存在する可能



第34図 高月南遺跡と周辺の遺跡

性がある。高月南遺跡(501-059)の所在する高時川右岸地域の周辺遺跡については、「高月南遺跡第32次発掘調査報告書」の中で触れているので参照されたい。

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

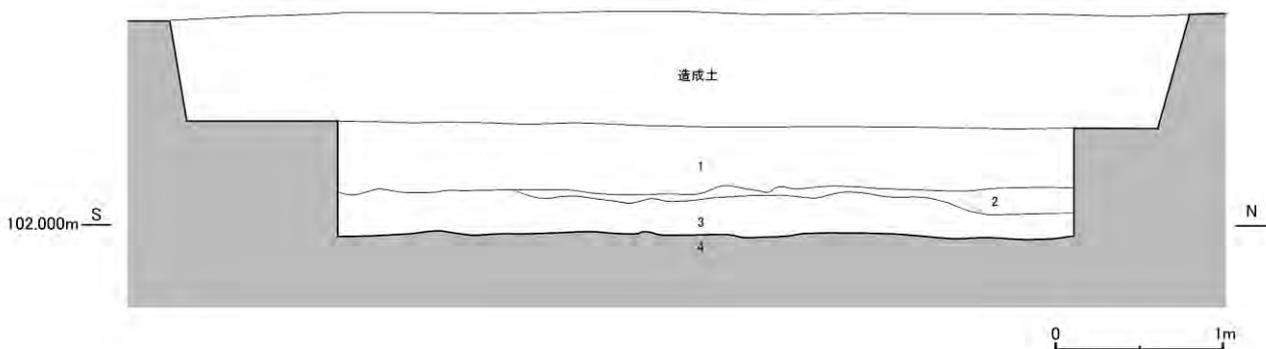
重機を使用し、遺構面直上まで掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。トレンチ内には排水の溝を設置した。

基本的な遺構の掘削については、柱穴は半截、土坑については四分法を用いた。

写真撮影については、発掘調査前後の状況写真、遺構検出状況、遺構完掘状況の撮影を白黒フィルム、リバーサルフィルムを用い撮影した。

(2) 層序

調査区の土層は第1層目が 10YR4/4 褐色大礫（造成土）で現況地面から 0.7m、第2層目が 10YR3/1 黒褐色粗粒砂で 0.7m～1.1m、第3層目が 2.5Y3/2 黒褐色粗粒シルトで 1.1m～1.2m、第4層目が 2.5Y3/1 黒褐色粗粒シルトで 1.2m～1.36m、第5層目が 5Y3/1 オリーブ黒色粗粒シルトである。第5層目が地山である。



第35図 高月南遺跡第40次調査西壁断面図

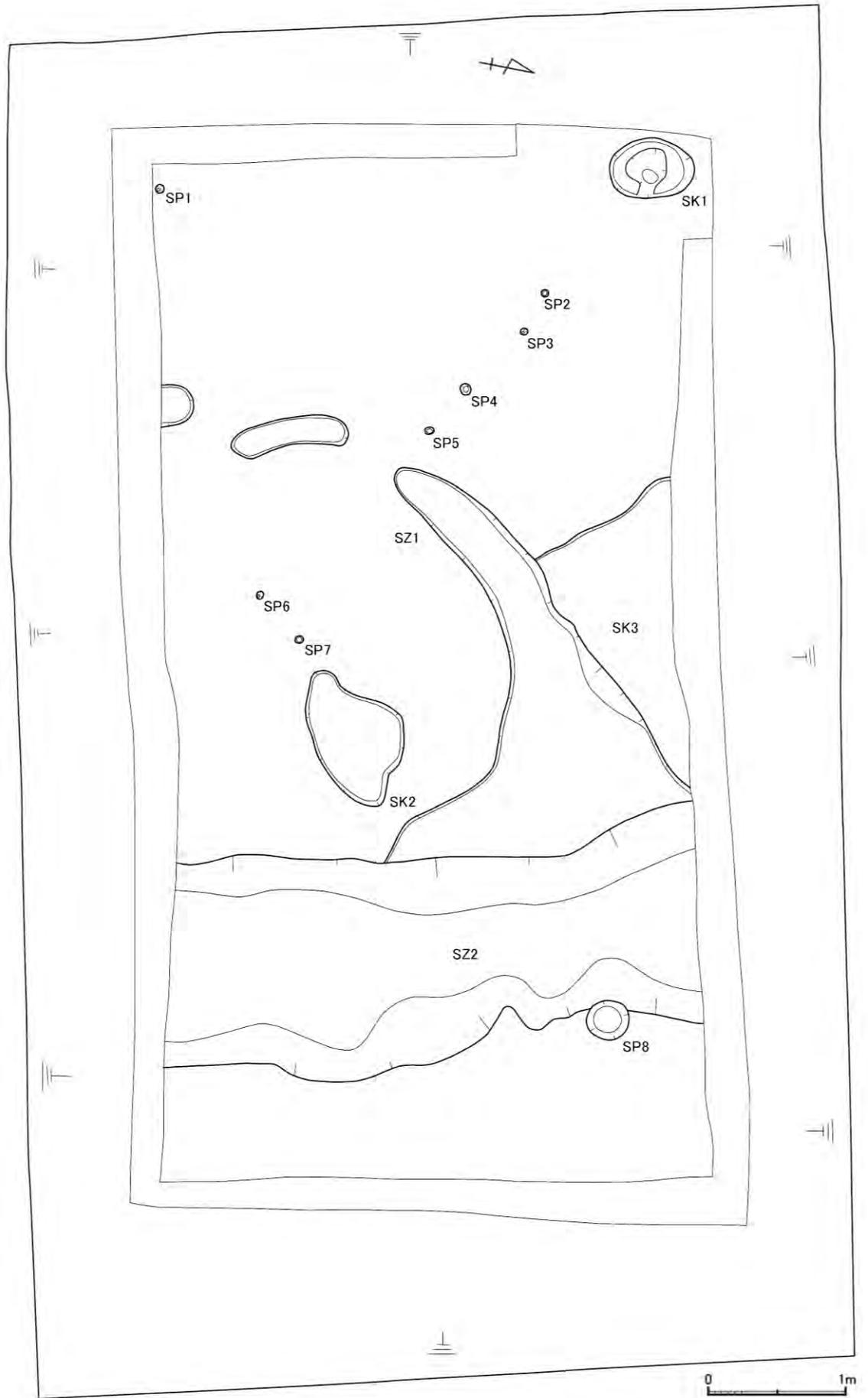
第7表 高月南遺跡第40次調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
	10YR4/4	褐色	大礫	造成土
1	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂	耕土
2	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒シルト	
3	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
4	5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒シルト	地山
5	10YR3/2	黒褐色	粗粒シルト	
6	10YR3/1	黒褐色	粗粒シルト	
7	10YR2/1	黒色	粗粒シルト	
8	5Y2/1	黒色	粗粒シルト	
9	10YR2/1	黒色	極細粒砂	
10	2.5Y2/1	黒色	粗粒シルト	
11	10YR2/2	黒褐色	粗粒シルト	

(3) 発掘調査

遺構

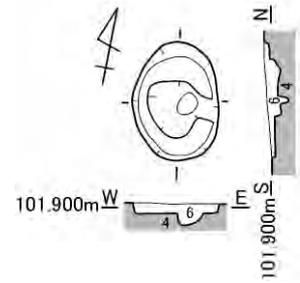
調査地全体に
土坑、周濠、柱
穴を検出した。
以下に内容を
記す。



第 36 図 高月南遺跡第 40 次発掘調査 調査区平面図

S K 1

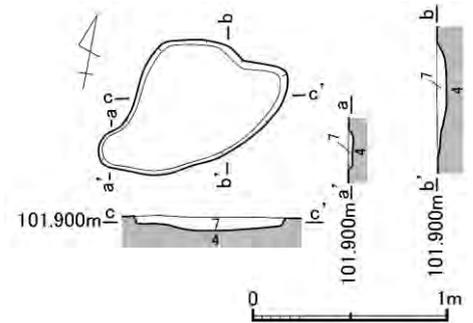
調査地の南西に位置し、長辺 0.60m×短辺 0.43m×深さ 0.11mの円形を呈する土坑である。埋土は 10YR3/1 黒褐色粗粒シルトである。



第 37 図 SK1 平面・断面図

S K 2

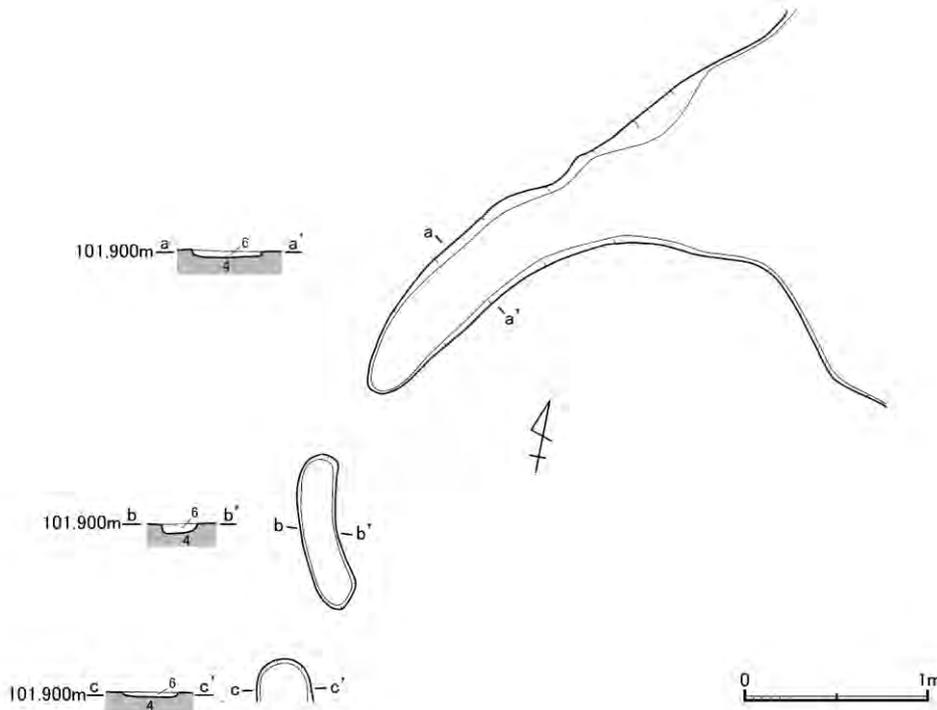
調査地の中央に位置し、長辺 1.0m×短辺 0.70m×深さ 0.07mの不定形を呈する土坑である。埋土は 10YR2/1 黒色粗粒シルトである。調査地を西側と東側に分けて調査したことにより、当初西側でわずかに検出していたのみであったが、東側の調査地で全容が判明した。



第 38 図 SK2 平面・断面図

S K 3

調査地の北側中央に位置し、長辺 2.9m×短辺 1.5m以上×深さ 0.10mの方形を呈する土坑である。埋土は 10YR3/2 黒褐色粗粒シルトで、堆積は浅い。S Z 1 に切られている。



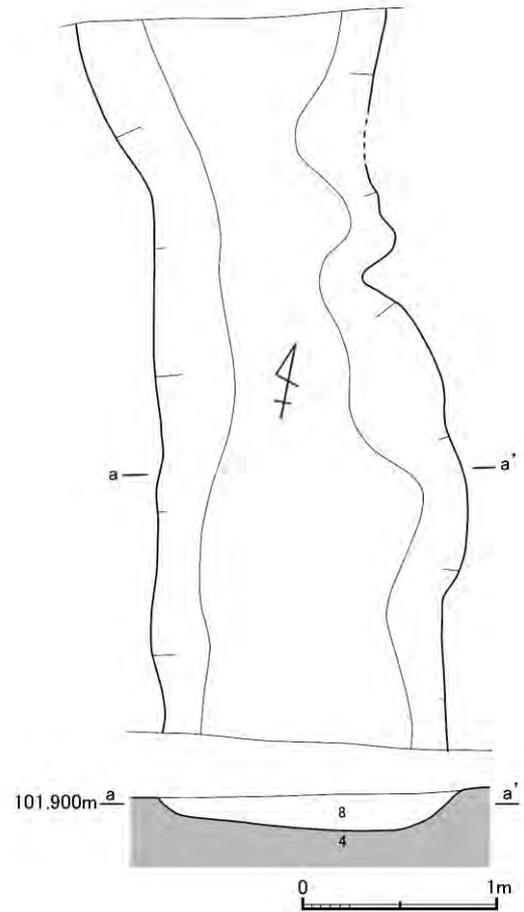
第 39 図 SZ1 平面・断面図

S Z 1

調査地の中央に位置し、長辺 3.80m以上×深さ 0.03mの溝である。堆積は浅く、わずかに痕跡が残る形である。途切れながらではあるが弧を描くように北から南につながる。S Z 2 に切られる。周溝墓の痕跡と考えられ、調査地の中央南側を中心に弧を描く。

S Z 2

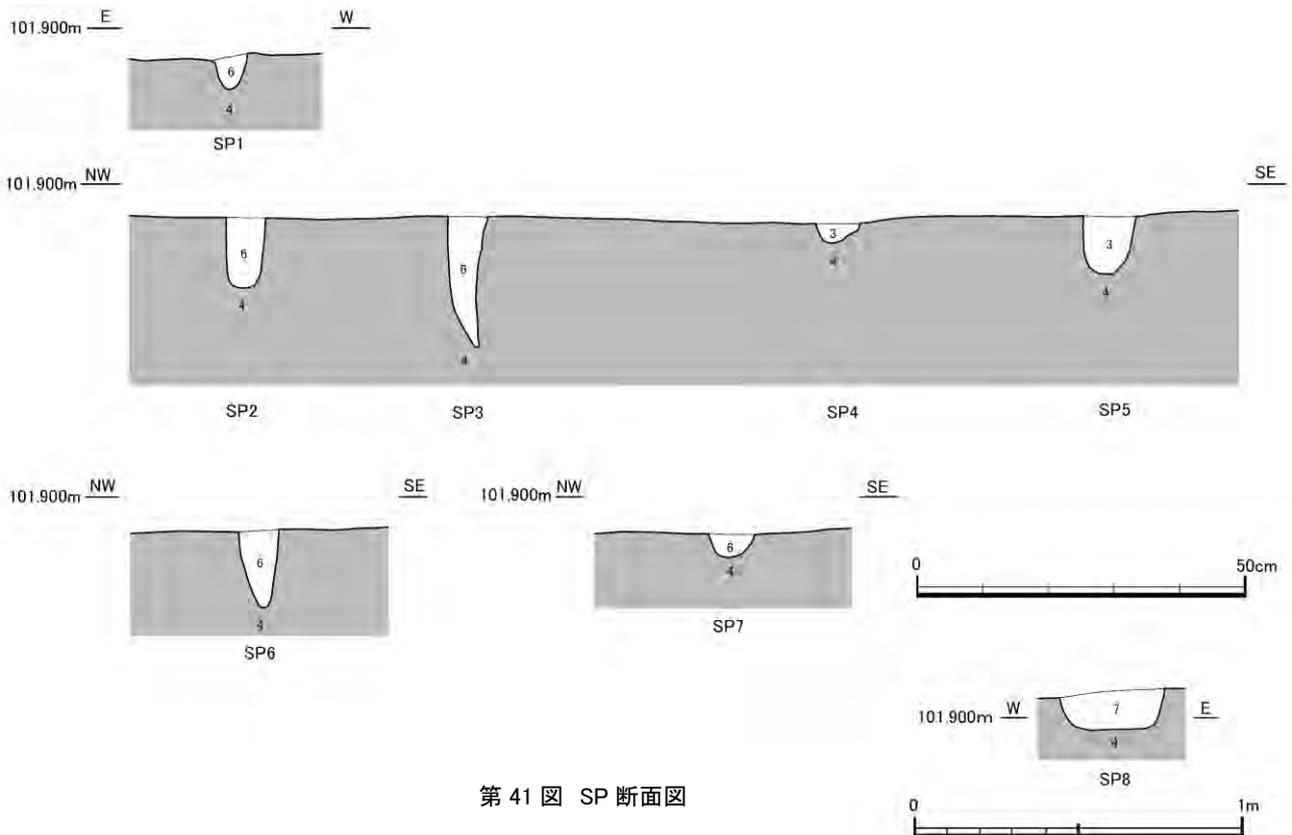
調査地の東側に位置し、長辺 3.90m以上×深さ 0.20mの溝である。調査地を南北に走る溝でS Z 1を切る。調査地内で出土した遺構の中で一番規模が大きい遺構である。南北一直線に走っており、古墳の周溝と考えられる。



第40図 SZ2 平面・断面図

SP 1～SP 8

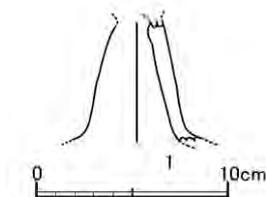
SP 1～SP 7は杭の跡で、SP 8はSZ 2の南側に位置し、SZ 2を切っている柱穴である。深さはSP 1～SP 7までは5～20cmで、SP 8は13cmである。



第41図 SP断面図

遺物

出土した遺物の種類は、土師器と須恵器である。詳細は観察表を参照されたい。



第 42 図 遺物実測図

第8表 高月南遺跡第 40 次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	T-2 SZ1	土師器	高杯	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	密 粗粒砂含む	やや不良	ナデ	ナデ	残存高 6.1cm	1/7(脚部)	反転復元

4. 総括

西側の調査地を開けた時に非常に堆積の浅い溝を確認した。これは、周辺の調査結果からみて周溝の痕跡と考えられる。さらに反転して調査した東側調査地内で堆積の浅い周溝を切る形で南北に溝 (SZ 2) が走ることが判明した。この溝も、調査区内では一直線に走るが、周辺の調査状況からみると古墳の周溝と考えられる。

遺物の出土数は少なく、西側の調査地ではほとんど遺物は出土していない。東側の調査地では、須恵器の体部や土師器の細片が出土している。

今回の調査によって検出した溝は、古墳であると考えられるが、遺構の堆積は全体に浅い。これは、地面が東から西に行くに伴って上がり、その結果、後世の削平を大きく受けているためではなかろうか。
(牛谷)

第6節 高月南遺跡第41次発掘調査 (N2012047)

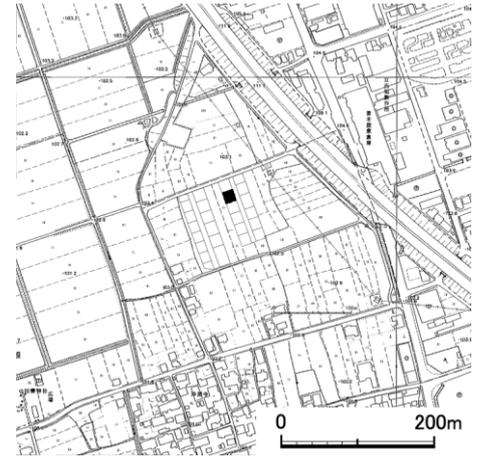
1. 調査の経過

(1) 調査にいたる経緯

高月南遺跡第41次調査の調査区域は、平成23年度に行われた高月南遺跡第32次調査の調査区域内に所在する。高月南遺跡第32次調査は宅地造成工事に伴う発掘調査で、道路および擁壁部分を調査対象区域として本発掘調査が行われた。造成工事の際に保護可能として調査区域から除外された分譲宅地部分については、32次調査の結果から遺構等が検出されることが明確であったため、試掘調査は行わず、遺跡の破壊が免れない建物部分については、当初から本発掘調査を実施することを前提として協議を行っている。

このような経緯から、宅地分譲地全体を一つの調査区にとらえ、住宅部分については各々の調査区域をトレンチの一つとして取り扱う形で調査を行うこととしている。今回の調査もそれに準じて行った。

調査は平成24年6月21日付けで提出された原因者からの届出に基づき、個人住宅新築に伴う発掘調査として、対象面積204.69m²の内、破壊を免れないと判断した75m²を対象として実施した。調査期間は平成24年7月3日から平成24年8月23日である。



第43図 高月南遺跡第41次調査位置図

(2) 発掘作業の経過

今回の調査は、申請区域に対して調査対象区域が広く排土置き場が十分に確保できなかったため、反転掘削を行い調査を実施している。作業工程は、調査対象区域全体について、重機による遺構面直上までの掘削を行った後、人力による遺構検出作業、遺構の半截等、遺構完掘の順で行い、平面および断面実測などのデータ収集作業、出土遺物の取り上げや、記録写真撮影等の記録保存は、工程ごとに行った。雨天時には、出土遺物の洗浄等の暫定的な整理調査を行った。調査終了後は、埋戻しを行い原因者に引き渡した。

また、個々の作業の詳細については、3. 調査の方法と成果 (1) 調査の方法で述べることとする。

(3) 整理等作業の経過

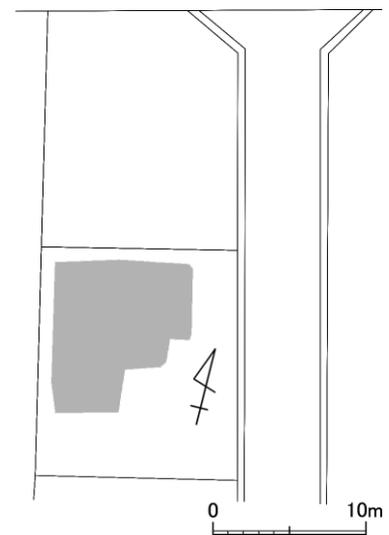
整理作業は、現地発掘作業終了後から平成25年3月29日までの期間で実施した。

出土した遺物には全てマーキングを施し、出土地点、出土点数等を遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡や遺構の性格や時期等を示し得るもので、遺存状態の良いものについてピックアップした。

ピックアップした遺物については、復元作業を行った後、実測図および遺物観察表の作成を行った。

上記作業終了後に報告書に掲載する遺物の最終選別を行い、掲載遺物についてはデジタルトレース作業、並びに写真撮影を行った。また、出土遺物の保存方法については、復元可能な遺物のうち特に軟質な物につ



第44図 高月南遺跡第41次トレンチ配置図

いては、バインダー溶液による硬化処理を施した。

断面図については、現地調査段階で遺構断面実測の際に記入した全ての土色、および土質について、本文中で統一した番号として使用できるよう整理を行い、土色・土質一覧表としてまとめた。

現地で実測した図面は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて図面の合成や編集作業等を行った。

現地で撮影した写真については、作業工程毎の状況が分かるようにピックアップし、写真の内容および撮影した方向が分かるように写真図版としてまとめた。

遺物写真については、基本的に遺構ごとにまとめて撮影を行い、写真図版としてまとめた。

2. 遺跡の位置と環境

地理的環境及び歴史的環境については、第5節 高月南遺跡第40次調査を参照のこと。

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

今回の調査は、申請区域に対して調査対象区域が広く排土置き場が十分に確保できなかったため、反転発掘を行い調査を実施している。なお、トレンチ1では包含層の一部を人力で掘り下げたため、重機で遺構面直上まで掘削したトレンチ2、3と連続する遺構の検出ができない箇所があった。

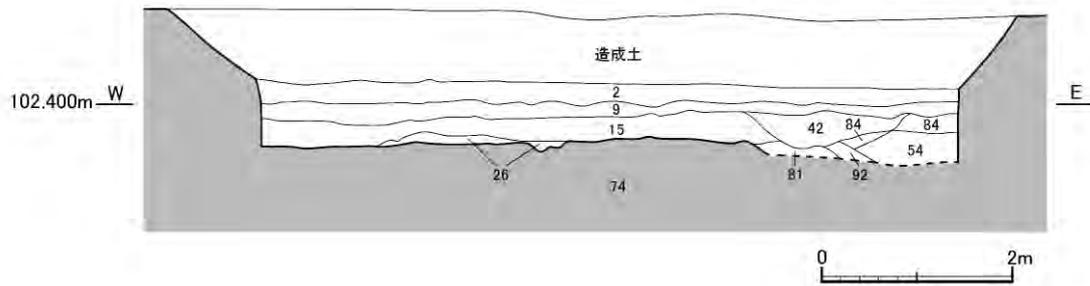
第9表 高月南遺跡第41次発掘調査 土色・土質一覧(1)

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	耕土
2	10YR5/1	褐灰色	極細粒砂	旧耕土
3	10YR2/2	黒褐色	極細粒砂	
4	10YR2/3	黒褐色	極細粒砂	
5	7.5YR2/1	黒色	極細粒砂	
6	7.5YR3/4	暗褐色	極細粒砂	
7	7.5YR4/4	褐色	極細粒砂	
8	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒シルト	
9	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒シルト	
10	7.5YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
11	10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂混極細粒砂	
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒シルト	
13	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒シルト	
14	7.5YR4/6	褐色	粗粒砂混極細粒砂	地山
15	2.5Y3/1	黒褐色	極細粒砂	
16	2.5Y3/2	黒褐色	極細粒砂	
17	7.5YR3/2	黒褐色	極細粒砂	包含層
18	5Y4/1	灰色	極細粒砂	
19	7.5YR4/1	灰色	細粒シルト	
20	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
21	7.5YR4/3	褐色	極細粒砂	
22	10YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
23	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	極細粒砂	
24	10YR4/3	にぶい黄褐色	極細粒砂	
25	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	細粒シルト	
26	10YR4/1	褐灰色	粗粒シルト	
27	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	
28	7.5Y6/1	灰色	細粒シルト	
29	7.5YR3/3	暗褐色	粗粒シルト	
30	7.5Y3/1	オリーブ黒色	細粒シルト	
31	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粗粒砂混細粒シルト	
32	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂	
33	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色	中粒砂混極細粒砂	
34	10YR4/1	褐灰色	中粒砂混極細粒砂	
35	10YR4/4	褐色	極細粒砂	

第 10 表 高月南遺跡第 41 次発掘調査 土色・土質一覧(2)

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
36	10YR3/4	暗褐色	中粒砂混極細粒砂	
37	5Y4/1	灰色	粗粒シルト	
38	10YR2/1	黒色	極細粒砂	
39	N3	暗灰色	極細粒砂	
40	10Y4/1	灰色	粗粒シルト	
41	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色	粗粒シルト	
42	5Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
43	10YR3/3	暗褐色	粗粒シルト	
44	10Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
45	10YR3/1	黒褐色	極細粒砂	
46	2.5Y2/	黒色	極細粒砂	
47	2.5GY4/1	灰オリーブ灰色	粗粒シルト	
48	2.5Y3/2	黒褐色	2.5GY4/1 灰オリーブ灰色粗粒シルト混極細粒砂	
49	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂	
50	2.5Y5/1	黄灰色	極細粒砂	
51	2.5Y4/3	オリーブ褐色	極細粒砂	
52	5Y2/1	黒色	粗粒シルト	
53	5Y2/1	黒色	2.5GY3/1 灰オリーブ灰色粗粒シルト混粗粒シルト	
54	2.5Y2/1	黒色	粗粒シルト	
55	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂混極細粒砂	
56	10YR3/1	黒褐色	細粒砂混・10YR4/4 褐色極細粒砂混極細粒砂	
57	2.5Y4/2	暗灰黄色	極細粒砂	
58	2.5Y4/6	オリーブ褐色	極細粒砂	
59	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂混・2.5YR4/6 赤褐色極細粒砂混極細粒砂	焼土 炭化物混じる
60	2.5Y4/4	オリーブ褐色	極細粒砂	
61	5Y4/2	灰オリーブ色	極細粒砂	
62	7.5Y4/1	灰色	7.5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂混極細粒砂	
63	7.5Y2/1	黒色	極細粒砂	
64	7.5Y4/1	灰色	5Y2/1 黒色極細粒砂混極細粒砂	
65	5Y2/2	オリーブ黒色	極細粒砂	
66	10YR2/1	黒色	粗粒シルト	
67	2.5Y4/1	黄灰色	極細粒砂	
68	7.5Y4/1	灰色	シルト	
69	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂混極細粒砂	造成土
70	2.5Y2/1	黒色	極細粒砂混細粒シルト	
71	2.5Y2/1	黒色	細粒シルト	
72	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒シルト	
73	7.5YR4/1	褐灰色	極細粒砂	
74	2.5Y4/3	オリーブ褐色	7.5Y4/6 褐色極細粒砂混粗粒シルト	地山
75	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂混粗粒シルト	
76	10YR3/2	黒褐色	粗粒シルト	
77	10YR3/3	暗褐色	粗粒シルト混極細粒砂	
78	10YR2/2	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	
79	10YR3/4	暗褐色	極細粒砂	
80	2.5Y3/1	黒褐色	7.5YR4/4 褐色極細粒砂混極細粒砂	
81	2.5Y3/2	黒褐色	7.5YR4/4 褐色極細粒砂混極細粒砂	
82	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粗粒シルト	
83	10YR3/3	暗褐色	5YR4/8 赤褐色極細粒砂混極細粒砂	
84	10YR3/1	黒褐色	7.5YR5/8 明褐色極細粒砂混粗粒シルト	
85	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂混極細粒砂	
86	10YR2/2	黒褐色	粗粒シルト	
87	7.5YR2/2	黒褐色	粗粒シルト	
88	10YR2/3	黒褐色	中粒シルト	
89	5Y2/1	黒色	細粒シルト	
90	10YR3/4	暗褐色	粗粒シルト	
91	10G4/1	暗緑灰色	シルト	
92	2.5Y3/1	黒褐色	7.5Y5/8 明褐色極細粒砂混極細粒砂	
93	10YR3/1	黒褐色	7.5YR4/6 褐色極細粒砂混極細粒砂	
94	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
95	2.5Y3/1	黒褐色	中粒シルト	
96	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒シルト	
97	10Y4/1	灰色	細粒シルト	
98	5Y3/1	オリーブ黒色	7.5YR4/4 褐色極細粒砂混粗粒シルト	
99	10YR3/1	黒褐色	7.5YR4/4 褐色極細粒砂混粗粒シルト	

(2) 層序



第45図 高月南遺跡第41次調査区北壁断面図

調査区の基本的な土層堆積状況は次のとおりである。

第1層は現況面0.75mまでが造成土、0.75m～1.00mまでが第2層 10YR5/1 褐灰色極細粒砂(旧耕土)、1.00m～1.22mまでが第3層 10YR4/2 灰黄褐色粗粒シルト、1.22m～1.45mまでが第4層 2.5Y3/1 黒褐色極細粒砂。1.45m以下で検出される第5層 2.5Y4/3 オリーブ褐色極細粒砂混粗粒シルトが地山面である。

(3) 発掘調査

遺構

古墳1基、土坑7基、溝状遺構4条、ピット42基が検出された。以下に、それぞれの概要について記す。

古墳

SZ1

円墳である。墳丘等はすでに消失しており、周溝のみの検出である。一部調査区域外ではあるが、全体の3割程度を検出することができた。そこから推測できる墳丘の直径はおよそ6.4mである。

平面図については、第46図を参照されたい。

確認できた周溝の総延長は9.20mで、幅は2.17～2.35m、深さ0.51mを測る。

遺物は土師器、須恵器等が281点出土している。今回の調査で出土した遺物は全てこの遺構からの出土であり、これらの内13点を実測・掲載した(遺物実測図No.1～13)。

土坑

SK1

トレンチ1とトレンチ2の境界で検出されたが、トレンチ2では検出できなかった。SK6がその一部である可能性がある。長軸0.80m、短軸0.75m、深さ0.24mを測る。

遺物は、出土していない。

SK2

トレンチ1とトレンチ2の境界で検出されたが、トレンチ2では検出できなかった。SP41がその一部である可能性がある。長軸0.66m、短軸0.24m以上、深さ0.10mを測る。

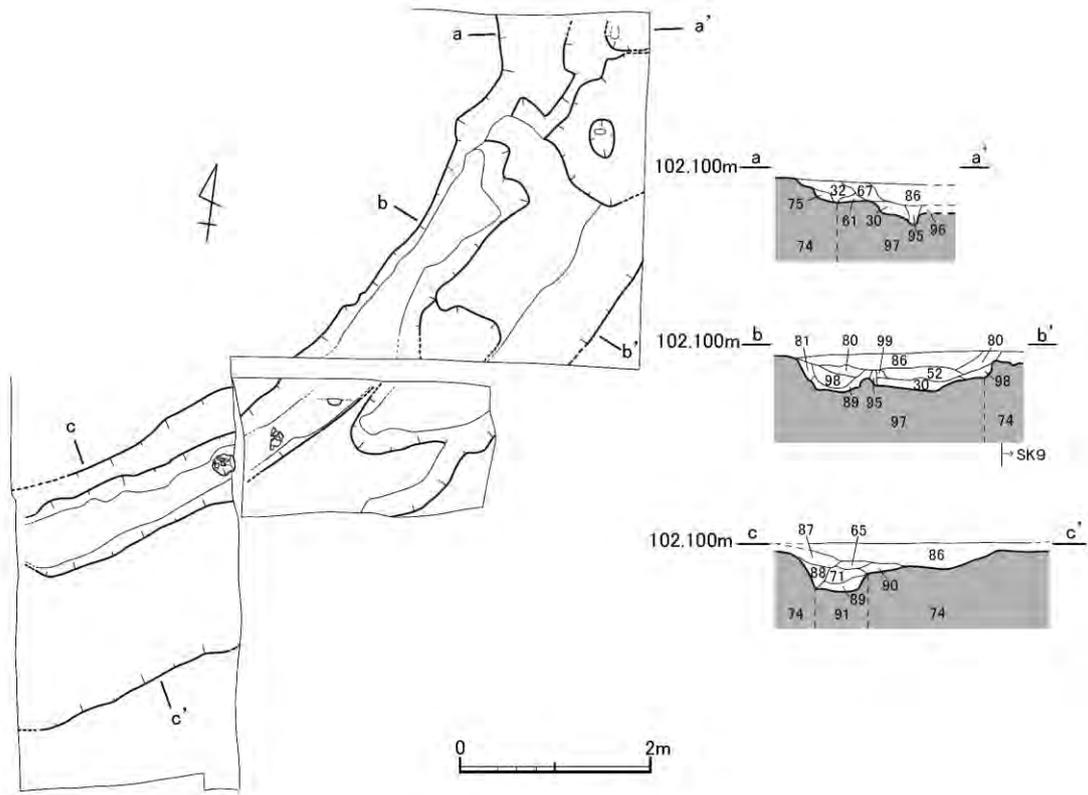


第 46 図 高月南遺跡第 41 次発掘調査 調査区平面図

遺物は、出土していない。

SK 3

トレンチ 1 とトレンチ 2 の境界付近で検出された。長軸 1.04m、短軸 0.45m、深さ 0.29m を測る。
遺物は、出土していない。



第 47 図 SZ1 平面・断面図

SK 4

トレンチ 1 西端から検出された。長軸1.20m以上、短軸0.64m以上、深さ0.24mを測る。

遺物は、出土していない。

SK 5

トレンチ 1 西端、SZ 1 と一部重複して検出された。長軸0.58m、短軸0.39m、深さ0.28mを測る。

遺物は、出土していない。

SK 6

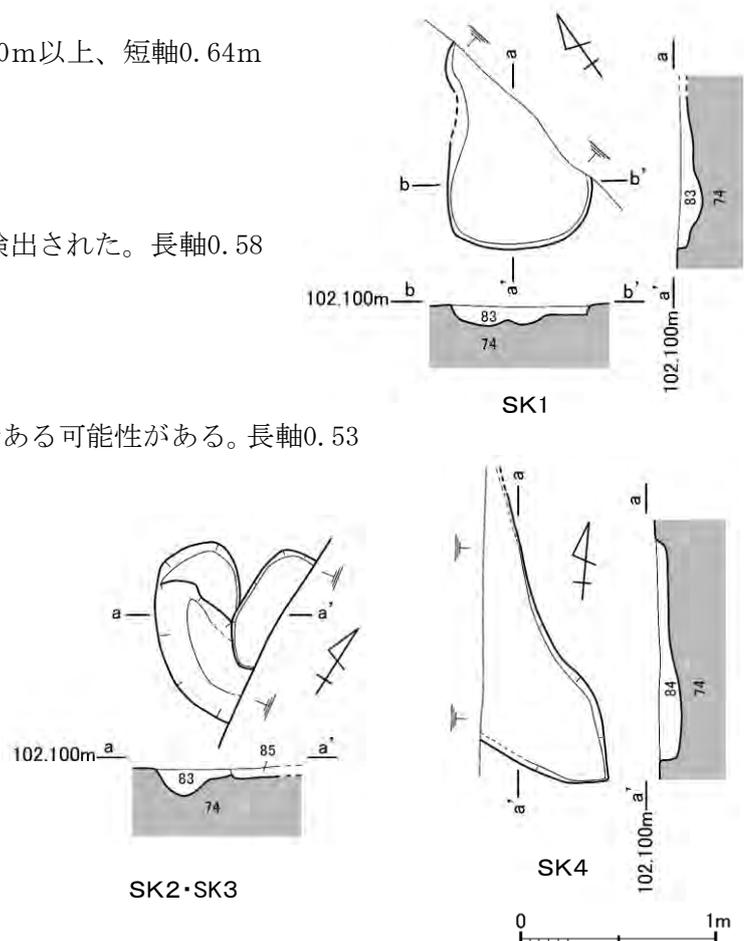
トレンチ 2 から検出した。SK 1 の一部である可能性がある。長軸0.53m、短軸0.35m、深さ0.12mを測る。

遺物は、出土していない。

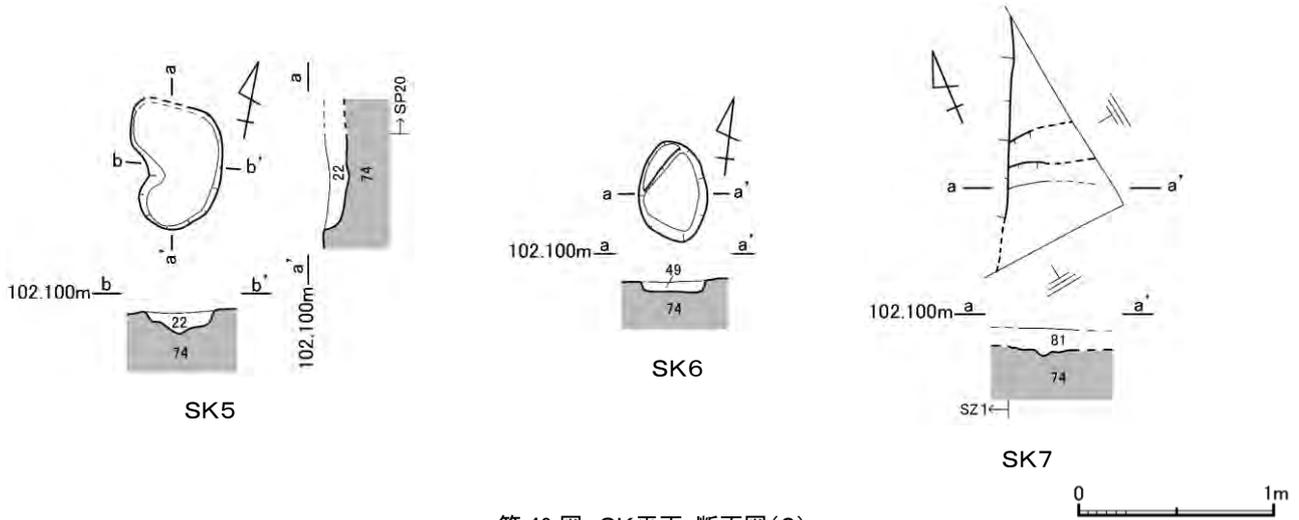
SK 7

SZ 1 の南東岸から検出した。大半が調査区外のため様相は不明。長軸0.63m以上、短軸0.22m以上、深さ0.28mを測る。

遺物は出土していない。



第 48 図 SK平面・断面図(1)



第 49 図 SK平面・断面図(2)

溝状遺構

SD 1

トレンチ 1 中央北寄りから検出した。主軸はN-1° -W、長さ0.93m、幅0.26~0.32m、深さ0.06mを測る。

遺物は、出土していない。

SD 2

トレンチ 1 北端から検出した。主軸はN-40° -W、検出した長さ2.77m、幅0.67~1.08m、深さ0.06~0.18mを測る。

遺物は、出土していない。

SD 3

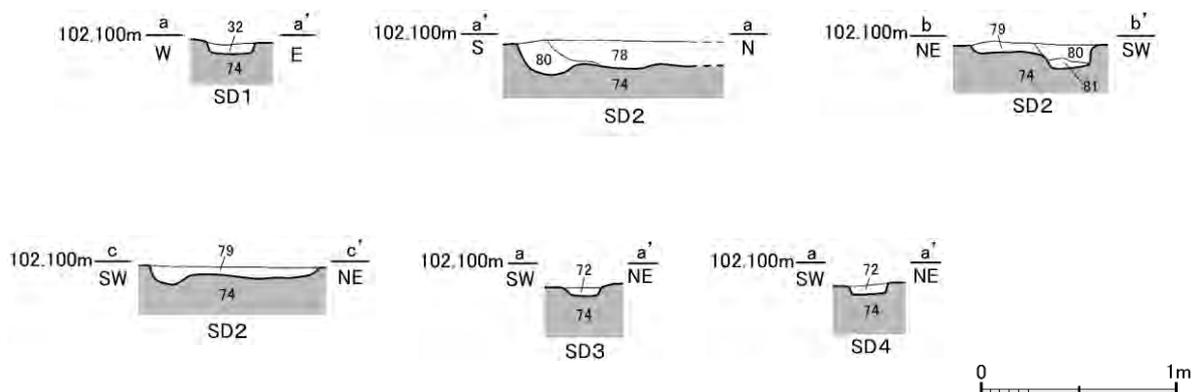
トレンチ 2 北端から検出した。主軸はN-54° -W、検出した長さ0.35m、幅0.22m、深さ0.06mを測る。

遺物は、出土していない。

SD 4

トレンチ 2 北端から検出した。主軸はN-35° -W、検出した長さ0.97m、幅0.19~0.23m、深さ0.06mを測る。

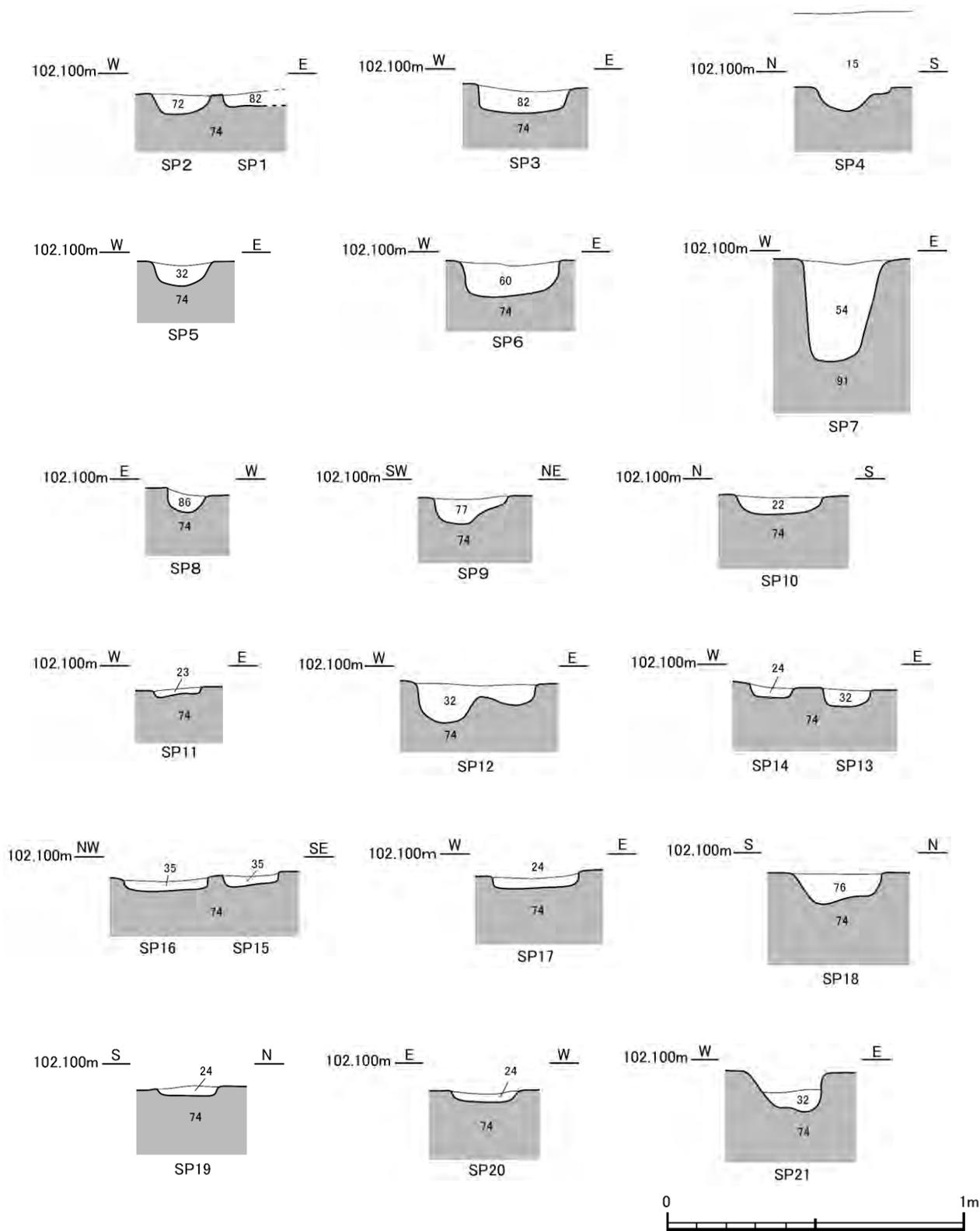
遺物は、出土していない。



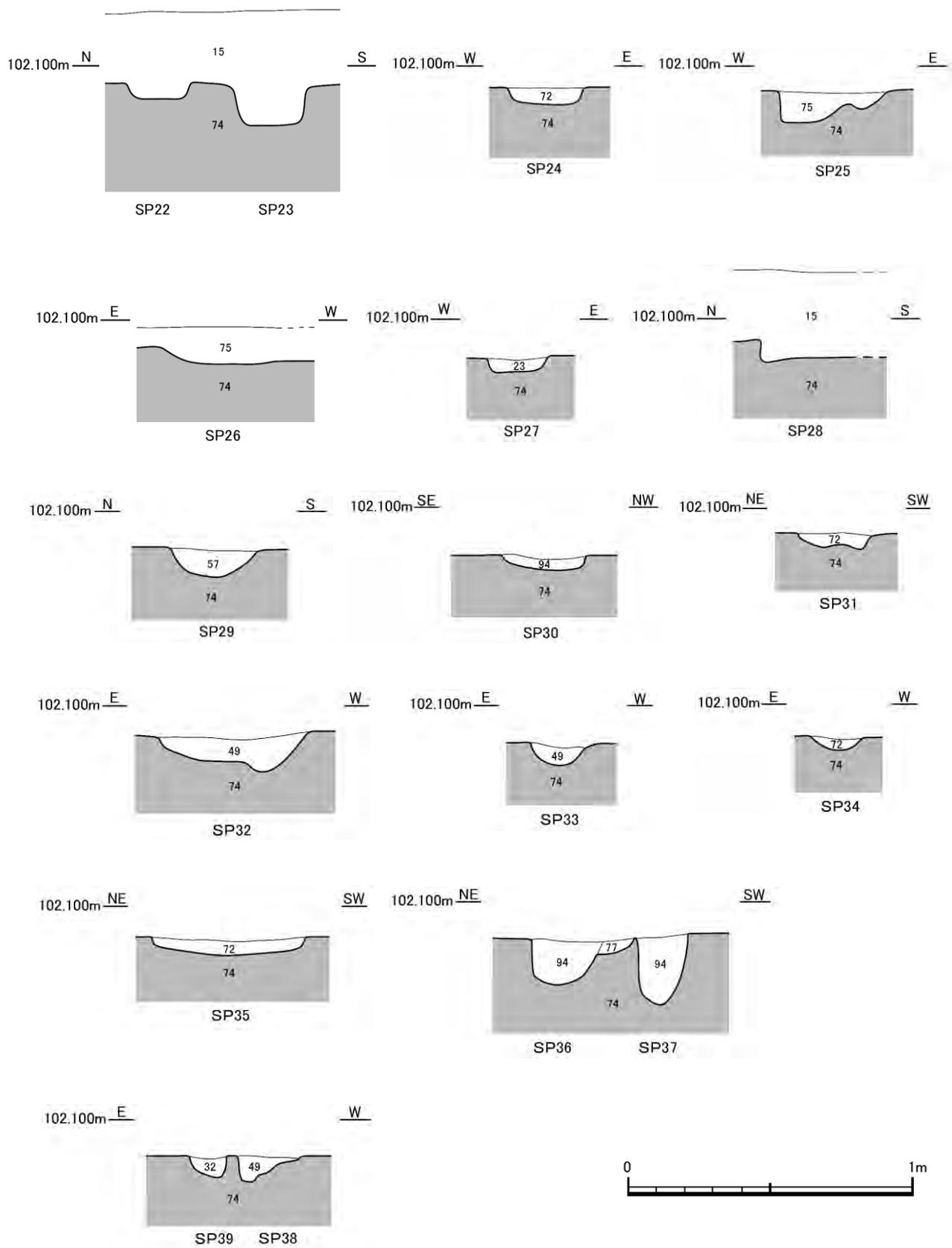
第 50 図 SD断面図

ピット

ピットは39基検出された。以下にピット断面図を掲載する。



第 51 図 SP断面図(1)



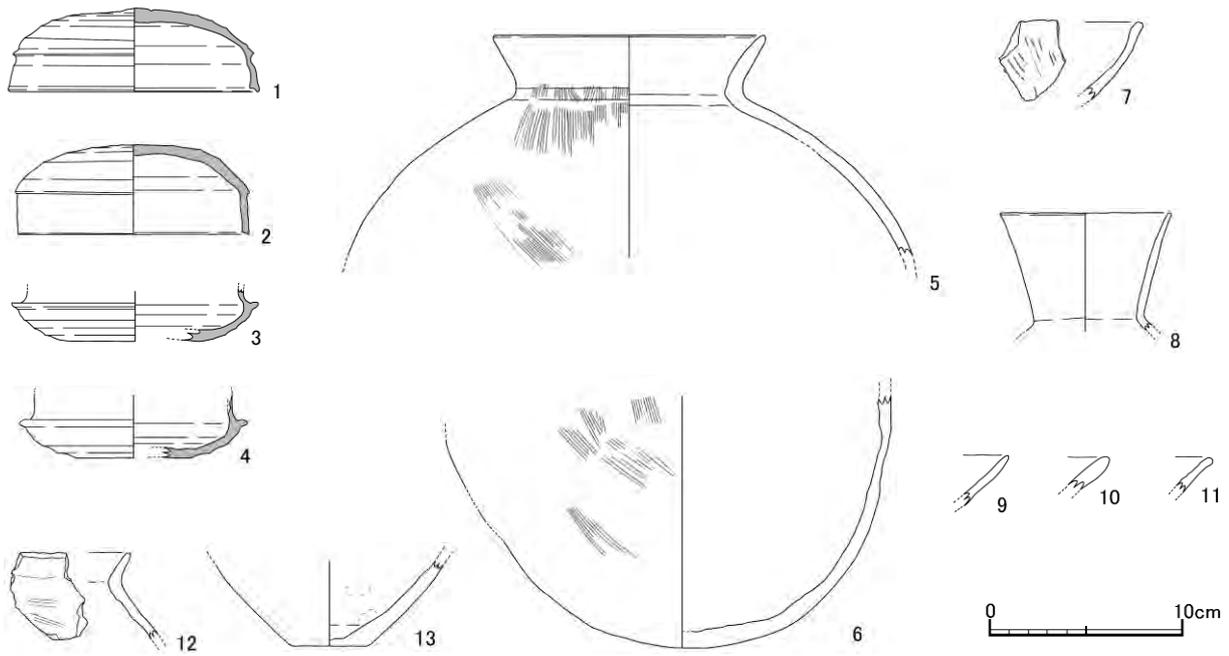
第 52 图 SP断面图(2)

遺物

SZ1 から出土した遺物を図示する。遺物の詳細に関しては第11表 高月南遺跡第41次発掘調査 出土遺物観察表を参照されたい。

第11表 高月南遺跡第41次発掘調査 出土遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量(cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SZ1	須恵器	杯蓋	N4/ 灰色	N6/ 灰色	N6/ 灰色	密 粗粒砂を少量 含む	良	ケズリ 回転ナデ	回転ナデ	口径 13.0 器高 4.4	完形品	
2	SZ1	須恵器	杯蓋	7.5Y6/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	密 極粗粒砂を少 量含む	良	ケズリ 回転ナデ	回転ナデ	口径 12.0 器高 4.65	3/4	
3	SZ1	須恵器	杯身	2.5Y7/2 灰黄色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	密 中粒砂を微量 に含む	良	ケズリ 回転ナデ	回転ナデ	復元底径 6.8 復元最大径 13.0 残存高 2.7	1/4	反転復元 底部内面に剥離あり
4	SZ1	須恵器	杯身	N5/ 灰色	N5/ 灰色	N4/ 灰色	密 粗粒砂を微量 に含む	良	ケズリ後ナデ 回転ナデ	回転ナデ	復元底径 6.0 復元最大径 11.9 残存高 3.3	1/10 以下	反転復元 口縁部内面に剥離
5	SZ1	土師器	壺	7.5YR5/4 にぶい 褐色 7.5YR5/1 褐灰色 5YR5/4 にぶい 赤褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙 色 10YR6/4 にぶい 黄褐色	密 粗粒砂を多量 に含む	良	ハケメ (磨減が激しく不鮮 明)	ナデ (摩耗が激しく不鮮 明)	復元口径 14.0 残存高 11.6	1/4 (口縁 部)	反転復元 内・外面とも磨減が激しく調整 が不鮮明
6	SZ1	土師器	壺	10R5/6 赤色 5YR5/4 にぶい 赤褐色 10YR5/4 にぶい 黄褐色	7.5YR5/6 明 褐色 7.5YR7/6 橙 色	5YR7/4 にぶい橙 色 10YR6/4 にぶい 黄褐色	密 粗粒砂を多量 に含む	良	ハケメ (磨減が激しく不鮮 明)	ナデ (摩耗が激しく不鮮 明)	底径 1.5 残存高 13.2	1/2	内・外面とも磨減が激しく調整 が不鮮明 胴部～底部
7	SZ1	土師器	壺	10YR6/2 灰黄褐色	7.5YR7/3 にぶい橙色	5Y4/1 灰色	密 粗粒砂を多量 に含む	良	ハケメ (磨減のため不鮮 明)	ナデ	残存高 4.0	不明	断面実測 外面にハケメ痕が残るが不鮮 明である
8	SZ1	土師器	壺	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	密 粗粒砂を含む	良	ヨコナデ	ヨコナデ	復元口径 8.8 残存高 6.1	9/10 (口縁 部)	一部反転復元 直口丸底壺
9	SZ1	土師器	壺	10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	2.5Y6/1 黄灰色	やや粗 粗粒砂を微量 に含む	良	磨減が激しく不鮮 明	磨減が激しく不鮮 明	残存高 2.6	不明	断面実測 内・外面とも磨減が激しく調整 が不鮮明
10	SZ1	土師器	壺	7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	やや粗 粗粒砂を多量 に含む	良	ナデ	ナデ	残存高 1.7	1/9 (口縁 部)	断面実測
11	SZ1	土師器	壺または壺	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	やや粗 粗粒砂を多量 に含む	良	ナデ	ナデ	残存高 1.9	不明	断面実測
12	SZ1	土師器	壺または壺	5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	10YR8/3 浅黄褐色	やや粗 粗粒砂を多量 に含む	良	ハケメ (磨減のため不鮮 明)	ナデ	残存高 4.5	不明	断面実測 外面にハケメ痕が残るが磨減 のため不鮮明である
13	SZ1	土師器	壺または壺	2.5Y7/2 灰黄色	N5/ 灰色	N5/ 灰色	やや粗 粗粒砂を多量 に含む	良	ナデ	ナデ	復元底径 3.8 残存高 4.4	1/2 (底部)	反転復元 内面に指圧痕あり



第 53 図 高月南遺跡第 41 次発掘調査出土遺物

総括

今回の調査の成果の一つとして、第 32 次調査で検出されたもの以外の古墳が検出されたことが挙げられる。墳丘等は削平され消失しているが、周溝は比較的良好な状態で残存している。調査区の関係で全体を検出することはできなかったが、高月南遺跡に広がる大規模古墳群の状況を探る貴重な資料といえる。(池寄)

第2章 試掘調査

雨森遺跡第9次調査 (N2012106) 高月町雨森字宮前 1587

平成24年10月19日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

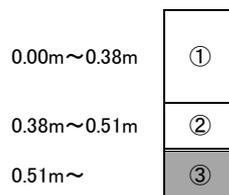
対象面積714.69㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定し、4㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.38mまでが10YR3/3黒褐色細～大礫多く含む極細粒砂、②0.38m～0.51mが10YR4/3にぶい黄褐色細～大礫混粗粒砂混極細粒砂、③現況面以下0.51mで検出された10YR4/3にぶい黄褐色細礫混極粗粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

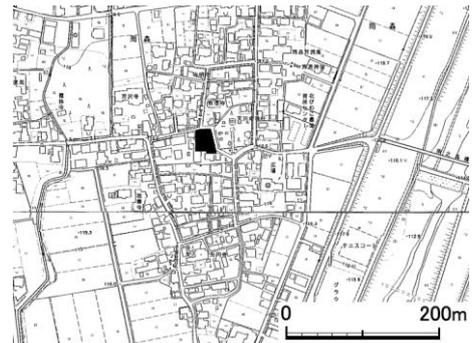


写真1 雨森遺跡第9次調査区壁面



第54図

調査区壁面柱状図



第55図 雨森遺跡第9次調査位置図

宇根遺跡第4次調査 (N2012012) 高月町宇根字里ノ内 363、364の一部

平成24年4月19日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

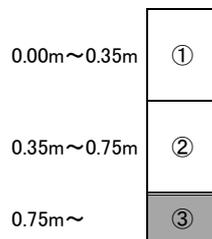
対象面積447.22㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定し、2.3㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.35mまでが10YR6/6明黄褐色中礫(造成土)、②0.35m～0.75mが10YR3/2黒褐色細礫混極細粒砂、③現況面以下0.75mで検出された10YR4/6褐色中粒砂混極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物を確認したため、本発掘調査に移行した。

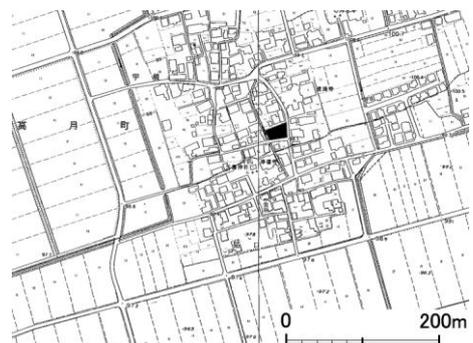


写真2 宇根遺跡第4次調査区壁面



第56図

調査区壁面柱状図



第57図 宇根遺跡第4次調査位置図

円明寺遺跡第 21 次調査 (N2012195) 室町字円明寺 162

平成 25 年 2 月 27 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 358.09 m²に対し 10.5 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.10m までが 10YR3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂 (造成土)、②0.10m～0.30 m が 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂混極細粒砂、③0.30m～0.55m が 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粗粒砂混粗粒シルト、④0.55m～0.75m が 7.5Y3/1 オリーブ黒色細礫少量・粗粒砂混粗粒シルト⑤0.75m～0.84 m が 10YR3/1 黒褐色細礫～中礫混極粗砂⑥0.84m～0.94m が 5GY3/1 暗オリーブ灰色粗粒シルト⑦現況面以下 0.94m で検出された 2.5Y2/1 黒色細粒砂～粗粒砂が地山と考えられる。

遺構は確認されなかった。遺物は 22 点確認した。

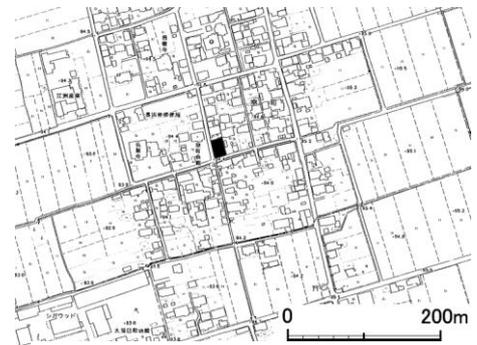


写真3 円明寺遺跡第 21 次調査区壁面

0.00m～0.10m	①
0.10m～0.30m	②
0.30m～0.55m	③
0.55m～0.75m	④
0.75m～0.84m	⑤
0.84m～0.94m	⑥
0.94m～	⑦

第 58 図

調査区壁面柱状図



第 59 図 円明寺遺跡第 21 次調査位置図

大辰巳遺跡第 33 次調査 (N2012035) 大辰巳町字間所 291 番地・292 番地

平成 24 年 7 月 11 日～7 月 19 日に、住宅造成工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 992 m²に対し 20 ヶ所のトレンチを設定し、78 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.25m までが 5Y5/2 灰オリーブ色細粒砂、②0.25m～0.45m が 10GY4/1 暗緑灰色極細粒砂、③現況面以下 0.45m で検出された 10BG6/1 青灰色細粒砂～中粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

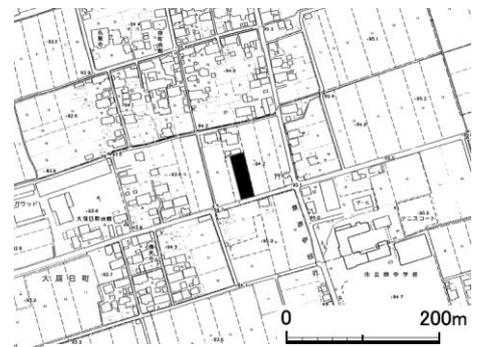


写真4 大辰巳遺跡第 33 次調査区壁面

0.00m～0.25m	①
0.25m～0.45m	②
0.45m～	③

第 60 図

調査区壁面柱状図



第 61 図 大辰巳遺跡第 33 次調査位置

大辰巳遺跡第 40 次調査 (N2012188) 大辰巳町字堀町 198 番の一部

平成 25 年 3 月 6 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

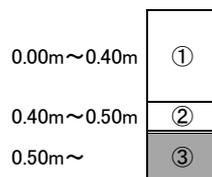
対象面積 351.22 m²に対し 4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.40m までが 10YR4/2 灰黄褐色細礫少量混極細粒砂、②0.40m～0.50m が 2.5Y4/2 暗灰黄色細礫混極細粒砂、③現況面下 0.50m で検出された 2.5Y4/3 オリーブ褐色細礫～中礫混粗粒砂が地山と考えられる。

遺構を確認したため、本発掘調査に移行した。

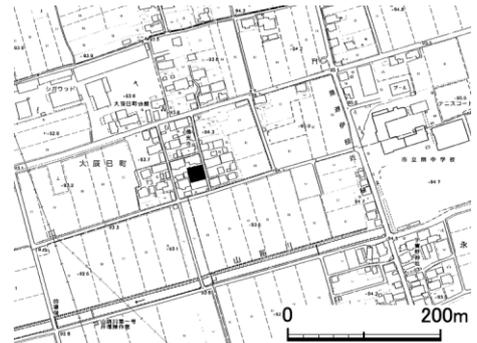


写真5 大辰巳遺跡第 40 次調査区壁面



第 62 図

調査区壁面柱状図



第 63 図 大辰巳遺跡第 40 次調査位置図

大音遺跡第 3 次調査 (N2012005) 木之本町大音字前畑 955 番, 973 番

平成 24 年 4 月 27 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

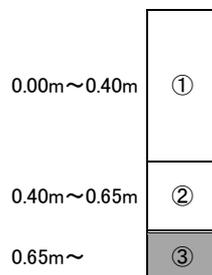
対象面積 800.24 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.4m までが 10YR3/3 暗褐色小礫混極細粒砂（造成土）、②0.40m～0.65 m が 10Y4/2 オリーブ灰色極細粒砂、③現況面以下 0.65m で検出された N3/暗灰色極細粒砂混シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

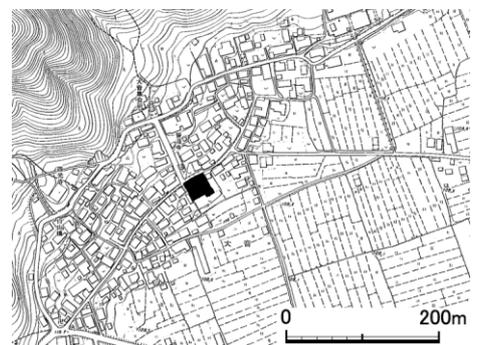


写真6 大音遺跡第3次調査区壁面



第 64 図

調査区壁面柱状図



第 65 図 大音遺跡第3次調査位置図

加納遺跡第 30 次調査 (N2012060) 加納町 870

平成 24 年 7 月 23 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 472.78 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。

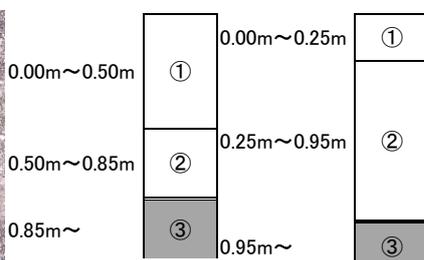
調査の結果、調査地北部 (T1) では、①現況面以下 0.50mまでが 2.5Y3/1 黒褐色細粒砂、②0.50m～0.85mが 7.5Y3/1 オリーブ黒色中礫混細粒砂、③現況面以下 0.85mで検出された 7.5Y3/1 オリーブ黒色粗粒砂が地山と考えられる。

また、調査地南部 (T2) では、①現況面下 0.25mまでが 2.5Y3/1 黒褐色細粒砂、②0.25m～0.95mが 7.5Y3/1 オリーブ黒色中礫混細粒砂、③現況面以下 0.95mで検出された N4/0 灰色中粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。



写真7 加納遺跡第 30 次調査区壁面



第 66 図

第 67 図



第 68 図 加納遺跡第 30 次調査位置図

加納遺跡第 31 次調査 (N2012202) 加納町字オケ口 371-1

平成 25 年 3 月 12 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

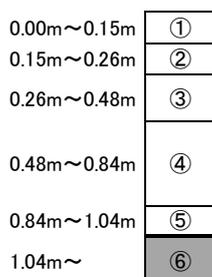
対象面積 298.12 m²に対し 6 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.15mまでが 2.5Y5/1 黄灰色細礫～中礫、②0.15m～0.26mが 7.5Y4/3 褐色細礫～中礫、③0.26m～0.48mが 7.5Y4/1 灰色細礫混極細粒砂、④0.48m～0.84mが 10YR3/1 黒褐色粗粒砂混中粒砂⑤0.84m～1.04mが 2.5Y4/2 暗灰黄色細礫～中礫混中粒砂⑥1.04m～が 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂 (雲母を含む)、現況面以下 1.04mで検出された 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂が地山と考えられる。

遺構は確認されなかった。

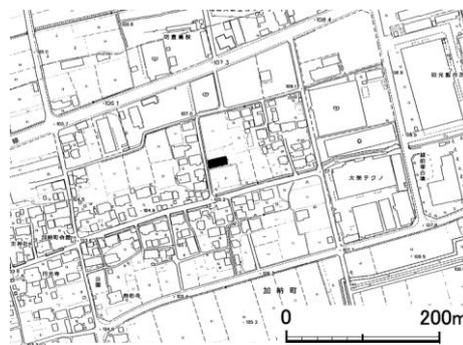


写真8 加納遺跡第 31 次調査区壁面



第 69 図

調査区壁面柱状図



第 70 図 加納遺跡第 31 次調査位置図

川崎遺跡第 90 次調査 (N2012014) 八幡中山町字塚町 311-4、3

平成 24 年 5 月 23 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 198.53 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、2.8 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30mまでが 10YR5/6 黄褐色大礫 (造成土)、②0.30m～1.00mが 2.5Y4/2 暗灰黄色極粗砂混極細粒砂、③1.00m～1.35mが 10YR3/1 粗粒砂混粗粒シルト、④1.35m～1.50mが 2.5Y4/1 黄灰色粗粒シルト⑤1.50m～1.80mが 2.5Y3/1 黒褐色粗粒シルト、現況面以下 1.50mで植物遺体を含む 2.5Y3/1 黒褐色粗粒シルトが検出された。沼沢地であったと考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

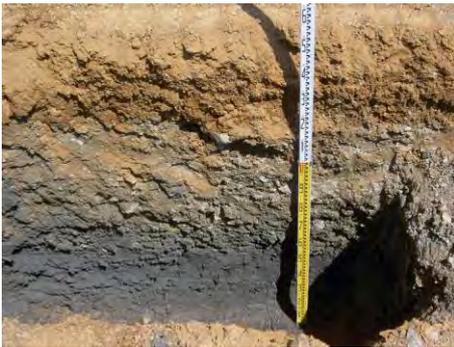
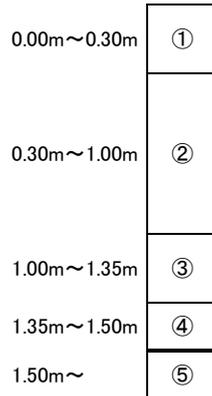
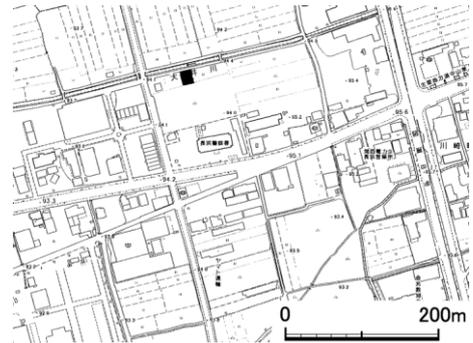


写真9 川崎遺跡第 90 次調査区壁面



第 71 図

調査区壁面柱状図



第 72 図 川崎遺跡第 90 次調査位置図

川崎遺跡第 91 次調査 (N2012027) 八幡中山町字塚町 311-10

平成 24 年 5 月 25 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

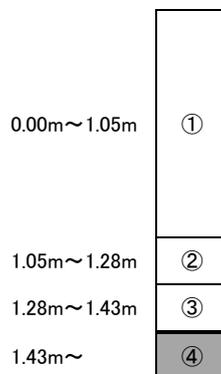
対象面積 181.81 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、7.74 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 1.05mまでが 10YR5/6 黄褐色大礫 (造成土)、②1.05m～1.28mが 2.5Y4/2 暗灰黄色極粗砂混極細粒砂、③1.28m～1.43mが 10YR3/1 黒褐色粗粒砂混粗粒シルト、④1.43m～が 5Y3/1 オリーブ黒色中礫・極粗粒砂混粗粒シルトで地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

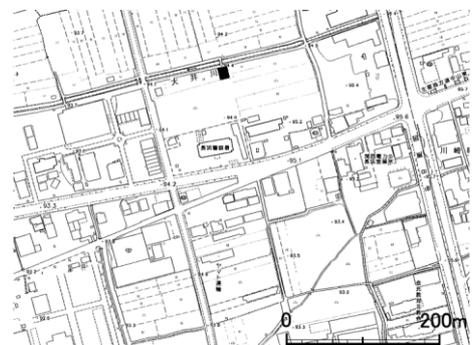


写真 10 川崎遺跡第 91 次調査区壁面



第 73 図

調査区壁面柱状図



第 74 図 川崎遺跡第 91 次調査位置図

川崎遺跡第 96 次調査 (N2012062) 八幡中山町字八ノ坪 135 番

平成 24 年 8 月 29 日に、宅地造成工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 2008 m²に対し 26 ヶ所のトレンチを設定し、52 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.15m までが 10YR4/1 褐灰色 極粗粒砂混極細粒砂(耕土)、②0.15m～0.36 m が 10YR3/1 黒褐色 粗粒砂混極細粒砂、③0.36m～が 5Y4/1 灰色 細粒砂混極粗粒砂の地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

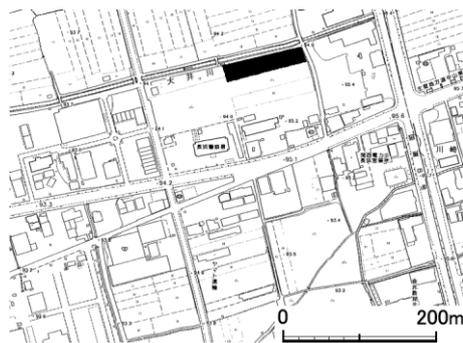


写真 11 川崎遺跡第 96 次調査区壁面

0.00m～0.15m	①
0.15m～0.36m	②
0.36m～	③

第 75 図

調査区壁面柱状図



第 76 図 川崎遺跡第 96 次調査位置図

口分田遺跡第 11 次調査 (N2012024) 口分田町字仏海道 1004 番地

平成 24 年 5 月 16 日に、駐車場・資材置場造成工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 2185 m²に対し 2 ヶ所のトレンチを設定し、3.8 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.17m までが 2.5Y3/1 黒褐色極細粒砂、②0.17m～0.49m が 2.5Y3/2 黒褐色極細粒砂、③0.49m～0.60m が 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極粗粒砂混極細粒砂、④現況面以下 0.60m で検出された 2.5Y4/1 黄褐色粗粒シルト混極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

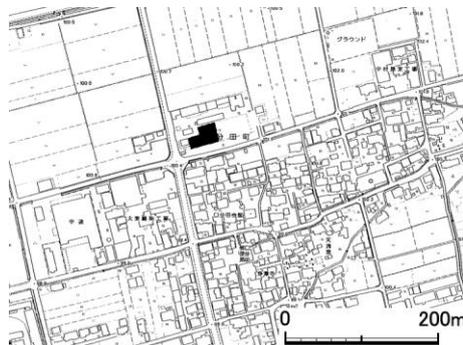


写真 12 口分田遺跡第 11 次調査区壁面

0.00m～0.17m	①
0.17m～0.49m	②
0.49m～0.60m	③
0.60m～	④

第 77 図

調査区壁面柱状図



第 78 図 口分田遺跡第 11 次調査位置

口分田遺跡第 12 次調査 (N2012024) 口分田町字仏海道 69 番 4 外 2 筆

平成 24 年 5 月 16 日に、倉庫建築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 737 m²に対し 3ヶ所のトレンチを設定し、6 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.18mまでが 5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂、②0.18m～0.44mが 5Y4/1 灰色極細粒砂、③0.44m～0.60mが 5Y4/1 灰色極粗粒砂混極細粒砂、④現況面以下 0.60mで検出された 7.5Y4/1 灰色粗粒シルト混極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

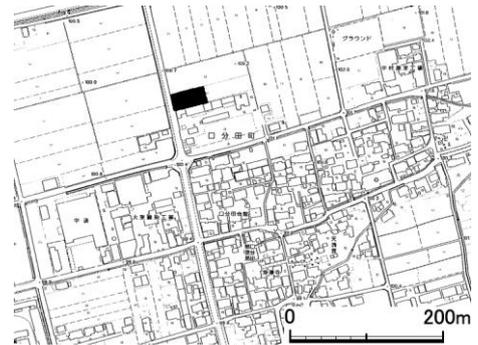


写真 13 口分田遺跡第 12 次調査区壁面

0.00m～0.18m	①
0.18m～0.44m	②
0.44m～0.60m	③
0.60m～	④

第 79 図

調査区壁面柱状図



第 80 図 口分田遺跡第 12 次調査位置図

地福寺遺跡第 52 次調査 (N2012078) 地福寺町字屋敷方 969 番、968 番-1 の 1 部

平成 24 年 9 月 14 日に、倉庫建築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 188.42 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.36mまでが 2.5Y4/2 暗灰黄色 中礫混粗粒砂、②0.36m～0.58mが 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粗粒砂、③0.58m～が 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粗粒砂混極細粒砂の地山である。

遺構・遺物は確認されなかった。

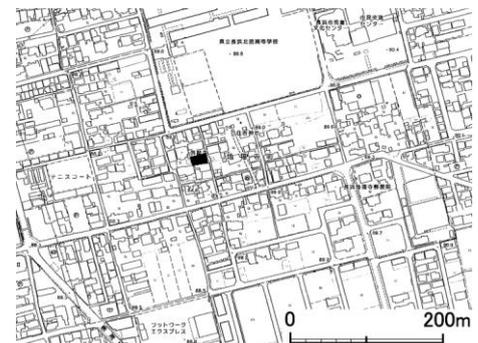


写真 14 地福寺遺跡第 52 次調査区壁面

0.00m～0.36m	①
0.36m～0.58m	②
0.58m～	③

第 81 図

調査区壁面柱状図



第 82 図 地福寺遺跡第 52 次調査位置図

下坂中町遺跡第 10 次調査 (N2012177) 下坂中町字久保 288 番 1 外 3 筆 大戌亥町字塚町 295 番 5 293 番 1

平成 25 年 2 月 6 日に、宅地造成工事に伴う試掘調査を行った。

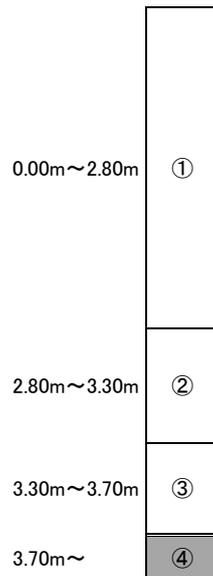
対象面積 2512.97 m² に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、8 m² について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 2.8m までが 10YR2/1 黒褐色 10YR3/1 黒褐色 2.5Y4/1 黄灰色 10YR5/6 黄褐色礫混粗粒砂の造成土、②2.8m～3.3m が 7.5Y4/1 灰色細礫混細粒砂、③3.3m～3.7m が 2.5Y4/1 黄灰色細粒砂混極細粒砂、④現況面以下 3.7m で検出された 2.5Y4/1 黄灰色中礫～細礫混粗粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

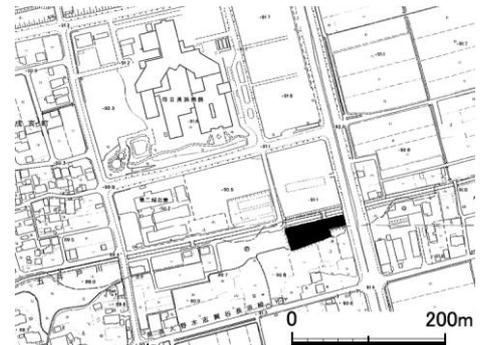


写真 15 下坂中町遺跡第 10 次調査区壁面



第 83 図

調査区壁面柱状図



第 84 図 下坂中町遺跡第 10 次調査位置図

常住庵遺跡第 7 次調査 (N2012016) 高月町磯野字里の内 451 番地

平成 24 年 5 月 1 日に、住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

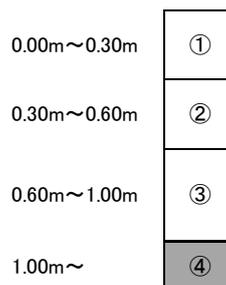
対象面積 180.59 m² に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、5.5 m² について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30m までが 10YR4/2 灰褐色極細粒砂、②0.30m～0.60m が 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂、③0.60m～1.00m が 10YR3/3 暗褐色細礫混極細粒砂、④現況面以下 1.00m で検出された 2.5Y4/4 オリーブ褐色中礫混細礫が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

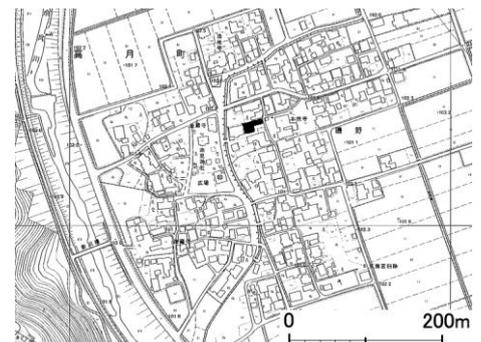


写真 16 常住庵遺跡第 7 次調査区壁面



第 85 図

調査区壁面柱状図



第 86 図 常住庵遺跡第 7 次調査位置図

神照寺坊遺跡第 66 次調査 (N2012003) 新庄寺町 267 番地他

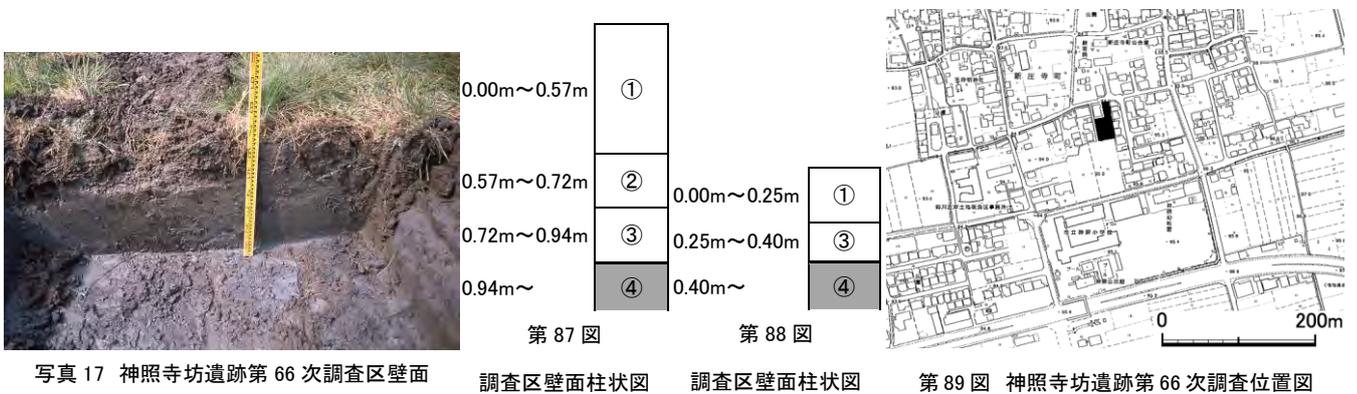
平成 24 年 4 月 24・25 日に、宅地造成工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 615.23 m² に対し 13 ヶ所のトレンチを設定し、31.2 m² について調査を実施した。

調査の結果、T1～T5①現況面以下 0.57m までが 2.5Y3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、②0.57m～0.72m が N3/1 暗灰色粗粒砂混極細粒砂、③0.72m～0.94m が 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂混シルト質極細粒砂、④現況面以下 0.94m で検出された 5GY4/1 暗オリーブ灰色粗粒シルトが地山と考えられる。

T6～T13①現況面以下 0.25m までが 2.5Y3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、②0.25m～0.40m が N3/1 暗灰色粗粒砂混極細粒砂、④現況面以下 0.40m で検出された 5GY4/1 暗オリーブ灰色粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物が確認された。



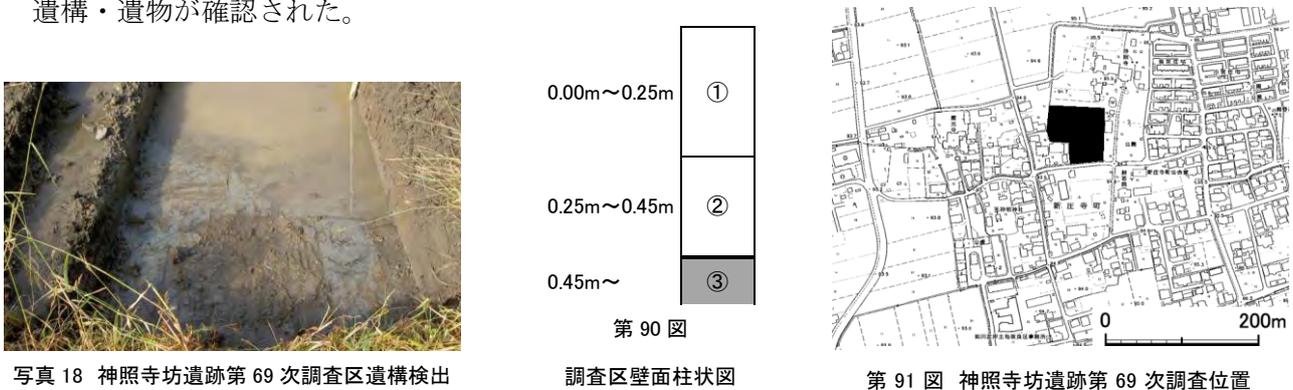
神照寺坊遺跡第 69 次調査 (N2012123) 新庄寺町字道ノ西 317・317-2・318・318-1・319・319-1

平成 24 年 10 月 24・25・26 日に、宅地造成工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 4751 m² に対し 33 ヶ所のトレンチを設定し、107.25 m² について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0～0.25m までが 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (耕土)、②0.25m～0.45m が 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫混極細粒砂、③現況面以下 0.45m で検出された 5G5/1 緑灰色粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物が確認された。



神照寺坊遺跡第 70 次調査 (N2012149) 新庄寺町字乗泉 260-5

平成 25 年 2 月 7 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

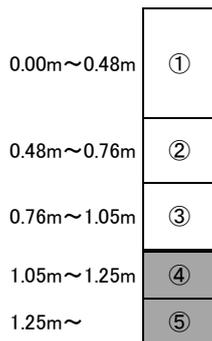
対象面積 170.36 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、6 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.48mまでが造成土、②0.48m～0.76mが 2.5Y3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、③0.76m～1.05mが 2.5Y4/2 暗灰色中礫混粗粒砂、④1.05m～1.25mが N4/灰色粗粒砂混シルト⑤1.25m～が N4/灰色中礫であり、現況面以下 1.05mで検出された N4/灰色粗粒砂混シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

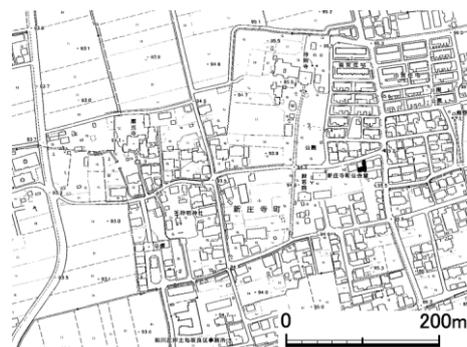


写真 19 神照寺坊遺跡第 70 次調査区壁面



第 92 図

調査区壁面柱状図



第 93 図 神照寺坊遺跡第 70 次調査位置図

須賀谷館遺跡第 2 次調査 (N2012157) 須賀谷町字伊ノ介 13 番

平成 24 年 12 月 7 日に、携帯電話基地局建設工事に伴う試掘調査を行った。

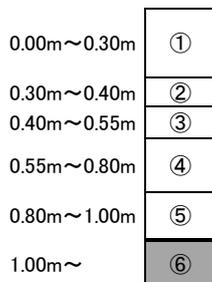
対象面積 661 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、2 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30mまでが 10YR4/3 にぶい黄褐色大礫混極細粒砂、②0.30m～0.40mが 10YR5/6 黄褐色大礫少量・極粗粒砂混極細粒砂、③0.40m～0.55mが 10YR4/4 褐色大礫少量・シルトブロック含む極細粒砂、④0.55m～0.80mが 10YR5/6 黄褐色中礫多く含む極粗粒砂混極細粒砂、⑤0.80m～1.00mが 10YR4/6 褐色中礫・大礫混極粗粒砂、⑥1.00mの 7.5Y5/6 明褐色シルトブロック含む極細粒砂混大礫が地山と考えられる。

遺構、遺物は確認されなかった。

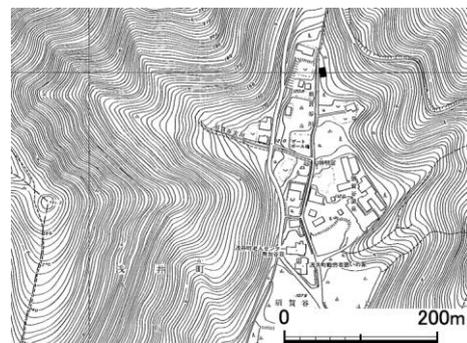


写真 20 須賀谷館遺跡第 2 次調査区壁面



第 94 図

調査区壁面柱状図



第 95 図 須賀谷遺跡第 2 次調査位置図

相撲宗玄城遺跡第2次調査 (N2012049) 相撲町字出口前 938-4

平成 24 年 7 月 18 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 86.68 m² に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、4 m² について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.37m までが 2.5Y5/4 黄褐色小礫 (造成土)、②0.37m～0.60m が 7.5Y4/2 灰オリーブ色中礫混極細粒砂 (攪乱)、③0.60m～0.90m が 10BG4/1 暗青灰色シルト、④0.90m～1.10 m が 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色極細粒砂、⑤現況面以下 1.10m で検出された 5G4/1 暗緑灰色シルト・5Y4/2 灰オリーブ色小礫混細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

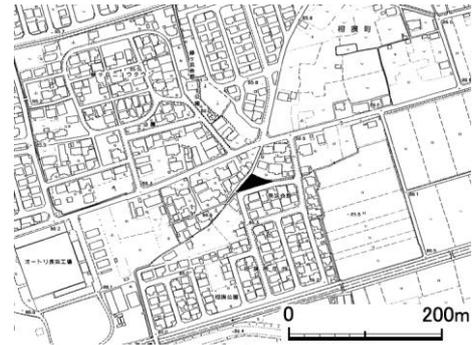


写真 21 相撲宗玄城遺跡第2次調査区壁面

0.00m～0.37m	①
0.37m～0.60m	②
0.60m～0.90m	③
0.90m～1.10m	④
1.10m～	⑤

第 96 図

調査区壁面柱状図



第 97 図 相撲宗玄城遺跡第2次調査位置図

大円寺遺跡第8次調査 (N2012002) 高月町落川字常考 72 番 1, 73 番 1

平成 24 年 4 月 26 日に、携帯電話基地局建設工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 92.4 m² に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、2 m² について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.20m までが 7.5Y3/2 オリーブ黒色極粗粒砂混極細粒砂、②0.20m～0.42 が 5YR3/2 暗赤褐色極細粒砂、③0.42m～0.47m が 10YR2/2 黒褐色中礫混極細粒砂、④0.47m～0.55m が 10YR3/3 暗褐色粗粒砂少量混極細粒砂、⑤0.55m～0.70m が 10YR3/2 黒褐色極細粒砂⑥現況面以下 0.70m で検出された 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物を確認したため、本発掘調査に移行した。

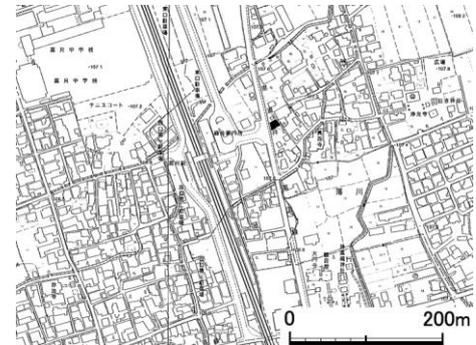


写真 22 大円寺遺跡第8次調査区壁面

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.42m	②
0.42m～0.47m	③
0.47m～0.55m	④
0.55m～0.70m	⑤
0.70m～	⑥

第 98 図

調査区壁面柱状図



第 99 図 大円寺遺跡第8次調査位置図

大円寺遺跡第9次調査 (N2012121) 高月町高月字宮市6番1・7番

平成24年11月16日に、防火水槽設置工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積510㎡に対し1.92㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.10mまでが造成土、②0.10m～0.40mが5Y3/2 オリーブ黒色極細粒砂、③0.40m～0.62mが2.5Y3/1 黒褐色粗粒シルト、④0.62m～0.80mが10YR3/1 黒褐色粗粒砂混粗粒シルト、⑤現況面下0.80mで検出された7.5Y4/2 灰オリーブ色中粒砂混粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物を確認したため、本発掘調査に移行した。

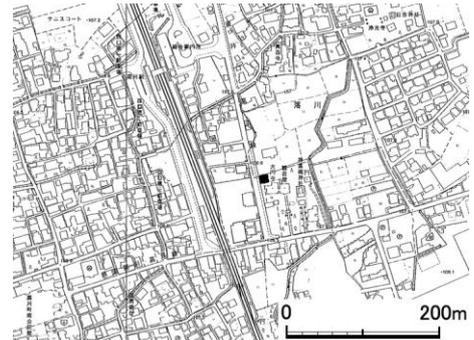


写真23 大円寺遺跡第9次調査区壁面

0.00m～0.10m	①
0.10m～0.40m	②
0.40m～0.62m	③
0.62m～0.80m	④
0.80m～	⑤

第100図

調査区壁面柱状図



第101図 大円寺遺跡第9次調査位置図

高田氏館遺跡第7次調査 (N2012181) 南高田町字岡渡249番地1・2 250番地1・2・6

平成25年2月13日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積382.45㎡に対し5㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.05mまでが造成土(10YR6/1 褐灰色大～細礫混極粗粒砂)、②0.05m～0.45mが7.5YR4/3 褐色大～細礫混極粗粒砂、③0.45m～0.75mが2.5Y3/2 黒褐色極粗粒砂混極細粒砂、④現況面以下0.75mで検出された5Y3/2 オリーブ黒色細礫混粗粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は、確認されなかった。

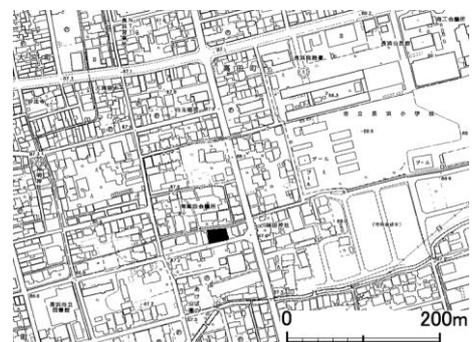


写真24 高田氏館遺跡第7次調査区壁面

0.00m～0.05m	①
0.05m～0.45m	②
0.45m～0.75m	③
0.75m～	④

第102図

調査区壁面柱状図



第103図 高田氏館遺跡第7次調査位置図

高畑遺跡第 11 次調査 (N2012143) 高畑町 320-3、320-7、322

平成 24 年 11 月 13 日に、長浜市消防団拠点施設(第 9 分団)整備工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 615.86 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、5.6 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.25m までが、7.5YR3/2 黒褐色礫混極細粒砂(表土)、②0.25m~0.42m が、2.5Y3/3 暗オリーブ褐色礫混細粒砂(耕土)③0.42m~0.52m が、10YR4/3 にぶい黄褐色礫混細粒砂、④0.52m~0.56m が、5Y3/2 オリーブ黒色礫混極細粒砂、⑤0.56m~0.70m が、10YR3/2 黒褐色礫混極細粒砂、⑥現況面以下 0.70m で検出された 10YR3/3 暗褐色細礫混極細粒砂が地山と考えられる。

遺構は確認しなかったが、遺物は出土した。

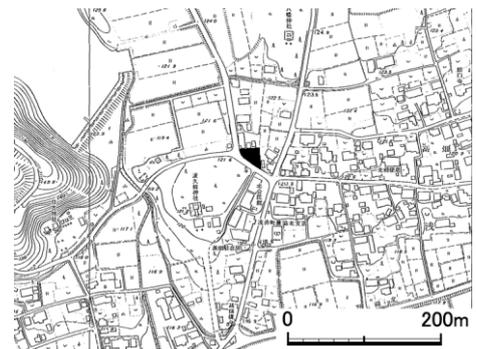


写真 25 高畑遺跡第 11 次調査区 T-2 壁面

0.00m~0.25m	①
0.25m~0.42m	②
0.42m~0.52m	③
0.52m~0.56m	④
0.56m~0.70m	⑤
0.70m~	⑥

第 104 図

調査区壁面柱状図



第 105 図 高畑遺跡第 11 次調査位置図

徳蔵坊遺跡第 6 次調査 (N2012189) 一の宮町字下小井海道 900

平成 25 年 2 月 15 日に、発電設備新設工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 5007.04 m²に対し 4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.32m までが造成土、②0.32m~0.40m が 7.5Y5/1 灰色粗砂混細粒砂、③0.40m~0.60m が N4/灰色細砂、④0.60m~ が N6/灰色極細砂、現況面以下 0.60m で検出された N6/灰色極細砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

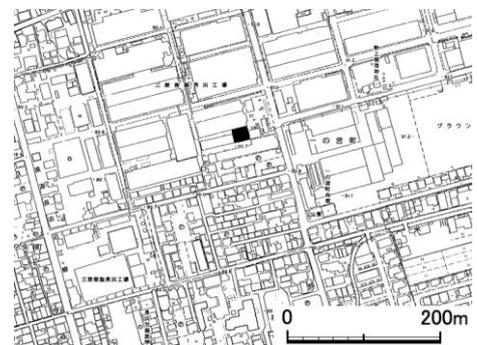


写真 26 徳蔵坊遺跡第 6 次調査区壁面

0.00m~0.32m	①
0.32m~0.40m	②
0.40m~0.60m	③
0.60m~	④

第 106 図

調査区壁面柱状図



第 107 図 徳蔵坊遺跡第 6 次調査位置図

長浜城遺跡第 239 次調査 (N2012059) 北船町字殿町 110 番地他

平成 24 年 8 月 2 日～3 日に、店舗新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 4764.13 m²に対し 4ヶ所のトレンチを設定し、29.7 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.05mまでがアスファルト、②0.05m～0.77mが 10YR4/4 褐色中礫混極粗粒砂、10YR3/1 黒褐色大礫混粗粒砂(造成盛土)③0.77m～1.07mが 5Y3/1 オリーブ黒色細礫混極細粒砂、④1.07m～1.16mが 7.5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂、⑤1.16m～1.40mが 5Y3/1 オリーブ黒色中礫混細粒砂、⑥1.40m～1.80mが 7.5Y4/1 灰色粗粒砂混極細粒砂、⑦現況面以下 1.80mで検出された 7.5Y4/1 灰色粗粒砂(砂層)が地山と考えられる。

遺構・遺物が確認されたため、
本発掘調査に移行した。

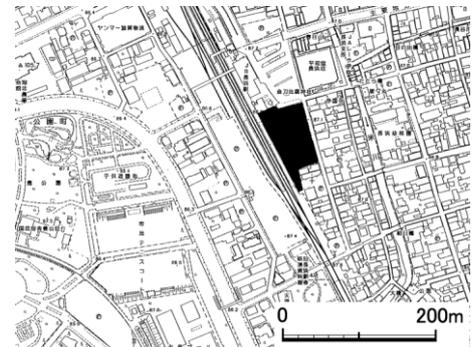


写真 27 長浜城遺跡第 239 次調査区壁面

0.00m～0.05m	①
0.05m～0.77m	②
0.77m～1.07m	③
1.07m～1.16m	④
1.16m～1.40m	⑤
1.40m～1.80m	⑥
1.80m～	⑦

第 108 図

調査区壁面柱状図



第 109 図 長浜城遺跡第 239 次調査位置図

長浜城遺跡第 242 次調査 (N2012166) 殿町字北土居 182 番 51

平成 25 年 1 月 11 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 185.18 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4.0 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.57mまでが 10YR4/2 灰黄褐色大礫・コンクリート混極粗粒砂(造成盛土)、②0.57m～0.70mが 5Y4/1 灰色中礫混極細粒砂、③0.70m～0.87mが 10YR3/1 オリーブ黒色極細粒砂、④0.87m～が 7.5Y3/2 オリーブ黒色極細粒砂混粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は、確認されなかった。

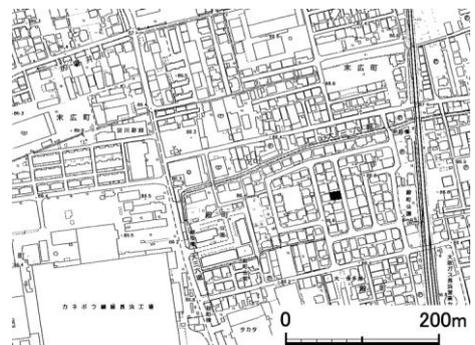


写真 28 長浜城遺跡第 242 次調査区壁面

0.00m～0.57m	①
0.57m～0.70m	②
0.70m～0.87m	③
0.87m～	④

第 110 図

調査区壁面柱状図



第 111 図 長浜城遺跡第 242 次調査位置図

長浜町遺跡第 132 次調査 (N2012011) 元浜町 1247 番地 1・1248 番地

平成 24 年 4 月 23 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 150.11 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、3 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30m までが 10YR3/2 黒褐色中礫混極細粒砂、②0.30m～0.64m が 10YR3/3 暗褐色粗粒砂混極細粒砂、③0.64m～1.14m が 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂少量混極細粒砂、④現況面以下 1.14m で検出された 7.5Y4/1 灰色細粒砂混粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

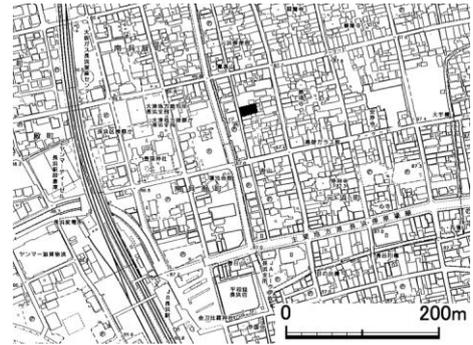


写真 29 長浜町遺跡第 132 次調査区壁面

0.00m～0.30m	①
0.30m～0.64m	②
0.64m～1.14m	③
1.14m～	④

第 112 図

調査区壁面柱状図



第 113 図 長浜町遺跡第 132 次調査位置図

長浜町遺跡第 133 次調査 (N2012020) 元浜町 710-4

平成 24 年 5 月 22 日に、店舗増築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 95.74 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.03m までがアスファルト、②0.03m～0.15m が 10YR7/4 にぶい黄橙色大礫、③0.15m～0.18m が 2.5Y6/1 黄灰色大礫、④0.18m～0.30m が 10YR7/4 にぶい黄橙色大礫、⑤0.30m～0.50m が 2.5Y3/2 黒褐色極細粒砂混大礫、⑤現況面以下 0.50m でコンクリートが検出されたため、それ以上掘削できなかった。

遺構・遺物は確認されなかった。

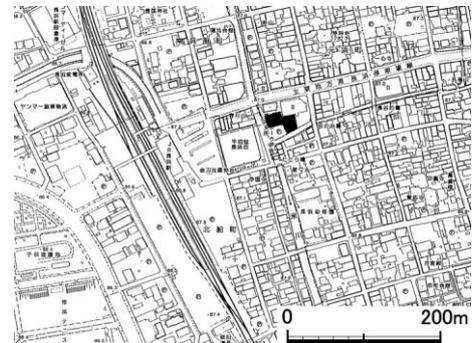


写真 30 長浜町遺跡第 133 次調査区壁面

0.00m～0.03m	①
0.03m～0.15m	②
0.15m～0.18m	③
0.18m～0.30m	④
0.30m～0.50m	⑤
0.50m～	⑤

第 114 図

調査区壁面柱状図



第 115 図 長浜町遺跡第 133 次調査位置図

長浜町遺跡第 136 次調査 (N2012056) 高田町字木戸前 156-3

平成 24 年 7 月 17 日に、店舗新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 101.35 m²に対し 2ヶ所のトレンチを設定し、4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30mまでが 2.5Y6/4 にぶい黄色細礫(造成土)、②0.30m～0.45mが 5Y3/2 オリーブ黒色極細粒砂、③0.45m～0.63mが 7.5Y5/2 灰オリーブ色極細粒砂、④0.63m～0.80mが 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト、⑤0.80m～0.90mが 10BG4/1 暗青灰色シルト⑥現況面以下 0.90mで検出された 5Y5/3 灰オリーブ色シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

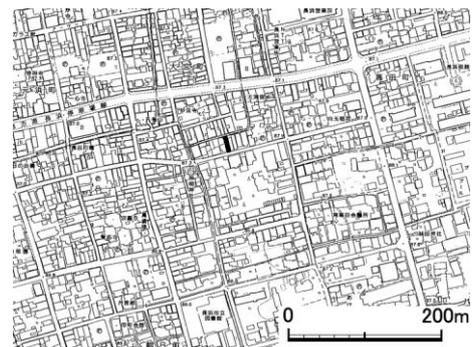


写真 31 長浜町遺跡第 136 次調査区壁面



第 116 図

調査区壁面柱状図



第 117 図 長浜町遺跡第 136 次調査位置図

長浜町遺跡第 137 次調査 (N2012066) 元浜町 351 番、352 番

平成 24 年 7 月 30 日に、店舗兼住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

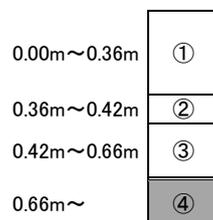
対象面積 314.21 m²に対し 4ヶ所のトレンチを設定し、6 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.36mまでが 盛土 2.5Y4/2 暗灰黄色 中礫混粗粒砂、②0.36m～0.42mが 5Y3/2 オリーブ黒色 中礫混細粒砂、③0.42m～0.66mが 7.5Y3/1 オリーブ黒色 細礫混極細粒砂、④現況面以下 0.66mで検出された 5Y3/1 オリーブ黒色 粗粒砂混極細粒砂の地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

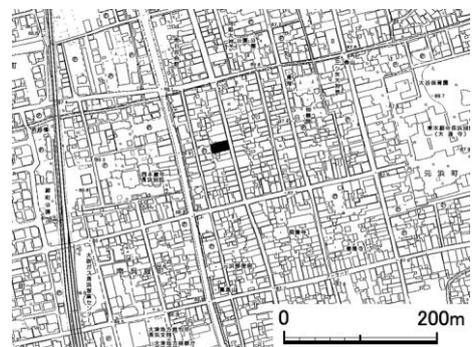


写真 32 長浜町遺跡第 137 次調査区壁面



第 118 図

調査区壁面柱状図



第 119 図 長浜町遺跡第 137 次調査位置図

長浜町遺跡第 142 次調査 (N2012175) 朝日町 7-35

平成 25 年 3 月 5 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 197.09 m²に対し 1ヶ所のトレンチを設定し、2.64 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.30mまでが 2.5Y3/2 黒褐色大・中礫混極細粒砂、②0.30m～0.64mが 2.5Y3/2 黒褐色 粗粒砂混極細粒砂、③現況面以下 0.64mで検出された 5Y3/2 オリーブ黒色細礫が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

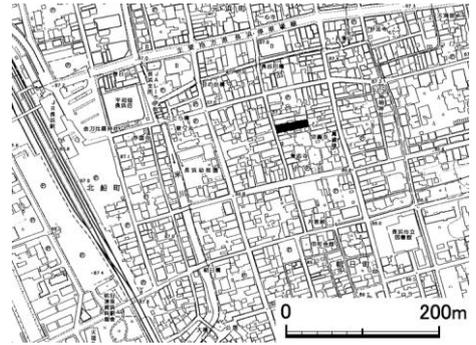


写真 33 長浜町遺跡第 142 次調査区壁面

0.00m～0.30m	①
0.30m～0.64m	②
0.64m～	③

第 120 図

調査区壁面柱状図



第 121 図 長浜町遺跡第 142 次調査位置図

野瀬遺跡第 44 次調査 (N2012127) 山階町 281 番地 1、282 番地 1

平成 24 年 11 月 9 日に、店舗新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 547.93 m²に対し 6ヶ所のトレンチを設定し、13.7 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.14mまでが、10YR5/4 にぶい黄褐色の造成土、②0.14m～0.56mが、2.5Y 黒褐色の造成土③0.56m～0.90mが、7.5Y2/1 黒色礫混粗粒砂、④0.90m～1.06mが、2.5Y2/1 黒色粗粒砂混極細粒砂、⑤1.06m～の N4/1 灰色極粗粒砂が地山と考えられる。

スキ溝を数基確認し、スキ溝内から遺物を確認した。

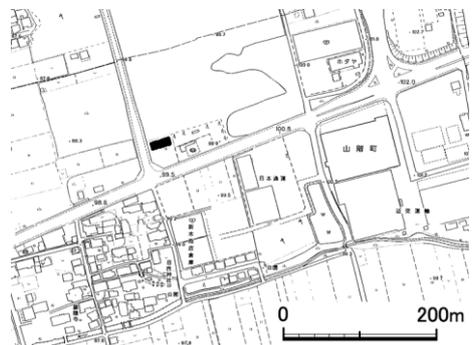


写真 34 野瀬遺跡第 44 次調査区壁面

0.00m～0.14m	①
0.14m～0.56m	②
0.56m～0.90m	③
0.90m～1.06m	④
1.06m～	⑤

第 122 図

調査区壁面柱状図



第 123 図 野瀬遺跡第 44 次調査位置図

室遺跡第 72 次調査 (N2012102) 室町 402 番、403 番

平成 24 年 10 月 3 日に、長屋住宅宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 741.95 m²に対し 5ヶ所のトレンチを設定し、7.2 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.17mまでが 10YR3/2 黒褐色極細粒砂、②0.17m～0.43mが 10YT3/1 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、③0.43m～0.53mが 10R4/2 灰黄褐色シルト、④0.53m～0.70mが 10YR2/1 黒色シルト、⑤0.70m～の 2.5Y5/1 黄灰色シルトが地山と考えられる。

ピットを数基確認したが、遺物は確認されなかった。

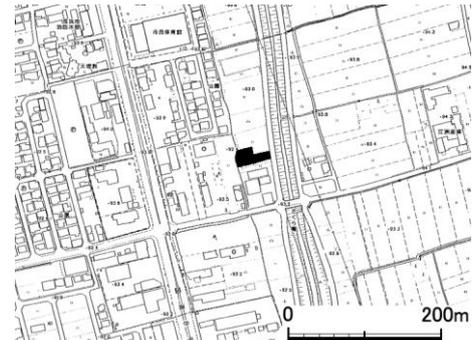


写真 35 室遺跡第 72 次調査区壁面

0.00m～0.17m	①
0.17m～0.43m	②
0.43m～0.53m	③
0.53m～0.70m	④
0.70m～	⑤

第 124 図

調査区壁面柱状図



第 125 図 室遺跡第 72 次調査位置図

室町城居立城遺跡第 2 次調査 (N2012004) 室町 151 番地

平成 24 年 10 月 16～18 日に、寺院庫裡建築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 550 m²に対し 4ヶ所のトレンチを設定し、8 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.20mまでが 2.5Y3/2 黒褐色極細粒砂、②0.20m～0.31mが 2.5Y3/3 暗灰オリーブ褐色細礫混粗粒砂、③0.31m～0.40mが 5Y3/2 オリーブ黒色粗粒砂混極細粒砂、④0.40m～0.44mが 5Y3/1 オリーブ黒色中礫～大礫混極細粒砂、⑤0.44m～0.49mが 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極粗粒砂混極細粒砂、⑥0.49m～0.63mが 2.5Y3/1 黒褐色細礫混粗粒シルト、⑦0.63m～0.78mが 5Y3/1 オリーブ黒色極細粒砂混粗粒シルト、⑧現況面以下 0.78mで検出された 2.5Y3/1 黒褐色極粗砂（礫含む）が地山と考えられる。

遺構は確認されなかった。

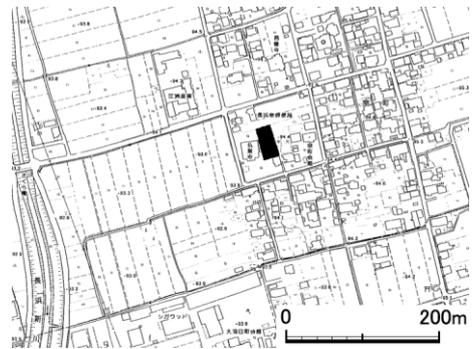


写真 36 室町城居立城遺跡第 2 次調査区壁面

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.31m	②
0.31m～0.40m	③
0.40m～0.44m	④
0.44m～0.49m	⑤
0.49m～0.63m	⑥
0.63m～0.78m	⑦
0.78m～	⑧

第 126 図

調査区壁面柱状図



第 127 図 室町城居立城遺跡第 2 次調査位置図

物部遺跡第 22 次調査 (N2012180) 高月町横山字北大一 8 番 10

平成 25 年 3 月 15 日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

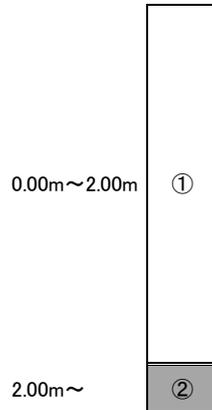
対象面積 159.73 m²に対し 7 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 2.00mまでが造成土、②現況面下 2.00mで検出された N4/灰色粗粒シルトが地山面である。

遺構・遺物は確認されなかった。

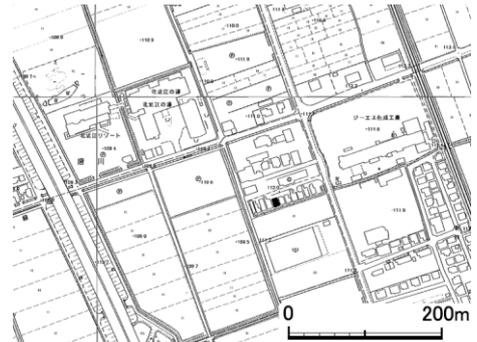


写真 37 物部遺跡第 22 次調査区壁面



第 128 図

調査区壁面柱状図



第 129 図 物部遺跡第 22 次調査位置図

柳野遺跡第 8 次調査 (N2012147) 高月町柳野中 547 番

平成 24 年 12 月 12 日に、防火水槽設置工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 1003 m²に対し 4 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下 0.05mまでがアスファルト舗装、②0.05m～0.93mが造成土 (10YR4/4 褐色大～細礫混極粗粒砂)、③0.93m～1.10mが 5Y4/1 灰色極細粒砂、④1.10m～1.24mが 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗粒シルト、⑤1.24m～2.5Y4/4 オリーブ褐色極細粒砂混シルト、現況面から 1.24mで検出されたオリーブ褐色極細粒砂混シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は、確認されなかった。

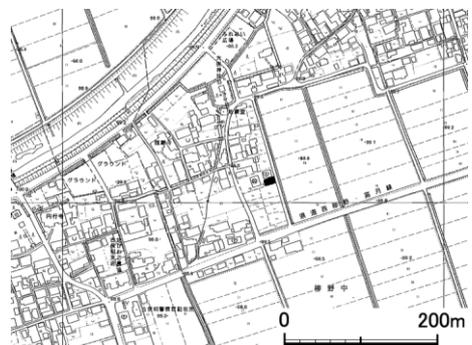


写真 38 柳野遺跡第 8 次調査区壁面



第 130 図

調査区壁面柱状図



第 131 図 柳野遺跡第 8 次調査位置図

山本氏館遺跡第1次調査 (N201229) 湖北町山本字北堀 1025-4

平成24年5月28日に、住宅用物置新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 327.64 m²に対し2ヶ所のトレンチを設定し、2.6 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.25mまでが10YR3/3暗褐色中礫混極細粒砂、②0.25m～0.65mが10YR5/3にぶい黄褐色中礫混極細粒砂、③現況面以下0.65mで検出された10YR4/3にぶい黄褐色中礫多く混じる中粒砂が地山と考えられる。

遺構・遺物は確認されなかった。

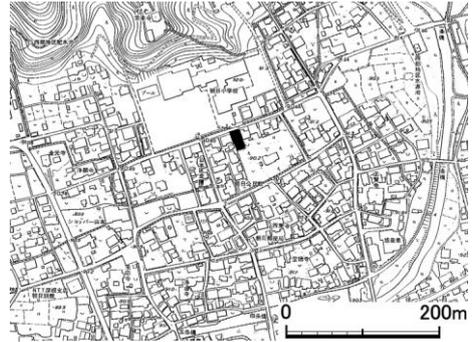


写真 39 山本氏館遺跡第1次調査区壁面

0.00m～0.25m	①
0.25m～0.65m	②
0.65m～	③

第 132 図

調査区壁面柱状図



第 133 図 山本氏館遺跡第1次調査位置図

横山遺跡第9次調査 (N2012176) 高月町唐川字下野色 111 番 1

平成25年2月8日に、個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積 367.35 m²に対し9 m²について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.25mまでが造成土(10YR4/4褐色大～細礫混極粗粒砂)、②0.25m～0.45mが10YR4/3にぶい黄褐色大～細礫混極細粒砂、③0.45m～0.80mが5Y3/1オリーブ黒色大～細礫混極細粒砂、④0.80m～1.05mが2.5Y4/1黄灰色極細粒砂(耕土)、⑤1.05m～1.25mが2.5Y4/2暗灰黄色粗粒シルト、⑥1.25m～1.75mが7.5Y3/2オリーブ黒色細粒砂混粗粒シルト、現況面から1.25mで検出されたオリーブ黒色細粒砂混粗粒シルトが地山と考えられる。

遺構・遺物は、確認されなかった。

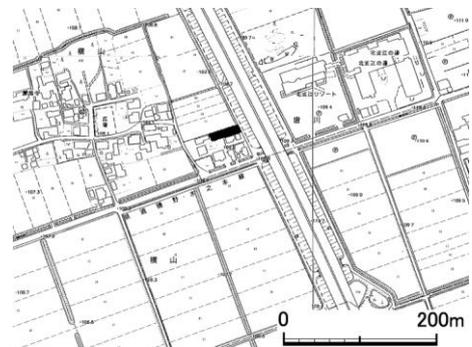


写真 40 横山遺跡第9次調査区壁面

0.00m～0.25m	①
0.25m～0.45m	②
0.45m～0.80m	③
0.80m～1.05m	④
1.05m～1.25m	⑤
1.25m～	⑥

第 134 図

調査区壁面柱状図



第 135 図 横山遺跡第9次調査位置図

横山城遺跡第8次調査（N2012160）堀部町字小倉谷9番2他11筆

平成25年2月21日に、鉄塔建替工事に伴う試掘調査を行った。

対象面積4368.53㎡に対し12㎡について調査を実施した。

調査の結果、①現況面以下0.20mまでが腐葉土（10YR3/2 黒褐色）、②0.20m～0.28mが2.5Y4/4 オリーブ褐色細～大礫混極細粒砂、③0.28m～0.40mが2.5Y3/2 黒褐色細・中礫混極細粒砂、④現況面以下0.40mで検出された2.5Y5/6 黄褐色細～巨礫混極細粒砂が地山と考えられる。

遺構は確認されなかった。遺物はすり鉢片を1点確認した。

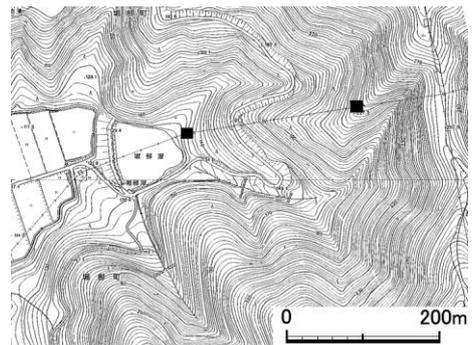


写真41 横山城遺跡第8次調査区壁面

0.00m～0.20m	①
0.20m～0.28m	②
0.28m～0.40m	③
0.40m～	④

第136図

調査区壁面柱状図



第137図 横山城遺跡第8次調査位置図

第3章 大海道・華寺遺跡第4次発掘調査

1. 調査の経緯

(1) 調査にいたる経緯

本調査は、個人住宅新築に伴う発掘調査で、平成15年7月13日に原因者から届け出が提出された。

周辺調査の状況から当該地においても遺構が存在する可能性が高いため、試掘調査は実施せず、対象面積479㎡の内、破壊を免れないと判断した約215㎡について本発掘調査を実施することとなった。

(2) 発掘作業の経過

本発掘調査は、平成15年8月18日から10月10日までの期間で実施した。

調査は、調査対象区全体を重機によって遺構面直上まで掘削を行った後、人力による遺構検出作業、遺構の半截・遺構完掘・全景写真・遺構断ち割りの順で行い、平面および断面実測、遺構写真等のデータ収集作業、出土遺物の取り上げは工程ごとに行った。調査終了後は埋め戻しを行い、原因者に引き渡した。

(3) 整理等作業の経過

整理作業は、現地調査終了後洗浄作業までを平成15年度に行い、平成24年度から平成25年度の期間で報告書作成までの作業を実施した。

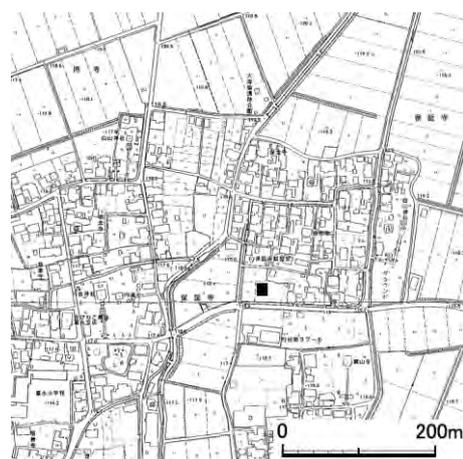
出土した遺物にはマーキングを施し、出土地点、出土点数等を遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

報告書掲載遺物の選別は、残存状態の良い遺物を中心に行い、選別後、実測図の作成、遺物観察表の作成を行った。

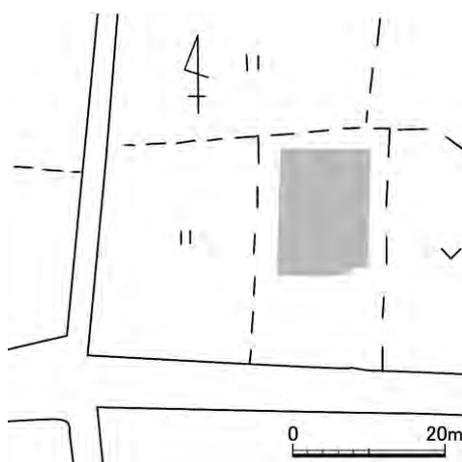
上記作業終了後、報告書に掲載する遺物の最終選別を行い、掲載遺物についてはデジタルトレース作業並びに写真撮影を行った。なお遺物写真の一部（図版15-2、図版16-9・12・16、図版18-31・33、図版19-37右、図版21-54・55）は旧高月町時に町単費で寿福写房寿福滋氏に依頼した。

土層堆積状況の注記については本文中で統一した番号として使用できるように整理を行い、土色・土質一覧表としてまとめた。

現地で実測した図面は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて図面の合成や編集作業を行い、写真に関しては、調査内容が分かるように選別し、写真の内容・撮影方向が分かるように写真図版としてまとめた。



第138図 大海道・華寺遺跡第4次調査位置図



第139図 大海道・華寺遺跡第4次
トレンチ配置図

2. 遺跡の位置と環境

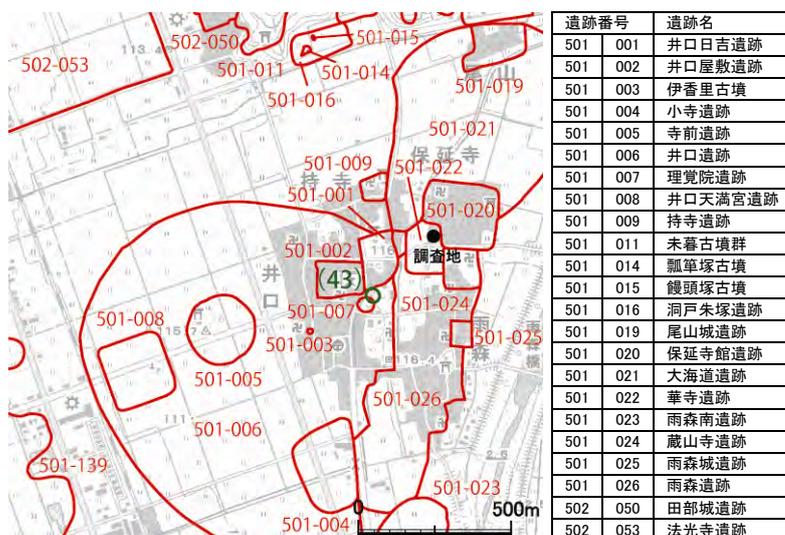
(1) 地理的環境

大海道・華寺遺跡の位置する滋賀県長浜市高月町は、市域のほぼ中央に位置し、平成 22 年 1 月に旧西浅井町、旧木之本町、旧虎姫町、旧湖北町とともに長浜市に合併された。今回発掘調査を行った大海道・華寺遺跡は、高月町保延寺に所在する。高時川が山地から平野部へ出た場所にあたり、高時川右岸に位置する。高時川からの水流が豊富であり、高時川の後背地として古くから人々の居住の地として最適な場所であったようである。また、琵琶湖と高時川などの河川を使った水運、陸路では雨森から井口にかけて北国脇往還が通り、北陸・東海をつなぐ交通の要衝であった。現在でも国道 365 号線が通り、トラックなどの往来が盛んである。

(2) 歴史的環境

大海道・華寺遺跡は高時川右岸に立地しており、小字花寺・鳥居前で瓦が表採されることが知られている。

周辺の遺跡としては縄文時代の石棒が出土した縄文から平安時代の祭祀跡とされている井口日吉遺跡、集落遺跡として縄文時代から中世の井口遺跡、弥生時代～中世の大海道遺跡、古墳時代から近世の雨森遺跡などがある。井口遺跡、大海道遺跡は古代を中心とした大規模な集落跡である。古墳では須恵器器台などが出土している瓢箪塚古墳、饅頭塚古墳、勾玉が出土したという伊香里古墳、未暮古墳群などがある。寺院跡としては



第 140 図 大海道・華寺遺跡と周辺の遺跡

蔵山寺遺跡、井口弾正の菩提寺とされる理覚院遺跡、華寺遺跡などがある。高時川を挟んで高野には瓦陶兼業窯の高野丸山遺跡があり、華寺遺跡などで出土している瓦の生産地である可能性が高い。井口遺跡、大海道遺跡、などで瓦が出土している。中世の城館跡として、井口弾正の屋敷といわれている井口屋敷遺跡、尾山城遺跡、保延寺館遺跡、雨森城遺跡、田部城遺跡などがある。

華寺遺跡ではこれまでに 4 回の発掘調査が行われている。

第 1 次調査として今回調査地の南に位置する場所で町民第三プール建設に伴い、昭和 63 年（1988 年）に約 1,000 m²を対象として発掘調査が実施された。

調査の結果、古墳時代前期と平安時代末期～室町時代の集落を検出している。古墳時代の遺構は、自然流路、土坑、ピットを検出し、平安時代末期以降の遺構は、掘立柱建物、溝、土坑、竪穴状遺構等を検出している。

第 2 次調査は個人住宅建築に伴う調査で、平成 3 年（1991 年）に約 86 m²を対象として発掘調査が実施された。調査の結果、近世に埋まったと考えられる溝 2 条、竪穴住居 1 棟、ピットが検出されている。

第 4 次調査は個人住宅建築に伴う調査で、平成 11 年（1999 年）に約 40 m²を対象として発掘調査が実施された。調査の結果、奈良時代から中世の溝・ピット・土坑・自然流路が検出されている。

第 4 次調査が今回報告する調査である。

3. 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

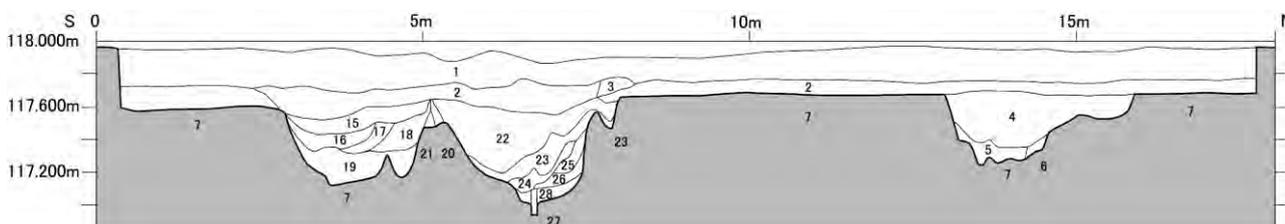
重機を使用し、遺構面直上まで掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。

基本的な遺構の掘削については、土坑については四分法または半截を用い、写真撮影については、発掘調査前後の状況写真、遺構完掘状況の撮影をカラーネガフィルム、白黒フィルム、リバーサルフィルムを用い撮影した。

遺構名については、柱穴と同様の平面形態・規模のもので、遺構の深さが浅いものについては土坑(SK)とした。したがって、柱穴である可能性もあることを断っておく。

(2) 層序

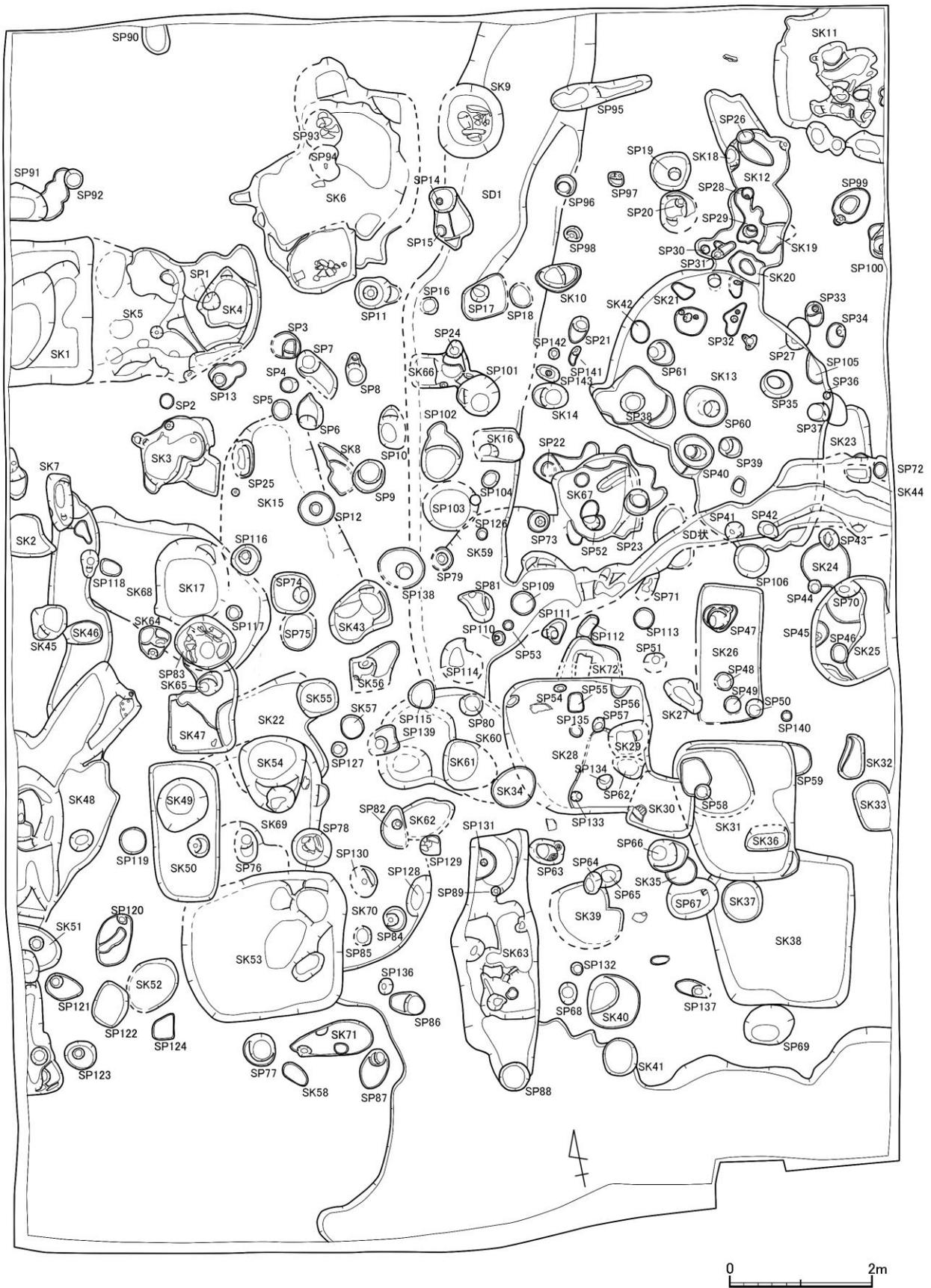
調査区の土層は第1層目が耕作土で、第2層目が黄色土混灰色粘質土である。第3層目が暗褐色砂礫土および黄灰色砂質土の地山である。地表面から地山面までの深さは0.3mである。



第 141 図 大海道・華寺遺跡第 4 次調査西壁断面図

第 12 表 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 土色・土質一覧

番号	土色・土質	番号	土色・土質
1	耕作土	17	灰色粘砂質土
2	黄色土混灰色粘質土	18	灰褐色礫混粘砂質土
3	黄灰色砂質土	19	灰色粘砂質土(粘り気強い)
4	灰色土混暗褐色・黄褐色(ブロック土)	20	灰色砂礫
5	暗褐色・黄灰色粘質土(ブロック土)	21	砂礫混黄灰色砂質土
6	暗褐色土混黄灰色砂礫土	22	灰色土混黄色砂質土
7	暗褐色砂礫土(地山)	23	灰色粘質土(黄色土微量に含む)
8	黄灰色砂質土(礫少量混)	24	灰色土混黄色粘砂質土
9	黄灰色(礫少量混)砂質土(灰色粘質土ブロック混じる)	25	灰色砂礫
10	暗灰褐色粘質土(中礫多く含む)	26	灰色粘質土
11	暗灰色粘砂質土(中礫含む)	27	灰色砂質土(杭の跡)
12	暗灰色粘質土(中礫含む)	28	黄灰色粘砂質土
13	黄灰色砂質土(地山)	29	黄灰色粘砂質土(暗灰色ブロック混)
14	黄灰色砂質土(暗灰色粘質土混)	30	黄灰色砂質土(やや暗い)
15	灰色粘質土(16より黄色強い)	31	褐色中礫(大礫混)
16	灰色粘質土		



第 142 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 調査区平面図

(3) 発掘調査

遺構

調査地の北西と南西に遺構空白地があるが、全体に土坑、溝、柱穴を検出している。それぞれ、土坑 72 基、溝 2 条、柱穴 144 基である。調査地南側は礫層を検出した。耕作土上面から遺構検出面までの深さが約 0.3m と浅く、一部遺構検出面の地山面上にトラクターのタイヤ痕がついていたため、耕作等によって遺構検出面まで攪乱を受けている所もある。また、遺構としているものの中には耕作に伴う土坑等も含まれているものと思われる。また、土坑としているもののうち、前述のとおり柱穴の可能性のあるものも含まれている。

遺構の規模等のうち、土坑 (SK) については第 13 表にピット (SP) については第 14 表に一覧表として掲載し、各遺構の概要を以下に記す。

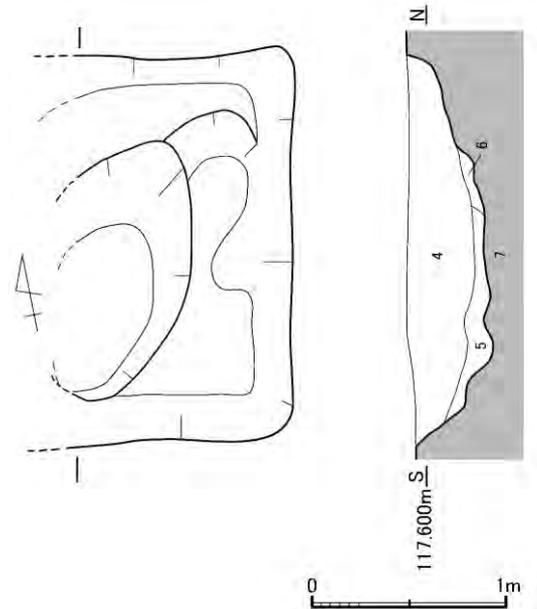
土坑 (SK)

SK 1 調査区西端中央より北に位置する。西側が調査区外となっているため、東西方向の規模は不明である。方形を呈し、底には段があり、埋土は主として 2 層である。底に 10cm 程度の堆積があり、その上に 35cm 程度の層がある。遺構の性格は不明である。遺物は土師器 1 点、須恵器杯身 1 点、瓦 22 点が出土している。

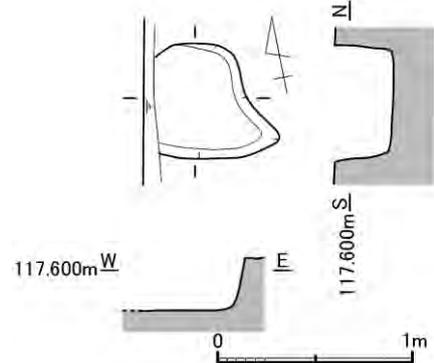
SK 2 調査区の西端中央付近に位置し、北東隅が延びる隅丸方形を呈するとみられる。底部は 遺物は土師器 6 点、須恵器 1 点、瓦 21 点が出土している。

SK 3 SK 1 の南東に位置する不定形の土坑である。いくつかの遺構が重複している可能性もあるが、検出時には明瞭ではなかった。底部は平らである。遺物は須恵器 1 点、土師器 2 点、瓦が 87 点出土している。瓦には赤色を呈するものがある。

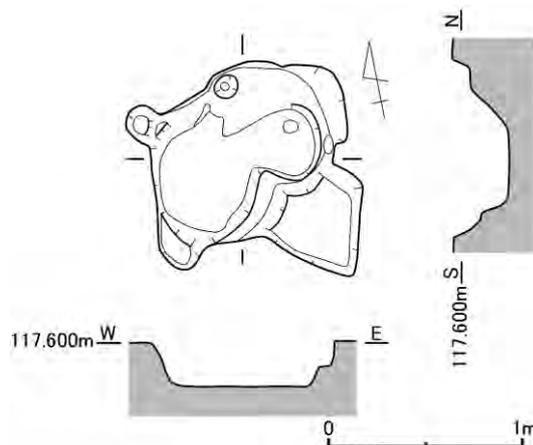
SK 4 SK 1 の東に位置する不定形の土坑である。SP 1 と重複し、SK 5 の下から検出された。浅い土坑であり、埋土は暗灰粘砂質土である。底部は平らである。遺物は土師器 1 点、瓦 5 点が出土している。



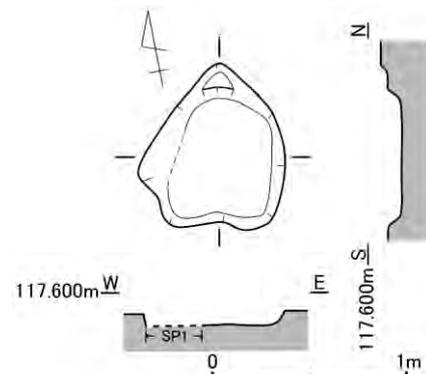
第 143 図 SK1 平面・断面図



第 144 図 SK2 平面・エレベーション図

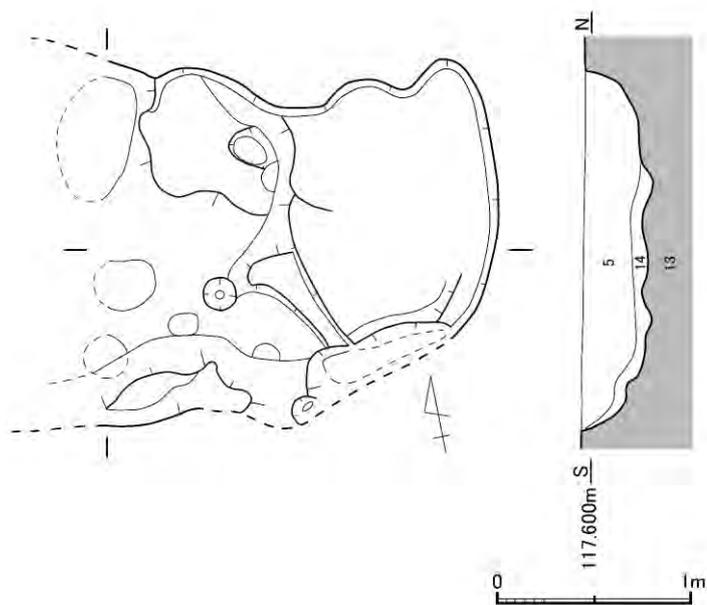


第 145 図 SK3 平面・エレベーション図



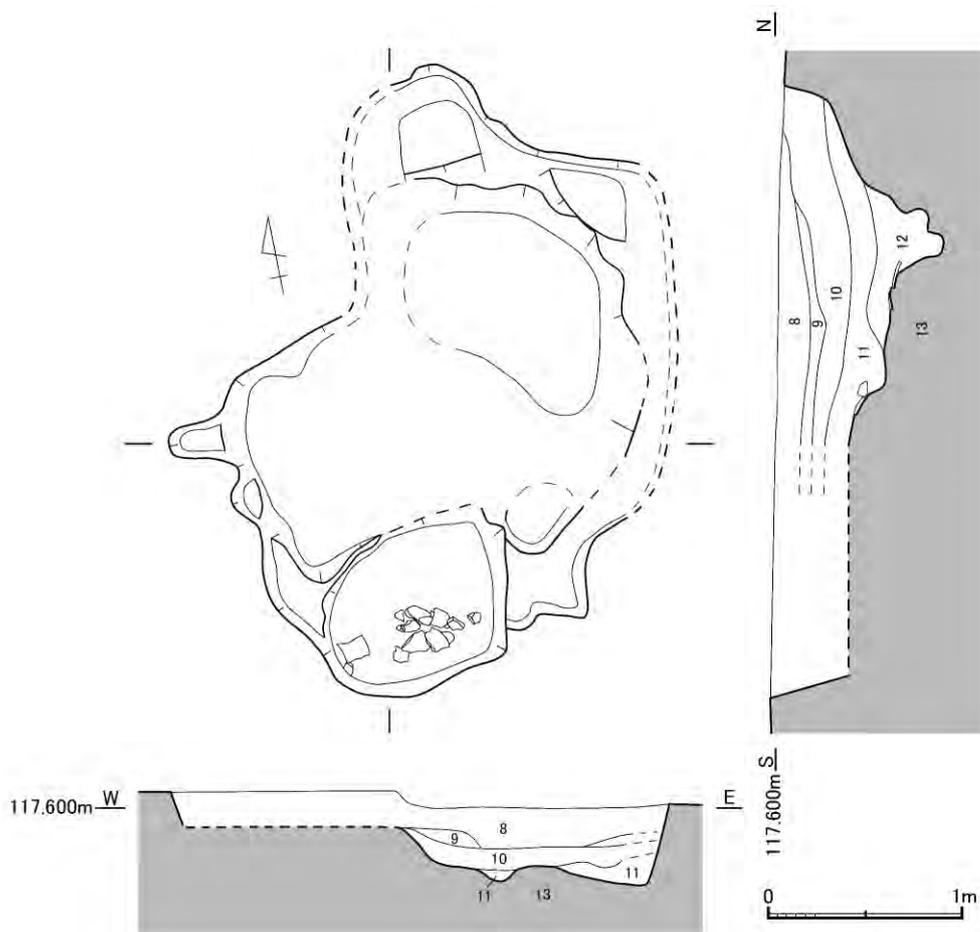
第 146 図 SK4 平面・エレベーション図

SK 5 SK 1の東に位置する不定形の土坑である。SK 1と埋まり方が似るため、同様の土坑とみられる。埋土最上面から土師器9点、須恵器2点、瓦11点が出土している。



第 147 図 SK5平面・断面図

SK 6 調査区の北に位置し、SK 1に切られる不定形の土坑である。土師器 34 点、須恵器 6 点、砥石などの石 2 点、陶器 1 点、山茶碗 2 点、瓦 174 点、磚が 3 点出土している。瓦のうち赤色を呈するものが 6 点出土している。また、素文軒平瓦になるかもしれない破片も出土している。



第 148 図 SK6平面・断面図

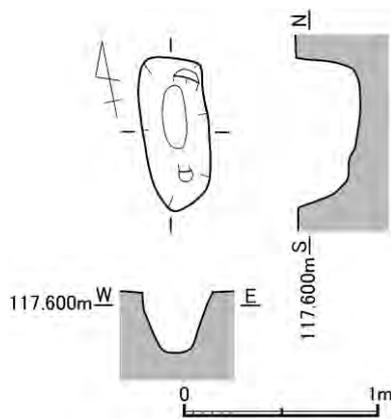
SK7 SK1の南に位置する不定形の土坑である。南北に長く、東西に短いものである。北端、南端付近に一部段がつく。遺物は土師器1点、瓦24点が出土している。

SK8 SP9に切られる土坑で、不定形を呈する。底はごく浅い。遺物は土師器2点、須恵器2点、瓦1点が出土している。

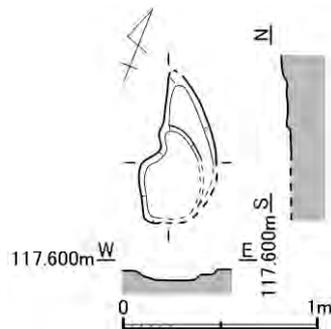
SK9 SD1を切る土坑で、楕円形を呈する。埋土中には石が詰められている状況であった。柱の根固めか石を投棄したものであろうか。遺物は瓦7点、石が5点出土している。石の中には焼けたようなものが2点出土している。

SK10 SK13の北西に位置する不定形の土坑である。3段に掘られているもので、底は平らである。遺物は土師器1点、瓦3点が出土している。

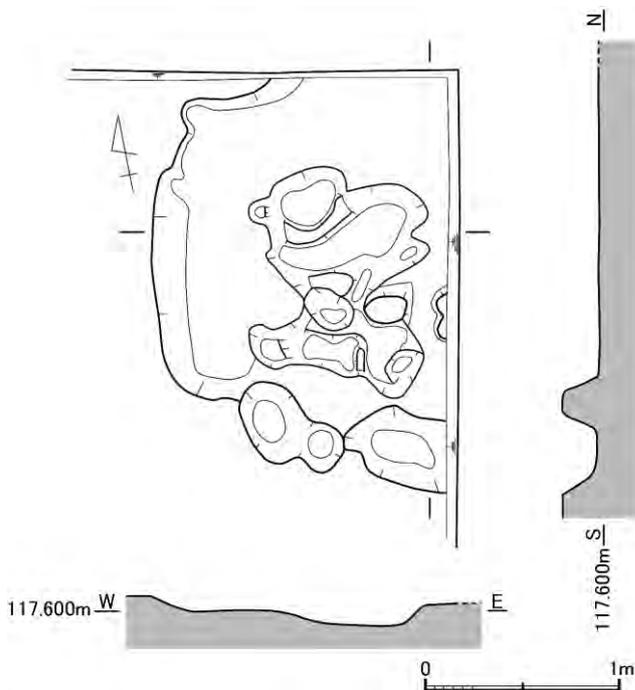
SK11 調査区北東隅に位置する土坑である。底は検出された部分のうち、中央部分がやや乱雑に掘り込まれているが、それ以外は平坦である。遺物は土師器27点、須恵器3点、陶器2点、磁器1点、瓦33点、瓦器が1点出土している。



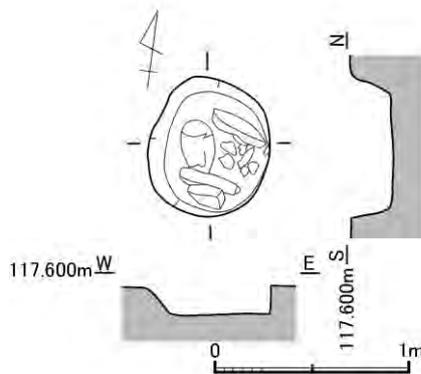
第149図 SK7平面・エレベーション図



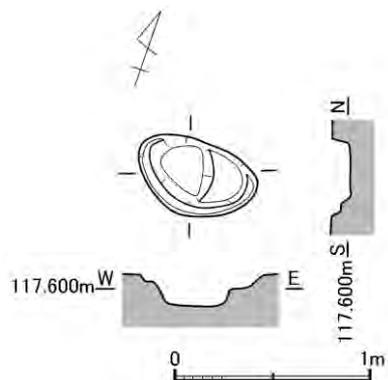
第150図 SK8平面・エレベーション図



第153図 SK11平面・エレベーション図



第151図 SK9平面・エレベーション図



第152図 SK10平面・エレベーション図

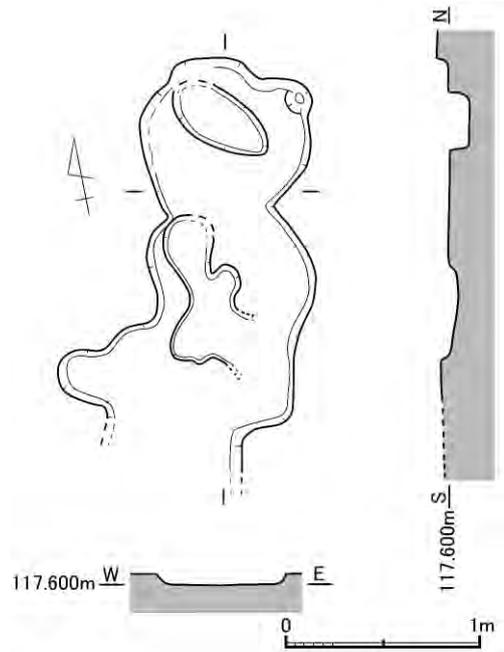
SK12 SK13 の北側に位置する細長い形状の土坑である。SK13 と一連の遺構の可能性もある。遺物は土師器 1 点、須恵器 1 点、瓦 239 点が出土している。

SK13 調査地北東に位置する不定形の土坑である。2つの土坑が切り合っている可能性もあるが、北側は長辺 1.00m×短辺 0.76m×深さ 0.38mで、南側は長辺 1.05m×短辺 0.80m×深さ 0.50mである。埋土は、2層からなり、第1層 7.5YR3/2 黒褐色粗粒砂混極細粒砂、第2層 10YR4/1 褐灰色シルト混極細粒砂である。切り合いは南側のほうが北側の土坑に比べて新しい。周囲の遺構を切る形で立地しており、土坑の中にSP6の基底部が残存していた。南側はSD状の遺構と重複し、SD状遺構よりSK13の方が新しいとみられる。

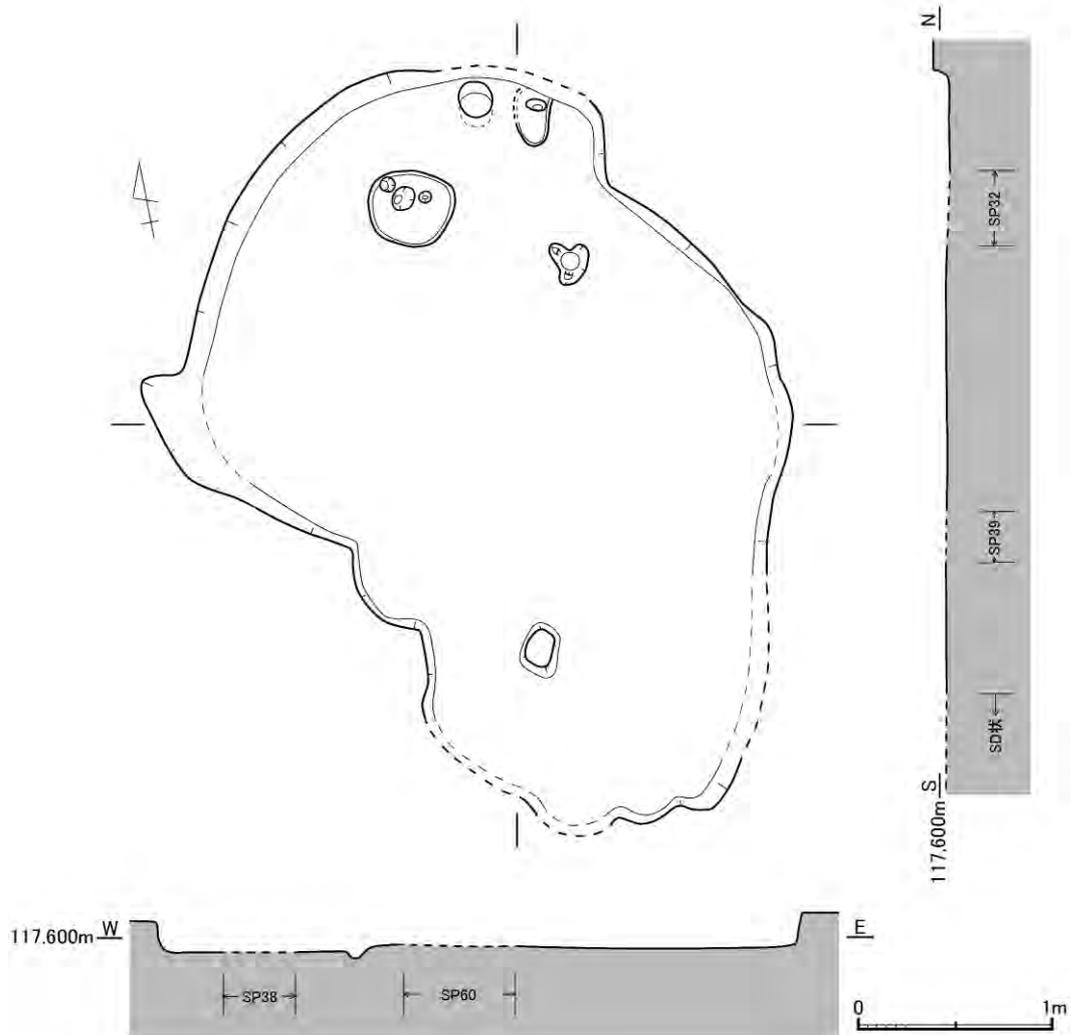
瓦の大半がこのSK13からの出土である。埋土には拳大の礫を含み、底部は平坦で、浅い落ち込みとなっている。おそ

らく保延寺大海道遺跡MJ12 トレンチや井口遺跡で検出されている整地層と同様のものとみられる。

遺物は土師器が 47 点、須恵器が 58 点、陶器が 11 点、磁器が 3 点、瓦が 2127 点、石が 3 点出土している。今回調査地の瓦の大半はこのSK13から出土している。

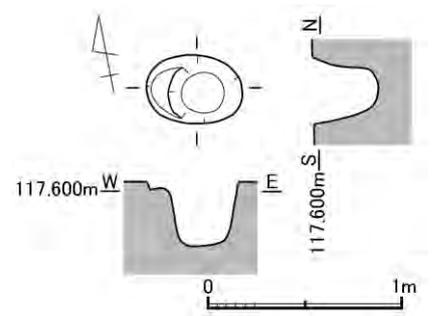


第154図 SK12平面・エレベーション図



第155図 SK13平面・エレベーション図

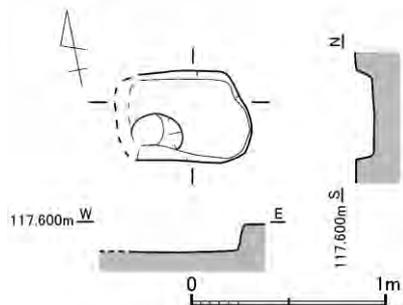
SK14 SK13 の西に位置する楕円形の遺構である。SKとしているが、おそらくピットであろう。遺物は土師器が 1 点、瓦が 13 点、石が 1 点出土している。



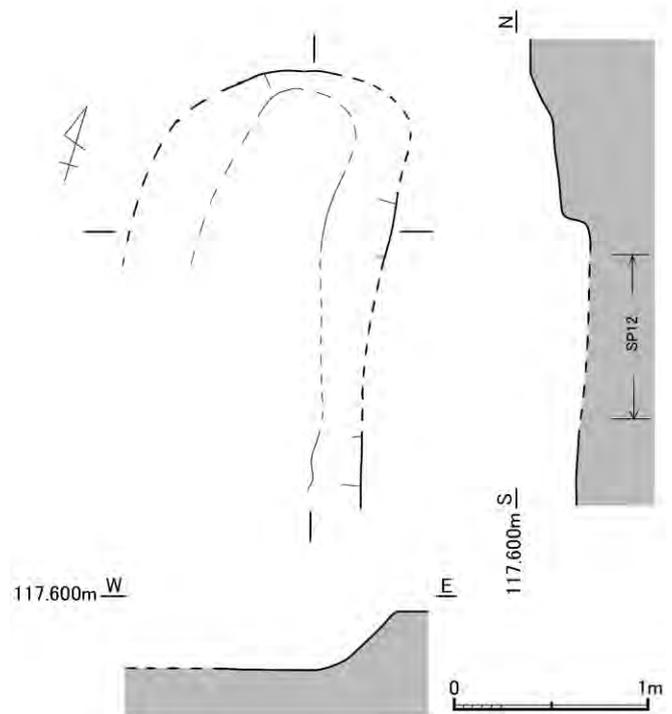
第 156 図 SK14 平面・エレベーション図

SK15 SK3 の東側に位置する土坑であり、SP12・SP116 などに切られている。不定形で、切り合いが多く、規模等は不明なところが多い。遺物は土師器 5 点、須恵器 6 点が出土している。

SK16 SK14 の南西に位置する不定形の土坑である。底は平らで、ピット状の掘り込みがあり、ピットを切っている可能性もある。遺物は土師器が 4 点、須恵器が 1 点、瓦が 1 点出土している。

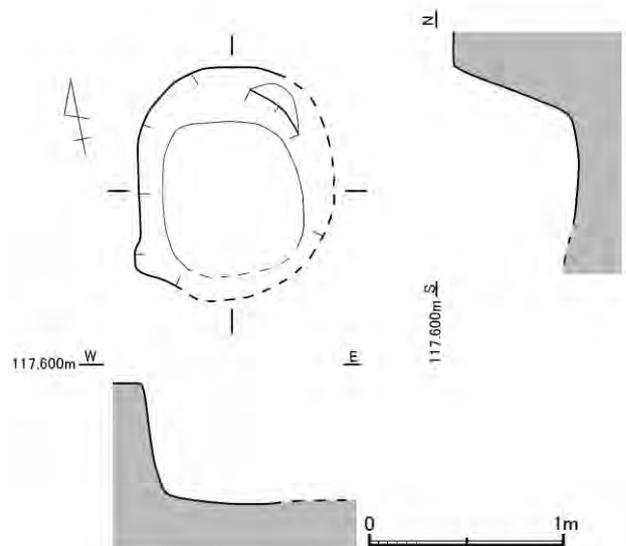


第 158 図 SK16 平面・エレベーション図



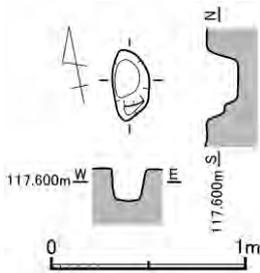
第 157 図 SK15 平面・エレベーション図

SK17 SK15 の南西に位置する楕円形の土坑である。南東部分を SP83 に切られている。検出面から約 20cm 下がった所から拳大の石および瓦がぎっしりと詰め込まれた状態で検出された。遺物は土師器が 4 点、須恵器が 14 点、陶器が 13 点、磁器が 1 点、瓦が 381 点、砥石等が 4 点、木などが 2 点出土している。瓦の中には焼け歪み、赤変したような破片がある。また、磁器・天目茶碗が出土していることから中世以降に形成されたものとみられる。性格等は不明である。

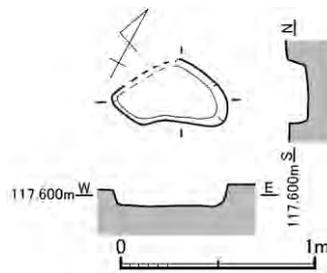


第 159 図 SK17 平面・エレベーション図

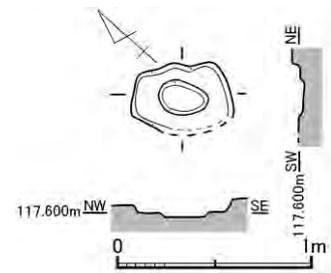
SK18・19・20 SK12 の底で見つかった落ち込みである。SK12 の一部である可能性もあるが、別の遺構としている。いずれも平坦なもので、SK20 は中央付近がくぼむ。遺物はSK18・19 からは瓦が1点ずつ、SK20 からは須恵器が1点、瓦が5点出土している。



第 160 図 SK18 平面・エレベーション図

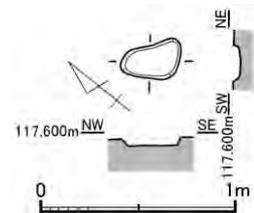


第 161 図 SK19 平面・エレベーション図



第 162 図 SK20 平面・エレベーション図

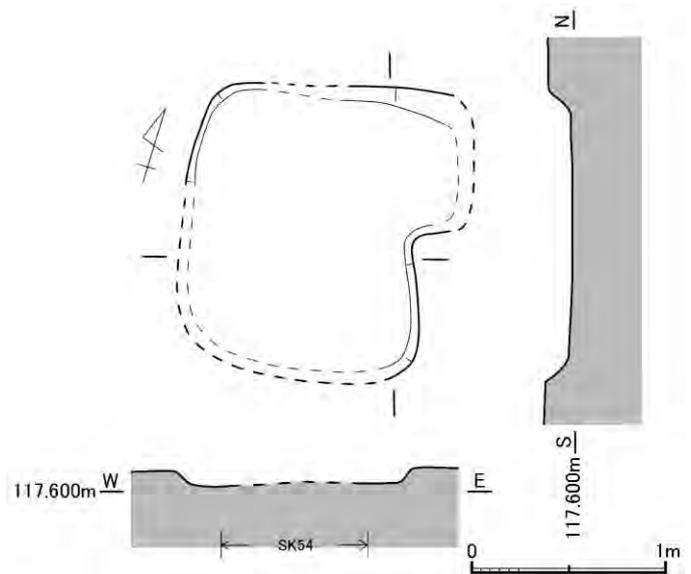
SK21 SK13 の中で検出した不定形の小さい落ち込みである。SK13 に切られた遺構かSK13 の一部かは不明である。遺物は瓦が1点出土している。



第 163 図 SK21 平面・エレベーション図

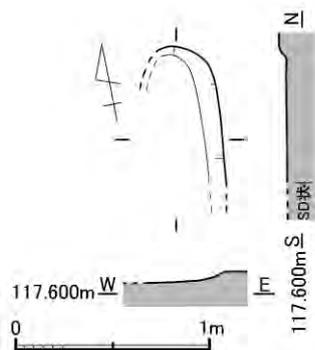
SK22 SK17 の南東に位置し、SK47・54・55・69 に切られる土坑である。浅く底は平らである。遺物は出土していない。

SK23 SK13 の東に位置するSK13・SD状遺構に切られる土坑である。北東の隅以外は遺構の形状は不明である。極浅い落ち込みである。遺物は須恵器が1点、瓦が68点出土している。

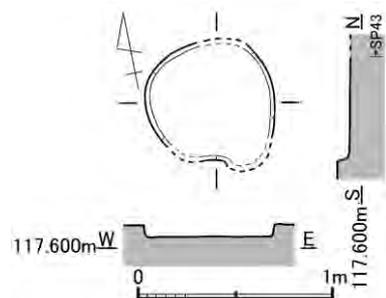


第 164 図 SK22 平面・エレベーション図

SK24 SK13 の南東に位置する円形に近い土坑である。SP43・44 に切られている。極浅い落ち込みである。遺物は土師器が1点、瓦が2点出土している。



第 165 図 SK23 平面・エレベーション図

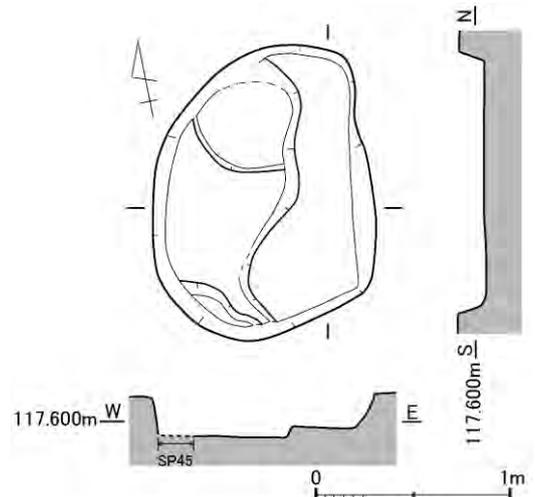


第 166 図 SK24 平面・エレベーション図

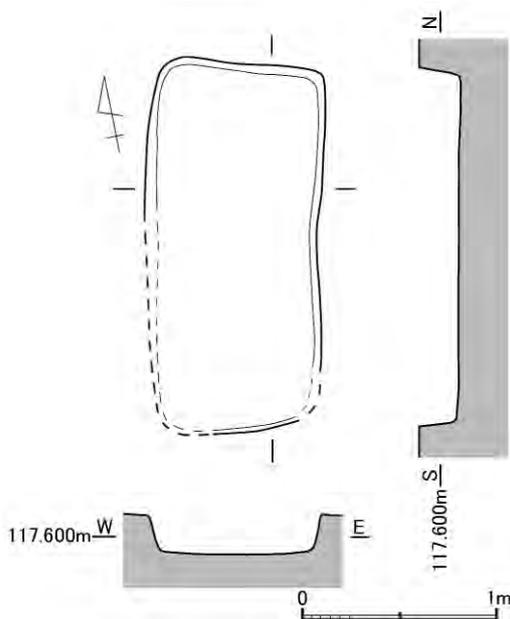
SK25 SK24の南に位置する楕円形を呈する土坑である。SP45・46・70を切っている。底は平坦で、2段となっている。遺物は須恵器が3点、陶器が1点、瓦が24点出土している。

SK26 SK13の南に位置する長方形の土坑である。SP47・48・49・50を切っている。底は平坦である。遺物は土師器が7点、須恵器が2点、瓦が34点出土している。

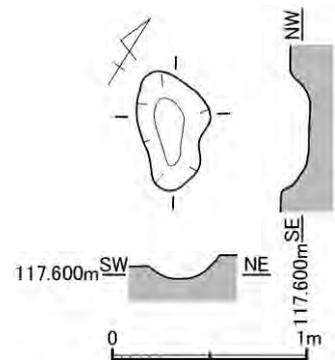
SK27 SK26の一部を切っている不定形の土坑である。遺物は土師器が1点、瓦が8点出土している。



第167図 SK25 平面・エレベーション図

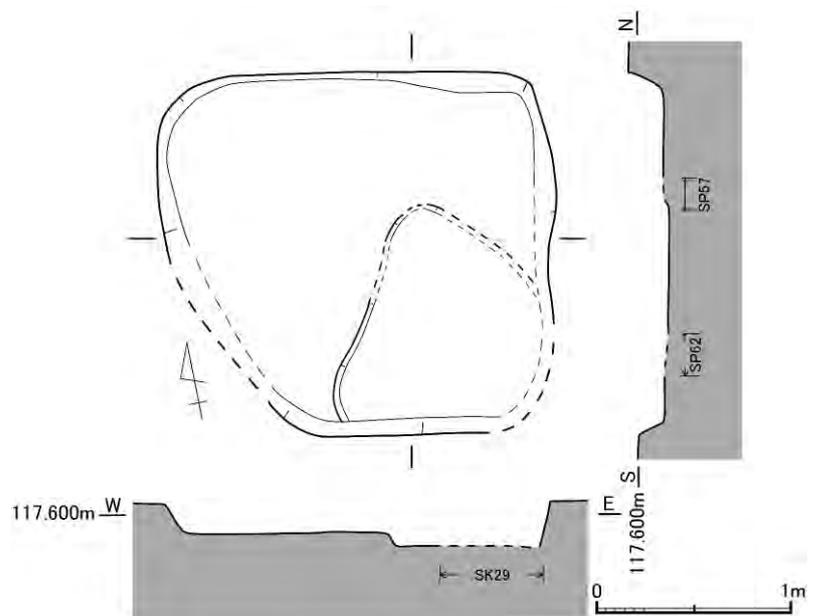


第168図 SK26 平面・エレベーション図



第169図 SK27 平面・エレベーション図

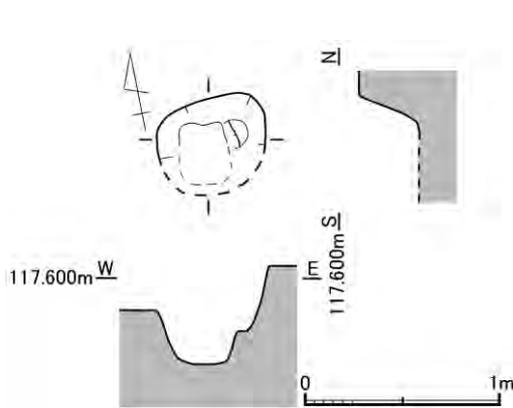
SK28 SK27の西側に位置する方形の土坑である。ピット、土坑を切る。遺物は土師器が15点、須恵器が4点、陶器が8点、磁器が1点、瓦が115点、石類が2点出土している。



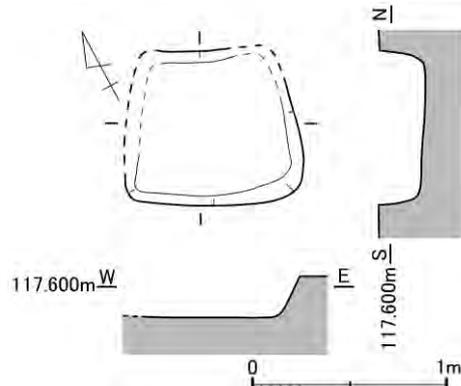
第170図 SK28 平面・エレベーション図

SK29 SK28 の中で検出した土坑である。土師器が 4 点、陶器が 1 点、瓦が 3 点出土している。

SK30 SK28 との切り合いがあるが、前後関係は不明である。方形の土坑でSK31 を切っている。底は平坦である。遺物は須恵器が 1 点、陶器が 2 点、瓦が 20 点出土している。



第 171 図 SK29 平面・エレベーション図

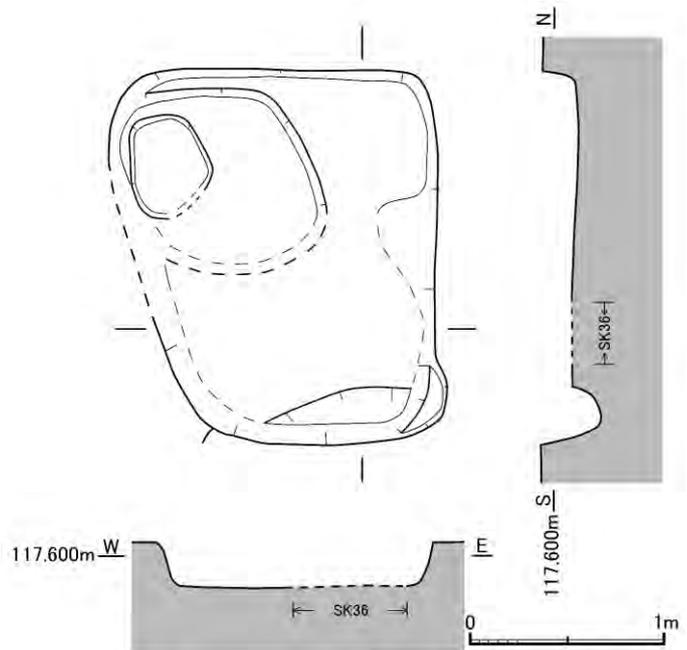


第 172 図 SK30 平面・エレベーション図

SK31 SK30 に切られる土坑である。土師器が 3 点、須恵器が 7 点、陶器が 2 点、瓦が 169 点、金属遺物が 2 点出土している。

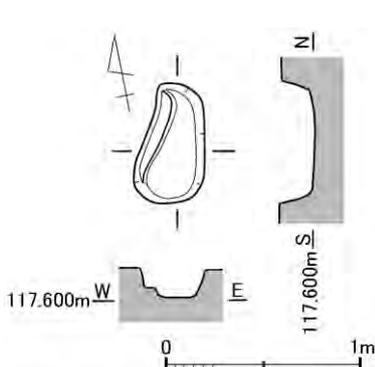
SK32 SK31 の東に位置する土坑である。楕円形に近い形状で、底は平らであるが、2 段となっている。遺物は土師器が 4 点、瓦が 1 点出土している。

SK33 SK31 の東に位置する土坑である。隅丸方形に近い形状で、底は平らである。遺物は瓦が 6 点出土している。

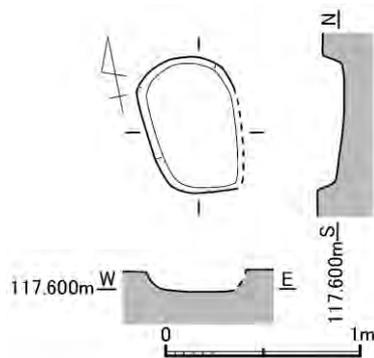


第 173 図 SK31 平面・エレベーション図

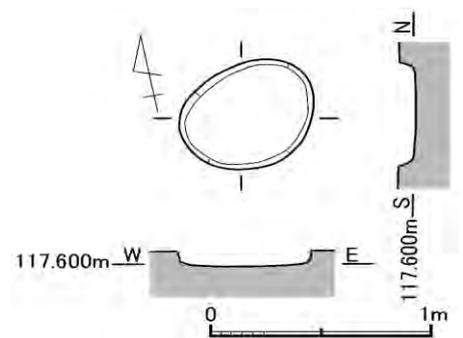
SK34 SK28 とSK60 を切る土坑で、楕円形を呈し、底は平らである。遺物は土師器が 2 点、陶器が 1 点、瓦が 7 点出土している。



第 174 図 SK32 平面・エレベーション図

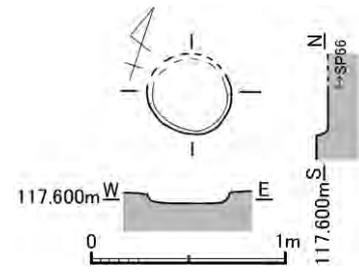


第 175 図 SK33 平面・エレベーション図



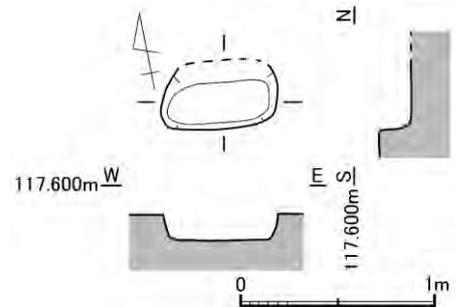
第 176 図 SK34 平面・エレベーション図

SK35 SK31の南西に位置する円形の土坑である。SP66に切れ、SP67を切っている。底は平らで極浅いものである。遺物は須恵器が1点、瓦が6点出土している。



第177図 SK35 平面・エレベーション図

SK36 SK31の底で検出した隅丸長方形の土坑である。底は平らである。遺物は瓦が5点出土している。

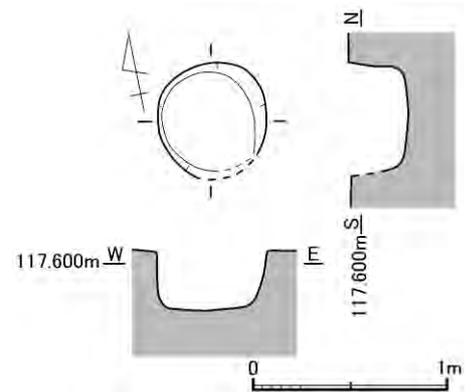


第178図 SK36 平面・エレベーション図

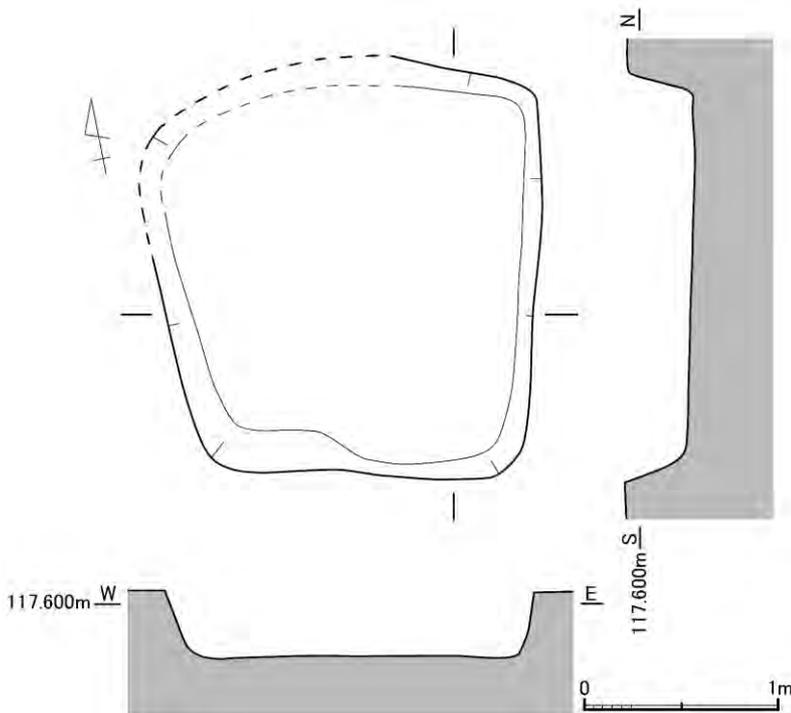
SK37 SK31の南側で接する、SK38の底で検出した土坑である。円形を呈し、極浅いものである。遺物は土師器が1点、須恵器が1点、陶器が1点、瓦が14点出土している。

SK38 SK31に北側を切れ、SP67に西側を切られる隅丸方形の土坑である。底は平らで、底からSK37を検出した。遺物は陶器が7点、瓦が61点、金属遺物が1点出土している。

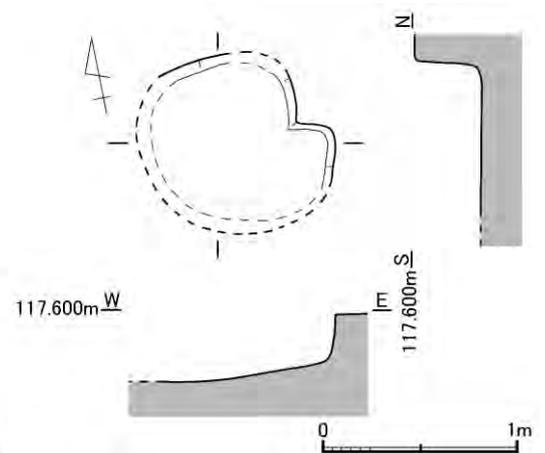
SK39 SK38の西側に位置する不定形の土坑である。SP64に切られている。遺物は土師器が3点、須恵器が3点、陶器が7点、瓦が146点出土している。



第179図 SK37 平面・エレベーション図



第180図 SK38 平面・エレベーション図



第181図 SK39 平面・エレベーション図

SK40 SK39の南側に位置する土坑である。底部は平らであるが、西側に一段落ち込みがある。遺物は瓦が2点出土している。

SK41 SK40の南側に位置する土坑である。底は平らである。遺物は瓦が3点出土している。

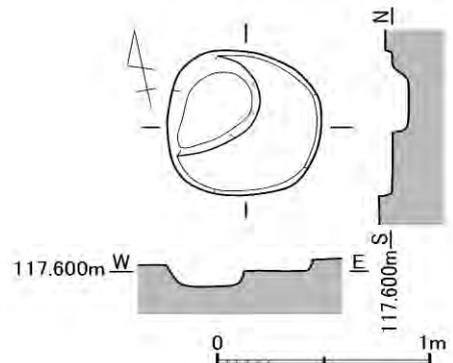
SK42 SK13の中で検出した楕円形の小さい落ち込みである。SK13に切られた遺構かSK13の一部かは不明である。遺物は瓦が4点出土している。

SK43 SK17の東に位置する不定形の土坑である。遺物は須恵器が4点、瓦が18点出土している。

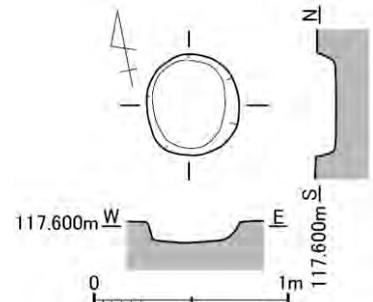
SK44 SK23の南に位置する方形の土坑である。遺物は瓦が1点出土している。

SK45 SK17の南西に位置する方形に近い土坑である。南西隅に段がつく。遺物は土師器が1点、陶器が2点、瓦が2点出土している。

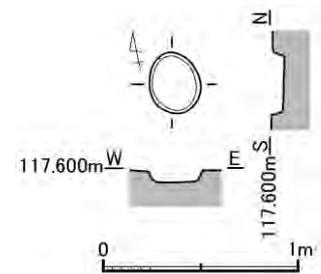
SK46 SK45の東に隣接する楕円形の土坑である。底は平らである。遺物は陶器が1点、瓦が1点出土している。



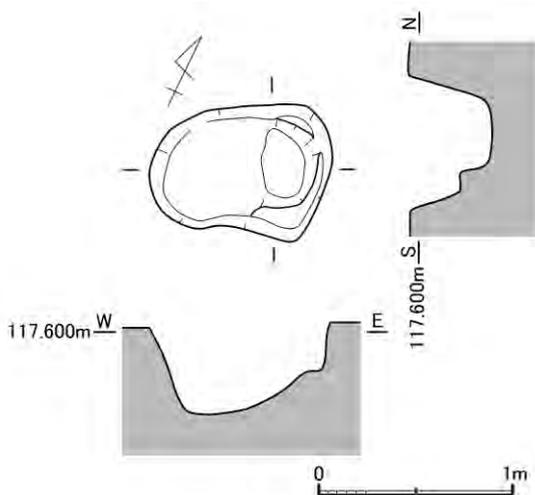
第182図 SK40 平面・エレベーション図



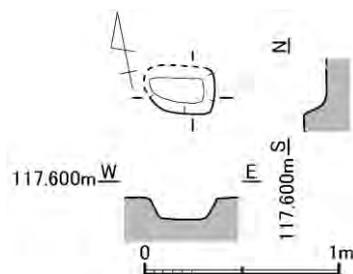
第183図 SK41 平面・エレベーション図



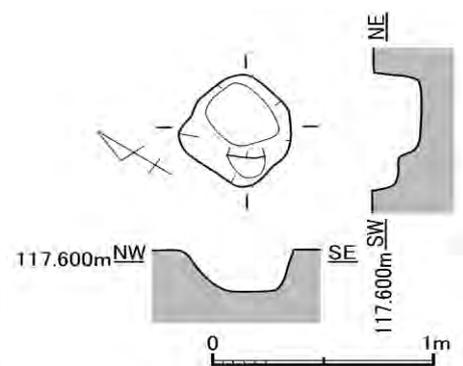
第184図 SK42 平面・エレベーション図



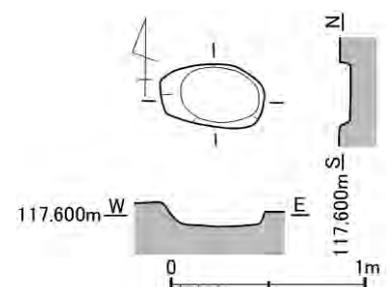
第185図 SK43 平面・エレベーション図



第186図 SK44 平面・エレベーション図



第187図 SK45 平面・エレベーション図



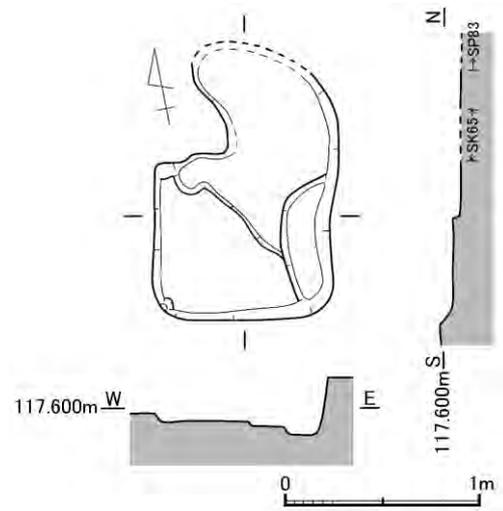
第188図 SK46 平面・エレベーション図

SK47 SK17の南に位置する不定形の土坑である。南側は方形であるが、北側は北東から北方向に曲がっている。遺物は須恵器が1点、瓦が2点出土している。

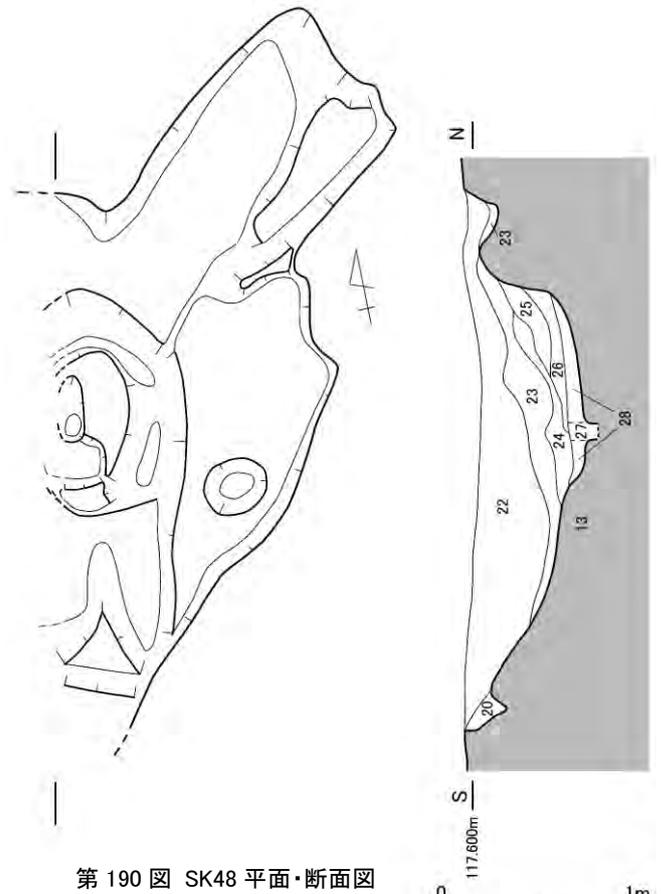
SK48 SK45の南に位置する不定形の土坑である。複数の遺構が重複している可能性もあるが、検出時には明確ではなかった。埋土は主に6層からなる。遺物は土師器が7点、須恵器が1点、陶器が3点、磁器が1点、瓦が66点出土している。

SK49 SK48の東に位置する円形に近い土坑である。SK50の底で検出している。SK50の底部に掘り込みがあるものである可能性もある。遺物は土師器が9点、須恵器が1点、陶器が2点、瓦が29点出土している。陶器の中には天目茶碗が1点出土している。

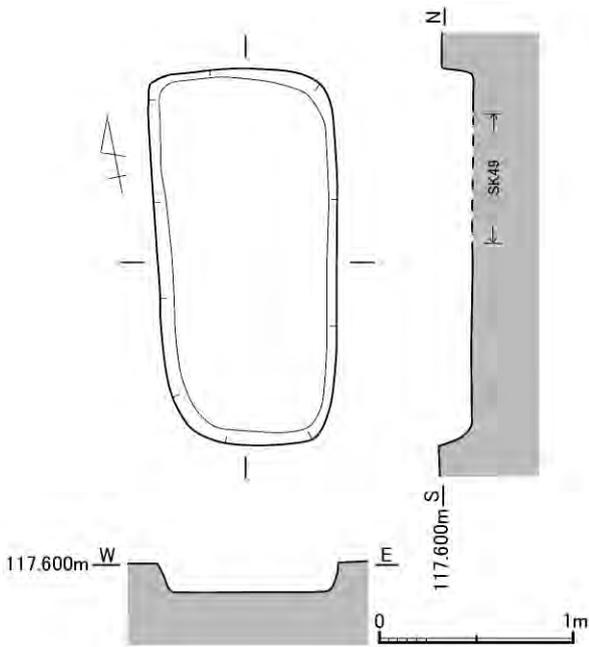
SK50 SK48の東に位置する隅丸長方形の土坑である。底は平らである。遺物は土師器が1点、瓦が9点出土している。



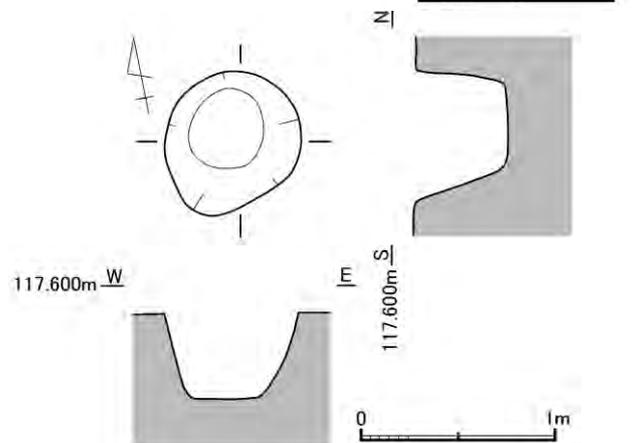
第189図 SK47平面・エレベーション図



第190図 SK48平面・断面図



第192図 SK50平面・エレベーション図

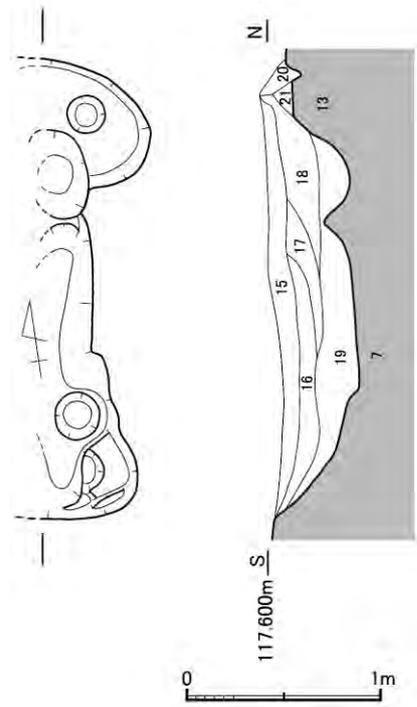


第191図 SK49平面・エレベーション図

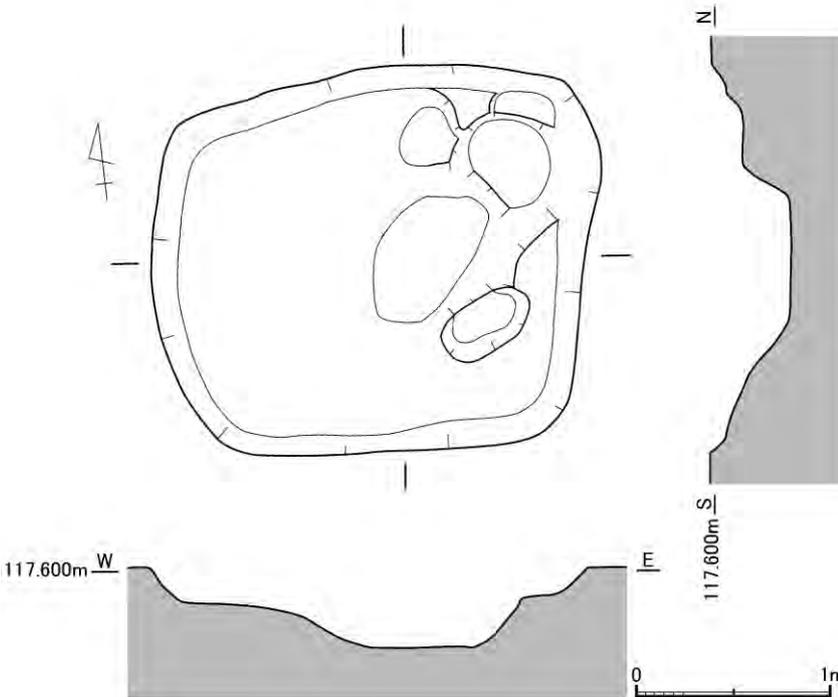
SK51 SK48の南に位置する土坑である。複数の遺構が重複している可能性もある。西側がトレンチ外へ続いているため全体の形状は不明である。遺物は土師器が2点、瓦が2点出土している。

SK52 SK51の東に位置する土坑である。SP122に切られている。底は浅く平らである。遺物は土師器が1点、瓦が17点出土している。

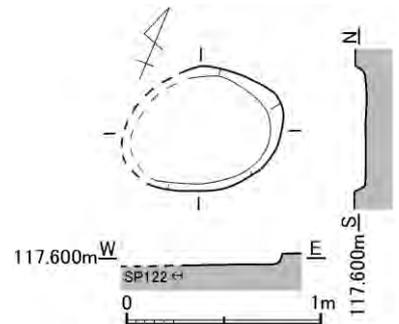
SK53 SK50の南東に位置する土坑である。隅丸方形を呈し、底の北東部分に複数の落ち込みがある。遺物は土師器が14点、須恵器が1点、陶器が12点、磁器が1点、瓦が53点、金属遺物が1点出土している。



第193図 SK51 平面・断面図

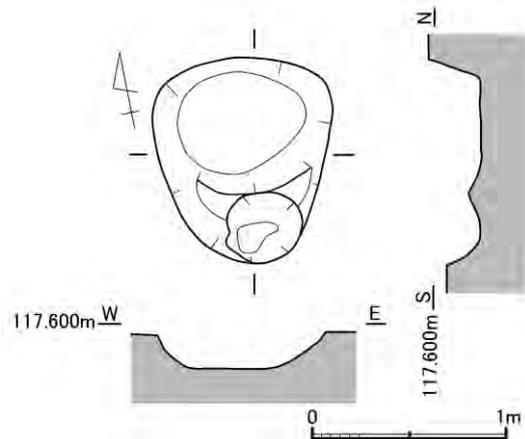


第195図 SK53 平面・エレベーション図



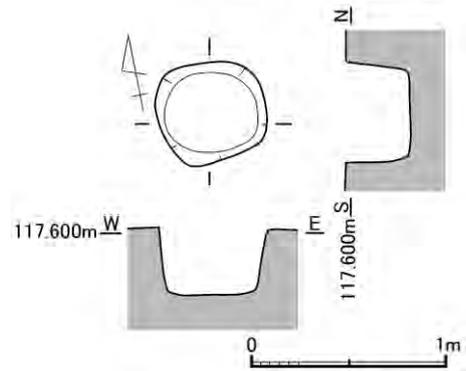
第194図 SK52 平面・エレベーション図

SK54 SK53の北に位置する土坑である。不定形を呈している。底は平らである。遺物は土師器が4点、陶器が1点、瓦が40点出土している。



第196図 SK54 平面・エレベーション図

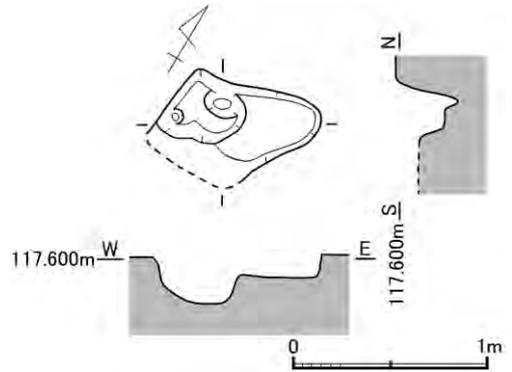
SK55 SK22 を切る土坑である。円形に近い隅丸方形を呈している。底は平らである。遺物は土師器が6点、須恵器が3点、瓦が27点出土している。



第197図 SK55 平面・エレベーション図

SK56 SK55 の東に位置する土坑である。不定形を呈している。遺物は須恵器が4点出土している。

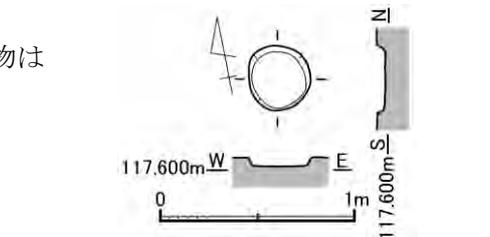
SK57 SK56 の南に位置する土坑である。円形を呈している。ピットである可能性もあるが、深さが浅いため土坑としている。遺物は土師器が3点、瓦が4点出土している。



第198図 SK56 平面・エレベーション図

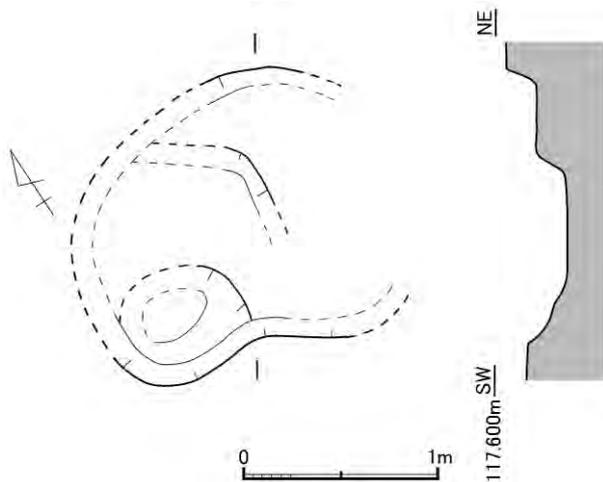
SK58 SK53 の南に位置する土坑である。長楕円形を呈している。遺物は瓦が1点出土している。

SK59 SK15 の東で調査区中央よりやや北に位置する土坑である。複数の遺構と重複しているため詳細は不明である。遺物は須恵器が3点、瓦が15点、石類が1点出土している。

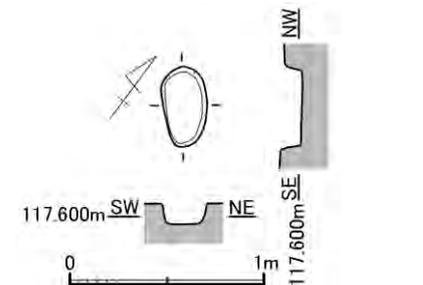


第199図 SK57 平面・エレベーション図

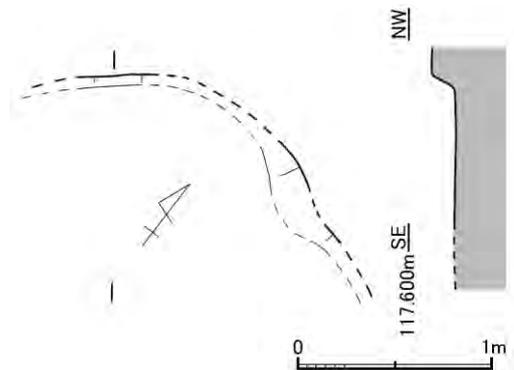
SK60 SK59 の南に位置する土坑である。複数の遺構と重複しているため詳細は不明である。南西に落ち込みがある。遺物は土師器が2点、磁器が1点、瓦が36点出土している。



第202図 SK60 平面・エレベーション図



第200図 SK58 平面・エレベーション図



第201図 SK59 平面・エレベーション図

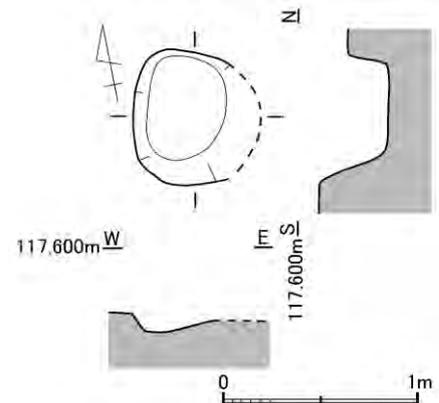
SK61 SK60 を切る土坑である。遺物は出土していない。

SK62 SK60 の南に位置する土坑である。西側をSP82に切れ、南をSP129に切られている。遺物は土師器が1点、須恵器が2点出土している。

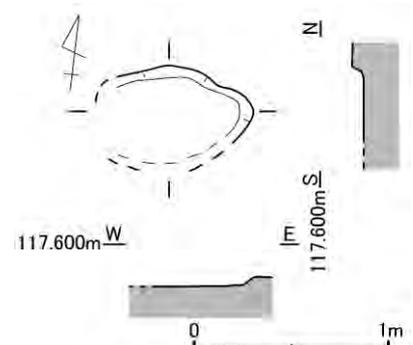
SK63 SK62 の南東に位置する土坑である。南北に長細い不定形を呈している。中央付近に掘り込みがあり、底からピット、南端にSP88が検出されている。遺物は土師器が12点、須恵器が3点、陶器が1点、瓦が43点、炭化物が2点出土している。

SK64 SK17 の南西に位置する土坑である。ピットである可能性もある。遺物は須恵器が1点、陶器が1点出土している。

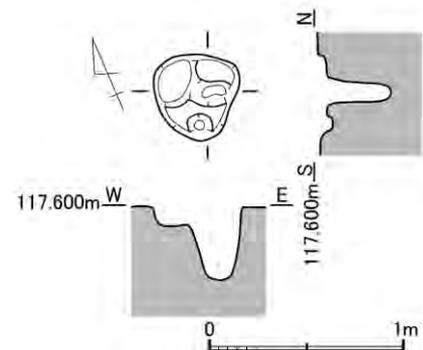
SK65 SK47 の底で検出した土坑である。底は2段となっている。土師器が2点、須恵器が1点、瓦が32点出土している。



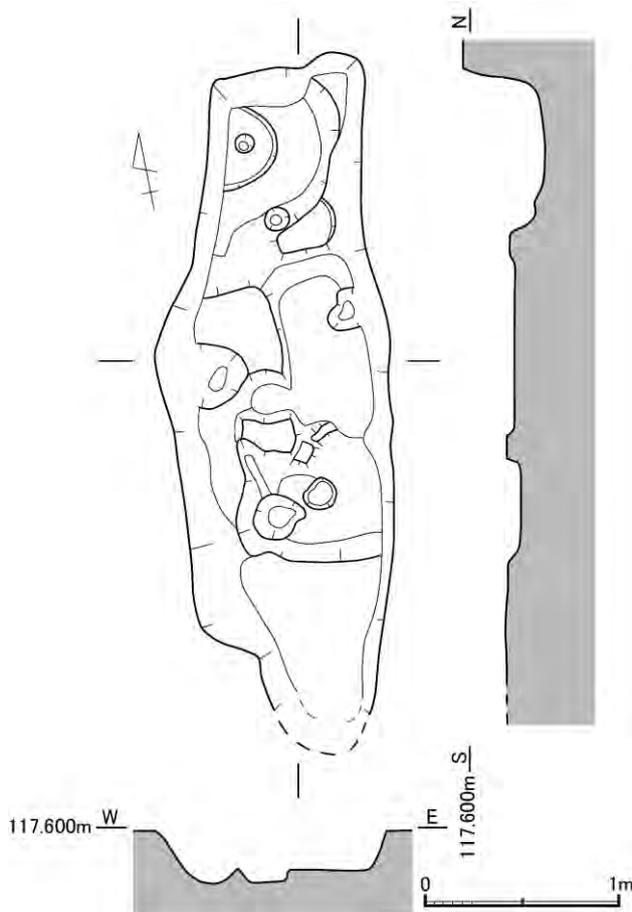
第203図 SK61 平面・エレベーション図



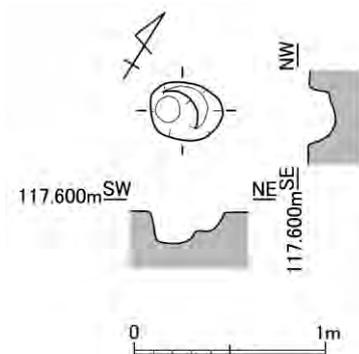
第204図 SK62 平面・エレベーション図



第206図 SK64 平面・エレベーション図

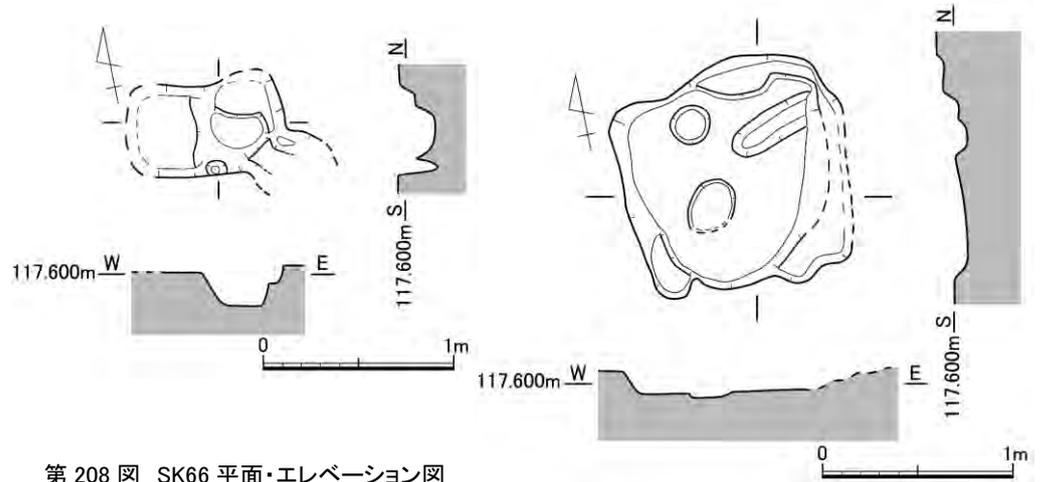


第205図 SK63 平面・エレベーション図



第207図 SK65 平面・エレベーション図

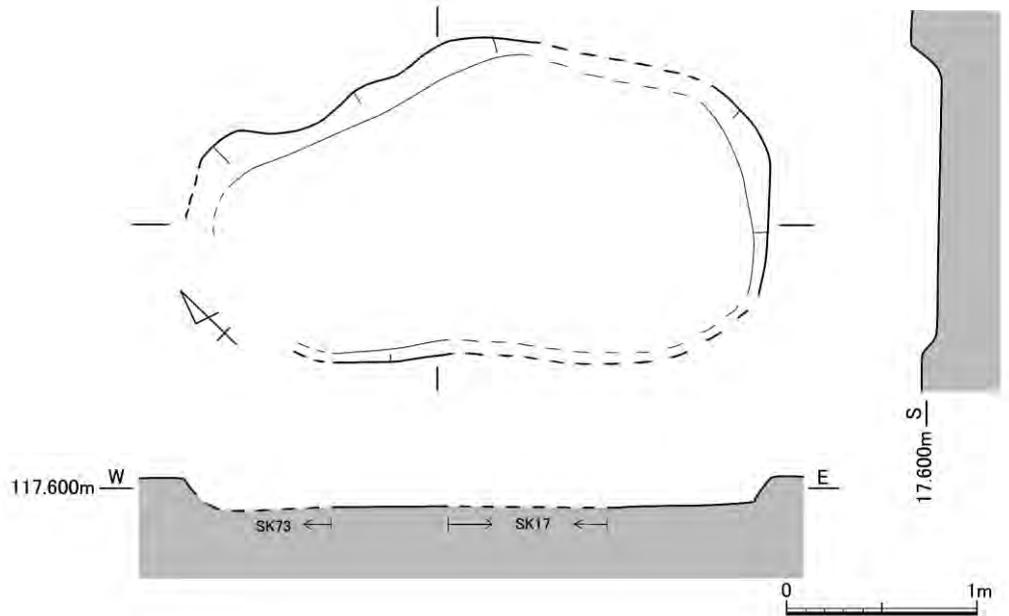
SK66 SK14 の西でSD01 を切る遺構である。不定形を呈しているが、ピットの可能性もある。遺物は土師器が1点、陶器が1点、瓦が9点出土している。



第 208 図 SK66 平面・エレベーション図

SK67 SK13 の南西に位置する土坑である。SP23 に切られている。底でSP52 を検出している。遺物は出土していない。

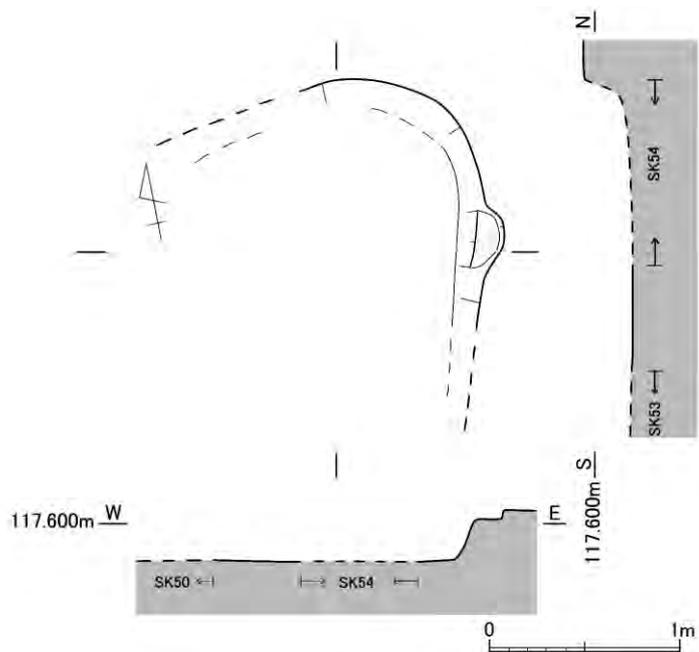
第 209 図 SK67 平面・エレベーション図



第 210 図 SK68 平面・エレベーション図

SK68 SK17 の上層に位置する土坑である。不定形を呈し、やや浅く掘り込まれている。底は平らである。遺物は出土していない。

SK69 SK53 の北側に位置し、SK50 とSK53 に西と南を切られる。遺物は出土していない。

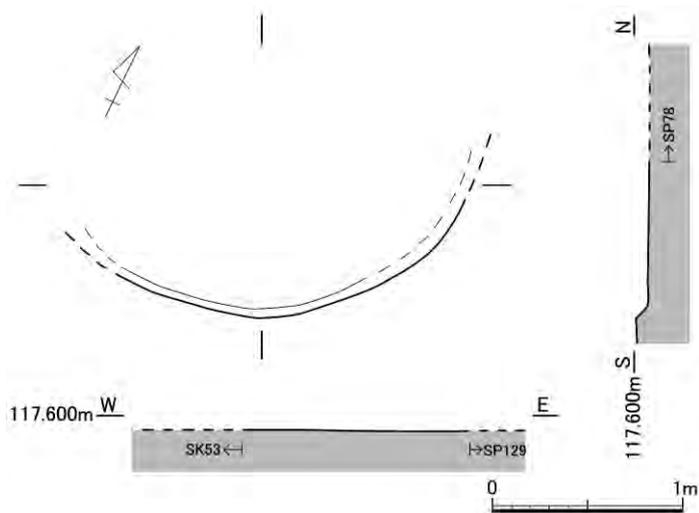


第 211 図 SK69 平面・エレベーション図

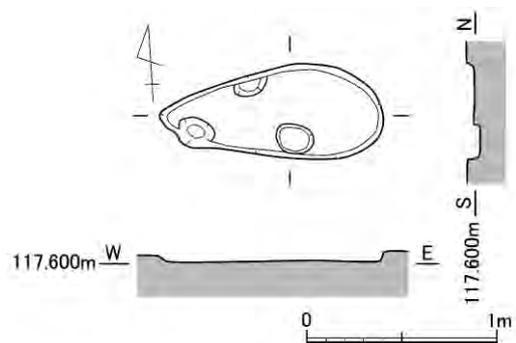
SK70 SK53 の東に隣接し、遺構の西側をSK53 に切られる。極浅いもので、下からピットを検出している。遺物は出土していない。

SK71 SK53 の南東に位置する東西方向に長い土坑である。浅いもので、底から小ピット状の遺構を3ヶ所検出している。遺物は出土していない。

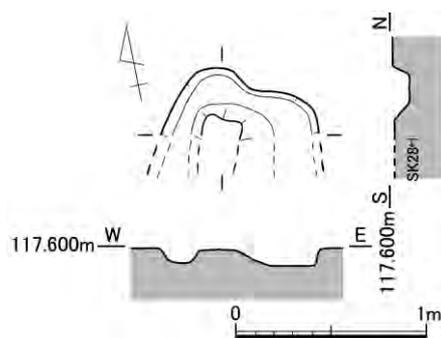
SK72 SK28 の北に隣接し、遺構の南側を切られる。底は中央部が高く、周りが低いドーナツ状となっている。遺物は出土していない。



第 212 図 SK70 平面・エレベーション図



第 213 図 SK71 平面・エレベーション図

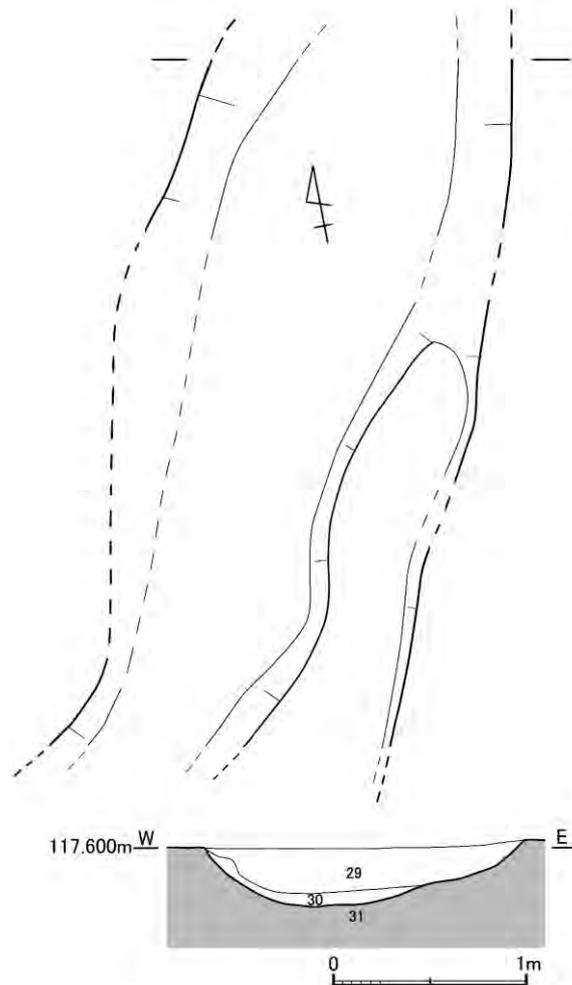


第 214 図 SK72 平面・エレベーション図

SD (溝)

SD 1 調査区の中央に南北方向に延びる溝状遺構である。幅約 2 m、長さ約 10m、深さはトレンチ北端で 0.3m である。埋土は 2 層からなり、上層は黄灰色粘砂質土・下層は黄灰色砂質土である。遺物は上層で土師器 9 点、須恵器 3 点、瓦 11 点が出土し、下層で土師器 2 点が出土している。

SD 状 調査区東端中央付近から西向きに SD 1 に合流する溝状遺構である。遺物は土師器 10 点、須恵器 7 点、磁器 1 点、瓦 18 点、石 1 点が出土している。



第 215 図 SD1 平面・断面図

第 13 表 大海道・華寺遺跡第4次調査 SK 規模一覽表

遺構	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
SK01	2.06	1.24 以上	0.45
SK02	0.60	0.55 以上	0.30
SK03	0.96	0.93	0.29
SK04	0.84	0.73	0.51
SK05	2.02 以上	1.90	0.36
SK06	3.30	1.70	0.79
SK07	0.79	0.36	0.32
SK08	0.50	0.41	0.05
SK09	0.89	0.79	0.21
SK10	0.64	0.40	0.16
SK11	2.24 以上	1.40	0.18
SK12	2.14 以上	0.67	0.17
SK13	3.38 以上	3.38	0.18
SK14	0.50	0.36	0.34
SK15	1.94 以上	0.90 以上	0.31
SK16	0.66 以上	0.47	0.14
SK17	1.12 以上	0.96	0.65
SK18	0.38	0.19	0.17
SK19	0.42 以上	0.36	0.12
SK20	0.56	0.36 以上	0.10
SK21	0.30	0.18	0.05
SK22	0.98	0.20	0.05
SK23	0.70 以上	0.40 以上	0.06
SK24	0.84	0.72	0.06

遺構	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
SK25	1.38	1.00 以上	0.20
SK26	1.90	0.90	0.21
SK27	0.73	0.37	0.13
SK28	2.01	1.90	0.52
SK29	0.64	0.14 以上	0.52
SK30	0.86 以上	0.80	0.23
SK31	1.98	1.43	0.24
SK32	0.63	0.34	0.19
SK33	0.71	0.46 以上	0.13
SK34	0.62	0.54	0.08
SK35	0.43	0.23 以上	0.06
SK36	0.60 以上	0.60 以上	0.38
SK37	0.57	0.54	0.31
SK38	2.14	1.93	0.35
SK39	1.03	0.75 以上	0.36
SK40	0.76	0.70	0.14
SK41	0.54	0.50	0.10
SK42	0.32	0.27	0.06
SK43	0.95	0.70	0.47
SK44	0.35	0.20 以上	0.12
SK45	0.61	0.52	0.21
SK46	0.51	0.34	0.13
SK47	0.91	0.84	0.29
SK48	2.47 以上	1.88 以上	0.35

遺構	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
SK49	0.70	0.70	0.46
SK50	2.00	0.97	0.16
SK51	0.63 以上	0.35 以上	0.26
SK52	0.68	0.53 以上	0.06
SK53	2.30	2.05	0.43
SK54	1.08	0.74	0.27
SK55	0.60	0.56	0.33
SK56	0.67	0.32	0.25
SK57	0.36	0.32	0.05
SK58	0.43	0.22	0.11
SK59	0.94 以上		0.13
SK60	1.45		0.32
SK61	0.68	0.40 以上	0.35
SK62	0.53	0.28	0.06
SK63	3.60	1.20	0.43
SK64	0.46	0.45	0.38
SK65	0.39	0.30	0.16
SK66	0.70 以上	0.50	0.21
SK67	1.40	1.16	0.15
SK68	2.20	1.45	0.15
SK69	1.40 以上	0.80 以上	0.26
SK70	1.17 以上	0.88 以上	0.06
SK71	1.20	0.50	0.07
SK72	0.83	0.32 以上	0.09

ピット (SP)

ピットは 144 基検出している。掘立柱建物の柱穴であると考えられるものもあるが、複数の遺構が多数重複していたため、掘立柱建物として復元することは困難であった。

第 14 表 大海道・華寺遺跡第4次調査 SP 規模一覧表

遺構	幅(m)	深さ(m)
SP01	0.24	0.44
SP02	0.20	0.06
SP03	0.38	0.09
SP04	0.25	0.25
SP05	0.27	0.18
SP06	0.50	0.40
SP07	0.75	0.20
SP08	0.47	0.32
SP09	0.45	0.14
SP10	0.60	0.35
SP11	0.60	0.27
SP12	0.52	0.13
SP13	0.52	0.16
SP14	0.36	0.20
SP15	0.17	0.04
SP16	0.25	0.16
SP17	0.25	0.49
SP18	0.35	0.09
SP19	0.60	0.40
SP20	0.50	0.33
SP21	0.40	0.18
SP22	0.36	0.20
SP23	0.35	0.55
SP24	0.25	0.25
SP25	0.52	0.09
SP26	0.25	0.03
SP27	0.45	0.42
SP28	0.17	0.13
SP29	0.27	1.20
SP30	0.13	0.07
SP31	0.41	0.09
SP32	0.50	0.08
SP33	0.36	0.25
SP34	0.34	0.17
SP35	0.44	0.41
SP36	0.10	—
SP37	0.25	0.34
SP38	0.34	0.32
SP39	0.33	0.13
SP40	0.55	0.35
SP41	0.26	0.07
SP42	0.30	0.62
SP43	0.30	0.07

遺構	幅(m)	深さ(m)
SP44	0.18	0.15
SP45	0.30	0.10
SP46	0.27	0.06
SP47	0.48	0.39
SP48	0.30	—
SP49	0.22	—
SP50	0.25	—
SP51	0.26	0.41
SP52	0.30	0.30
SP53	0.14	0.13
SP54	0.17	0.02
SP55	0.28	0.05
SP56	0.25	0.04
SP57	0.22	0.09
SP58	0.23	0.09
SP59	0.40	0.12
SP60	0.64	0.41
SP61	0.40	0.53
SP62	0.37	0.19
SP63	0.48	0.57
SP64	0.24	0.15
SP65	0.30	0.27
SP66	0.56	0.60
SP67	0.72	0.31
SP68	0.30	0.09
SP69	0.70	0.68
SP70	0.30	0.13
SP71	0.20	0.13
SP72	0.32	0.18
SP73	0.30	0.10
SP74	0.62	0.52
SP75	0.50	0.14
SP76	0.40 以上	0.15
SP77	0.45	0.17
SP78	0.55	0.54
SP79	0.30	0.20
SP80	0.35	0.20
SP81	0.58	0.23
SP82	0.58	0.38
SP83	0.84	0.51
SP84	0.35	0.25
SP85	0.27	0.07
SP86	0.50	0.35

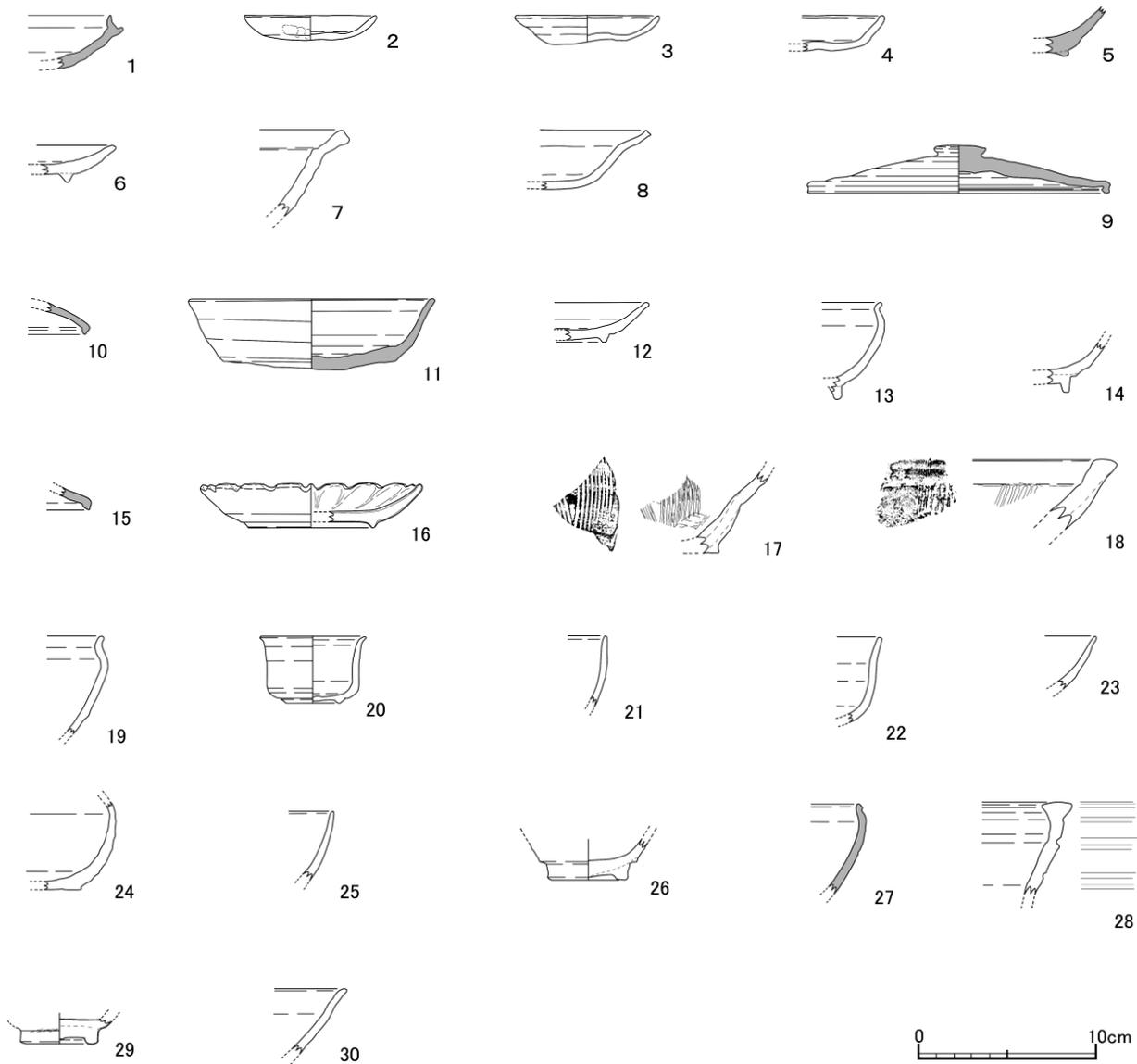
遺構	幅(m)	深さ(m)
SP87	0.58	0.17
SP88	0.43	0.27
SP89	0.13	0.20
SP90	0.38	0.05
SP91	0.50	0.14
SP92	0.28	0.05
SP93	0.50	0.46
SP94	0.54	0.15
SP95	1.44	0.30
SP96	0.30	0.18
SP97	0.21	0.06
SP98	0.22	0.23
SP99	0.60	0.05
SP100	0.50	0.19
SP101	0.60	0.47
SP102	0.54	0.20
SP103	0.78	0.25
SP104	0.25	0.10
SP105	0.48	0.04
SP106	0.48	0.06
SP107	0.10	0.04
SP108	0.26	0.04
SP109	0.38	0.06
SP110	0.10	—
SP111	0.34	0.23
SP112	0.38	0.12
SP113	0.30	0.06
SP114	0.40	0.16
SP115	0.40	0.08
SP116	0.46	0.16
SP117	0.14	0.11
SP118	0.30	0.05
SP119	0.38	0.10
SP120	0.70	0.05
SP121	0.74	0.13
SP122	0.60	0.10
SP123	0.44	0.20
SP124	0.32	0.12
SP125	0.34	0.36
SP126	0.18	0.14
SP127	0.22	0.10
SP128	0.54	0.20
SP129	0.30	0.54

遺構	幅(m)	深さ(m)
SP130	0.36	0.24
SP131	0.40	0.10
SP132	0.16	0.05
SP133	0.16	—
SP134	0.20	—
SP135	0.10	0.06
SP136	0.12	0.24
SP137	0.48	0.08
SP138	0.66	0.15
SP139	0.39	0.10
SP140	0.14	0.08
SP141	0.28	0.06
SP142	0.17	0.06
SP143	0.34	0.10
SP144	0.72	0.14

遺物

出土した遺物の種類は、須恵器、土師器、陶器、磁器、瓦、磚、石製品、古銭、スラッグである。詳細は観察表を参照されたい。

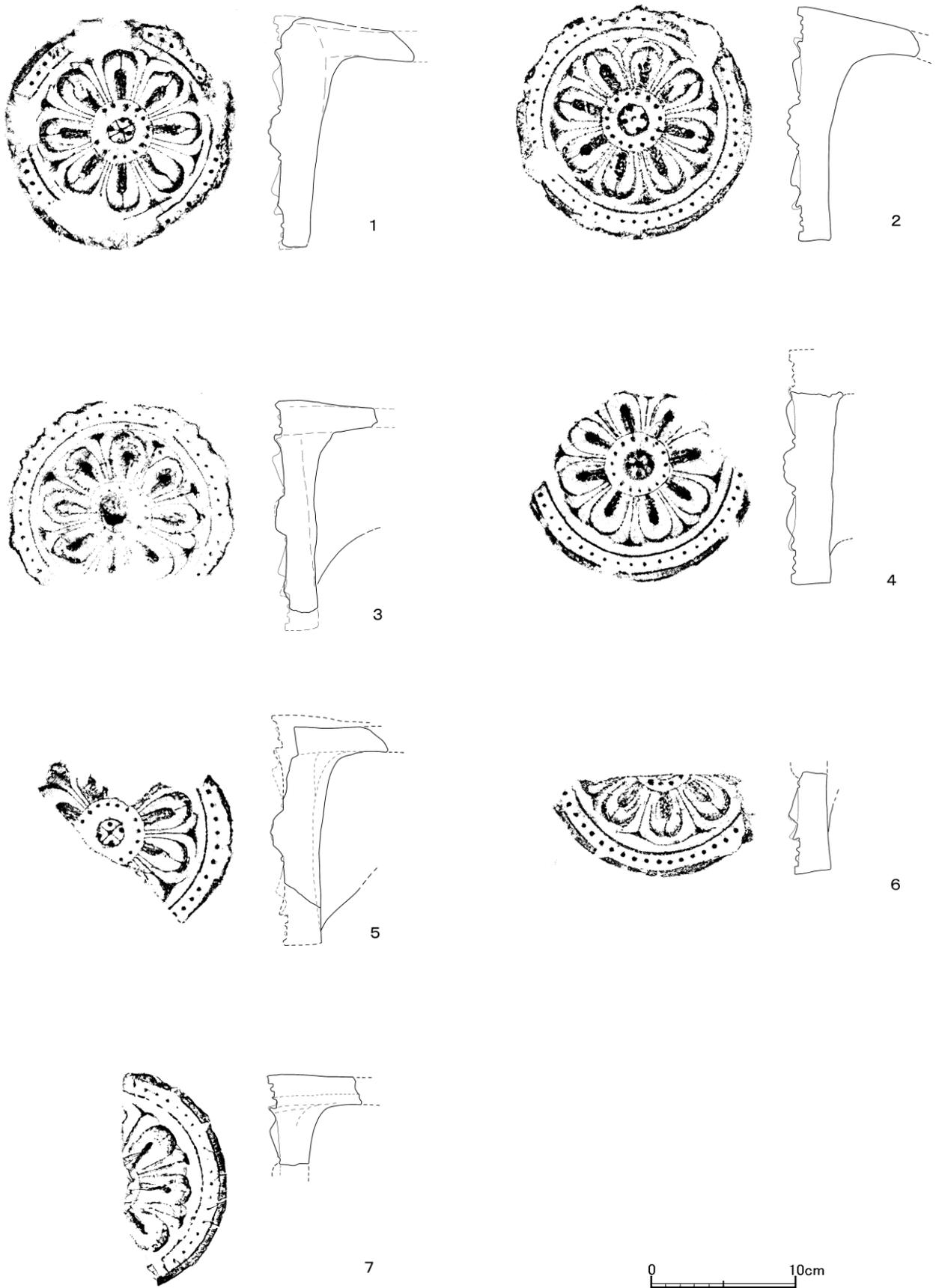
土器類



第 216 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(1)

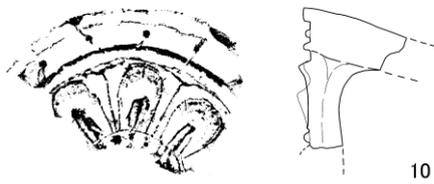
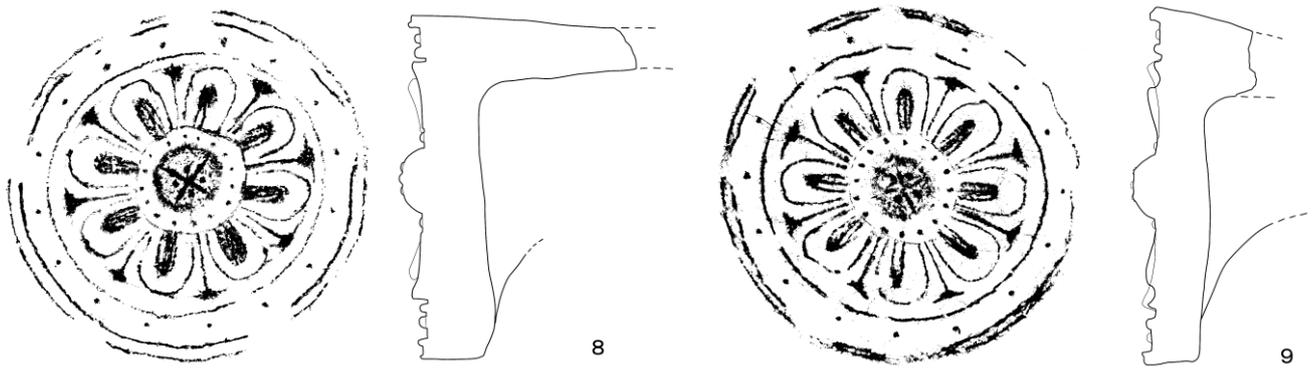
瓦類

軒丸瓦 1類



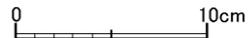
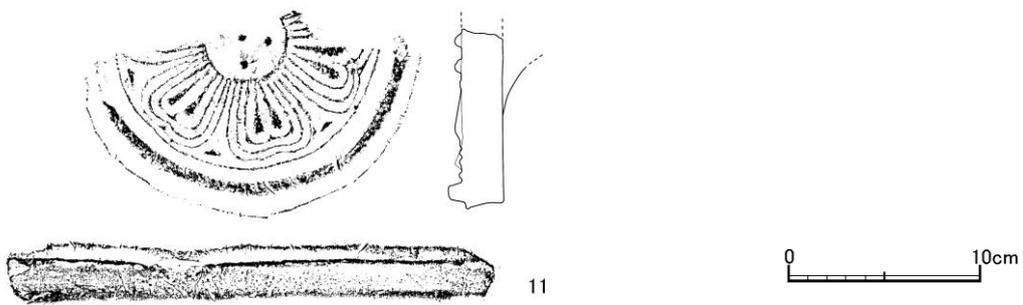
第 217 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(2)

軒丸瓦 2類



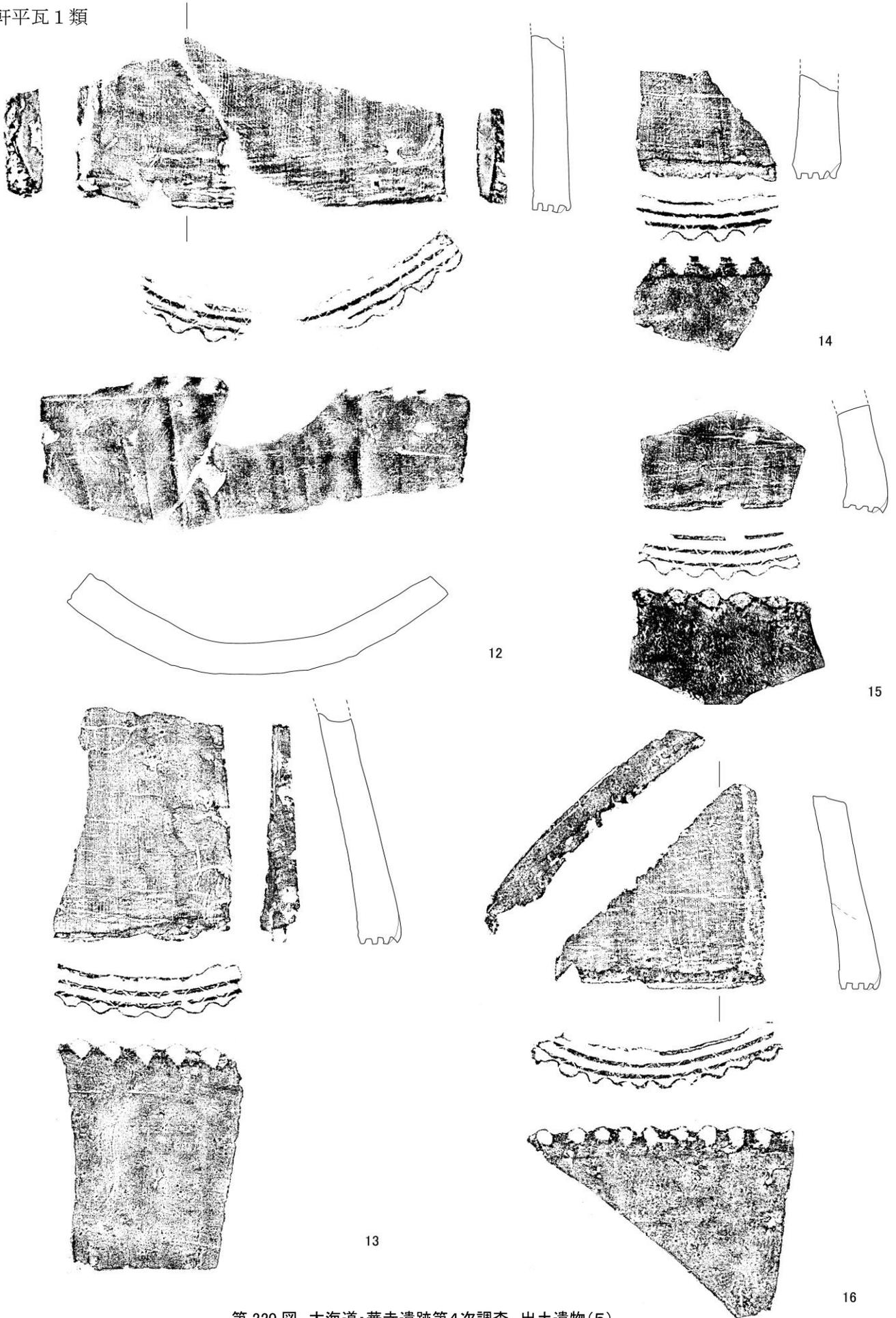
第 218 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(3)

軒丸瓦 3類



第 219 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(4)

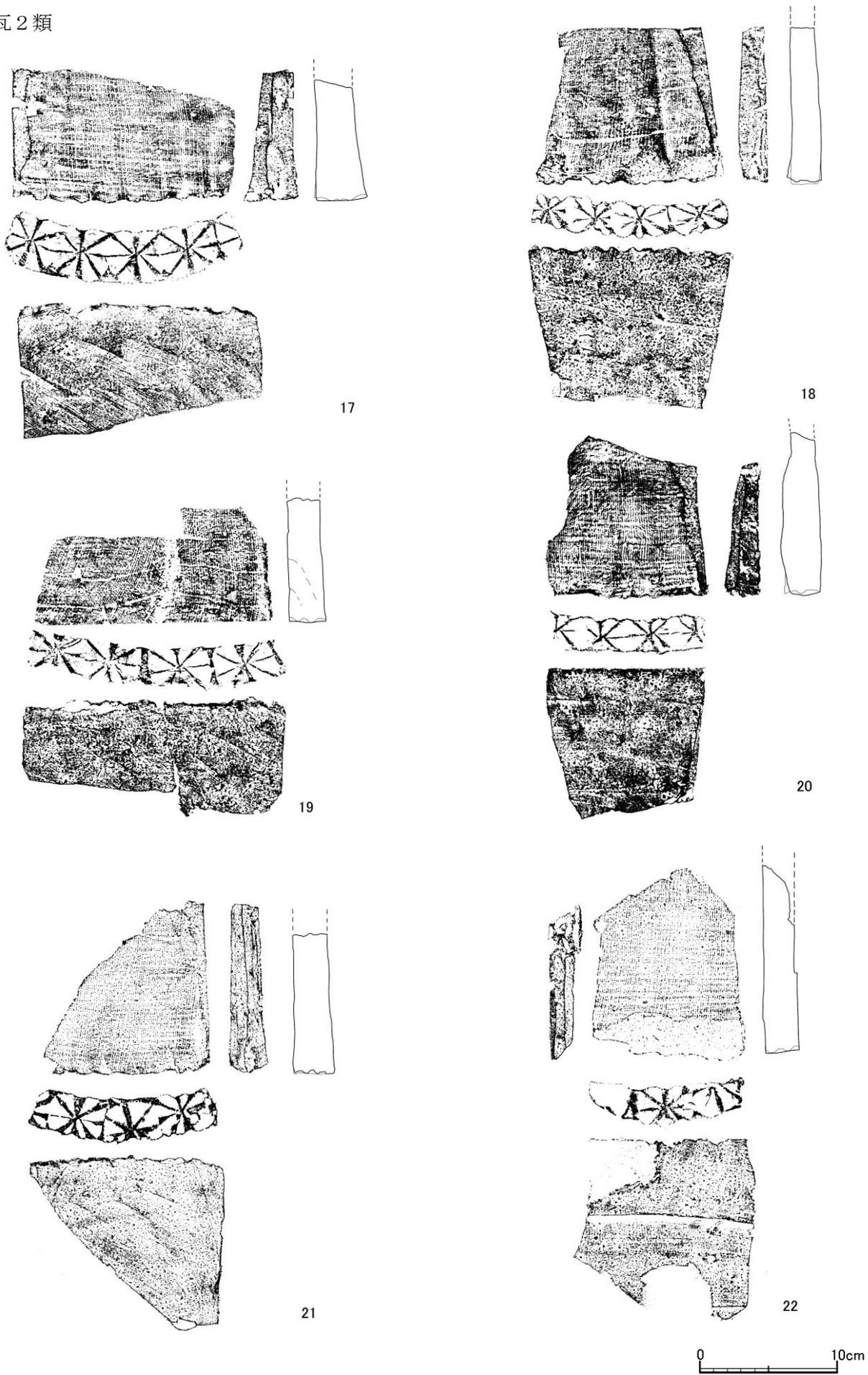
軒平瓦 1 類



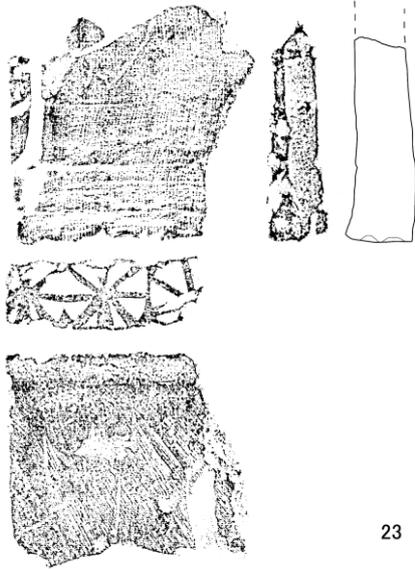
第 220 図 大海道・華寺遺跡第 4 次調査 出土遺物(5)

0 10cm

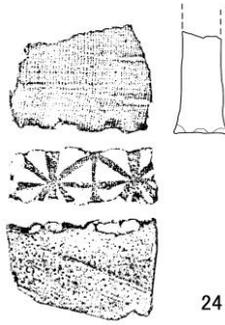
軒平瓦 2類



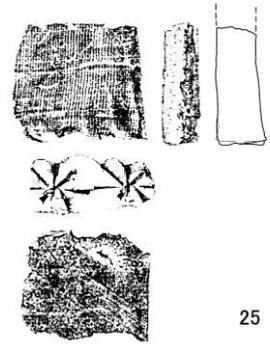
第 221 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(6)



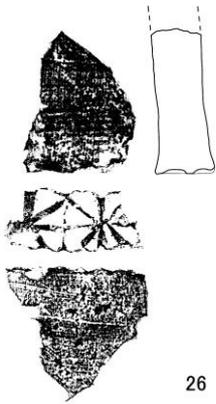
23



24



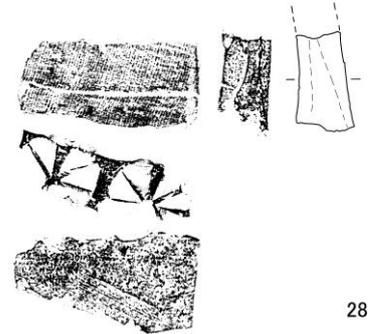
25



26



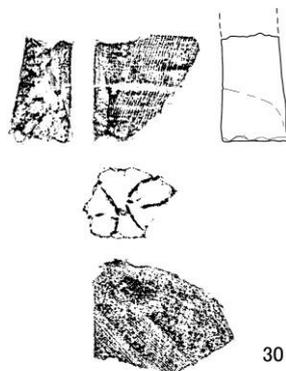
27



28



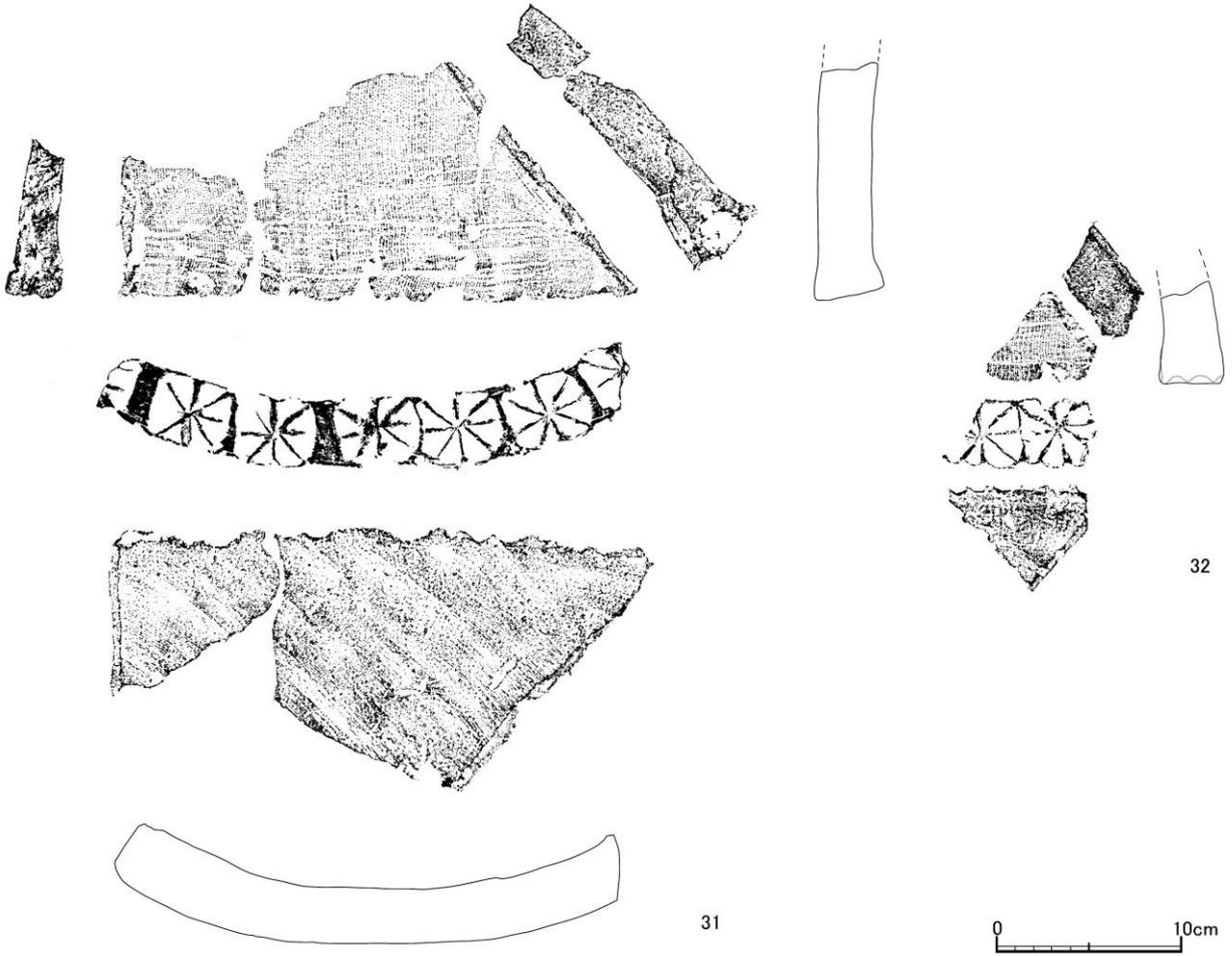
29



30

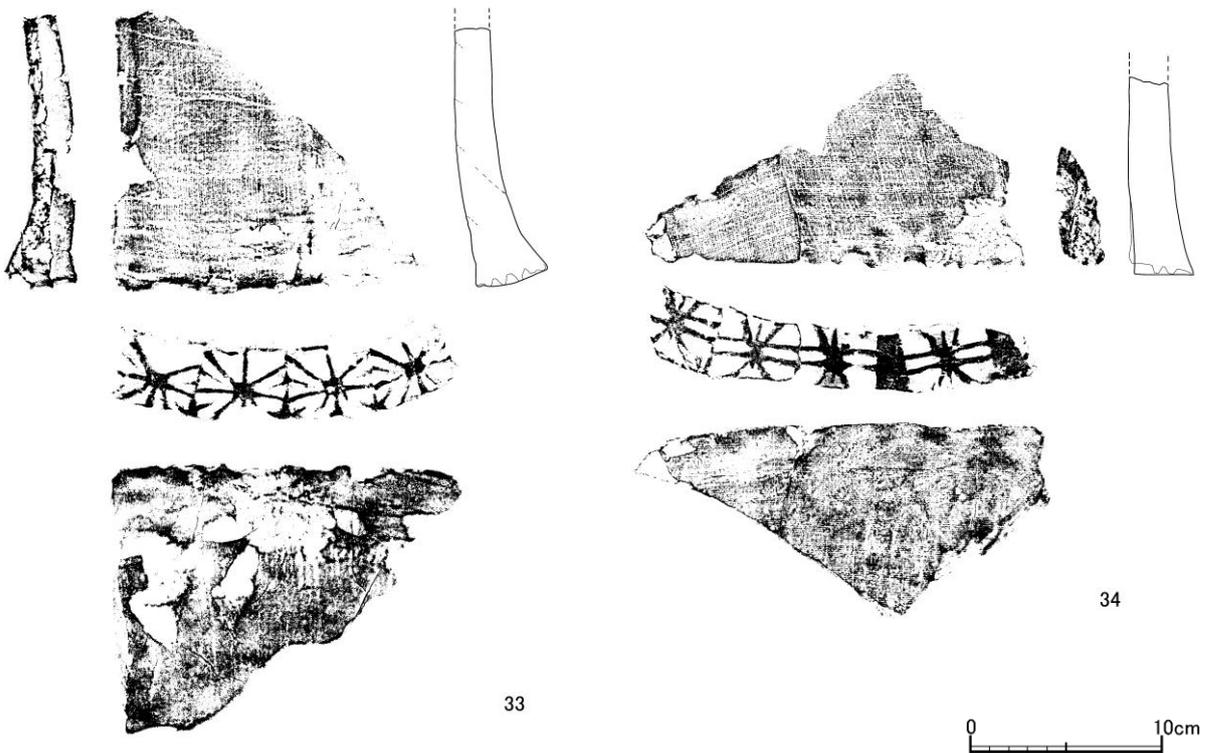


第 222 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(7)



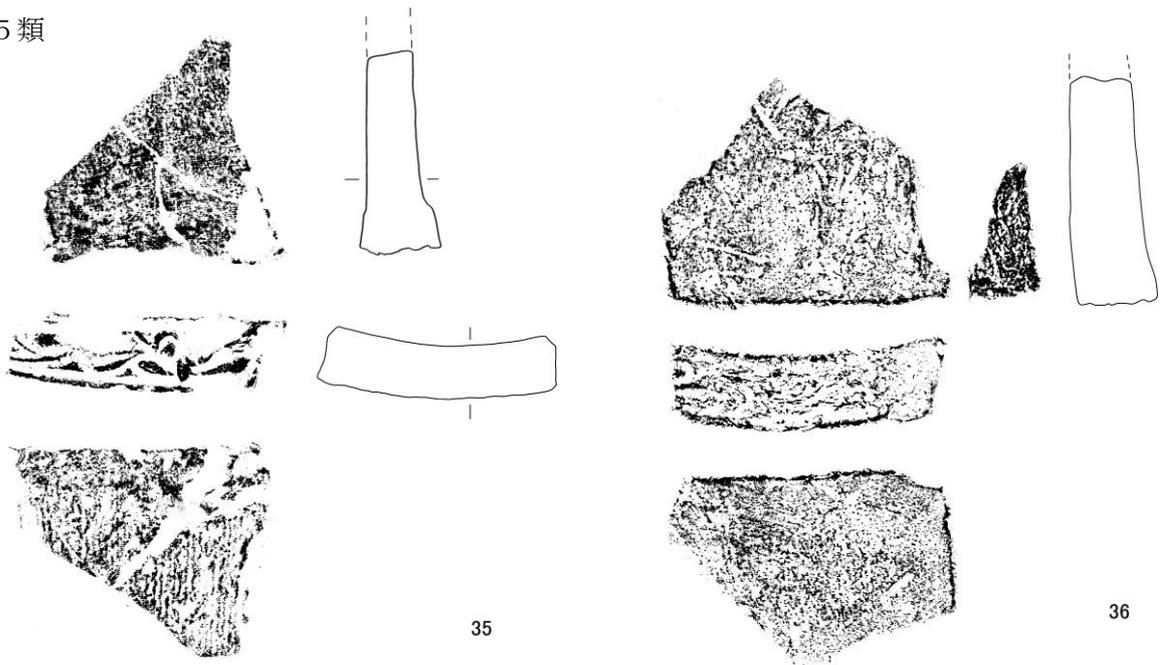
第 223 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(8)

軒平瓦 3類・4類



第 224 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(9)

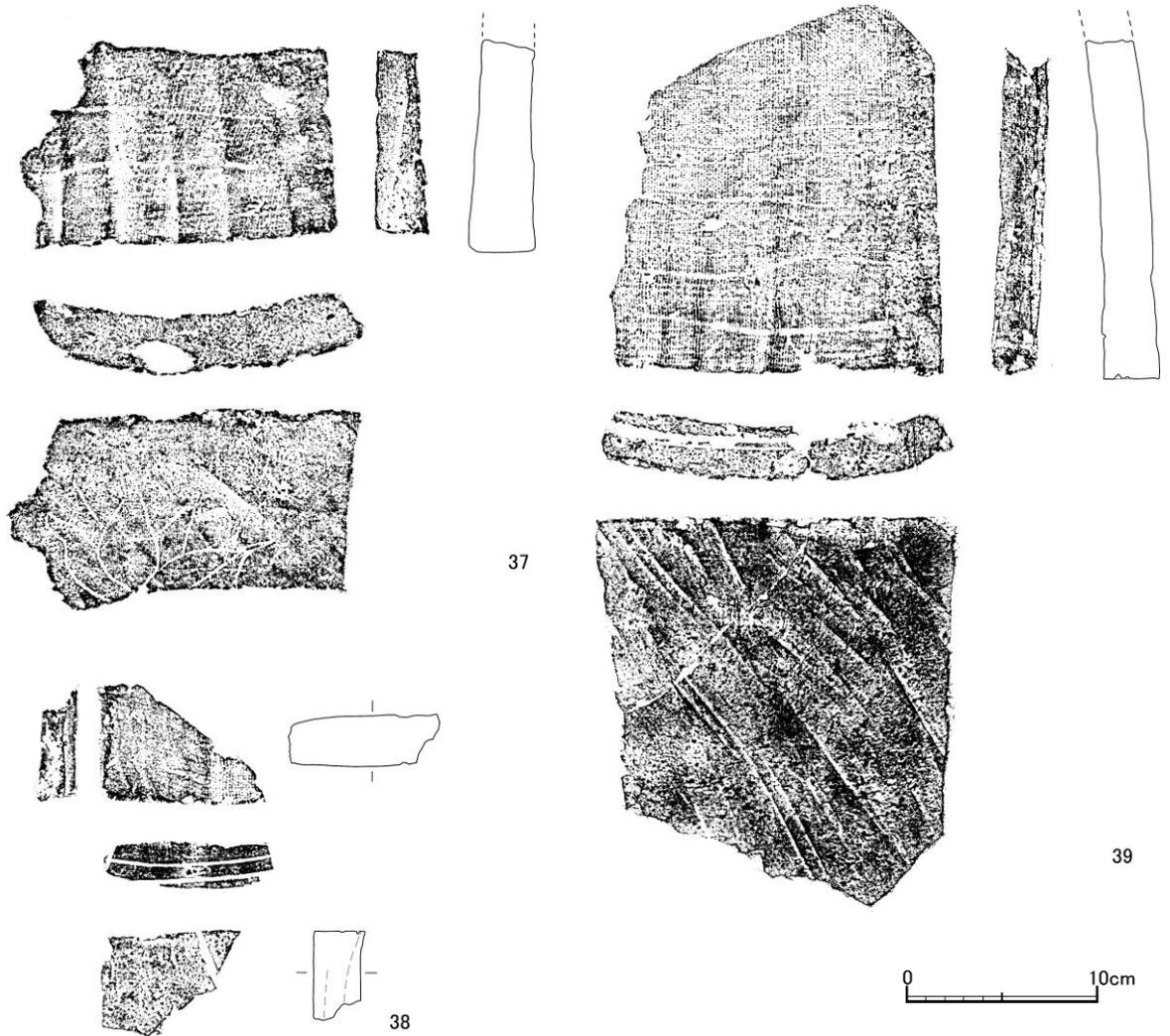
軒平瓦 5 類



第 225 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(10)

0 10cm

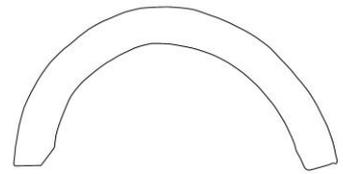
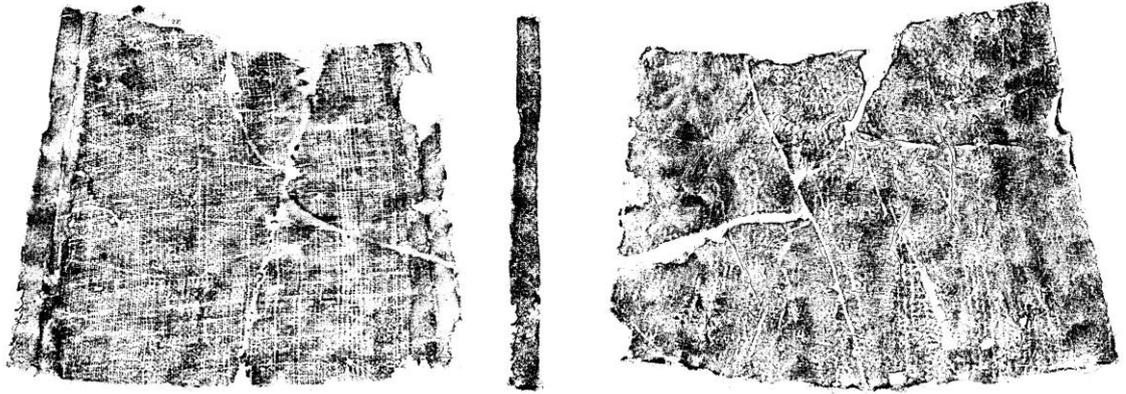
軒平瓦 6 類 (素文軒平瓦等)



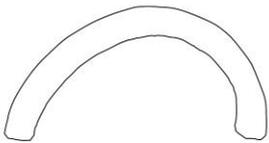
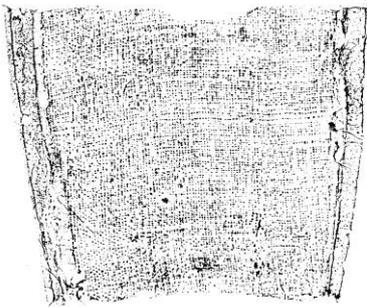
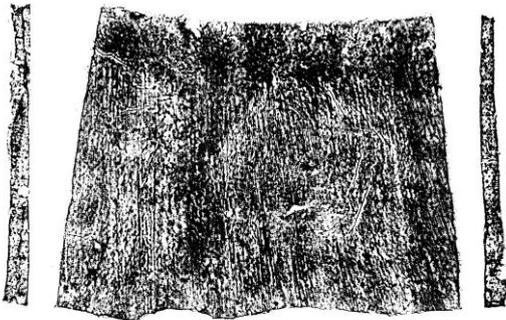
第 226 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(11)

0 10cm

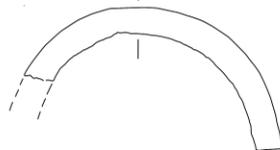
丸瓦



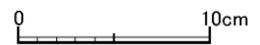
40



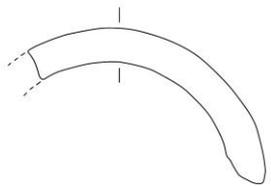
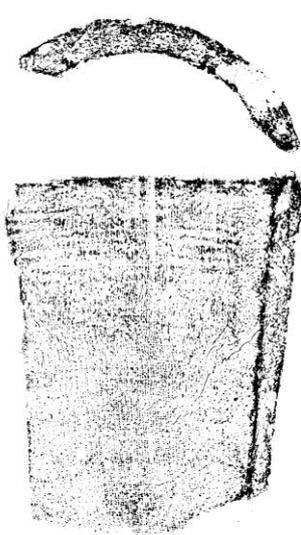
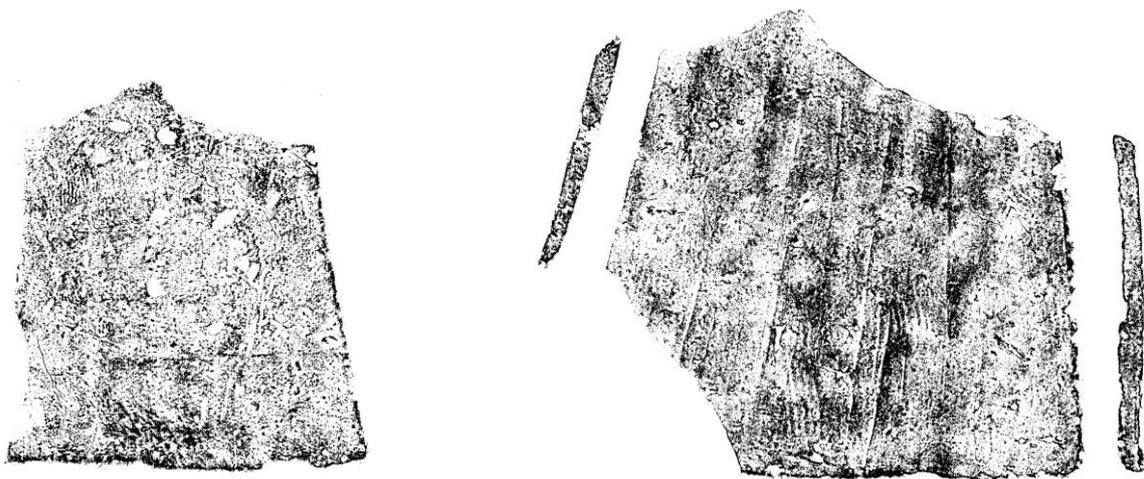
41



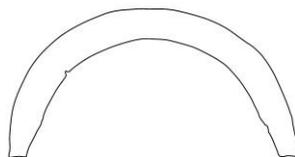
42



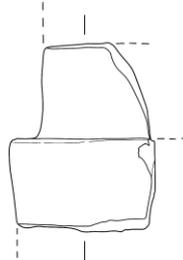
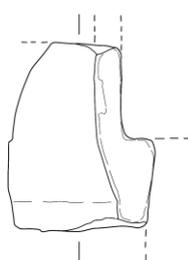
第 227 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(12)



43



44

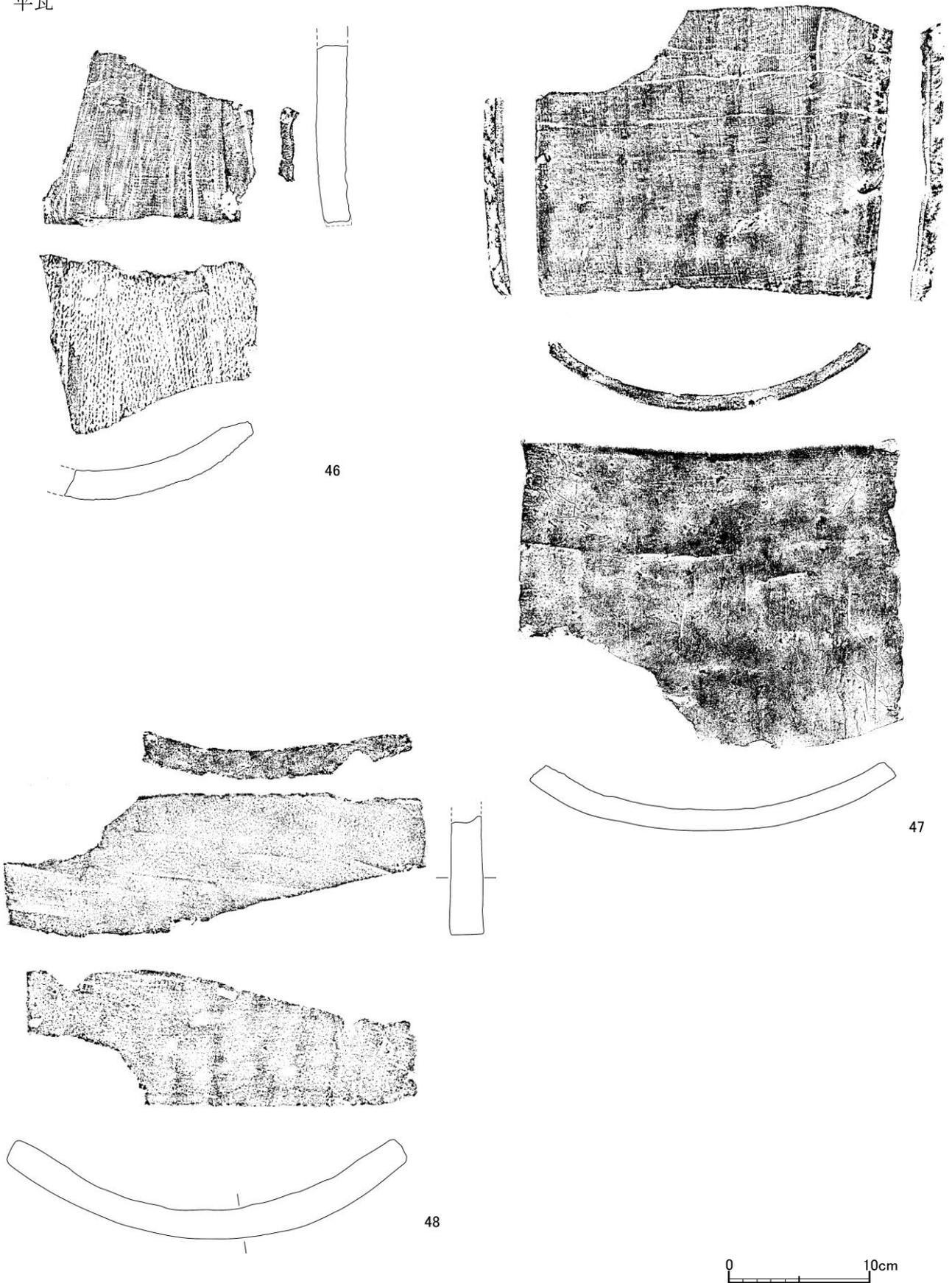


45



第 228 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(13)

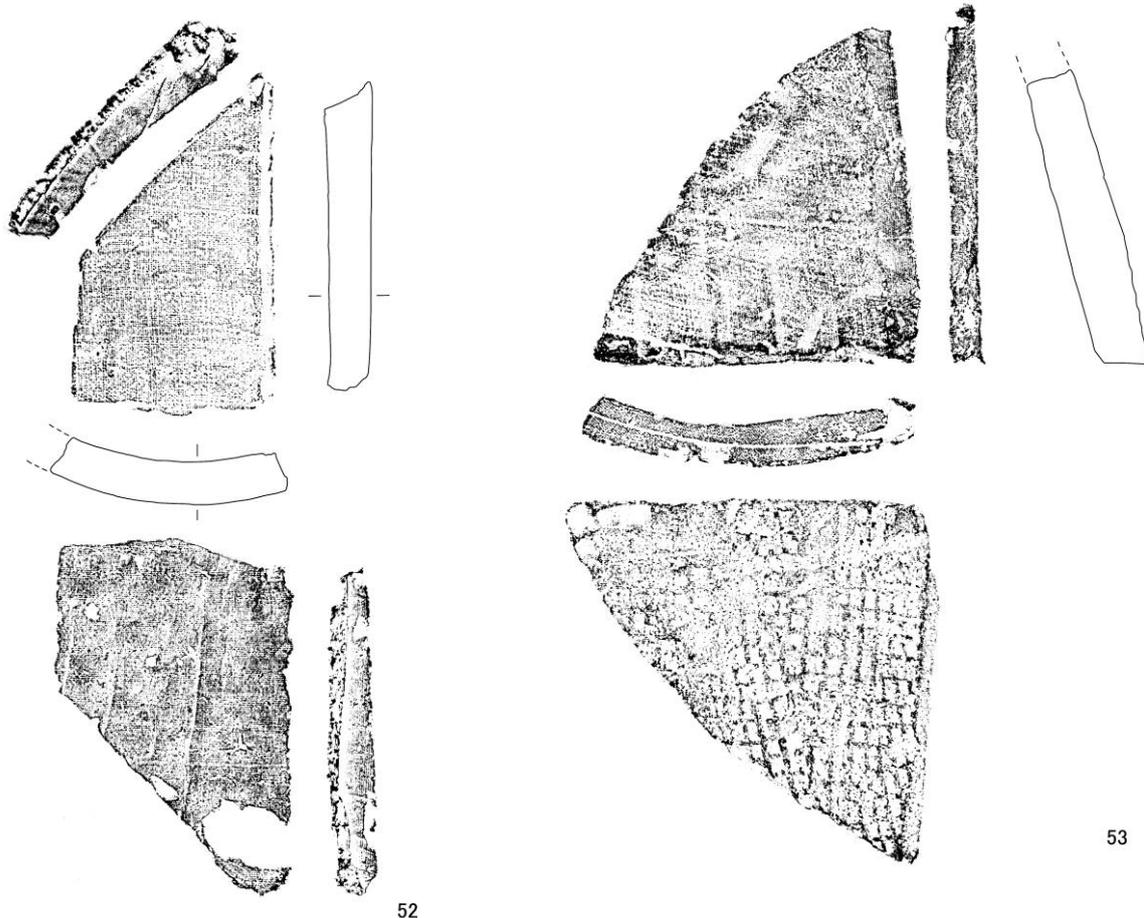
平瓦



第229 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(14)

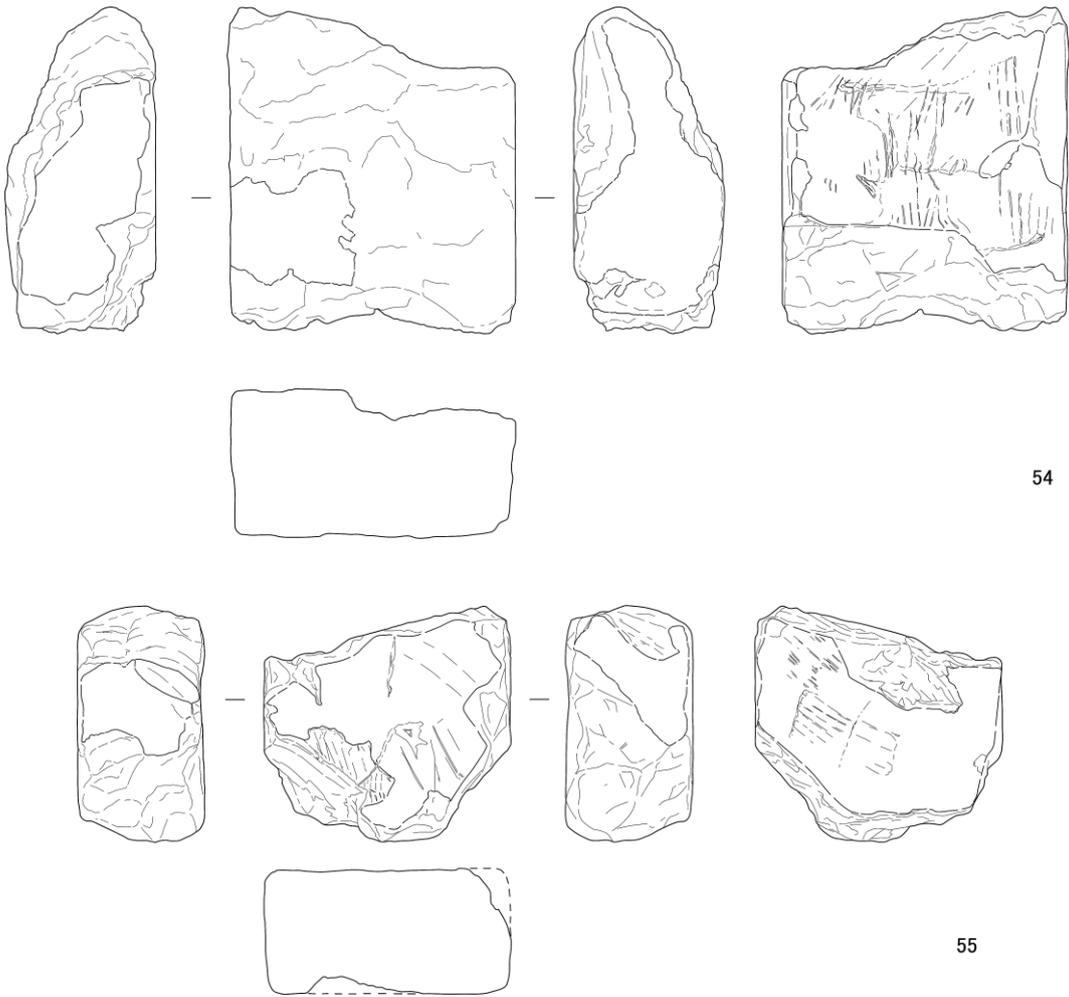


第 230 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(15)



第 231 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(16)

磚



54

55



第 232 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(17)

古銭

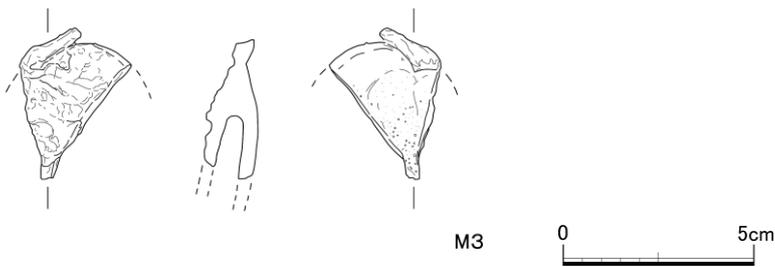


M1

M2



スラッグ

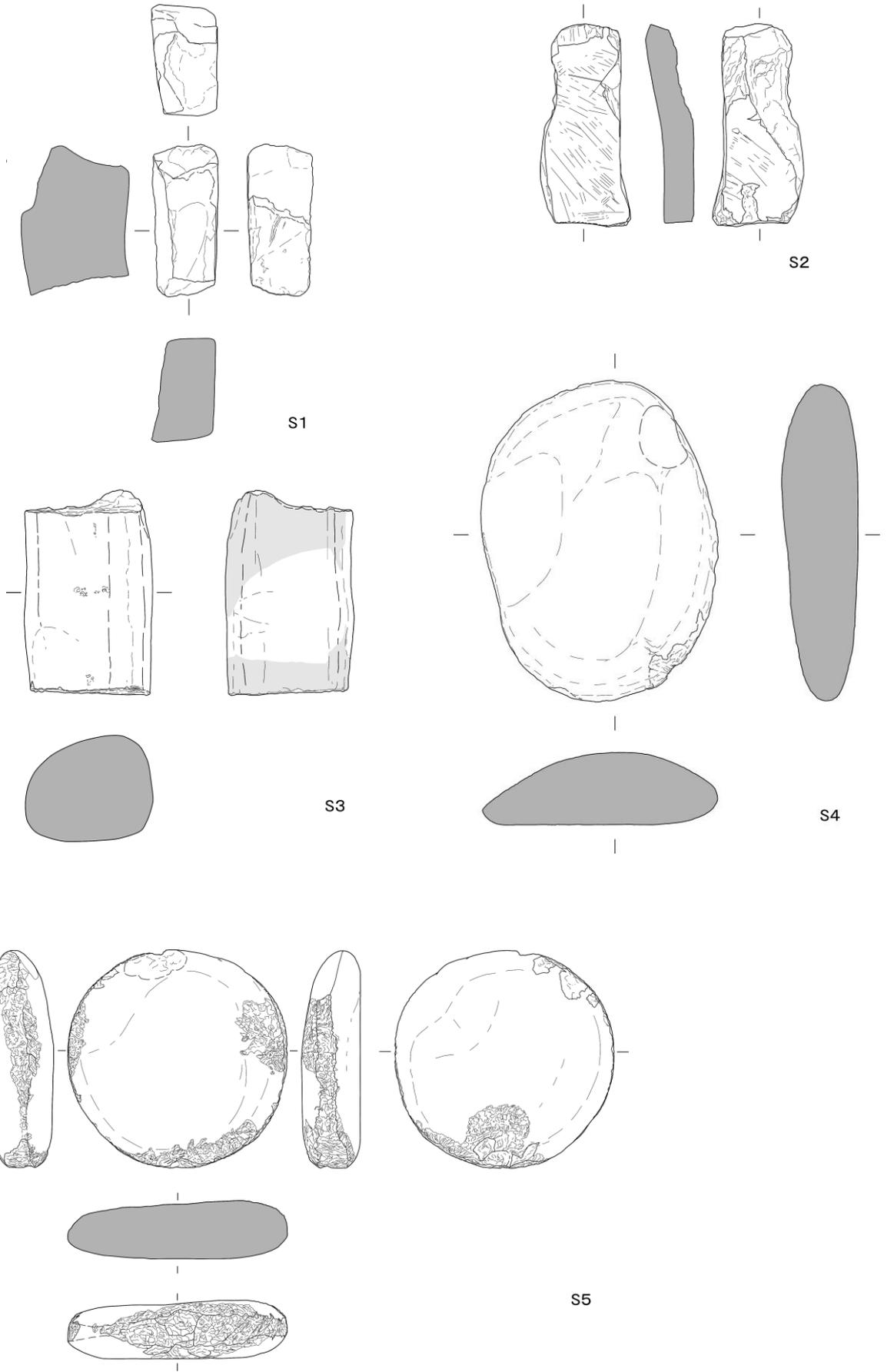


M3

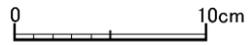
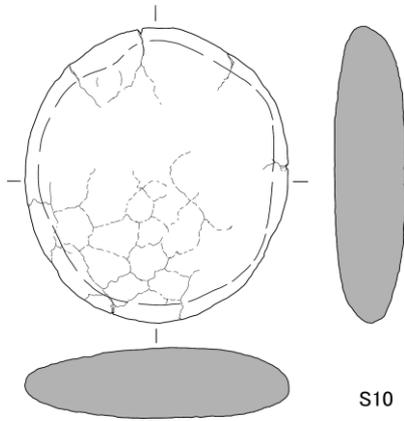
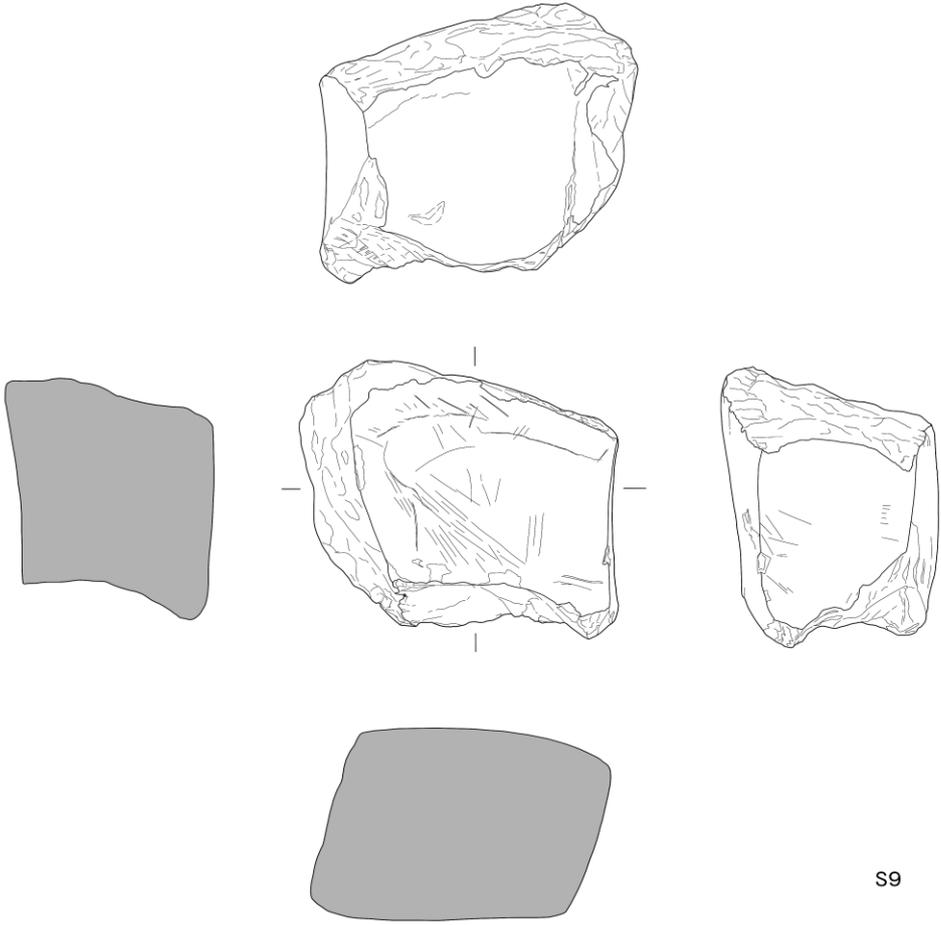
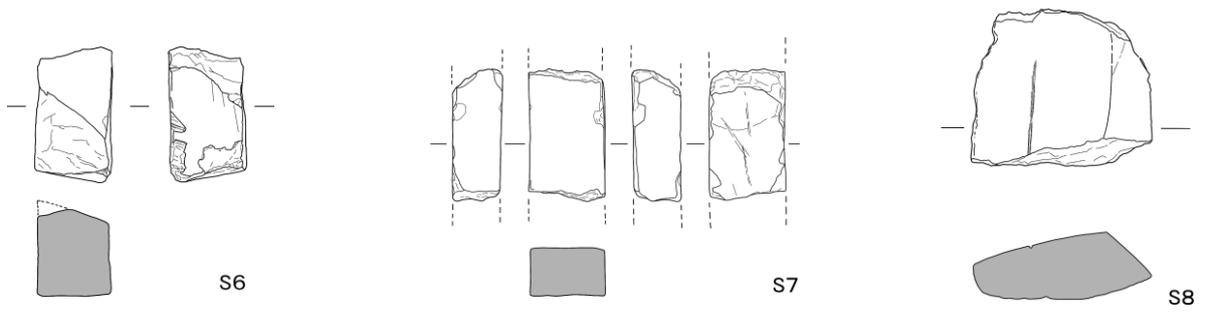


第 233 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(18)

石製品等



第 234 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(19)



第 235 図 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物(20)

第 15 表 北海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物観察表(土器1)

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		分量	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SK01	須恵器	杯	N6 灰色	N5 灰色	2.5YR5/1 赤灰色	密	良	回転ナデ 自然釉	回転ナデ	残存高 3cm	1/4 (口縁部)	杯H身 断面実測
2	SK06	土師器	皿	5YR8/3 淡橙色	10YR8/2 灰白色	7.5YR7/1 明褐色	密 (中粒砂を含む)	良	横ナデ ナデ 指押え	横ナデ ナデ	器高 1.4cm 復元口径 7.5cm	1/5	反転復元実測
3	SK06	土師器	皿	5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR8/3 浅黄橙色	密 (粗粒砂を含む)	良	横ナデ ナデ	横ナデ ナデ	器高 1.6cm 口径 8.2cm	4/5	
4	SK06	土師器	皿	10YR6/1 褐灰色	10YR8/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	密 (中粒砂を少量含む)	良	横ナデ ナデ	横ナデ ナデ	器高 2.0cm	1/8 (口縁部)	断面実測
5	SK06	須恵器	杯	N8 灰白色	N7 灰白色	N8 灰白色	密	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 2.8cm	1/10 以下	高台付坏身 断面実測
6	SK06	陶器	皿	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y7/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ へら削り 釉	回転ナデ 釉	器高 2.1cm	1/4 (底部)	内面重ね焼きあり 外面高台付近煤ける 高台周辺(口縁部)付着物あり
7	SK06	陶器	鉢	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 4.8cm	1/12 (口縁部)	断面実測
8	SK13 北西隅瓦層	土師器	皿	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	5Y7/1 灰白色	やや密 (粗粒砂を含む)	やや不良	不明瞭	不明瞭	器高 3.3cm	1/4	断面実測 表面 摩耗が著しい。推定口径 20cm 以上
9	SK13 北西隅瓦層	須恵器	杯	5Y7/3 灰白色	N7 灰白色	N7 灰白色	密 (中粒砂を含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ	器高 2.7cm 復元口径 16.8cm	1/4	反転復元実測 坏蓋つまみ返りあり。ロクロ方向 左
10	SK13 北 瓦層	須恵器	杯	N6 灰色	N6 灰色	N7 灰白色	密 (粗粒砂 極細粒砂を含む)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 1.8cm	1/10	断面実測 坏蓋 推定口径 17cm
11	SK13	須恵器	杯	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	密 (粗粒砂を含む)	やや不良	回転ナデ へら削り	回転ナデ	器高 4.0cm 口径 13.8cm	9/10	摩耗が著しい
12	SK17 東側瓦礫層(下層)	灰釉陶器	皿	5Y7/2 灰白色	5Y7/2 灰白色	5Y7/2 灰白色	密 (中粒砂を含む)	良	回転ナデ 削り 釉	回転ナデ 釉	器高 2.2cm	1/5 (底部)	断面実測 内面に重ね焼き痕あり
13	SK17 東側瓦礫層(下層)	陶器	天目茶碗	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	2.5YR2/1 赤黒色	10YR8/2 灰白色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ 削り 高台削り 出し後回転ナデ	回転ナデ 釉	器高 5.5cm	1/4 (口縁部)	断面実測 高台削り出し
14	SK17 東側瓦礫層(下層)	陶器	天目茶碗	2.5YR2/1 赤黒色	7.5YR2/1 黒色	7.5YR8/1 灰白色	やや密 (粗粒砂 極粗粒砂を含む)	良	回転ナデ 削り 高台削り 出し後回転ナデ	釉 削り後ナデ	器高 2.8cm	1/3 (底部)	断面実測 高台削り出し
15	SK23	須恵器	杯	5Y6/1 灰色	N7 灰白色	N7 灰白色	密 (中粒砂を含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ	残存高 1.2cm	1/10 以下 (口縁部)	断面実測 坏蓋
16	SK39 (SP64, 65の上面)	陶器	皿	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	10YR7/2 にぶい黄橙色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ ナデ 釉	器高 2.4cm 復元口径 12.3cm 復元底径 7.0cm	1/2	志野焼 菊皿 1mm 程の釉を施す。
17	SK39 (SP64, 65の上面)	陶器	播鉢	5YR5/2 灰褐色	7.5YR5/4 にぶい橙色	10YR6/1 褐灰色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ	すり目	残存高 4.6cm	1/10 以下	断面実測 底部
18	SK39 (SP64, 65の上面)	陶器	播鉢	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	10YR8/3 浅黄橙色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ	回転ナデ すり目	残存高 4.0cm	1/10 以下	断面実測 口縁部
19	SK45	陶器	天目茶碗	5YR2/1 黒褐色	5YR3/2 黒褐色	10YR7/1 灰白色	密 (粗粒砂を少量含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 5.5cm	1/5 以下 (口縁部)	断面実測
20	SK46	陶器	杯	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ 削り後ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 3.7cm 復元口径 5.9cm 復元底径 4.2cm	1/2	反転復元実測 断面 底部等素地の見える部分が煤けている
21	SK48 SK13 の南の混入	陶器	碗	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/2 灰白色	密 (粗粒砂を少量含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 4.0cm	1/6 以下 (口縁部)	断面実測
22	SK48 SK13 の南の混入	陶器	碗	5Y7/2 灰白色	5Y7/2 灰白色	5Y7/2 灰白色	密 (粗粒砂を少量含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 4.8cm	1/10 以下 (口縁部)	断面実測
23	SK48 SK13 の南の混入	陶器	碗	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	7.5Y6/1 灰色	密 (中粒砂を含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 3.0cm	1/10 以下 (口縁部)	断面実測 釉は、刷毛で横方向に施工
24	SK48 SK13 の南の混入	陶器	壺 or 壺	5YR4/1 褐灰色	5YR4/3 にぶい赤褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	密 (粗粒砂 石英を含む)	やや良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 5.0cm	1/4 (底部)	断面実測
25	SK48 SK13 の南の混入	磁器	碗	5BG7/1 明青灰色	5BG7/1 明青灰色	N8 灰白色	密 (中粒砂を含む)	良	回転ナデ 釉 染付	回転ナデ 釉	残存高 4.0cm	1/6 以下 (口縁部)	断面実測
26	SK49	陶器	天目茶碗	10YR8/3 浅黄橙色	10YR3/1 黒褐色	10YR8/3 浅黄橙色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ 高台削り出し 後回転ナデ	釉	残存高 2.3cm 復元底径 4.2cm	1/3 (底部)	反転復元実測 高台削り出し 底部
27	SK57	須恵器	鉢	N6 灰色	N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂を少量含む)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 5.1cm	1/10 以下 (口縁部)	断面実測
28	SD 状南側	SP25 陶器	壺	5YR4/1 褐灰色	7.5YR5/2 灰褐色	N7 灰白色	密 (粗粒砂 長石 石英を多量含む)	良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉 凹線文	残存高 5.3cm	1/10 以下 (口縁部)	断面実測 口縁部

第 16 表 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物観察表(土器2)

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
29	SP11	磁器	碗	10GY7/1 明緑灰色	7GY7/1 明緑灰色	N7 灰白色	密 (粗粒砂を少量含む)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 1.4cm 底径 3.8cm	3/4 (口縁部)	
30	SP69	山茶碗	碗	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	密 (粗粒砂を含む)	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 3.6cm	1/10 以下	断面実測

第 17 表 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物観察表(瓦1)

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SK06	瓦	軒丸瓦	10YR8/2 灰白色	10YR6/1 褐灰色	10YR8/2 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 ナデ・横ナデ 丸瓦部凹面 布目痕	中区(直径 16.5cm 中房 径 1.8cm 蓮子数 1+4 弁 区径 11.6cm 弁数 8 弁) 外区(幅 1.8cm 高さ 0.3cm)瓦当厚 2.2cm(外 縁)	4/5 (瓦当)	単弁八葉蓮華文 中房の蓮子は、 突線で十字に結ばれる。中房の外 輪、外区は、珠文
2	SP63	瓦	軒丸瓦	凸 2.5Y6/1 黄灰色	凹 7.5YR5/1 褐灰色 7.5YR7/4 に ぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	密 (細礫を含む)	良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 ナデ 丸瓦部凹面 布目痕	中区(直径 16.4cm 中房 径 2.9cm 蓮子数 1+4 弁 区径 11.6cm 弁数 8 弁) 外区(幅 1.9cm 高さ 0.3cm)瓦当厚 2.3cm(外 縁)	不明	単弁八葉蓮華文
3	SK13	瓦	軒丸瓦	2.5YR5/1 赤灰色	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	密 (粗粒砂 細礫 長石 石英をや や多量含む)	良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 横ナデ 丸瓦部凹面 布目痕	中区(直径 16.2cm 中房 径 2.8cm 弁区径 11.6cm 弁数 8 弁)外区(幅 2.4cm 高さ 0.3cm)瓦当 厚 2.3cm(外縁)	4/5 (瓦当)	単弁蓮華文 中房の部分は、剥落 のため不明中房の外輪、外区は、 珠文
4	SK13	瓦	軒丸瓦	凸 7.5YR5/1 褐灰色	凹 2.5Y6/1 黄灰色	2.5YR8/2 灰白色	密 (粗粒砂を含む)	良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 ナデ	中区(中房径 2.9cm 蓮子 数 1+4 弁数 8 弁)外区 (幅 1.8cm 高さ 0.3cm)瓦 当厚 2.5cm(外縁)	不明	単弁八葉蓮華文
5	SK13	瓦	軒丸瓦	凸 7.5YR8/4 浅黄橙色	凹 7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 ナデ 丸瓦部凹面 布目痕	中区(中房径 3.0cm 蓮子 数 1+4 弁数 8 弁)外区 (幅 1.2cm 高さ 0.7cm)	不明	単弁六葉蓮華文
6	SK13	瓦	軒丸瓦	2.5YR6/1 黄灰色	N6 灰色	10YR7/4 にぶい黄橙 色	密 (細礫 長石を 多量含む)	良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 ナデ 一方向ナデ	中区(直径推定約 17cm 弁数 8 弁)瓦当厚 2.5cm (外縁)	1/3 (瓦当)	逆弁蓮華文 中房外輪、外区は、 珠文
7	SK63	瓦	軒丸瓦	凸 N6 灰色	凹 N6 灰色	2.5GY7/1 暗オリーブ 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 ナデ 丸瓦部凹面 布目痕	中区(直径(復元) 15.0cm 弁区径 11.6cm 弁 数 8 弁)外区(幅 1.2cm 高さ 0.5cm)瓦当厚 2.0cm	1/2 (瓦当)	単弁八葉蓮華文(瓦当の一部)
8	SK13	瓦	軒丸瓦	凸 N6 灰色	凹 N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	丸瓦部凸面 横ハケメ	瓦当裏 ナデ・自然釉 丸瓦部凹面 ナデ	残存長 12.8cm 中区(直径 18.2cm 中房 径 3.4cm 蓮子数 1+4 弁 区径 12.6cm 弁数 8 弁) 外区(幅 2.9cm 高さ 0.5cm)瓦当厚 3.4cm(外 縁)	不明	単弁八葉蓮華文
9	SK13	瓦	軒丸瓦	凸 10Y6/1 灰色	凹 7.5YR6/1 褐灰色	5YR6/6 橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや不良	凸面 摩耗により不 明	凹面 ナデ	残存長 7.1cm 中区(直径 18.9cm 中房 径 3.4cm 蓮子数 1+4 弁 区径 14.0cm 弁数 8 弁) 外区(幅 2.5cm 高さ 0.5cm)瓦当厚 2.5cm(外 縁)	不明	単弁八葉蓮華文
10	SK13 北瓦層	瓦	軒丸瓦	凸 N5 灰色	凸 N5 灰色	10YR6/1 褐灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	丸瓦部凸面 ナデ	瓦当裏 ナデ	中区(直径 17.0cm 弁数 8 弁)外区(幅 2.2cm 高さ 0.5cm)瓦当厚 1.6cm	1/5 (瓦当)	単弁八葉蓮華文 中房欠損 中房 の外輪と外区に珠文(瓦当)
11	SK13	瓦	軒丸瓦	凸 7.5YR8/1 灰白色	凹 N5 灰色	2.5YR8/1 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	不良	凹面 不明瞭	凸面 不明瞭	中区(直径 13.6cm 蓮子 数 1+4 弁数 6×2 弁)外 区(幅 1.2cm 高さ 0.7cm) 瓦当厚 2.2cm(外縁)	不明	複弁六葉蓮華文
12	SK13	瓦	軒平瓦	凹 10YR8/4 灰黄橙色	凸 7.5YR4/2 灰褐色	10YR8/3 浅黄橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや良	凹面 布目痕	凸面 ナデ	残存長 13.7cm 幅 29.2cm 厚み(最大)3.0cm	不明	三重弧文に斜格子線刻 端部を押上げて波状形成 分割線
13	SK13	瓦	軒平瓦	凹 10YR7/4 にぶい黄橙 色	凸 10YR7/4 にぶい黄橙 色	10YR7/4 にぶい黄橙 色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 ナデ	残存長 18.4cm 残存幅 15.2cm 厚み(最大)3.3cm	不明	三重弧文に斜格子線刻 端部を波状形成 側面削り
14	SK13	瓦	軒平瓦	凹 N6 灰色	凸 N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂を多量 含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 削り後ナデ	残存長 8.5cm 残存幅 12.1cm 厚み(最大)3.7cm	不明	三重弧文に斜格子線刻 端部を押上げて波状形成
15	SK13	瓦	軒平瓦	凹 2.5GY6/1 オリーブ灰色	凸 N6 灰色	2.5GY6/1 オリーブ灰 色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 ナデ 削り	凸面 ナデ	残存長 8.3cm 残存幅 15.2cm 厚み(最大)3.4cm	不明	三重弧文に斜格子線刻 端部を押上げて波状形成 分割線残る。破面を削る
16	SK13	瓦	軒隅瓦	凹 N6 灰色	凸 N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 縄巻タタキ後 ナデ	残存長 16.1cm 幅 19.6cm 厚み(最大)3.2cm	不明	三重弧文に斜格子線刻 端部を押上げて波状形成 側面削り
17	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹 5Y7/1 灰白色	凸 5Y6/1 灰色	5Y7/1 灰白色	密 (粗粒砂 中礫 含む)	やや良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 縄巻タタキ後 ナデ 斜ハケメ	残存長 9.8cm 残存幅 17.3cm 厚み(最大)4.2cm	不明	側面削り 米字状文(瓦当) 分割線一部残る

第 18 表 大海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物観察表(瓦2)

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
18	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸 2.5Y6/1 黄灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 縄巻タキ後 ナデ	残存長 11.5cm 残存幅 14.0cm 厚み(最大)2.5cm	不明	米字状スタンプ文(瓦当)。 凸面 側面 瓦当に自然釉 分割線
19	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N5 灰色	凸N5 灰色	N5 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 粘 土接合痕	凸面 ナデ 斜ハケメ	残存長 9.2cm 残存幅 18.8cm 厚み(最大)3.0cm	不明	側面削り 米字状スタンプ文(瓦 当)分割時の破面を削る
20	SK13	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	10YR7/1 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 釉	凸面 横ナデ 釉	残存長 11.9cm 残存幅 11.5cm 厚み(最大)3.0cm	不明	全体に火膨れし、自然釉が付着。 米字状スタンプ文(瓦当) 側面削り
21	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	5YR6/1 褐灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 ナデ 斜ハケメ	残存長 13.0cm 残存幅 14.2cm 厚み(最大)3.0cm	不明	側面削り 米字状スタンプ文(瓦当) 分割時の破面残る
22	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	10YR6/1 褐灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り	凸面 縄巻タキ後 横ナデ ハケメ	残存長 13.8cm 残存幅 13.2cm 厚み(最大)2.6cm	不明	側面削り 米字状スタンプ文(瓦当) 段額を意識したような段がつく
23	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	N5 灰色	やや密 (粗粒砂 細礫 をやや多量含 む)	良	凹面 布目痕 粘土接合痕 削り	凸面 ナデ 斜ハケメ	残存長 10.8cm 残存幅 14.2cm 厚み(最大)3.5cm	不明	平面的な米字状スタンプ文(瓦当) 側面削り 分割時の破面を削る
24	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	2.5YR5/1 赤灰色	密 (極粗粒砂を含 む)	良	凹面 布目痕 粘土接合痕	凸面 横ナデ 斜ハケメ	残存長 5.5cm 残存幅 7.8cm 厚み(最大)2.7cm	1/10 以下	平面的な米字状スタンプ文(瓦当)
25	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	7.5YR5/2 灰褐色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 横ナデ 斜ハケメ	残存長 6.2cm 残存幅 7.0cm 厚み(最大)2.5cm	1/10 以下	米字状スタンプ文(瓦当) 分割線残る 破面削り
26	SK17 東半瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸 10YR6/1 褐灰色	5R6/2 灰赤色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 一部削り	凸面 削り 斜ハケ	残存長 7.4cm 残存幅 7.8cm 厚み(最大)3.0cm	不明	米字状スタンプ文(瓦当)
27	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹 5YR8/1 灰白色	凸 2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y7/1 灰白色	密 (粗粒砂を含 む)	やや 不良	凹面 布目痕	凸面 縄巻叩き後 横ナデ 斜ハケメ	残存長 8.5cm 残存幅 16.5cm	1/10 以下	米字状スタンプ文(瓦当) 布目痕は布の継ぎ目が残る 段額を意識したような段がつく
28	SK13 西畦瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	7.5YR7/1 明褐灰色	密 (極粗粒砂を含 む)	良	凹面 布目痕 粘土接合痕	凸面 ナデ 斜ハケメ	残存長 5.2cm 残存幅 10.3cm 厚み(最大)3.0cm	1/10 以下	米字状スタンプ文(瓦当) 側面削り 分割時の破面を削る
29	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り	凸面 ナデ 横ハケメ	残存長 9.8cm 残存幅 8.0cm 厚み(最大)2.6cm	1/10 以下	側面削り 米字状スタンプ文(瓦当)
30	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹N6 灰色	凸N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 ナデ 斜ハケメ	残存長 5.6cm 残存幅 7.3cm 厚み(最大)3.6cm	1/10 以下	米字状スタンプ文(瓦当) 押し直しのため不鮮明 分割線
31	SK13	瓦	軒隅瓦	凹 7.5Y5/1 灰色	凸 7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	密 (粗粒砂 中礫 を含む)	良	凹面 布目痕 粘土接合痕	凸面 ナデ 斜ハケメ	残存長 14.3cm 幅(最大)29.1cm 厚み(最大)3.7cm	3/4	側面削り 米字状スタンプ文(瓦当) 分割線一部残る
32	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦 (隅瓦)	凹N6 灰色	凸 10YR5/1 褐灰色	10Y5/1 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕	凸面 縄巻タキ後 ナデ	残存長 5.6cm 残存幅 9.0cm 厚み(最大)3.5cm	1/10 以下	米字状スタンプ文(瓦当) 切り隅軒平瓦 側面削り
33	SK13	瓦	軒平瓦	凹 10YR8/4 浅黄橙色	凸 10YR8/4 黄橙色	10YR8/2 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 良	凹面 布目痕 粘土 接合痕	凸面 縄巻タキ後 ナデ	残存長 14.9cm 残存幅 18.1cm 厚み 1.9cm(瓦当厚 3.8cm)	不明	米字状スタンプ文(瓦当) 分割線
34	SK13 北瓦層	瓦	軒平瓦	凹 10YR8/3 浅黄橙色	凸 10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/2 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 含む)	やや 良	凹面 布目痕	凸面 ナデ	残存長 10.5cm 残存幅 20.6cm 厚み(最大)3.0cm	1/10 以下	米字状スタンプ文(横棒二重線) (瓦当面)
35	SK13	瓦	軒平瓦	凹 7.5Y8/2 灰白色	凸 7.5Y8/2 灰白色	7.5Y8/2 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 不良	凹面 布目痕	凸面 縄巻タキ後 削り	残存長 12.4cm 残存幅 14.6cm 厚み(瓦当面) 2.7or4.2cm	不明	忍冬唐草文(瓦当) 側面削り
36	SK48	瓦	軒平瓦	凹 7.5Y7/1 灰白色	凸 5Y6/1 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	不良	凹面 不明瞭	凸面 縄巻タキか	残存長 6.8cm 残存幅 15.6cm 厚み(最大)4.2cm	不明	摩耗が著しい 忍冬唐草文
37	SK31 南半	瓦	軒平瓦 か	凹 5Y8/1 灰白色	凸 5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 削り 布目痕 粘土接合痕	凸面 斜ハケメ 蓮の線刻	残存長 11.3cm 幅 17.3cm 厚み(最大)3.5cm	不明	蓮華文線刻 素文軒平瓦か
38	SK13 北上層	瓦	軒平瓦 か	凹 5Y6/1 灰色	凸N6 灰色	7.5YR8/4 浅黄橙色	密 (粗粒砂を含 む)	良	凹面 布目痕 削り	凸面 縄巻タキ後 ナデ	残存長 14.3cm 残存幅 9.3cm 厚み(最大)2.7cm	不明	側面削り 凸面にヘラ等の当たりか線刻有
39	SK13 東瓦層	瓦	軒平瓦 か	凹N5 灰色	凸N5 灰色	7.5Y6/1 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 斜ハケメ	残存長 20.8cm 残存幅 18.6cm 厚み(最大)2.9cm	不明	側面削り 素文軒平瓦か
40	SK13 北瓦層	瓦	丸瓦	凸 10R5/8 赤色	凹 2.5YR6/8 橙色	2.5Y6/6 橙色	密 (粗粒砂 細礫 含む)	やや 良	凸面 縄巻タキ後 ナデ	凹面 布目痕 粘土接合痕	残存長 20.6cm 幅(最大)17.4cm 厚み(最大)2.0cm 高さ 9.5cm	2/3	側面削り
41	SK13 北中位	瓦	丸瓦	凸N6 灰色	凹N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凸面 端部横ナデ ハケメ	凹面 布目痕	残存長 16.3cm 残存幅(最大)13.7cm 残存高(最大)7.1cm 厚み(最大)1.6cm	1/3	側面削り 凸面丁寧な仕上げ 行基式
42	SK13 西畦瓦層	瓦	丸瓦	7.5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	密 (粗粒砂を含 む)	良	凸面 縄巻タキ後 ナデ	凹面 削り 布目痕	残存長 24.0cm 残存幅 13.6cm 厚み 2.0cm	不明	凹凸両面に粘土接合痕が残る。 側面削り
43	SK48 SK13の南 の混入	瓦	丸瓦	凸 2.5Y7/2 灰黄色	凹 2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/2 灰黄色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 不良	凸面 縄巻タキか	凹面 布目痕	残存長 21.0cm 残存幅 17.9cm 厚み(最大)2.3cm	不明	凸面摩耗が著しい 側面削り(分割線か)
44	SK40 SK41 西側 瓦溜	瓦	丸瓦	凸 5Y5/1 灰色	凹 5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凸面 縄巻タキ後 ナデ	凹面 布目痕 削り	残存長 24.9cm 幅(最大)15.1cm 高さ(最大)9.8cm 厚み(最大)2.0cm	1/3	側面削り 凹面に布目継ぎ目痕

第 19 表 北海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物観察表(瓦3・磚)

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
45	SK17	瓦	丸瓦	凸N3 暗灰色	凹N3 暗灰色	N7 灰白色	密 (中粒砂 粗粒 砂を含む)	やや 不良	凸面 摩耗により不 明	凹面 布目痕	残存長 24.9cm 幅(最大)15.1cm 高さ(最大)9.8cm 厚み(最大)2.0cm	不明	玉縁
46	SK03	瓦	平瓦	N6 灰色	N6 灰色	N6 灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り	凸面 縄巻タタキ 一部ナデ	残存長 13.0cm 残存幅 15.6cm 厚み(最大)2.3cm	不明	側面削り
47	SK06 SP20の混 入	瓦	平瓦	凹 5B5/1 青灰色	凸N5 灰色	5B5/1 青灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 粘土接合痕 一部削り	凸面 縄巻タタキ後 ナデ	残存長 22.2cm 幅 126.2cm 厚み 1.5cm	不明	側面削り 分割線残る 重ね焼き痕
48	SK13	瓦	平瓦	凹 10Y8/1 灰白色	凸 10Y8/1 灰白色	7.5YR8/4 浅黄橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 不良	凹面 布目痕 削り	凸面 横ハケメ	残存長 10.0cm 残存幅 28.6cm 厚み(最大)2.5cm	不明	側面削り
49	SK13 西畦瓦層	瓦	平瓦	5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	7.5YR8/3 浅黄橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 良	凹面 布目痕 削り	凸面 横ナデ 縄巻タタキ後 ナデ	残存長 16.8cm 残存幅 19.4cm 厚み 1.9cm	不明	側面削り
50	SK13 東瓦層	瓦	平瓦	2.5YR7/6 橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	5YR8/4 淡橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り 粘土接合痕	凸面 削りの後ナデ	長さ 33.0cm 残存幅 16.2cm 厚み(最大)2.5cm	1/3 以上	側面削り 分割線残る
51	SK13 北瓦層	瓦	平瓦	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	10B65/1 青灰色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 削り	凸面 縄巻タタキ後 ナデ 粘土接合痕	残存長 12.4cm 残存幅 6.5cm 厚み(最大)2.0cm	不明	焼け歪み
52	SK13 北上層	瓦	隅瓦	2.5YR6/6 橙色	2.5YR6/6 橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	良	凹面 布目痕 粘土紐痕	凸面 削りの後ナデ	残存長 15.0cm 残存幅 12.5cm 厚み(最大)2.5cm	不明	分割線残る
53	SK65	瓦	平瓦	凹 5Y8/1 灰白色	凸 5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 不良	凹面 布目痕 削り	凸面 格子タタキ 削り	残存長 14.5cm 残存幅 18.8cm 厚み(最大)2.7cm	不明	側面削り 素文軒平瓦か
54	SK06	土製品	磚	2.5YR7/6 橙色		2.5YR7/6 橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 良	ナデ ハケメ様条痕 圧痕		残存長 17.3cm 幅 15.1cm 厚み 7.9cm	不明	
55	SK06	土製品	磚	2.5YR7/6 橙色		2.5YR7/6 橙色	密 (粗粒砂 細礫 を含む)	やや 良	ナデ 工具痕 圧痕		残存長 12.4cm 幅 13.0cm 厚み 7.7cm	不明	

第 20 表 北海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物観察表(古銭・その他)

No.	出土遺構	器種	法量	残存率	備考
M1	遺構面上	古銭	2.3cm×2.3cm 重量 2.3g	100%	文字が錆により不鮮明であるが、聖宋元寶(北宋 1101 年 初鑄・行書体)とみられる。
M2	SD状	古銭	残存外径 2.3cm 重量 1.0g	40%	錆により文字が不鮮明なため種類等不明。
M3	SD状	スラッグ	4.0cm×2.9cm	不明	空洞部あり 全体に煤付着

第 21 表 北海道・華寺遺跡第4次調査 出土遺物観察表(石)

No.	出土遺構	器種	器形	法量	備考
S1	SK06	石製品	砥石	長さ(最大)10.4cm、幅(最大)4.5cm 厚み 4.5cm、重量 0.48kg	表裏の 2 面が砥石面
S2	SK17 瓦層	石製品	砥石	長さ 13.9cm、幅 6.2cm 厚み 2.0cm、重量 0.3kg	2 面に擦痕あり
S3	SK17 瓦層	石	不明	長さ(最大)14.1cm、幅(最大)8.7cm 厚み 7.3cm、重量 1.6kg	上下部分が赤く変色している面がある
S4	SK17 瓦層	石	不明	長さ 22.2cm、幅 16.1cm 厚み(最大)5.2cm、重量 2.45kg	
S5	SK17 瓦層	石製品	叩き石	長さ 14.9cm、幅 15.0cm 厚み(最大)4.0cm、重量 1.39kg	側面に使用痕が残る。中央部分は平滑
S6	SK28	石製品	砥石	長さ 7.1cm、幅 4.0cm 厚み(最大)5.0cm、重量 0.17kg	2 面を使用したと思われる
S7	SK57	石製品	砥石	長さ 6.9cm、幅 4.0cm 厚み 2.6cm、重量 0.14kg	4 面が平滑に加工されている。1 面が黒色に変色している
S8	SP90	石製品	砥石	長さ 8.2cm、幅 9.5cm 厚み 3.5cm、重量 0.29kg	中央に一条の砥ぎ痕あり
S9	SP90	石製品	砥石	長さ 14.8cm、幅 16.8cm 厚み(最大)10.8cm、重量 3.7kg	平滑な砥石面が 3 面あり。柱裏ごめ石か。
S10	SP90	石	不明	長さ 15.6cm、幅 13.8cm 厚み(最大)3.8cm、重量 1.1kg	平面が劣化、ひび割れがしている。痕跡等は不明

4. 総括

華寺遺跡の調査としては4度目の本発掘調査である。1次調査でも多くの瓦が出土しているが、今回調査地でも多量の瓦が出土した。中でも白鳳期のまとまった資料として湖東式軒瓦が出土したことは注目される。これまでの調査でも明確な寺院としての遺構は検出されていない。主に中世末期の整地層や中近世の遺構埋土から瓦が出土している。中近世の遺構としては土坑やピットなどであるが、耕作等でも攪乱を受けていることから、建物の規模や用途は明瞭ではない。

華寺遺跡に存在したと推定されている寺院に使用された瓦は、軒丸瓦は3種類、軒平瓦は6種類確認された。この瓦を葺いたであろう寺院の創建瓦は単弁八葉蓮華文軒丸瓦であろう。再建または修理において複弁八葉蓮華紋軒丸瓦が使用されたものとみられる。

今回の調査で出土した瓦がどこから運ばれてきたものであろうか。大方の見方としては付近に寺院遺構があり、その廃絶後に瓦を含んだ土を整地土として運んだものと考えられているであろう。しかしながら、今回出土した瓦の中には小破片であるが焼けひずんだものや、窯の中で複数回焼成されて赤変しているとも考えられる遺物があることから、高野丸山遺跡の窯跡から整地土として運搬されたことも可能性の一つとして考えられるであろう。

今回の調査では、これまでの調査で知られていなかった軒瓦や、蓮華文の線刻の入った瓦、磚とみられる遺物など貴重な遺物が出土した。寺院の遺構は不明であるが、同様の瓦類が出土している井口遺跡、大海道遺跡などの周辺遺跡、高野丸山遺跡（瓦陶兼業窯）を含めて、この地域の古代寺院の瓦の系譜などの研究がより一層深まることに期待したい。（沢村）

参考文献

- ・小笠原好彦・田中勝弘・西田弘・林博通 1989年『近江の古代寺院』
- ・北村圭弘・下田真里子 2005年「華寺遺跡の屋瓦－近江の古代寺院研究の基礎資料8－」『北近江』第2号
- ・黒坂秀樹 2006年「第一章考古 第四節古代・中世の主な遺跡 二 古代寺院関係」『高月町史』景観・文化財編 分冊二
- ・安土城考古博物館 2008年 平成20年度春季特別展図録『仏法の初め、茲より作れり－古墳から古代寺院へ－』

図 版



宇根遺跡第4次調査
遺構検出状況 北から



宇根遺跡第4次調査
遺構完掘状況 北から



大辰巳遺跡第40次調査
北壁断面 南から



大辰巳遺跡第 40 次調査
全景・完掘状況 南から



神照寺坊遺跡第 68 次調査
柱穴 SP6-SP9 検出状況 北西から



神照寺坊遺跡第 68 次調査
全景・完掘状況 東から



高月南遺跡第 40 次調査
T-1 遺構検出状況 東から



高月南遺跡第 40 次調査
T-1 遺構完掘状況 東から



高月南遺跡第 40 次調査
T-2 遺構検出状況 北から



高月南遺跡第 40 次調査
T-2 遺構完掘状況 北から



高月南遺跡第 41 次調査
T-1 遺構検出状況 北から



高月南遺跡第 41 次調査
T-1 遺構完掘状況 北から



高月南遺跡第 41 次調査
T-1 遺物出土状況 西から



高月南遺跡第 41 次調査
T-2 遺構検出状況 北から



高月南遺跡第 41 次調査
T-2 遺構完掘状況 北から



高月南遺跡第 41 次調査
T-3 遺構検出状況 西から



高月南遺跡第 41 次調査
T-3 遺構完掘状況 西から



高月南遺跡第 41 次調査
T-3 遺物出土状況 東から



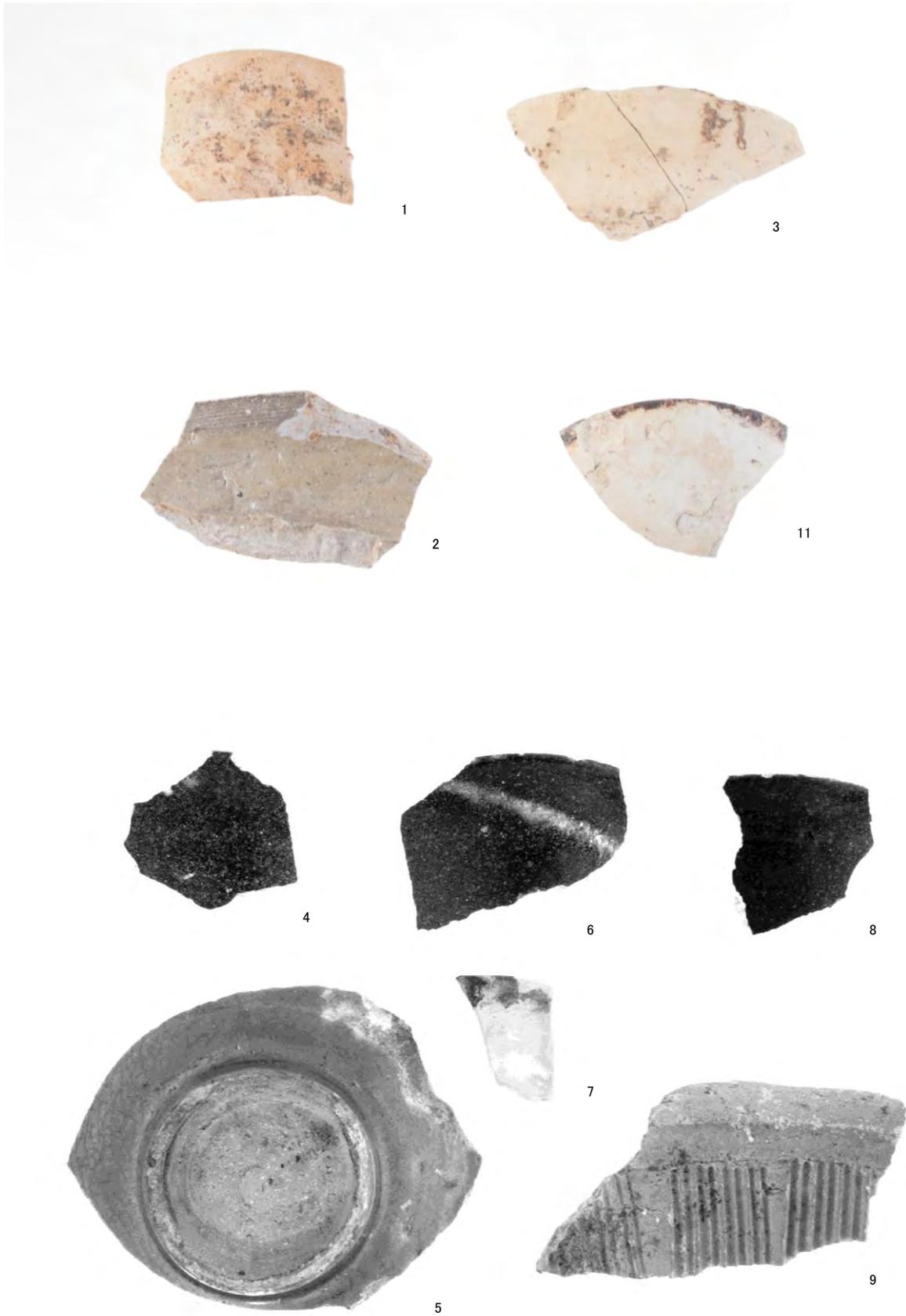
大海道・華寺遺跡第4次調査遺
構完掘状況全景
北から



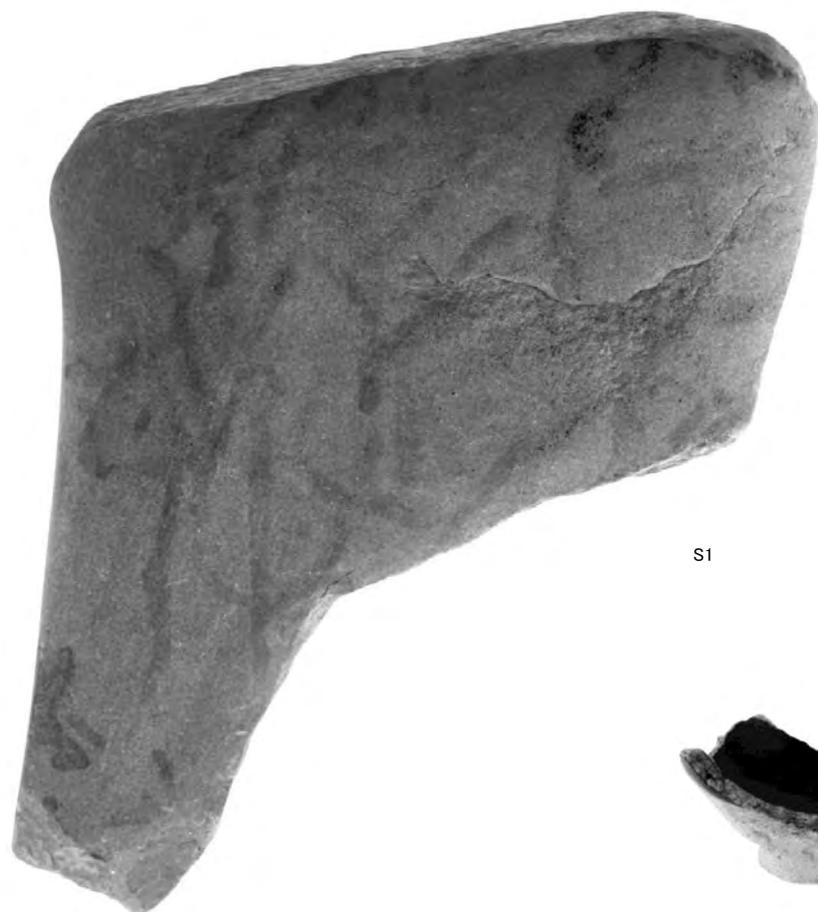
大海道・華寺遺跡第4次調査
SK13 瓦出土状況
東から



大海道・華寺遺跡第4次調査
SK13 土層断面
東から



宇根遺跡第4次発掘調査出土遺物(1)



S1



10



W1



W2

宇根遺跡第4次発掘調査出土遺物(2)



W3



W4

宇根遺跡第4次発掘調査 出土遺物(3)

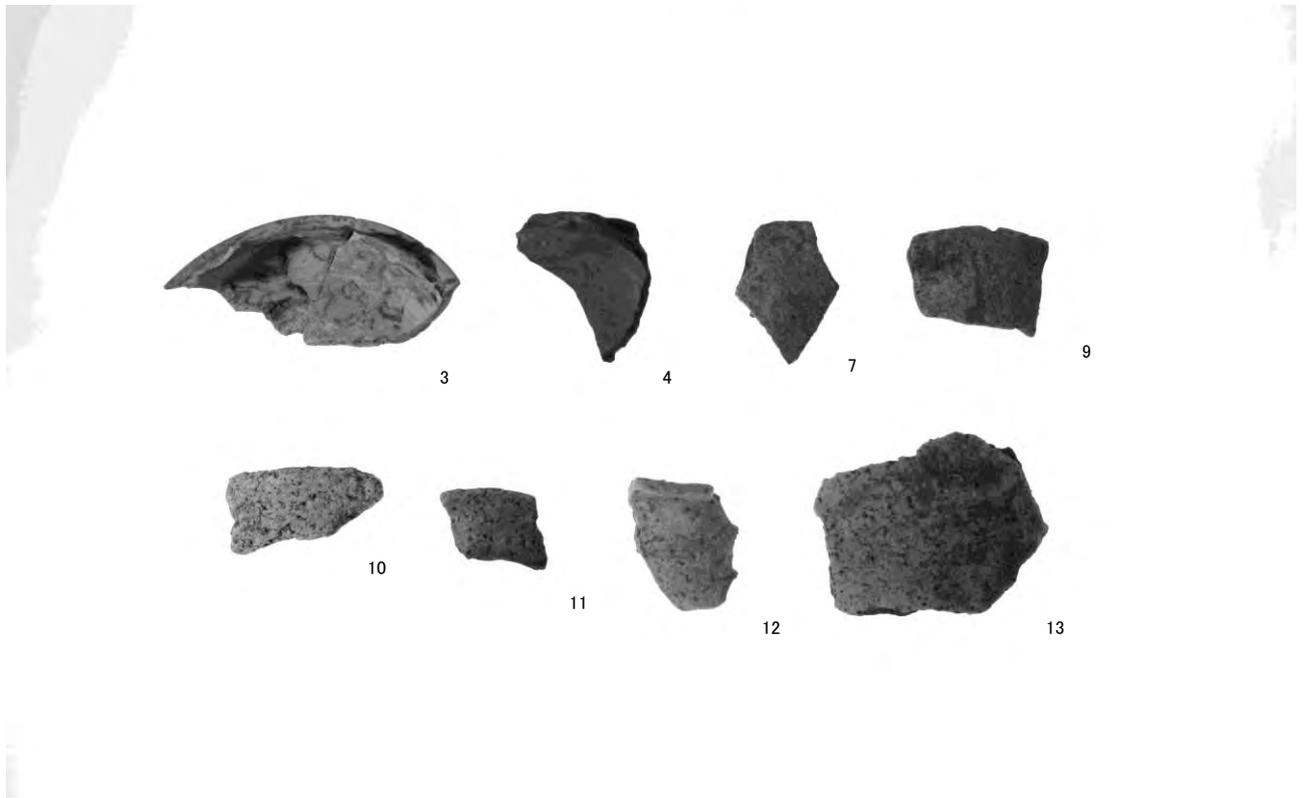


1

高月南遺跡第40次発掘調査 出土遺物



高月南遺跡第 41 次調査出土遺物(1)



高月南遺跡第 41 次調査出土遺物(2)

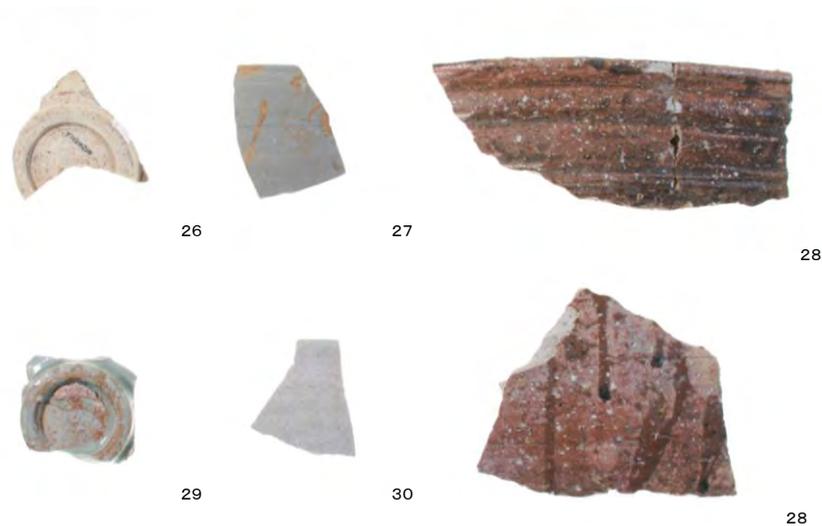


W1

神照寺坊遺跡第69次発掘調査出土遺物



大海道・華寺遺跡第4次発掘調査出土遺物(1)





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



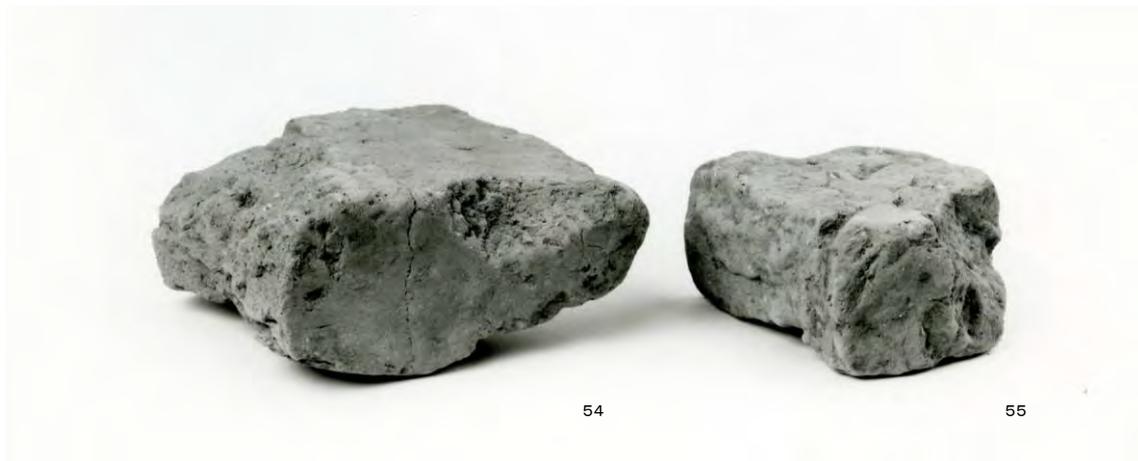
16











大海道・華寺遺跡第4次発掘調査出土遺物(9)

2013年12月

長浜市埋蔵文化財調査資料 第142集
平成24年度
小規模開発関連発掘調査報告書

編集・発行 滋賀県長浜市教育委員会 文化財保護センター
滋賀県長浜市東上坂町981

TEL0749-64-0395 FAX0749-62-6357

印刷 有限会社 おぎした印刷